

誠之放課後児童クラブ新築工事

I N D E X

図面番号	図面内容	図面番号	図面内容	図面番号	図面内容
A - 01	特記仕様書1	A - 26	木質工事特記仕様書	E - 01	電気設備工事特記仕様書 1
A - 02	特記仕様書2	A - 27	木構造標準図1	E - 02	電気設備工事特記仕様書 2
A - 03	特記仕様書3	A - 28	木構造標準図2	E - 03	電気設備工事特記仕様書 3
A - 04	特記仕様書4	A - 29	木構造標準図3	E - 04	分電盤図・照明器具図
A - 05	特記仕様書5	A - 30	断面リスト・構造部分詳細図	E - 05	電気設備 配置図
A - 06	特記仕様書6	A - 31	基礎伏図・伏図	E - 06	幹線動力・弱電設備平面図
A - 07	特記仕様書7	A - 32	小屋伏図・軸組図1	E - 07	電灯・コンセント設備平面図
A - 08	特記仕様書8	A - 33	軸組図2		
A - 09	仕上表	A - 34	軸組図3		
A - 10	配置図・屋根伏図・現況敷地図・付近見取図等	A - 35	軸組図4		
A - 11	平面図・断面図・天井伏図	A - 36	トラス標準詳細図		
A - 12	立面図1	A - 37	外構図1		
A - 13	立面図2	A - 38	外構図2		
A - 14	矩計図1	A - 39	仮設計画図	M - 01	機械設備工事特記仕様書 1
A - 15	矩計図2			M - 02	機械設備工事特記仕様書 2
A - 16	矩計図3			M - 03	空調換気設備 凡例 機器表 換気計算書
A - 17	平面詳細図			M - 04	空調換気設備 平面図
A - 18	展開図1			M - 05	給排水衛生設備 凡例 衛生器具表
A - 19	展開図2			M - 06	給排水衛生設備 配置図
A - 20	建具表			M - 07	給排水衛生設備 平面図
A - 21	部分詳細図1				
A - 22	部分詳細図2				
A - 23	構造関係共通事項1				
A - 24	構造関係共通事項2				
A - 25	構造関係共通事項3				

工事特記仕様書		③発生材の処理等 (1.3.11)	<p>・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であつて、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」(平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。)施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講ずることとする。</p> <p>工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。</p> <p>・分別解体等の方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工程</th> <th>作業の有無</th> <th>分別解体等の方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>造成等</td> <td>・有・無</td> <td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td>基礎・基礎ぐい</td> <td>・有・無</td> <td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td>上部構造部分・外装</td> <td>・有・無</td> <td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td>屋根</td> <td>・有・無</td> <td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td>建築設備・内装等</td> <td>・有・無</td> <td>・手作業 ・手作業、機械作業の併用</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>○有・無</td> <td>・手作業 ○手作業、機械作業の併用</td> </tr> </tbody> </table> <p>・引渡を要するもの (・無) ・特別管理産業廃棄物 有() 处理方法() ・石綿含有成形板等解体時の留意点 1. 手ばらし等、出来るだけ粉塵の発生しない方法で行うこと。 2. 可能であれば湿潤状態(散水)として作業を進めること。 3. 飛散されないようにすること。 4. 保護具及び作業着を着用すること。 5. 解体されたボード等は、蓋のある容器に入れること。 6. 事前に使用箇所や状況の調査を行い記録すること。</p> <p>④建設副産物情報交換システムの利用</p> <p>受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」(建設資材の搬入がある場合)及び「再生資源利用促進計画書」(建設副産物の搬出がある場合)を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。 また、工事完了後には「再生資源利用実施書」(建設資材の搬入があった場合)及び「再生資源利用促進実施書」(建設副産物の搬出があった場合)をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。 なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICが運営する「建設副産物情報交換システム」に登録のうえ、行うこと。</p> <p>⑤三重県産業廃棄物税</p> <p>本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。 なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表(マニフェストの数量の集計)を超えて請求することはできない。</p> <p>6. 電気保安技術者 (1.3.3)</p> <p>・配置する</p> <p>7. 技能士 (1.5.2)</p> <p>職種別に可能なものについては積極的に活用のこと</p>		工程	作業の有無	分別解体等の方法	造成等	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	基礎・基礎ぐい	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	上部構造部分・外装	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	屋根	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	建築設備・内装等	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用	その他	○有・無	・手作業 ○手作業、機械作業の併用	⑧建築材料等 (1.5.9)	<p>1) 本工事に使用する木材は、津市公共建築物等木材利用方針に基づき、木材の利用に努めること。</p> <p>2) 本工事に使用する建築材料のホルムアルデヒド放散量等は、F☆☆☆以上とする。</p> <p>測定対象化学物質(●で示したものとする。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>適用</th> <th>施設用途</th> <th>ホルムアルデヒド</th> <th>トルエン</th> <th>キシレン</th> <th>エチルベンゼン</th> <th>スチレン</th> <th>パラジウム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学校・教育施設</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> </tr> <tr> <td>住宅</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○その他</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td>●</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>対象箇所 ○図示(面番号:A-11) () 測定方法 ○バッジ法 アクティブ法 測定期間 () 報告書提出部数 2部</p> <p>⑩特別な材料の工法</p> <p>標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は当該製品の指定工法による。</p> <p>⑪騒音・振動の防止</p> <p>低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規程に基づき指定された建設機械の使用に努めること。</p> <p>⑫工事写真 (1.2.4)</p> <p>工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修(最新版))に従い撮影する。 提出部数 1部 用紙は上質紙とする。 なお、デジタル工事写真的小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真的小黒板情報電子化について(平成29年3月1日付け国営整第211号)」による。</p> <p>⑬完成図等 (1.7.1) (1.7.2) (1.7.3)</p> <p>○作成する ○完成図 ○保全に関する資料 () ○完成図作図範囲(設計図を訂正) 完成図はCADにより作成することとし、著作権(著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む)は発注者に移譲するものとする。また、製本2部(面番号については監督員と協議による。)により提出すること。</p> <p>⑭完成写真</p> <p>○デジタルカメラで撮影し、全てL版相当サイズで印刷する。(A4版用紙に1ページあたり3枚) 1部 箇所数は外観4面各室2面程度とし、規定の箇所数が確保できない場合や枚数が多大になる場合には、監督員と協議すること。 写真是、着工前・施工中・完成を同一場所から、黒板なしで撮影すること。</p> <p>⑮設備工事との取扱い</p> <p>施工範囲 ○図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の補強 ○図示した壁、天井の仕上材、下地材の切り込み及び補強 ・駆動装置又は電動建具等の2次側配管配線及び操作スイッチ 施工図 ○設備機器の位置、取扱い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承諾を受けること。</p> <p>⑯設計GL</p> <p>○図示(面番号: A-10)</p> <p>⑰養生その他</p> <p>工事施工に際し既存部分を汚損又は損傷した場合は、構造・仕上げ共、既存にならない補修すること。</p> <p>⑯事故の発生時</p> <p>工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により事故発生報告書を監督員が指示する期日までに監督員に提出すること。 また、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。</p> <p>⑯消防法関係の手続き</p> <p>1) 消火器に係る消防法用設備等設置届出書の作成 ○本工事 (・建築工事 ○電気設備工事 ・機械設備工事) ・別途工事 2) 防火対象物使用開始届出書 書類の作成(建築図面の作成及び建築に関する部分の記入)を行ふこと。</p>										適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジウム	学校・教育施設	●	●	●	●	●	●	●	住宅	●	●	●	●	●	●		○その他	●	●	●	●	●	●	
工程	作業の有無	分別解体等の方法																																																																		
造成等	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																																																																		
基礎・基礎ぐい	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																																																																		
上部構造部分・外装	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																																																																		
屋根	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																																																																		
建築設備・内装等	・有・無	・手作業 ・手作業、機械作業の併用																																																																		
その他	○有・無	・手作業 ○手作業、機械作業の併用																																																																		
適用	施設用途	ホルムアルデヒド	トルエン	キシレン	エチルベンゼン	スチレン	パラジウム																																																													
学校・教育施設	●	●	●	●	●	●	●																																																													
住宅	●	●	●	●	●	●																																																														
○その他	●	●	●	●	●	●																																																														

② 仮設工事	1. 監督員事務所 (2.3.1)	・ 設置する。 監督員事務所の規模 (単位 : m ²) 適用 規模 10程度 20程度 35程度 65程度 100程度	④ 地業工事	1. 杭の施工管理 杭工事特記仕様書による。 本特記事項に個別に記載の適用基準に加え、以下の基準を適用する。 国土交通省告示第468号 「基礎ぐい工事の適正な施工を確保するため に講ずべき措置」 (平成28年3月4日) 受注者は、杭の施工期間中は、1週間ごとに、その週に施工した杭の施工記録を取りまとめ、翌週以内に監督員に、工事打合せ簿を添付したうえで提出し、確認を受けること。また電流値が記録されたチャート紙等の原本を合わせて提示し、必ず監督員の確認を受けること。 なお、取得すべき施工記録が取得できない場合に、当該施工記録に代替する記録を確保するための手法については、施工計画書に明記しておうこと。 特記仕様書及びその他基準等の定めにより作成した施工管理資料の根拠となる資料 (施工記録の原本、チャート紙、電子的な記録やプリントアウト紙等) は、受注者において全て適切に管理し、保管しなければならない。保管期間は契約書第31条第4項又は第5項 (第38条においてこれらの規定を準用する場合を含む。) の規定による引渡しを受けた日から10年とする。 また、発注者から請求があった場合は、速やかにこれらを提出または提示しなければならない。	11. 鋼杭地業 (4.4.3) (4.4.4) (4.4.5) (4.4.6) (4.3.5) (4.3.8) (7.2.5)	・ 鋼管杭 SKK400 SKK490 ・ H形鋼杭 SHK400 SHK490M 径 ⌀300 ⌀350 ⌀400 ⌀450 ⌀() 長さ ()m 継手の工法 現場溶接 機械式継手 溶接材料 標準仕様書[7.2.5](1)(2)以外 () 施工方法 ・ 特定埋込杭工法 杭の根入れ深さ ()m 図示 (図面番号:) 杭頭処理の方法 ガス切断 ()	⑤ 鉄筋 ① 鉄筋の種類 (5.2.1) ② 溶接金網 (5.2.2) ③ 内法直径 (5.3.2) ④ 継手 (5.3.4) (表5.3.2) (表5.3.3)	種類の記号 SD295 D16以下 SD345 D19以上	種類の記号 D16以下 D19以上	備考			
	2. 監督員事務所の設備・備品 (2.3.1)	種類 机・いす 書棚 黒板・白板 掛時計 溫度計 数量 組 台 個 個 個 種類 長靴 雨合羽 保護帽 懐中電灯 衣類ロッカー 数量 足 着 個 個 台 種類 消火器 掃除具 受注者加入電話・FAX インターネット 冷暖房機器 数量 個 個 台 台 台		監督員職員事務所の仕上げ 部位等 仕上げ 床 合板張り又はビニル床シート張り 内壁・天井 合板又はせっこうボード張り、合成樹脂マルチション塗り 屋根 溶融亜鉛めっき鋼板又は鉄板張り、調合ペイント塗り	12. 場所打ち コンクリート 杭地業 (4.5.1) (4.5.4) (4.5.5) (4.5.6)	施工方法 ・ アースドリル工法 ・ リバース工法 ・ オールケーシング工法 ・ 鋼管コンクリート杭工法 括底 行わない 行う () 杭の根入れ深さ ()m 図示 (図面番号:) 孔壁の超音波測定 行う 行わない 帯筋の加工及び組立 図示 (図面番号:) 鉄筋の最小かぶり厚さ ()mm 鉄筋かごの補強 ・ 図示 (図面番号:) 継手 重ね継手 () コンクリートの種別 A種 B種 設計基準強度 ()N/mm ² セメントの種類 高炉セメントB種 () スランプ(cm) 18 () 構体強度補正値(S) 3 N/mm ² ()	⑥ 各部配筋 (5.3.7)	主筋及び耐力壁の重ね継手の長さ 標準仕様書[5.3.4](3)(7) 図示 (図面番号:) 継手位置 各部配筋参考図による 図示 (図面番号:) 鉄筋定着 標準仕様書[表5.3.4] 図示 (図面番号:) 標準仕様書[図5.3.3] 図示 (図面番号:)	鉄筋定着 標準仕様書[表5.3.6] 図示 (図面番号:)				
③ 仮設便所	構内既存の施設	・ 利用できる ○ 利用できない	5. 試験杭及び試験掘 (4.2.2)	・ 試験杭 位置、本数及び寸法 図示 (図面番号:) ・ 試験掘 位置、本数及び寸法 図示 (図面番号:)	6. 支持層 支持層の位置、土質 図示 (図面番号:) ()	7. 水平方向の位置ずれ (4.3.4) (4.5.5)	(表4.5.1)	7. 圧接完了後の試験 (5.4.10)	拔取試験方法 超音波探傷試験 引張試験 引張試験方法 標準仕様書[5.4.10](1)(b) ()	鉄筋定着 標準仕様書[表5.3.6] 図示 (図面番号:)			
④ 工事用水	構内既存の施設	・ 利用できる (· 有償 · 無償) ○ 利用できない	8. 杭の載荷試験 (4.2.3)	試験方法 鉛直載荷 水平載荷 () 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。 位置、本数 図示 (図面番号:) 載荷荷重 (kN) 報告書 提出部数 2部	9. 地盤の載荷試験 (4.2.4)	試験方法 ○ 平板載荷 () 試験の方法及び報告書の記載は、敷地調査共通仕様書による。 位置 ○ 図示 (図面番号: A-31) 載荷荷重 (kN) 報告書 ○ 提出部数 2部	10. 既製コンクリート杭 (4.3.1) (4.3.3) (4.3.4) (4.3.6) (4.3.8)	11. 地盤改良 ・ ()工法 ・ 六価クロム溶出試験 ・ 室内配合試験 ・ 一輪圧縮試験	12. 地盤改良 ・ ()工法 砂利 再生クラッシュヤラン 切込砂利 切込碎石 () 砂 シルト 山砂 川砂 砂 () 施工範囲 図示 (図面番号:) 厚さ(mm) 60 ○ 図示 (図面番号: A-14, A-30, A-37) 仕上がりレベルを計測し、記録すること。	⑦ 機械式継手 及び溶接継手 (5.5.3) (5.5.5) (5.6.3) (5.6.5)	機械式継手 適用箇所 () 種類() 性能() 施工完了後の継手部の試験() 不合格となった継手部への措置() 鉄筋相互のあき()mm ・ 溶接継手 適用箇所 () 工法() 性能() 施工完了後の溶接部の試験() 不合格となった溶接部への措置() 鉄筋相互のあき()mm		
⑤ 工事用電力	構内既存の施設	・ 利用できる (· 有償 · 無償) ○ 利用できない	本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。	13. 地盤改良 ・ ()工法 ・ 六価クロム溶出試験 ・ 室内配合試験 ・ 一輪圧縮試験	14. 砂及び砂利 地業 (4.6.2) (4.6.3)	砂利 再生クラッシュヤラン 切込砂利 切込碎石 () 砂 シルト 山砂 川砂 砂 () 施工範囲 図示 (図面番号:) 厚さ(mm) 60 ○ 図示 (図面番号: A-14, A-30, A-37) 仕上がりレベルを計測し、記録すること。	15. 沈コンクリート 地業 (4.6.4)	厚さ(mm) 50 ○ (30) 施工範囲 図示 (図面番号:) 仕上がりレベルを計測し、記録すること。	8. 機械式継手 及び溶接継手 (5.5.3) (5.5.5) (5.6.3) (5.6.5)	機械式継手 適用箇所 () 種類() 性能() 施工完了後の継手部の試験() 不合格となった継手部への措置() 鉄筋相互のあき()mm ・ 溶接継手 適用箇所 () 工法() 性能() 施工完了後の溶接部の試験() 不合格となった溶接部への措置() 鉄筋相互のあき()mm			
⑥ 足場	内部足場の種別 (参考) ○ 脚立 ○ 棚足場 () 外部足場の種別 (参考) ○ 手摺先行据置枠組木足場 ○ その他 (勾配屋根板設足場 作業床付) 防護シート等による養生 ○ 適用する ○ 適用しない	設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン (厚生労働省平成21年4月)」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する 足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり先行据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。 足場 (つり足場、張出し足場又は高さが10m以上の足場で、組立てから解体までの期間が60日以上のものに限る) の組立て後、市監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に関し十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。 1) 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者 2) 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全コンサルタント (区分が土木又は建築である者) や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第88条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者 3) 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のため行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1) 又は2) に掲げる者と同等の知識と経験を有する者	16. 床下防湿層 (4.6.2) (4.6.5)	施工範囲 ○ 図示 (図面番号: A-30, A-31) ポリエチレンフィルム厚さ ○ 0.15mm以上 () ○ 防湿層の重ね幅、基礎梁へののみ込みは、250mm以上とする。	16. 床下防湿層 (4.6.2) (4.6.5)	施工範囲 ○ 図示 (図面番号: A-30, A-31) ポリエチレンフィルム厚さ ○ 0.15mm以上 () ○ 防湿層の重ね幅、基礎梁へののみ込みは、250mm以上とする。	⑨ 交通誘導警備員 配置 ○ 図示 (図面番号: A-39)	17. その他 種別 A種 ○ B種 C種 D種 (3.2.3) (表3.2.1)	18. 埋戻し及び盛土 (3.2.5)	19. 建設発生土の処理 (3.2.5)	20. 山留めの撤去 (3.3.3)	誠之放課後児童クラブ新築工事 三重県津市河芸町西千里 1510番地1 Tel:059-269-5074 Mail:ksekkei-shitsu@almond.ocn.ne.jp	1. 景設計室 特記仕様書2 scale NO. 原図:A2 A-02

木工事	①木材 (12.2.1) (12.4.1) (12.5.1) (12.6.1) (12.7.1) (表12.2.1)	木材の含水率 部材名称 種別 下地材 ○ A種 · B種 造作材 ○ A種 · B種	ミディアムデンシティーファーバーボード (MDF) 表裏面の状態、曲げ強さ、接着剤、難燃性による区分、厚さ等 ・ 図示 (図面番号:) 7. 接合具等 (12.2.2) (表12.2.3) ~(表12.2.5) 8.防腐・防蟻 ・防虫処理 (12.3.1) (12.3.2) 防腐・防蟻処理 ○ 外部に面する構造用製材は防腐剤加圧注入処理 薬剤加圧注入 を施すこと。 適用部材、保存処理区分 ○ K4 ○ 図示 (図面番号:) 薬剤の塗布等 ○ 基礎天端より1mの木部は防腐・防蟻処理を施すこと (JIS K 1571)に適合する表面処理剤) 処理方法 ○ 薬剤の製造所の仕様 ○ () 附属書A (規定)に基づく表面処理用木材保存剤による処理 薬剤の種類、適用部材 ○ 図示 (図面番号:) 薬剤の接着剤への混入 ○ () 合板等の加圧注入 ○ () 防虫処理 ○ () 9.RC等の間仕切軸組及び床組 (12.4.1) 10.窓・出入口等 (12.5.1) 11.床板張り (12.6.1) 12.壁及び天井下地 (12.7.1) 13.屋根及び土い工事 (12.2.1) 14.金属工事 (12.2.1) 15.左官工事 (12.2.4)	材種 ○ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) · 配管用鋼管(白管) ・ () 表面処理鋼板の塗膜の種類 · () 耐酸被覆鋼板 材質等 · () 受金物及び足金物の材種、形状、取付け間隔 · 図示 (図面番号:) 軒どいの取付け間隔 (多雪地域) · 0.5m以下 · () 鋼管製といの防露巻工法 · 標準仕様書 [表13.5.4] · ()
	②製材 (12.2.1)(2)(7)	「JAS 1083」による製材 寸法 等級 含水率 保存処理 県産材 下地用製材 ○ 図示 ○ 図示 ○ 図示 A-26, A-31, A-32 造作用製材 ○ 図示 ○ 図示 ○ 18% 以下 A-26, A-31, A-32 広葉樹製材 ○ 図示 ○ () 10% 以下		
	(12.2.1)(2)(4) (表12.2.2)	「JAS 1083」以外の製材 樹種、寸法、材面の品質、防虫処理及び含水率 ○ 図示 (図面番号:) 造作材の材面の品質 · A種 · () 樹種 部位 樹種 県産材 ・ 図示 (A-26) ※1		
		※1: 樹種については以下とする(特記以外) ・構造用材120×240程度までは津市産材とする。 (可能な場合は全て津市産材とする) ・構造用材梁せい240を超える材は三重県産材とする。 (可能な場合は全て津市産材とする) ・自然乾燥、人工乾燥、難燃処理の指定なし。		
	③集成材等 (12.2.1)(3)	造作用集成材 「集成材の日本農林規格」による造作用集成材等 品名・樹種・寸法 見付け材面の品質 化粧薄板厚さ 造作用集成材 ○ 図示 A-18 (図面番号: A-19) · 1等 化粧ぱり造作用 ○ 図示 · 1等 集成材 (図面番号: A-26) ○ 2等		
		「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材等 樹種、寸法、見付け材面の品質及び含水率等 ・ 図示 (図面番号:)		
	④造作用単板積層材 (12.2.1)(4)	「JAS 0701」による造作用単板積層材 品名、寸法、表面の品質及び防虫処理 ○ 図示 (図面番号: A-14) 「JAS 0701」以外の造作用単板積層材 寸法、表面の品質、含水率及び防虫処理 ・ 国示 (国面番号:)		
	5.直交集成材 (12.2.1)(5)	「JAS 3079」による直交集成材 品名、曲げ強度(強度等級)、種別、接着性能(使用環境)、樹種、寸法 ・ 国示 (国面番号:)		
	⑥合板等 (12.2.1)(6)	品名・品目 樹種名 接着の程度 等級 板面の品質 防虫・保存処理等 厚さ ラウン合板 I類 4, 5, 5, 9, 12 ○ 構造用合板は国示 (国面番号: A-26) 構造用合板の強度等級 ○ 国示 (国面番号: A-26) 特殊加工化粧合板の化粧加工方法 ・ オーバーレイ · プリント · 塗装 · () パーティクルボード 表裏面の状態、曲げ強さ、耐水性、難燃性による区分、厚さ等 ・ 国示 (国面番号:)		

左 官 工 事	(表15.6.2) 複層仕上塗材の上塗材の種類	樹脂種類 溶媒種類 外観	溶剂系 鮎有 鮎無 メタリック	アクリル系 弱溶剤系 水系 鮎有 鮎無	シリカ系 水系 鮎無	ポリウレタン系 弱溶剤系 水系 鮎有 鮎無	アクリルシリコン系 溶剤系 鮎有 鮎無 メタリック	シリコン系 弱溶剤系 水系 鮎有 鮎無	ふつ素系 溶剤系 鮎有 鮎無 メタリック	弱溶剤系 水系 鮎有 鮎無
		6.マスチック塗材塗り(15.7.2)	種別 A種 B種							
		(表15.7.1)								
		7.しつくい塗り(15.10.1)	下地 標準仕様書[15.10.1]							
		(15.10.2)	材料 既調合材料(色しつくい)	適用する	適用しない					
		(15.10.3)								
		(15.10.4)	調合及び各層の塗厚							
		(表15.10.1)	せっこうボード下地	標準仕様書[15.10.1]						
		(表15.10.2)	モルタル塗り下地	標準仕様書[15.10.2]						
		せっこうラスボーダー下地	製造所仕様による							
		木すり下地	標準仕様書[15.10.3]							
		せっこうプラスター下地、こまい土壁下地								
			標準仕様書[15.10.4]							
		その他の下地								
		工法 上塗り仕上げ工法	なで切り仕上げ	パターン仕上げ						
		8.こまい壁塗り(15.11.2)	のりの種類 土壁用	ふのり つのまた	ぎなんそう					
		(15.11.3)	粉末海藻							
		(15.11.4)	砂壁用	ふのり つのまた	こんにやくのり					
		(15.11.5)	にかわ	合成高分子系混和剤						
		(15.11.7)	色土の種類 土物仕上げ		ちりじやくり					
		(15.11.8)	大津仕上げ		ちりじやくり					
		(表15.11.2)	色砂の種類							
		(表15.11.8)	下塗りの調合	標準仕様書[15.11.2]						
		(表15.11.9)	塗厚	標準仕様書[15.11.8]						
		耐力壁の指定								
		工程種別	A種 B種							
		9.ロックウール吹付け(15.12.3)	仕上げ吹付け厚さ	() mm						
建 具 工 事	1.防火戸(16.1.3)	防火戸の指定	図示(図面番号:)							
		ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器と連動するもの	図示(図面番号:)							
			図示(図面番号:)							
		2.見本の製作等(16.1.4)	建具見本の製作	実施する						
		特殊な建具の仮組	実施する							
		3.防犯建物部品(16.1.6)	防犯建物部品	図示(図面番号:)						
		④アルミ化製建具	外部建具の性能等級等							
		(16.2.2)	コンクリート系下地、鉄骨下地							
		(16.2.4)	A種 B種 C種							
		(表16.2.1)	木下地							
		(16.2.2)	D種 E種							
		(表14.2.2)	表面処理種別	()	標準色 特注色					
		(16.2.5)	内部建具							
			表面処理種別	()	標準色 特注色					
16	1.材料(18.1.4)	防音ドア、防音サッシの遮音性	()等級							
		断熱ドア、断熱サッシの断熱性	()等級							
		建具枠見み寸法	図示(図面番号:)							
		結露水の処理方法	()							
		水切り板、ぜん板等	図示(図面番号:)							
		建具周りの止水処理(外部に面するもののみ)								
		・製造所の仕様による	()							
		5.網戸等(16.2.3)	形式 可動式 固定式	○図示(A-20)						
		防虫網	網の材質 合成樹脂 ガラス繊維入り合成樹脂	○ステンレス(SUS316)	()					
			線径 0.25mm以上	()						
			網目 16メッシュ 18メッシュ	()						
		6.樹脂製建具(16.3.2)	外部建具の性能等級 コンクリート系下地、鉄骨下地	A種 B種 C種	()					
		(16.3.3)	D種 E種	()						
		(表16.3.1)	建具の遮音性能等級 T-1 T-2	()						
		~(表16.3.3)	外部建具の断熱性能等級 H-4 H-5 H-6 H-7 H-8	()						
建 具 工 事	2.施工一般(18.1.4)	外部建具の日射熱取得性能等級	()							
		ガラス 複層ガラス	()							
		建具枠見み寸法	図示(図面番号:)							
		表面色 標準色 特注色	()							
		水切り板 ぜん板	図示(図面番号:)							
		建具周りの止水処理(外部に面するもののみ)								
		・製造所の仕様による	()							
		7.鋼製建具(16.4.2)	簡易気密型ドアセッテ	図示(図面番号:)						
		外部建具の耐風圧性 S-4 S-5 S-6	()							
		(表16.4.1)	耐震ドアの面内変形追随性	()等級						
		(表16.2.1)	防音ドア、防音サッシの遮音性	()等級						
		(16.4.4)	断熱ドア、断熱サッシの断熱性	()等級						
		鋼板類の厚さ [表16.4.2]	図示(図面番号:)							
		(表16.4.2)	くつずりの仕上げ HL	()						
16	3.セキュリティ(18.1.4)	H>2400mm又はW>950mm	図示(図面番号:)							
		標準型鋼製建具	型式 幅(mm) 高さ(mm)							
		(16.5.2)	片開き 900 950	2000						
		(16.5.3)	親子開き 1200 1250	2100						
		(16.5.4)	両開き 1800 1900							
		8.木製軽量建具(16.5.2)	簡易気密型ドアセッテ	図示(図面番号:)						
		耐震ドアの面内変形追随性	()等級							
		(16.5.3)	防音ドア、防音サッシの遮音性	()等級						
		(16.5.4)	断熱ドア、断熱サッシの断熱性	()等級						
		(表16.5.1)	鋼板類の種類 [表16.5.1]	図示(図面番号:)						
		(16.4.6)	H>2400mm又はW>950mm	図示(図面番号:)						
		9.ロックウール吹付け(15.12.3)	仕上げ吹付け厚さ	() mm						
		10.木製建具(16.7.2)	簡易気密型ドアセッテ	図示(図面番号:)						
建 具 工 事	4.耐風圧性(18.1.4)	外部建具の耐風圧性 S-4 S-5 S-6	()							
		防音ドアセッテ、防音サッシの遮音性	()等級							
		断熱ドアセッテ、断熱サッシの断熱性	()等級							
		耐震ドアセッテの面内変形追随性	()等級							
		鋼板類の種類	図示(図面番号:)							
		表面仕上げ	HL 鏡面仕上げ							
		曲げ加工	普通曲げ 角出し曲げ							
		1								

塗装工事	③耐候性塗料 塗り(DP) (18.7.2) (表18.7.1) (18.7.3) (表18.7.2) (18.7.4) (表18.7.3) ④ステイン塗り (18.11.2)	下地の種類	施工箇所	上塗り等級	鏡止め	コリート、ECP面における種別		7.合成樹脂塗床材 (19.4.3) (表19.4.4) (表19.4.5) ~(表19.4.8)	・ 弹性ウレタン塗床材(JISK 5970) 仕上げ ・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ ・ エポキシ樹脂塗床材(JISK 5970) 工法、仕上げ ・ 薄膜流しのペ工法(・ 平滑 ・ 防滑) ・ 厚膜流しのペ工法(・ 平滑 ・ 防滑) ・ 樹脂モルタル工法(・ 平滑 ・ 防滑)		10.タラップ (20.2.12)	材料の種類	・ステンレス 仕上げ	・ 研磨等なし	・ ()
		鉄鋼面		・1級・2級 ・ 3級	・ A種 ・ A種 ・ C種					11.煙突 ライニング (20.2.13)	適用安全使用温度	・ () °C			
		ボード面	破風・鼻隠し							12.ブラインド (20.2.14)	工法	・ 図示(図面番号:)			
		オイルステイン塗り 工程、材料 ・・ ()									形式	スラット	開閉方式	スラットの成形幅(mm)	ヘッドボックス・ボトムレールの材種
											・ 横形 ブラインド	・ アルミニウム 合金	・ ギヤ式 ・ コード式	・ 25 ・ ()	・ 鋼製 ・ ()
											・ 縦形 ブラインド	・ アルミニウム 合金	・ ギヤ式 ・ コード式	・ 80 ・ 100 ・ ()	・ ()
											※幅、高さの寸法	・ 図示(図面番号:)			
											操作方式	・ スプリング式	・ コード式	・ 電動式	
											寸法及び材種	・ 図示(図面番号:)			
内装工事	1.ビニル床シート張り (19.2.2) (表19.2.1) (19.2.3)	種類	色柄	厚さ(mm)	継目			11.壁紙張り (19.8.2) (19.8.3)	せっこうボードの目地工法 ① 繰目処理 ・ 突付け(・ベベルエッジ・スクエアエッジ) ・ 目透し(・ベベルエッジ・スクエアエッジ)		10.タラップ (20.2.12)	材料の種類	・ステンレス 仕上げ	・ 研磨等なし	・ ()
		・ FS	・無地	・ 2.0	・ 熱溶接				施工箇所	種類	防火性能	品質			
		・ ()	・柄物	・ 2.5	・ 突付け			図示(A-9,18,19)	ビニルクロス	図示(A-9,18,19)	F☆☆☆☆				
		接着剤の種別、施工箇所 セメント系下地、木質系下地以外 ・・ ()													
	2.ビニル床タイル張り (19.2.2) (表19.2.1)	寸法・色合	種類	厚さ(mm)				12.断熱材 (19.9.3) (19.9.4)	素地ごしらえ せっこうボード面 コンクリート面 モルタル・せっこうプラスチック面	・ A種 ・ B種	・ A種 ・ B種	・ A種 ・ B種			
		・ 300×300 ()	・コンポジションビニル 床タイル(KT)	半硬質	・ 2.0				断熱材張り工法 断熱材の種類、厚さ	② 図示(図面番号: A-14)					
		・ 450×450 ()	・コンポジションビニル 床タイル(KT)	軟質	・ ()				断熱材現場発泡工法 断熱材の種類	・ A種1	・ A種1H	・ 図示(図面番号:)			
		接着剤の種別、施工箇所 セメント系下地、木質系下地以外 ・・ ()							断熱材の厚さ	・ 図示(図面番号:)					
ユニット及びその他工事	3.特殊機能床材 (19.2.2) (表19.2.2)	接着工法	材料	樹種	厚さ(mm)	幅・長さ	裏面不陸緩衝材	13.ロールスクリーン (20.2.15)	カーテン及びカーテンレール (20.2.16)	カーテンの形式等					
		・ フローリングボード (直張用)	・ なら	・ ()			・ 合成樹脂緩衝シート		1.フリーアクセス フロア (20.2.2)	フリーアクセス及び表面仕上げ材の寸法、フリーアクセス高さ、耐震性能、所定荷重、帯電防止性能、漏えい抵抗					
		・ フローリングボード (複合用)	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ なら	・ ()				試験方法	20.2.2(2)(イ)(a) ~ (d)					
		・ フローリングボード (直張用)	・ なら	・ ()					寸法精度	20.2.2(2)(オ)(a) ~ (c)					
		・ フローリングボード (複合用)	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ なら	・ ()										
	4.ビニル幅木 (19.2.2)	接着工法	材料	樹種	厚さ(mm)	幅・長さ	裏面不陸緩衝材	14.カーテン及びカーテンレール (20.2.16)	カーテンの形式等						
		・ フローリングボード (直張用)	・ なら	・ ()			・ 合成樹脂緩衝シート		2.可動間仕切 (20.2.3)	組立て方式					
		・ フローリングボード (複合用)	・ なら	・ ()					・ スタッド式	・ パネル式	・ スタッドパネル式				
		・ フローリングボード (複合用)	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ なら	・ ()				パネル内建具寸法及び形状	・ 図示(図面番号:)					
		接着剤の種別、施工箇所 セメント系下地、木質系下地以外 ・・ ()							構成材基材の種類	・ 図示(図面番号:)					
施工	5.施工 (19.2.3)	接着工法	材料	樹種	厚さ(mm)	幅・長さ	裏面不陸緩衝材	15.プレキャスト コンクリート工事 (20.3.2) (20.3.3) (20.3.4)	組立て方式						
		・ フローリングボード (直張用)	・ なら	・ ()			・ 合成樹脂緩衝シート		3.移動間仕切 (20.2.4)	操作方法					
		・ フローリングボード (複合用)	・ なら	・ ()					表面材の材質及び仕上げ	・ 図示(図面番号:)					
		・ フローリングボード (複合用)	・ A種 ・ B種 ・ C種	・ なら	・ ()				遮音性	・ 図示(図面番号:)					
		接着剤の種別、施工箇所 セメント系下地、木質系下地以外 ・・ ()							表面仕上げ	・ 図示(図面番号:)					
	6.カーペット敷き (19.3.2)	接着工法	種別	・ A種	・ B種	・ C種	・ D種	16.間知石及び 間知ブロック積 (20.4.2) (20.4.3)	操作方法						
		・ B種	・ 柄物	・ ループ	・ ウィルトンカーペット		・ ()		手動式	・ 電動式					
		・ C種	・ 標準品	・ カット	・ ダブルフェースカーペット				表面材の材質及び仕上げ	・ 国示(図面番号:)					
		接着剤の種別、施工箇所 セメント系下地、木質系下地以外 ・・ ()							遮音性	・ 国示(図面番号:)					
									表面仕上げ	・ 国示(図面番号:)					
排水工事	7.合板張り (19.7.1)	接着工法	種別	・ A種	・ B種	・ C種	・ D種	17.手すり (20.2.6)	操作方法						
		・ MDF	・ モルタル	・ モルタル	・ モルタル	・ モルタル	・ ()		ハンガーレールの取付け下地の補強						
		接着部の処理 ・ 熱溶接工法							・ 標準仕様	・ ()					
									パネルをランナーに取り付ける部品						
									・ 標準仕様	・ ()					
	8.鏡 (20.2.10)	接着工法	種別	・ 木目模様	・ 木目模様	・ 木目模様	・ 木目模様	18.表示 (20.2.11)	操作方法						
		・ ロックウール化粧吸音板	・ 普通	・ 9	・ ()				ハンガーレールの固定方法						
		・ ロックウール化粧吸音板	・ 立体模様	・ 9	・ ()				・ 溶接	・ あと施工アンカー(材質: 、寸法:)					
		・ けい酸カルシウム板	・ タイプII 0.8FK	・ ()											

排水工事	3. 地業の材料 (21. 2. 1)	砂 ・ 山砂 ・ 川砂 ・ 砕砂 ・ ()	21	5. カラー舗装 (22. 6. 2) (22. 6. 3) (22. 6. 4) (表22. 6. 1)	種類 ・ 加熱系 構成及び厚さ () 結合材 ・ アスファルト ・ 石油樹脂系 (顔料の添加量 :) 添加材 ・ 着色骨材 ・ 自然石 ・ 常温系 工法 ・ ニート工法 ・ 塗布工法 着色部下部 ・ アスファルト舗装 ・ コンクリート舗装 ニート工法及び塗布工法の配合その他 ・ 図示 (図面番号 :) 試験 ・ アスファルト混合物等の抽出試験	6. 芝張り、 吹付けは種類 及び地被類 (23. 4. 2) (23. 4. 3) (23. 4. 7)	種類 ・ コウライシバ ・ ノシバ ・ () 吹付けは種類用種子 種類 ・ 標準仕様書 [23. 4. 2] (3) (7) 後段 ・ 図示 (図面番号 :) 量 ・ () ・ 図示 (図面番号 :) 地被類種類、芽立数、径、単位面積当たりの株数 ・ 図示 (図面番号 :) 芝張り工法 平地 ・ 目地張り ・ べた張り ・ 図示 (図面番号 :) 法面 ・ 目地張り ・ べた張り ・ 図示 (図面番号 :) 芝張り、吹付けは種類及び地被類の枯補償期間 ・ 引渡日から1年間 ・ ()		
	4. 埋め戻し土 (21. 2. 1)	・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土		6. 透水性アス ファルト舗装 (22. 7. 2) (表22. 7. 1)	6. 透水性アス ファルト舗装 平坦性 ・ 著しい不陸がないこと	7. ブロック系舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3) (表22. 8. 1)	7. ブロック系舗装 舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	
	5. 施工 (21. 2. 2)	場所打ち排水樹の足掛け金物の材料 ・ スチール製 (幅400mm、径22mm) ・ 鉄製 (径22mm、防錆処置済み) ・ 合成樹脂被膜加工を行ったもの (径19mm) ・ 図示 (図面番号 :)		7. ブロック系舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3) (表22. 8. 1)	7. ブロック系舗装 舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	
	6. 街きよ 縁石、側溝 (21. 3. 1) (21. 3. 2)	コンクリート縁石、側溝 種類、形状、寸法		7. ブロック系舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3) (表22. 8. 1)	7. ブロック系舗装 舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	
	7. 路床 (22. 2. 2) (22. 2. 3) (表22. 2. 1) (22. 2. 4) (22. 2. 5)	路床の材料 (厚さは図示 (図面番号 :)) 遮断層 ・ 川砂 ・ 海砂又は良質な山砂 凍上抑制層 ・ 切込み砂利 ・ 砂 ・ ()		7. ブロック系舗装 (22. 8. 2) (22. 8. 3) (表22. 8. 1)	7. ブロック系舗装 舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	舗装種類 ・ 普通平板 平板舗装	
	8. 砂利敷き (22. 9. 2) (表22. 9. 1)	添加材料による安定処理 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種 ・ 生石灰()号 ・ 消石灰()号 添加量 () kg/m ³ (目標CBR : 5以上) ・ () 盛土に用いる材料 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土 C種の場合: 建設発生土受入量 () m ³ 片道の運搬距離 () km 試験 ・ 路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 路床締固め度の試験 ・ 現場CBR試験		8. 砂利敷き (22. 9. 2) (表22. 9. 1)	8. 砂利敷き 舗装種類 ・ 通路部 A種 B種 () ・ 建物周囲 A種 B種 ()	コンクリートの平板舗装及び舗石舗装のクッション材 ・ 砂 ・ 空練りモルタル ・ 図示 (図面番号 :) 平坦性 ・ 平板等の段差3mm以内 ・ 図示 (図面番号 :)	1. 旗竿 24	材種 ・ アルミニウム製 () 形式 テーパー付き ・ ロープ式 ・ ハンドル式 脚部 ・ 埋込式 ・ ベース式 高さ ・ 5m ・ 6m ・ 7m	
	9. 路盤 (22. 3. 2) (表22. 3. 1) (22. 3. 3)	舗装の種類 ・ アスファルト舗装 () ・ カラー舗装 () ・ 透水性アスファルト舗装 () ・ インターロッキング () ・ ブロック舗装 ()		1. 植栽地の確認 (23. 1. 3)	試験 ・ 土壤の水素イオン濃度(pH)試験 ・ 電気伝導度類(EC)の試験 ・ () の試験	2. フェンス 外構工事	2. フェンス ・ ネットフェンス ・ 網材種 (ビニル被覆鉄線) () ・ メッシュフェンス 網材種 (樹脂皮膜) ・ 工場塗装 () ・ 格子フェンス 網材種 (樹脂皮膜) ・ 工場塗装 ()		
舗装工事	10. アスファルト 舗装 (22. 4. 2) ~ (22. 4. 6) (表22. 4. 1) ~ (表22. 4. 6)	舗装の構成及び厚さ A-5~15 ・ 図示 (図面番号 :) A-3~10 ・ () 平坦性 ・ 通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・ 図示 (図面番号 :)	23	1. 植栽地の確認 (23. 1. 3)	試験 ・ 土壤の水素イオン濃度(pH)試験 ・ 電気伝導度類(EC)の試験 ・ () の試験	2. 植栽基盤 (23. 2. 2) (23. 2. 3) (表23. 2. 1) (23. 2. 2)	2. 植栽基盤 ・ 植栽基盤整備工法 樹木 A種 () 芝及び地被類 B種 () 有効土層 面積 図示 (図面番号 :) 厚さ 図示 (図面番号 :) 排水設備 ・ 設ける ・ 暗きよ ・ 開きよ ・ 排水層 ・ 縦穴排水 () 植込み用土 ・ 現場発生の良質土 ・ 寄土 土壤改良材 種類、指定量 ()	1. 旗竿 24	材種 ・ アルミニウム製 () 形式 テーパー付き ・ ロープ式 ・ ハンドル式 脚部 ・ 埋込式 ・ ベース式 高さ ・ 5m ・ 6m ・ 7m
	11. コンクリート 舗装 (22. 5. 2) ~ (22. 5. 6) (表22. 5. 1)	舗装の構成及び厚さ 図示 (図面番号 :) 平坦性 ・ 通行の支障となる水たまりを生じない程度 ・ 図示 (図面番号 :)		3. 植樹 (23. 3. 2) (23. 3. 3)	3. 植樹 ・ 植樹の種類 図示 (図面番号 :) 寸法 図示 (図面番号 :) 株立数 図示 (図面番号 :) 刈込み ・ あり ・ なし 支柱材 ・ 丸太 (防腐処理方法) ・ 加圧式防腐処理方法 () 支柱形式 ・ 添え柱形 ・ 鳥居形 ・ ハツ掛け形 ・ 布掛け形 ・ ワイヤ掛け形 ・ 地下埋設形 幹巻き用材料 ・ 幹巻き用テープ ・ わら ・ こも	4. 新植樹木の 枯補償 (23. 3. 4)	4. 新植樹木の 枯補償 引渡しの日から 1年 ()	1. 旗竿 24	材種 ・ アルミニウム製 () 形式 テーパー付き ・ ロープ式 ・ ハンドル式 脚部 ・ 埋込式 ・ ベース式 高さ ・ 5m ・ 6m ・ 7m
	12. コンクリート 舗装 (22. 5. 2) ~ (22. 5. 6) (表22. 5. 1)	コンクリートの種類 普通コンクリート 図示 (図面番号 :) 設計基準強度等 標準仕様書 [表22. 5. 1] () 早強セメント 使用する 注入目地材料 低弾性タイプ 高弾性タイプ 目地 種類 () 間隔 () 標準仕様書 [表22. 5. 3] 目地の構造 標準仕様書 [表22. 5. 1] 図示 (図面番号 :)		5. 移植樹木の 枯損処理 (23. 3. 6)	5. 移植樹木の 枯損処理 引渡しの日から 1年 ()	2. フェンス 外構工事	2. フェンス ・ ネットフェンス ・ 網材種 (ビニル被覆鉄線) () ・ メッシュフェンス 網材種 (樹脂皮膜) ・ 工場塗装 () ・ 格子フェンス 網材種 (樹脂皮膜) ・ 工場塗装 ()		
	13. 植栽工事	1. 植栽地の確認 (23. 1. 3)		6. 芝張り、 吹付けは種類 及び地被類 (23. 4. 2) (23. 4. 3) (23. 4. 7)	6. 芝張り、 吹付けは種類 及び地被類 種類 ・ コウライシバ ・ ノシバ ・ () 吹付けは種類用種子 種類 ・ 標準仕様書 [23. 4. 2] (3) (7) 後段 ・ 図示 (図面番号 :) 量 ・ () ・ 図示 (図面番号 :) 地被類種類、芽立数、径、単位面積当たりの株数 ・ 図示 (図面番号 :) 芝張り工法 平地 ・ 目地張り ・ べた張り ・ 図示 (図面番号 :) 法面 ・ 目地張り ・ べた張り ・ 図示 (図面番号 :) 芝張り、吹付けは種類及び地被類の枯補償期間 ・ 引渡日から1年間 ・ ()				
	14. 外構工事	2. フェンス ・ ネットフェンス ・ 網材種 (ビニル被覆鉄線) () ・ メッシュフェンス 網材種 (樹脂皮膜) ・ 工場塗装 () ・ 格子フェンス 網材種 (樹脂皮膜) ・ 工場塗装 ()							
	15. 旗竿	材種 ・ アルミニウム製 () 形式 テーパー付き ・ ロープ式 ・ ハンドル式 脚部 ・ 埋込式 ・ ベース式 高さ ・ 5m ・ 6m ・ 7m							

□ 外部仕上表

屋根	ガルバリウム鋼板厚0.4SGLカラー嵌合式縦平葺き20型 アスファルトルーフィング940 構造用合板(特類)厚12 押出法ポリスチレンフォーム断熱材 (区分E: JIS A 9521 3種 bA)厚50		下屋部屋根	ガルバリウム鋼板厚0.4SGLカラー嵌合式縦平葺き20型 アスファルトルーフィング940 構造用合板厚24(特類) 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(区分E: JIS A 9521 3種 bA) 厚50、防湿シート
	棟換気金物(W220×厚24×L1.82 2本) 破風・鼻隠し: 繊維混入セメント押出成形板厚16 DP塗(不燃認定:NM-2098)		ポーチ・階段	ポーチ床: モルタル金ゴテ コンクリート下地 階段部: モルタル金ゴテ コンクリート下地 段鼻用磁器質タイル貼
樋	縦樋: VP丸樋75φ(硬質塩ビカラー) 軒樋: VP角樋120型(硬質塩ビカラー)	スロープ	モルタル刷毛引き仕上 アクリルエマルション カラー塗装 ステンレス2段手摺	
外壁	ガルバリウム鋼板 角波張り厚0.4 外壁通気工法 ヨコ胴縁 透湿防水シート 構造用合板(特類)厚12 ガラスウール(16K)厚100 防湿シート ガルバリウム鋼板 通気水切	土間	コンクリート厚120直押え	
基礎立上り	モルタル金ゴテ	勝手口庇	アルミ製ポリカーボネート持出し庇(スピーネ F型 ルーフタイプ 600N (LIXIL) 同等品) L=1.82m	
軒天	軒天1(延焼線内): バルブ繊維混入セメント板厚12 EP塗 準耐火構造(NO.QF030RS-0154) 軒天2(1以外): ケイ酸カルシウム板厚6 EP塗	足洗い場	立上り・流し: モルタル金ゴテ W1.2m×D0.7m	
履き替えコーナー	風雨避けパネル: ポリカ波板 32波 造り付下足入a×2コ、b×2コ スチールフレーム: SOP塗			

□ 内部仕上表

階	室名	床	巾木	壁(腰壁)	天井	廻り縁	備考
入口・手洗い	カバ複合フローリング厚12 UC塗 構造用合板厚12(特類)下地 押出法ポリスチレンフォーム断熱材厚40	木製巾木UC塗 H=60	不燃ビニルクロス貼 P.B.厚12.5下地 一部 化粧ケイカル板厚6目透し貼 耐水P.B.厚12.5下地	化粧P.B.厚9.5張	塩ビ見切	ステンレス長流しL=2.100 天井点検口アリミ450口	
だれでもトイレ	カバ複合フローリング厚12 UC塗 構造用合板厚12(特類)下地 押出法ポリスチレンフォーム断熱材厚40	ソフト巾木 H=60	不燃ビニルクロス貼 耐水P.B.厚12.5下地 一部耐水ラワン合板(I類)厚12下地	化粧P.B.厚9.5張	塩ビ見切	ピクトサイン	
トイレ1 トイレ2	カバ複合フローリング厚12 UC塗 構造用合板厚12(特類)下地 押出法ポリスチレンフォーム断熱材厚40	ソフト巾木 H=60	不燃ビニルクロス貼 耐水P.B.厚12.5下地 一部耐水ラワン合板(I類)厚12下地	化粧P.B.厚9.5張	塩ビ見切		
保育スペース	カバ複合フローリング厚12 UC塗 構造用合板厚12(特類)下地 押出法ポリスチレンフォーム断熱材厚40	木製巾木UC塗 H=60	不燃ビニルクロス貼 P.B.厚12.5下地 一部 揭示クロス貼 ラワン合板(I類)厚9下地	準不燃ビニルクロス貼 P.B.厚9.5下地	塩ビ見切	造り付カバン入A×2コ、カバン入B×1コ カーテンレール	
畳コーナー	畳 厚55 構造用合板厚12下地 地板部: カバ複合フローリング厚12UC塗 構造用合板厚12(特類)捨貼り 押出法ポリスチレンフォーム断熱材厚40	畳寄せ 桧WAX	不燃ビニルクロス貼 P.B.厚12.5下地	準不燃ビニルクロス貼 P.B.厚9.5下地	塩ビ見切	カーテンレール	
静養スペース	カバ複合フローリング厚12 UC塗 構造用合板厚12(特類)下地 押出法ポリスチレンフォーム断熱材厚40 一部モルタル金ゴテ(靴脱ぎスペース)	ソフト巾木 H=60	不燃ビニルクロス貼 P.B.厚12.5下地 一部不燃メラミン化粧合板厚3目透し貼 耐水P.B.厚12.5下地 一部 化粧ケイカル板厚6目透し貼 耐水P.B.厚12.5下地	化粧P.B.厚9.5張	塩ビ見切	カーテンレール ABC粉末消火器10型 I型キッチン間口2400 換気扇W750 床下点検口アルミ450口 多目的流し	
押入	ラワン合板厚9張り 素地 構造用合板厚12(特類)下地 押出法ポリスチレンフォーム断熱材厚40	雑巾摺15×10 杉素地	ラワン合板厚4(I類) 突付素地 構造用合板厚9(特類)下地	ラワン合板厚5.5(I類) 突付素地	木製廻り縁	固定棚2段 1間天袋付き 天井点検口アルミ450口	

■特記事項

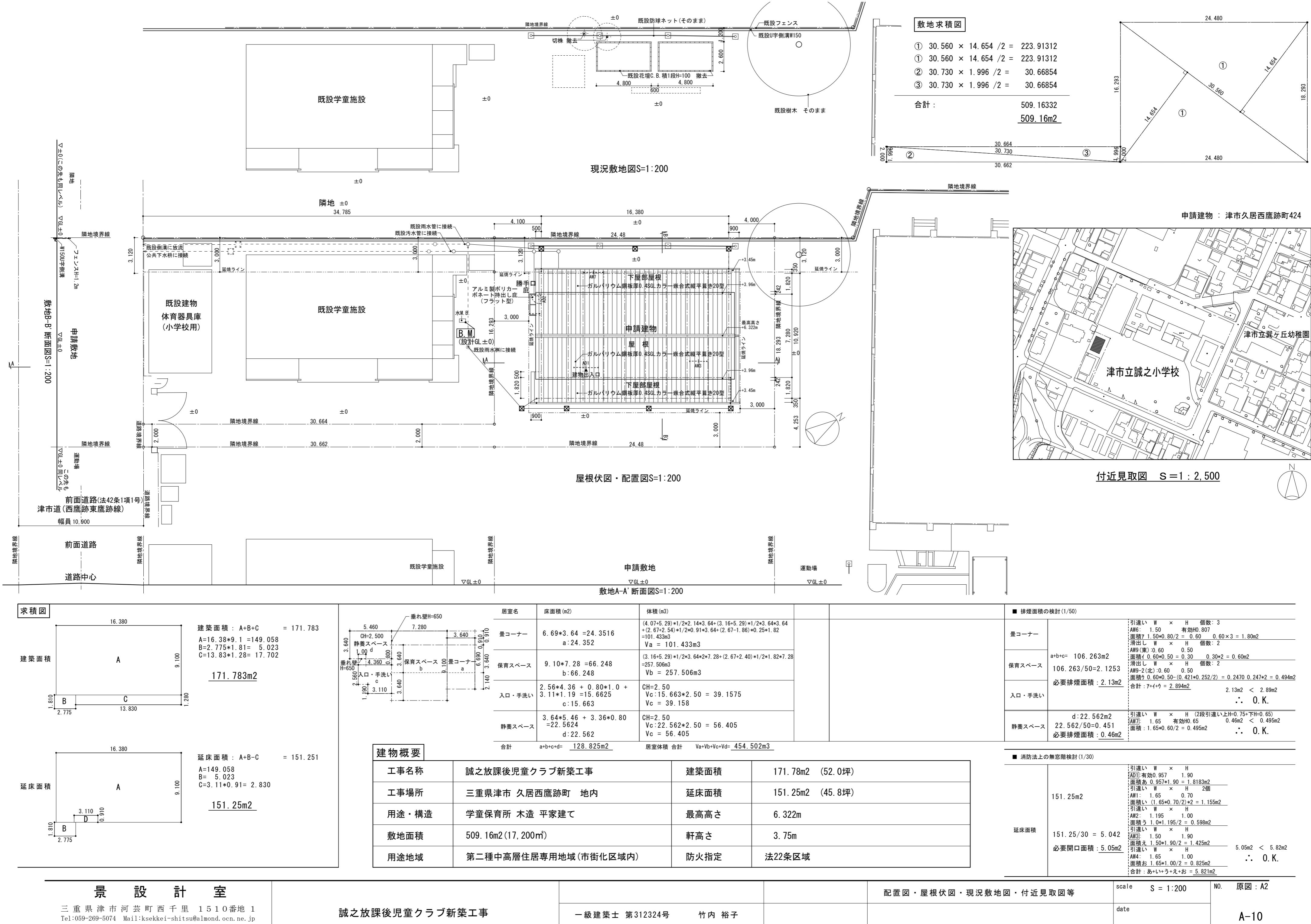
・内装仕様材料は全てF★★★★以上とする。

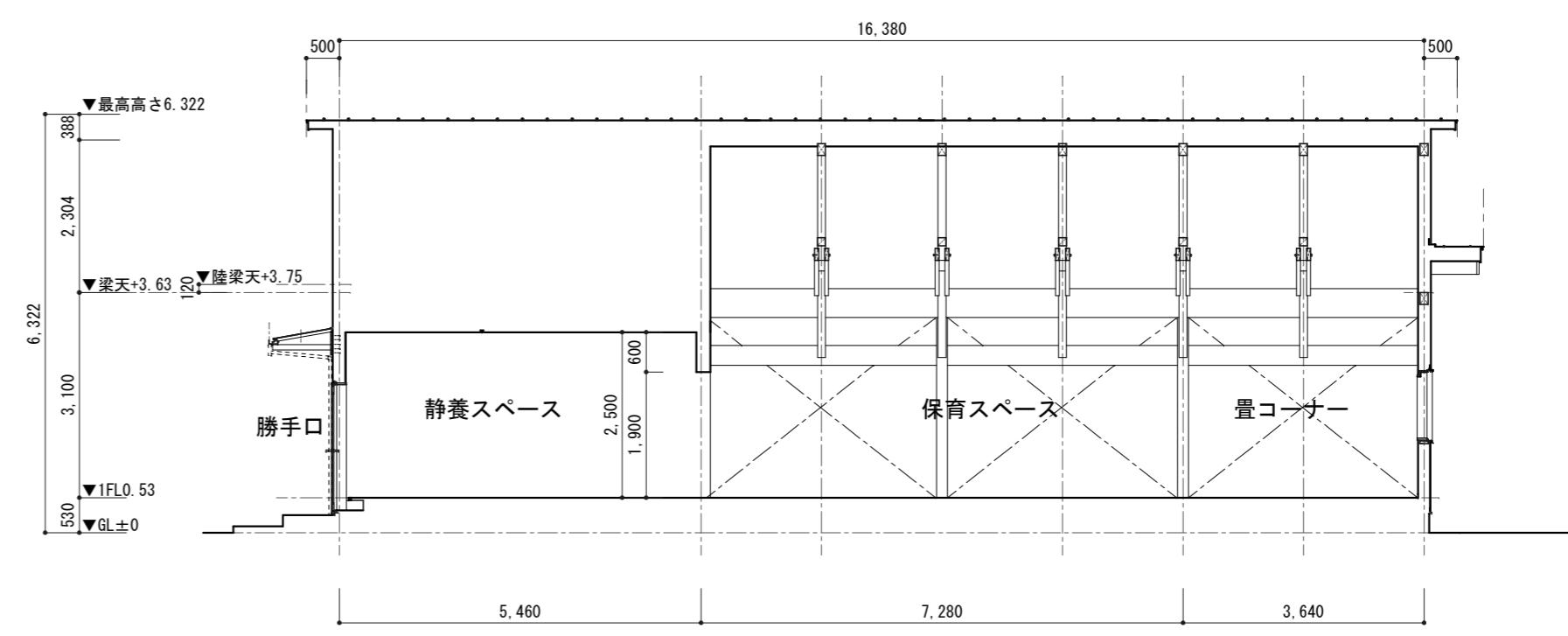
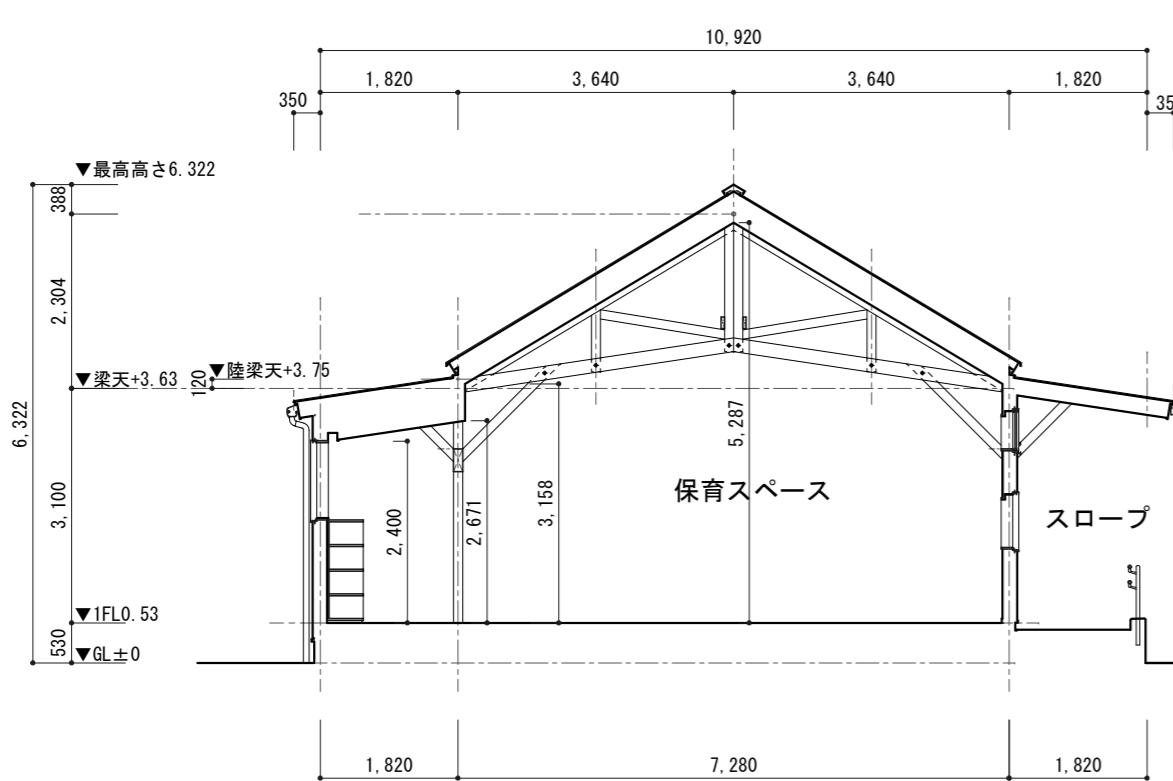
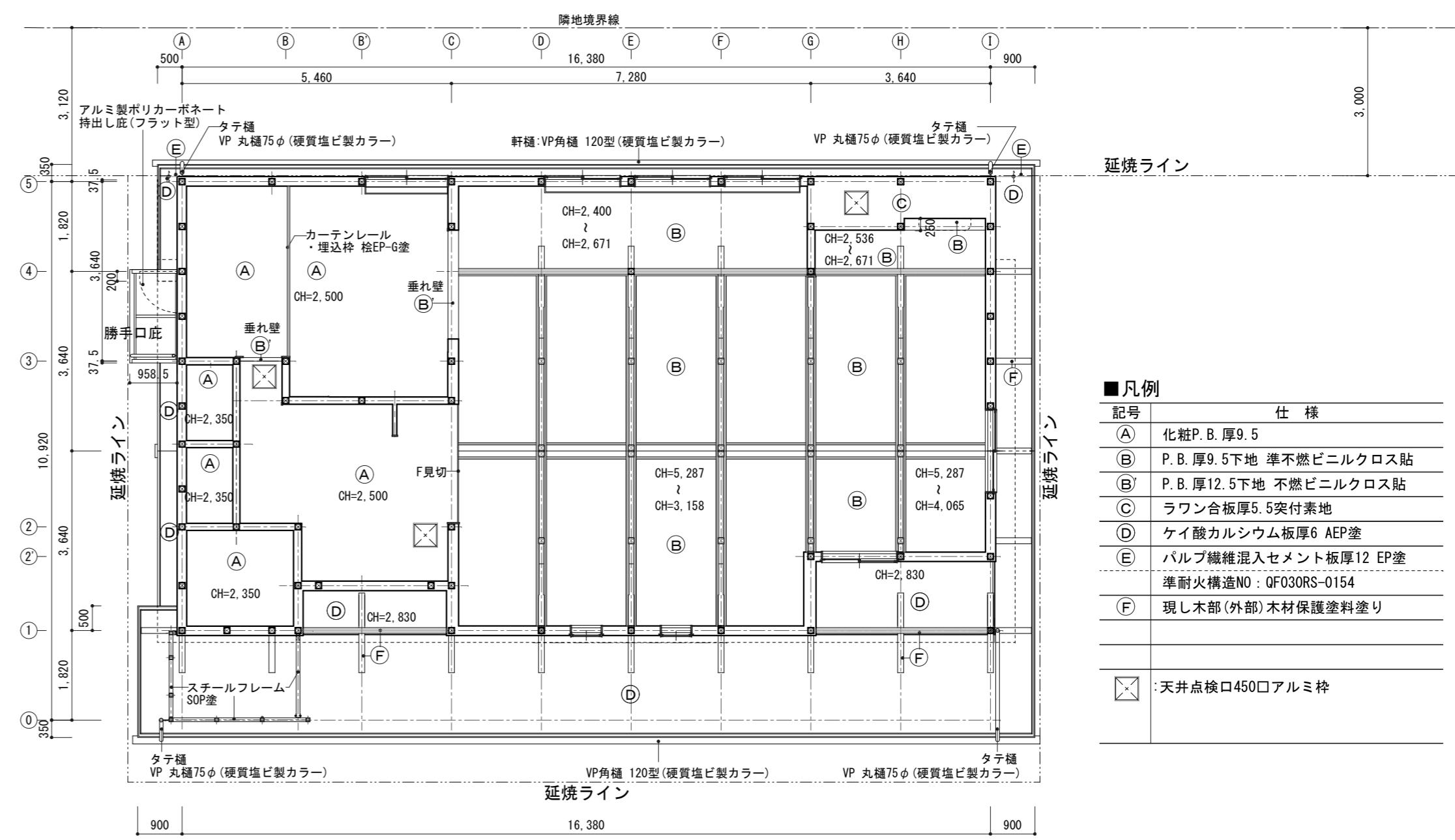
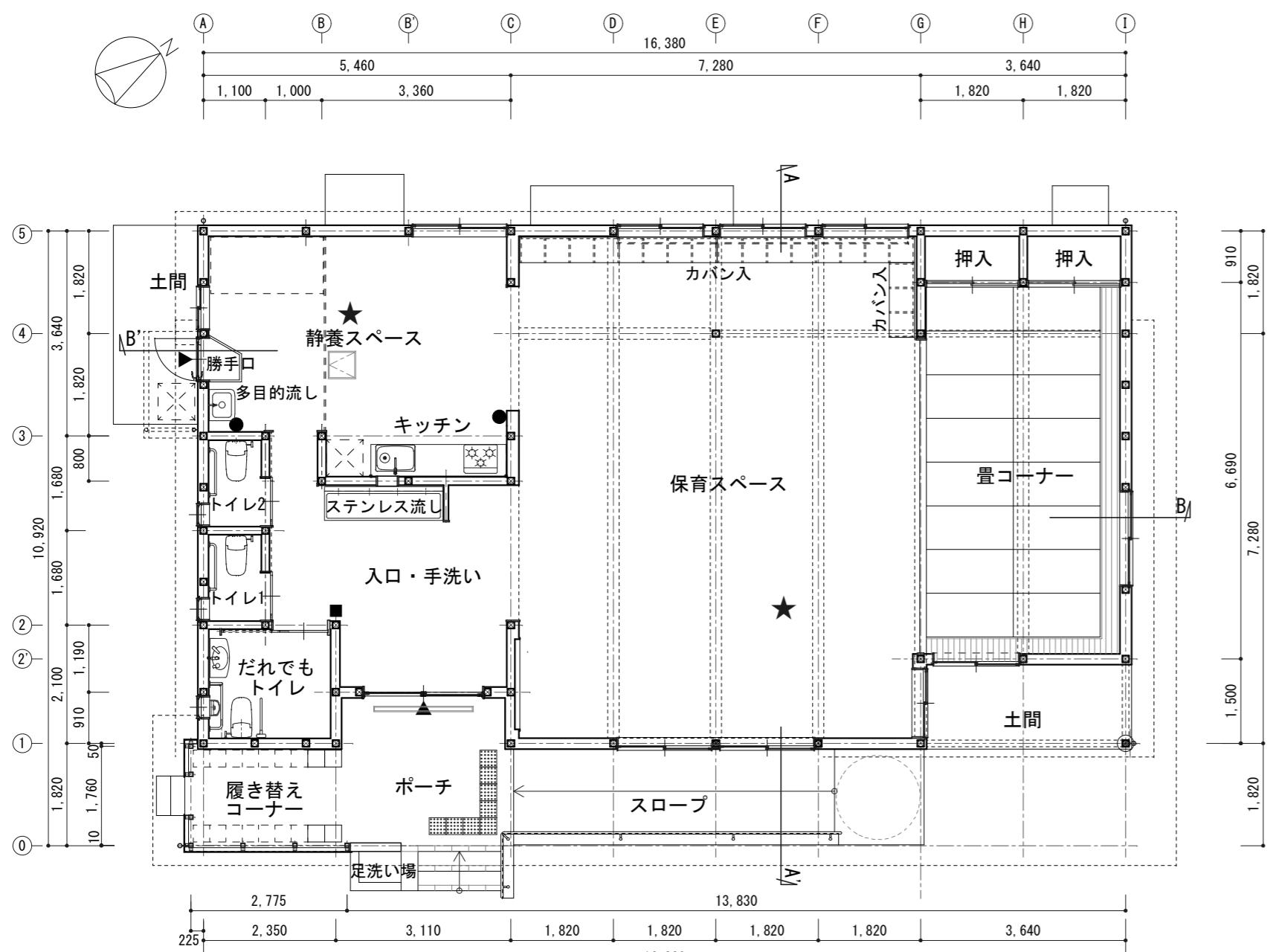
・※P.B.とP.B.の壁コーナーにはRコーナー材(静養スペースには不燃Rコーナー材)を設置すること。

・メーカー名が記載されている場合は参考例とし、同等品以上とする。

■不燃・準不燃認定番号

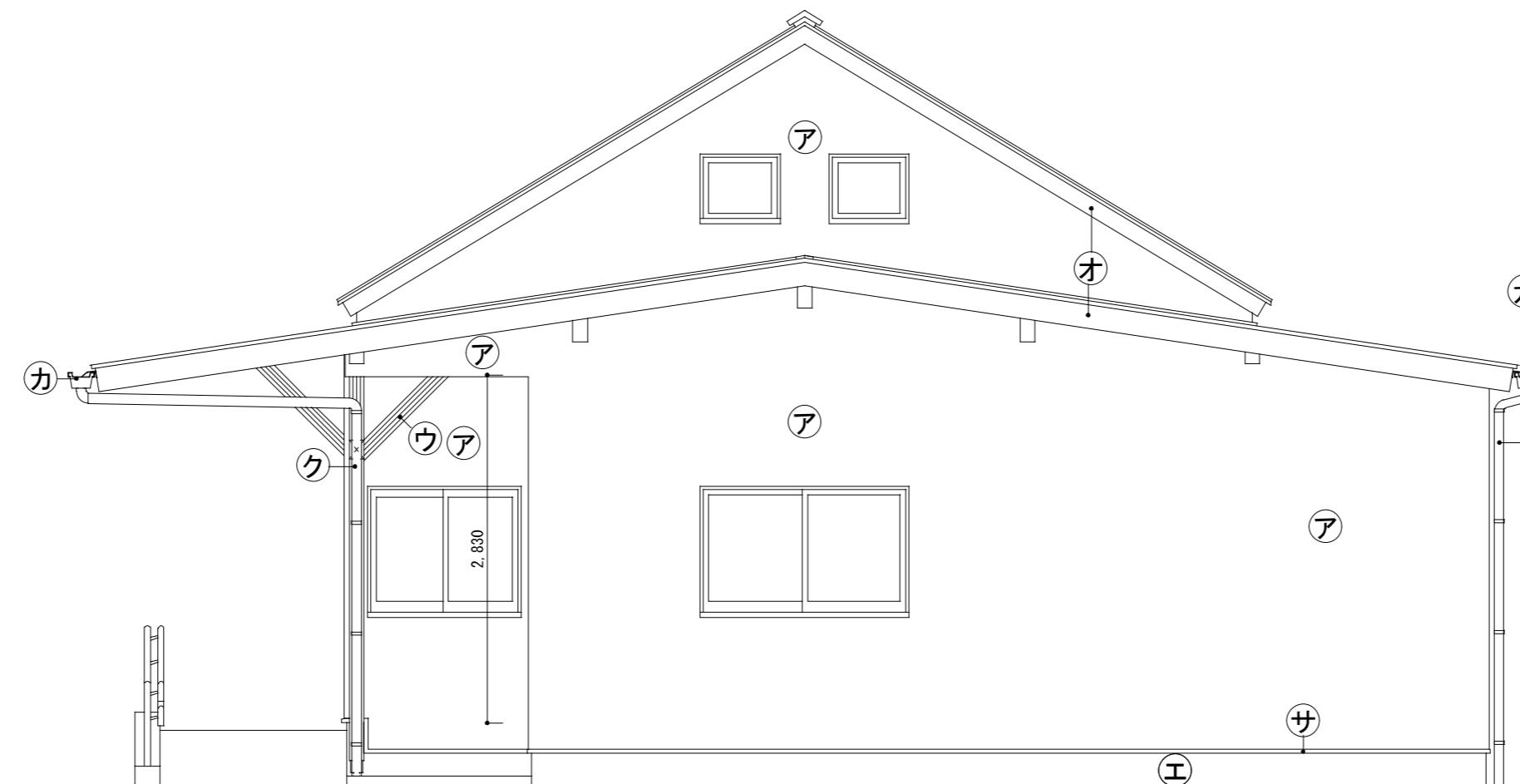
P.B.厚12.5 : NM-8619(不燃)	化粧P.B.厚9.5 : NM-8599(不燃)同等品	ガルバリウム鋼板 : NM-8697(不燃)
不燃メラミン化粧合板厚3 : NM-2183(不燃)	化粧ケイ酸カルシウム板厚6 : NM-4487(不燃)同等品	
不燃ビニルクロス(P.B.厚12.5下地) : NM-3992(不燃)同等品	準不燃ビニルクロス(P.B.厚12.5下地) : QM-0803(準不燃)同等品	



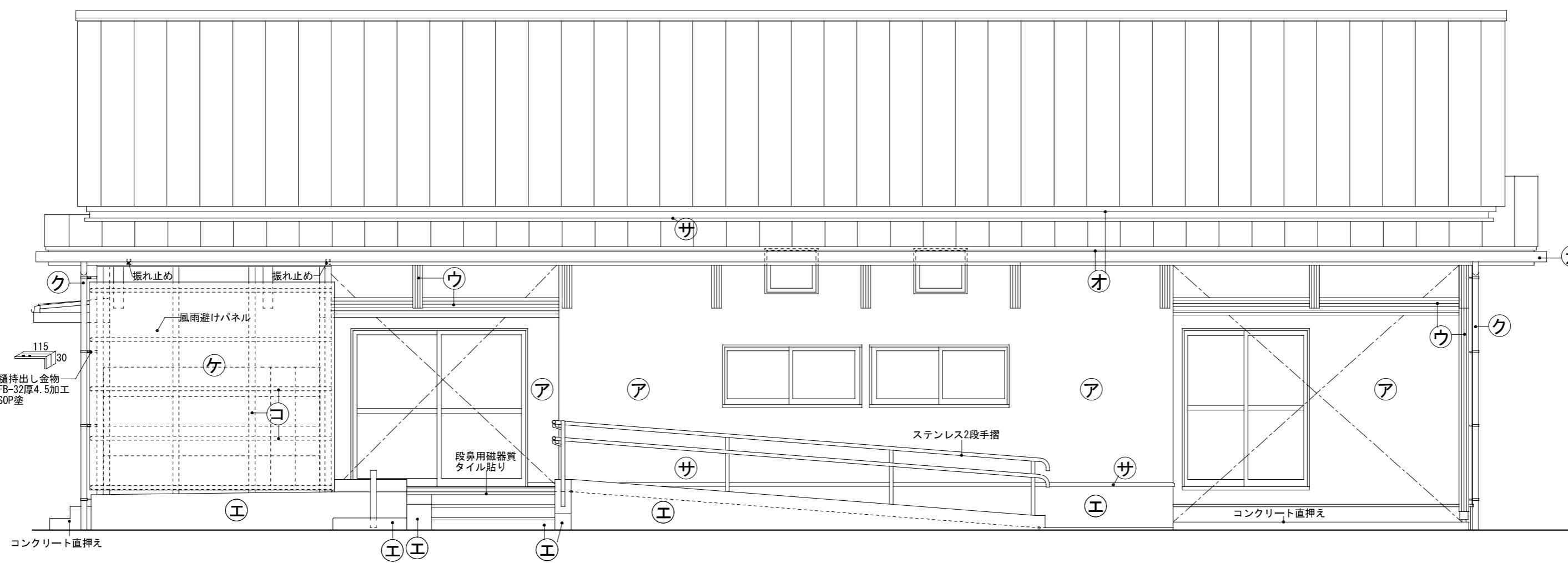


■凡例

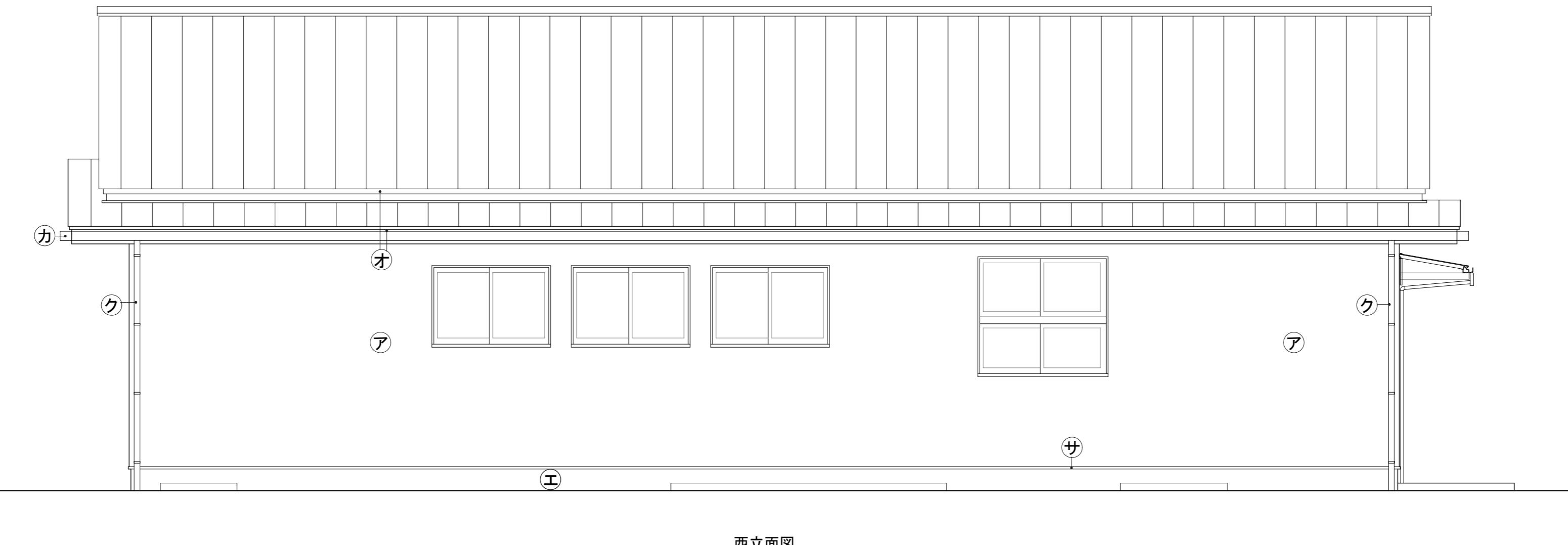
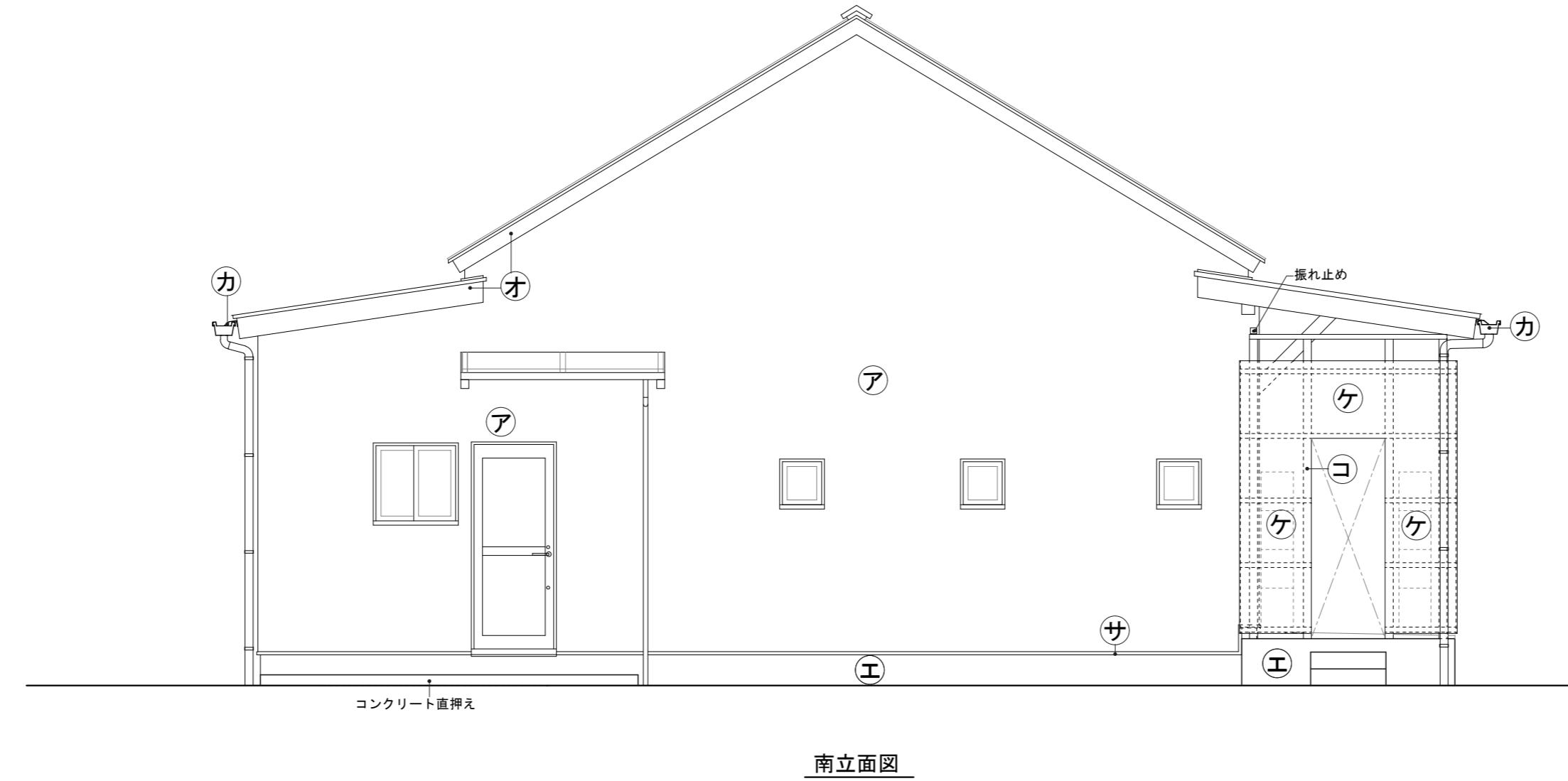
記号	部位	仕様
(⑦)	外壁1	ガルバリウム鋼板角波張り厚0.4通気工法
(⑧)	外壁2	繊維混入セメント押出成形板厚16 DP塗
(⑨)	現し木部	木材保護塗料塗り(防腐剤加圧注入処理の上)
(⑩)	基礎立上り・スロープ等立上り	モルタル金ゴテ
(⑪)	破風・鼻隠し	繊維混入セメント押出成形板厚16 DP塗
(⑫)	軒樋1	VP角樋 120型(硬質塩ビ製カラー)
(⑬)	軒樋2	ガルバリウム鋼板 WI27落ち葉止めカバー付厚0.35
(⑭)	タテ樋	VP 丸樋75φ(硬質塩ビ製カラー)
(⑮)	風雨避けパネル	ポリカ波板
(⑯)	スチールフレーム	SOP塗
(⑰)	水切り	ガルバリウム鋼板



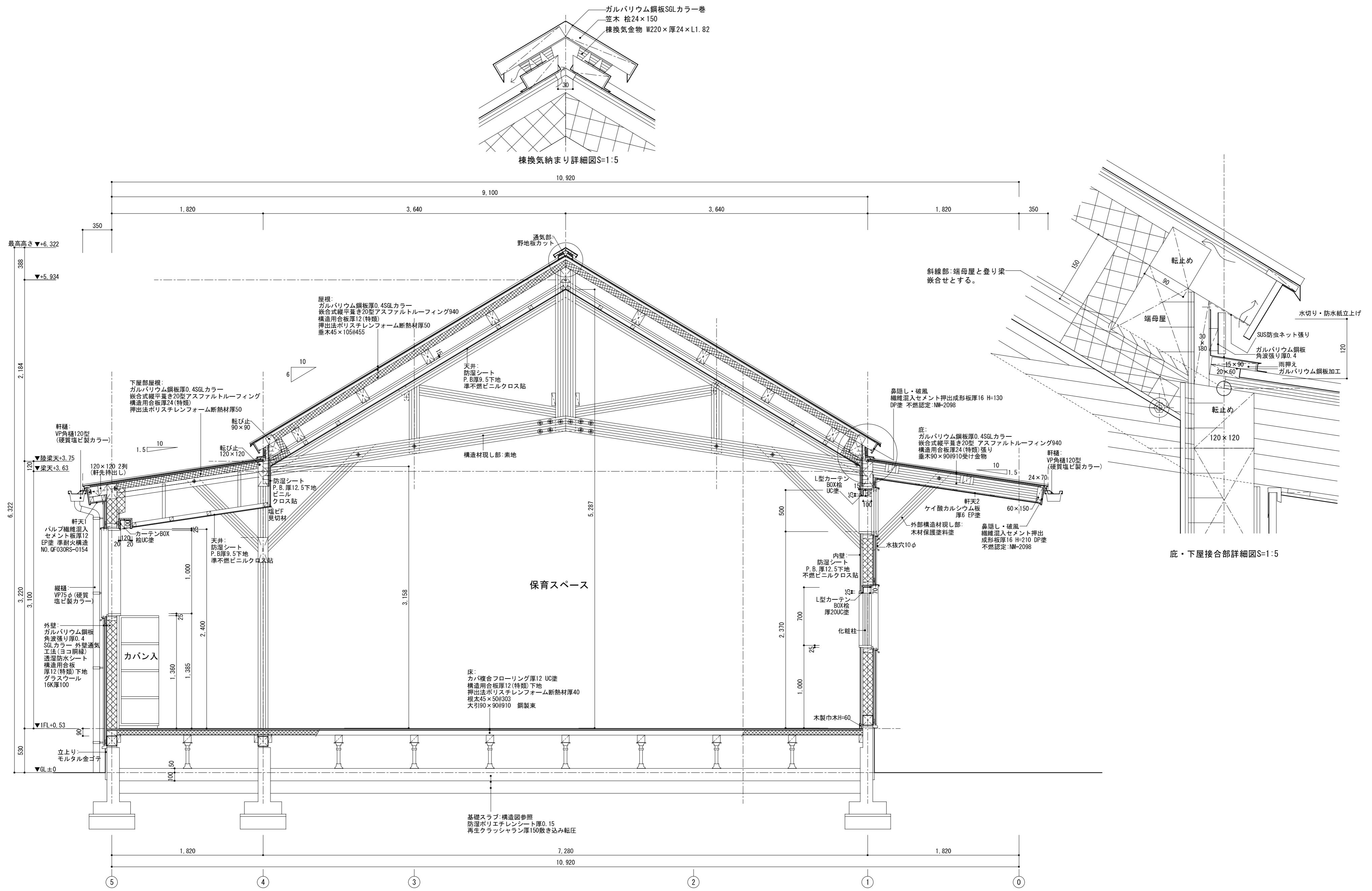
北立面図

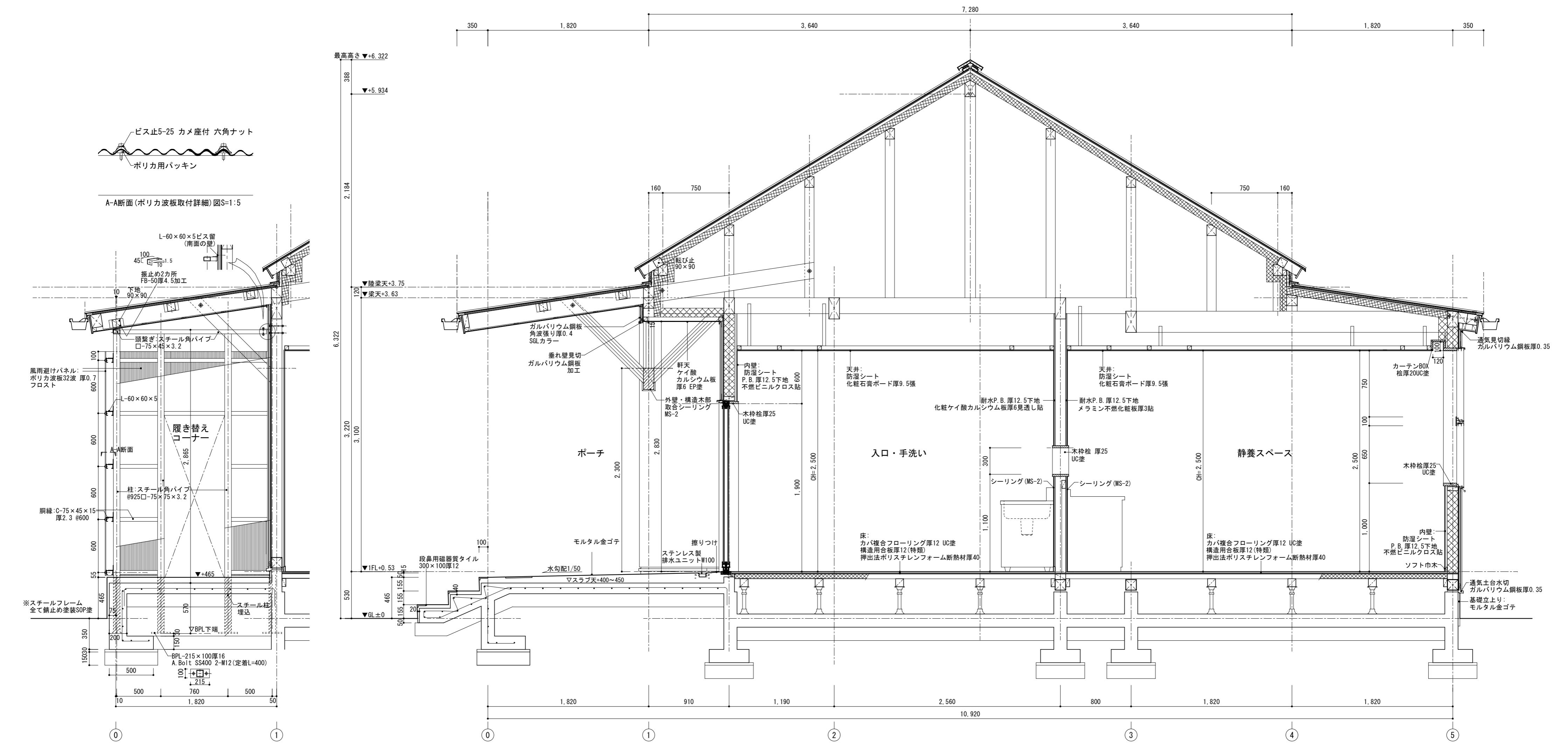


東立面図



景 設 計 室	誠之放課後児童クラブ新築工事	一級建築士 第312324号 竹内 裕子	立面図2	scale S = 1:50	NO. 原図 : A2
三重県津市河芸町西千里 1510番地 1 Tel:059-269-5074 Mail:ksekkei-shitsu@almond.ocn.ne.jp				date	A-13





景 設 計 室

三重県津市河芸町西千里 1510番地 1
Tel:059-269-5074 Mail:ksekkei-shitsu@almond.ocn.ne.jp

誠之放課後児童クラブ新築工事

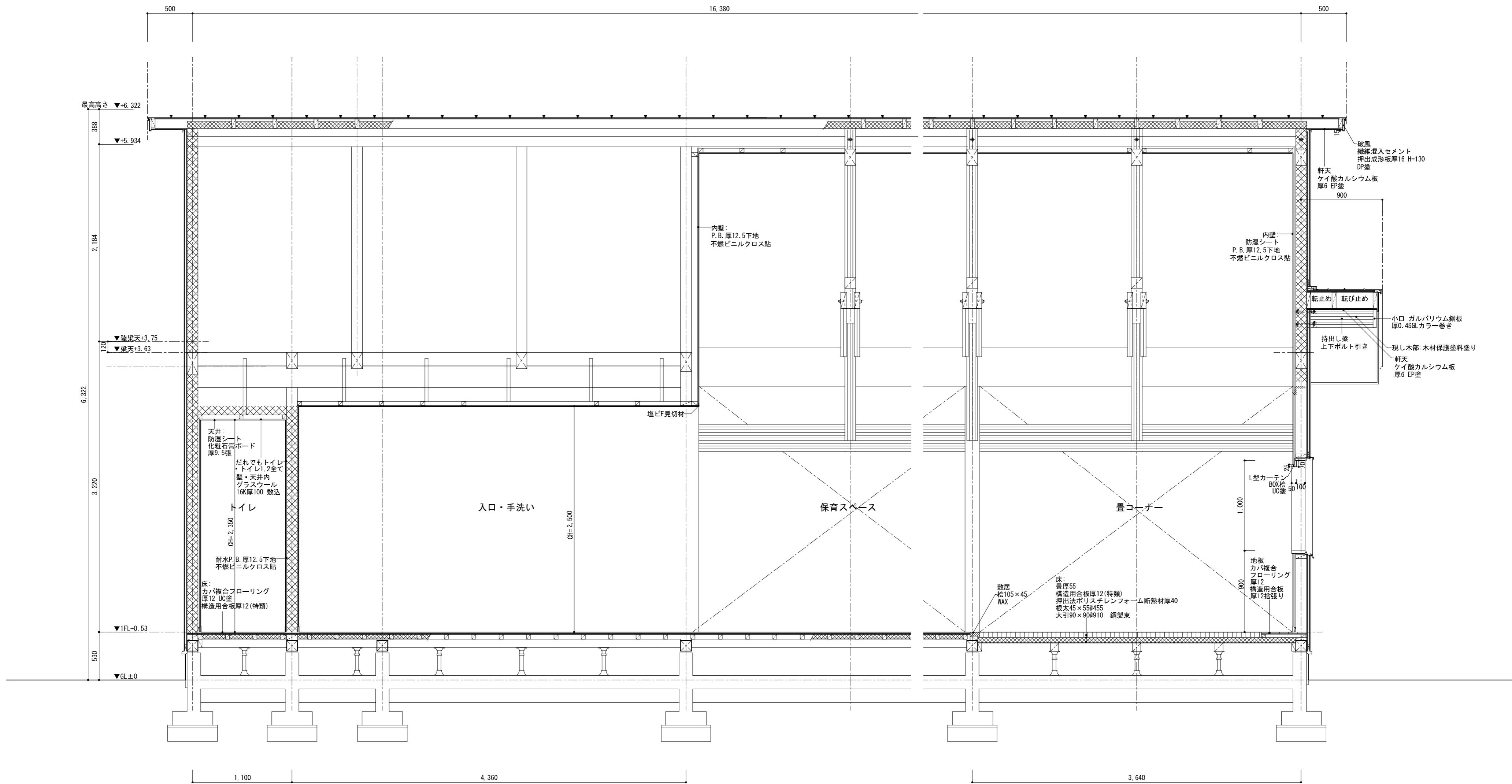
一級建築士 第312324号 竹内 裕子

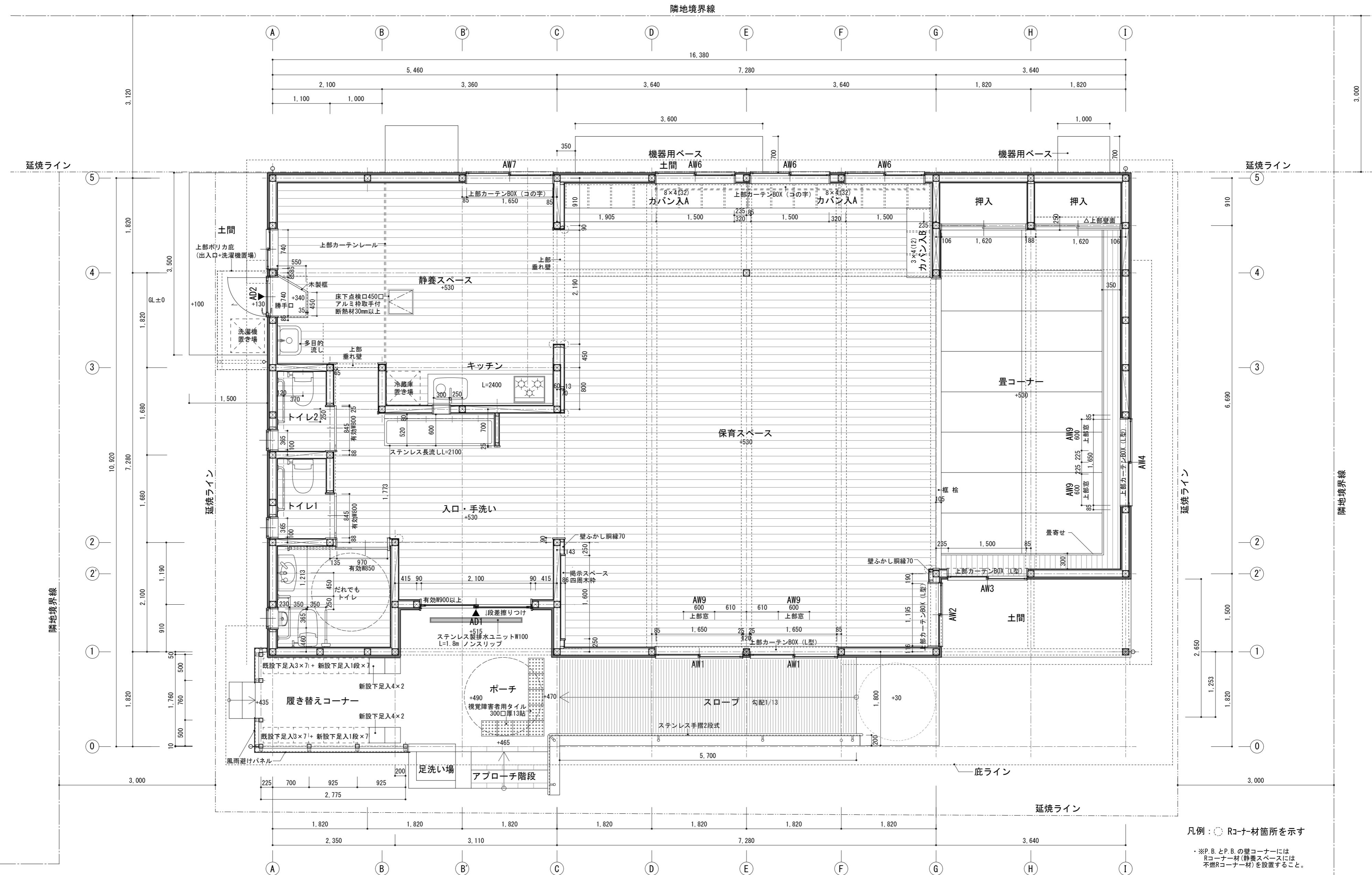
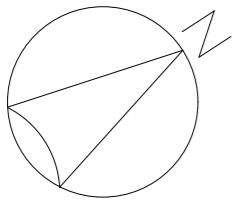
矩計図2

scale S = 1:30
S = 1:5

No. 原図 : A2
A-15

date



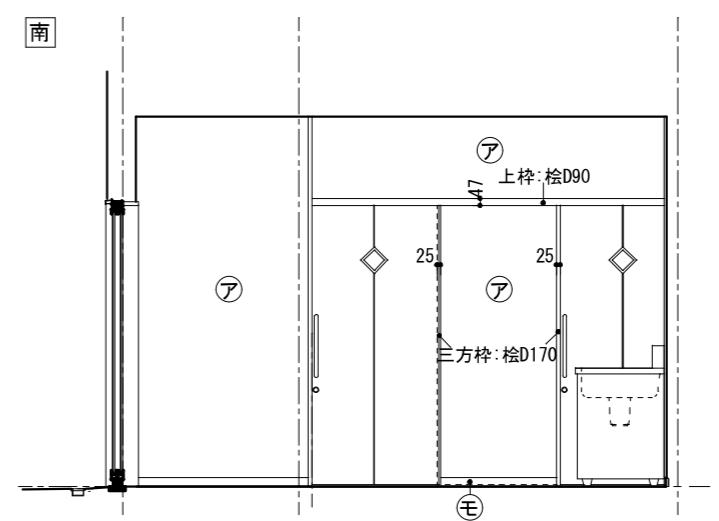
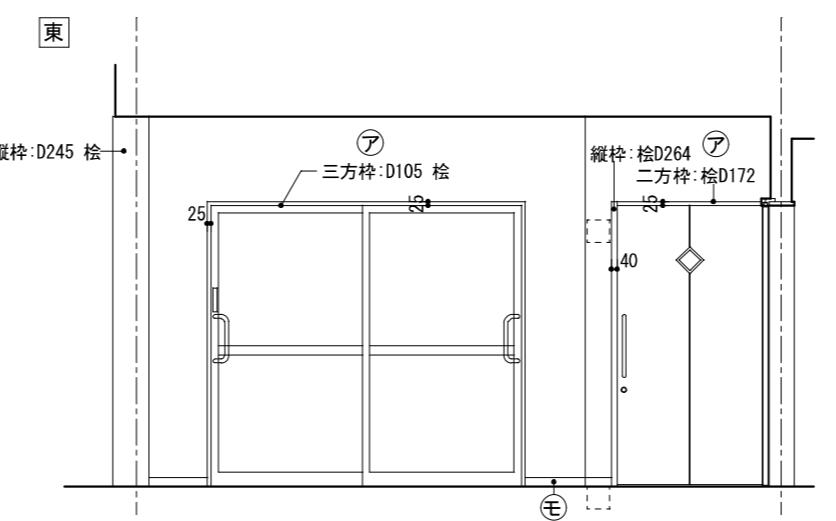
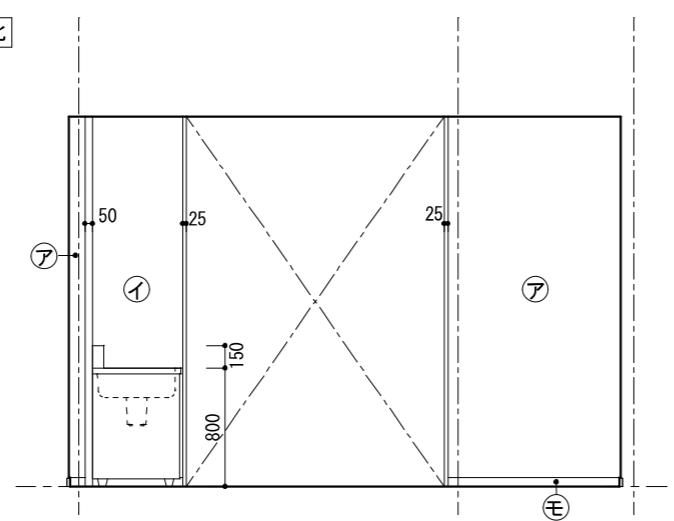
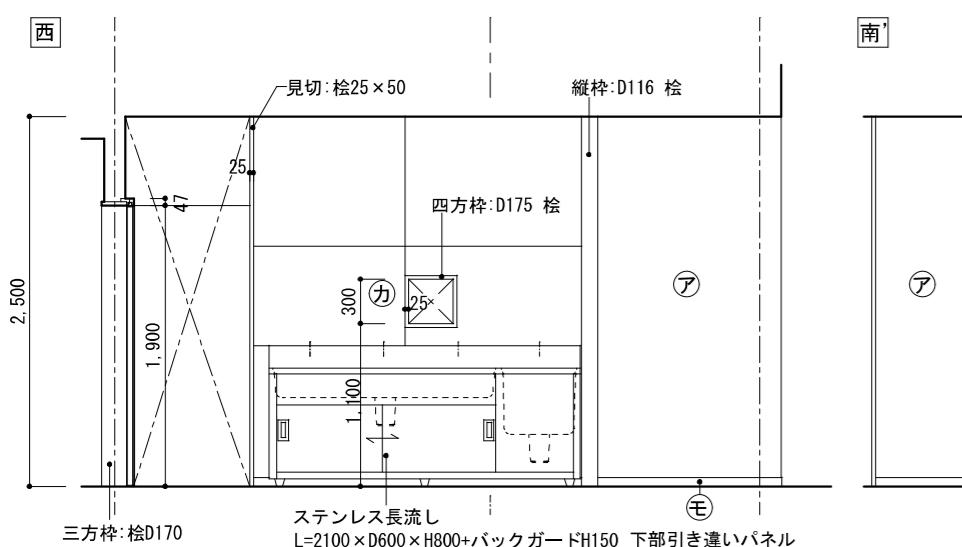


凡例：○ リコナ-材箇所を示す

- ※P. B. と P. B. の壁コーナーには
Rコーナー材(静養スペースには
不燃Rコーナー材)を設置すること。

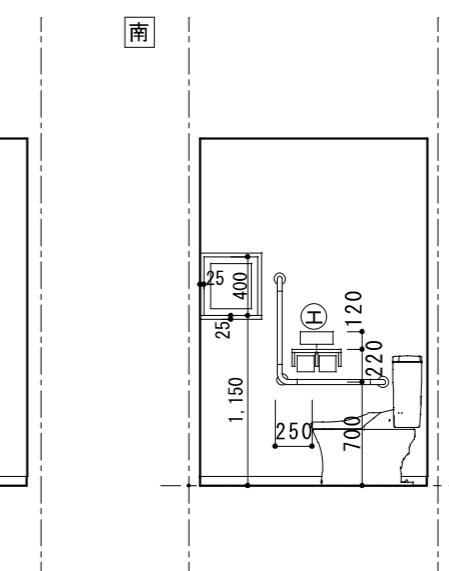
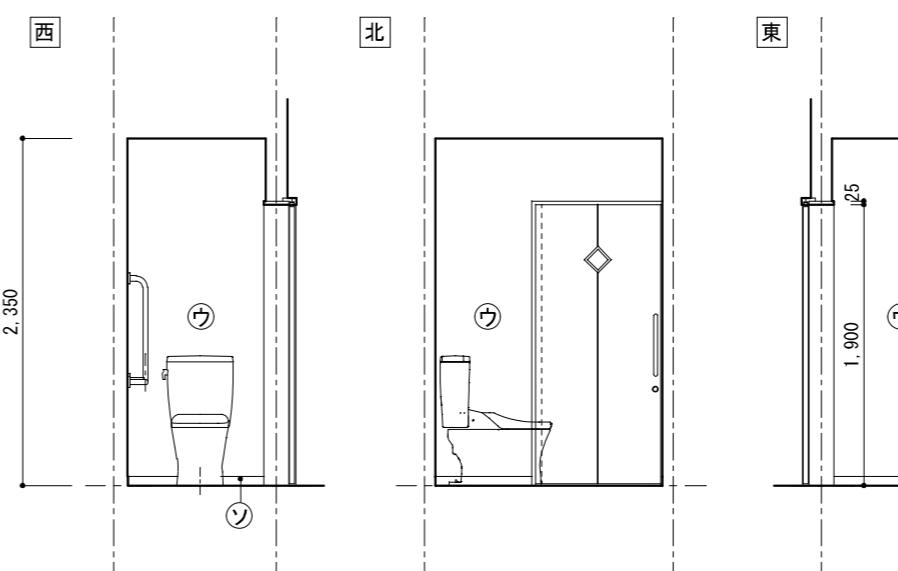
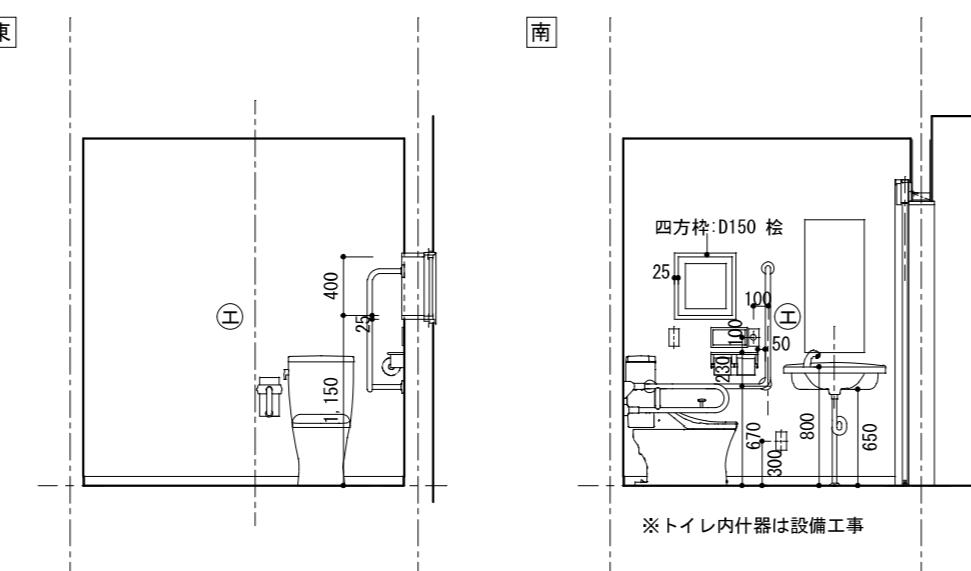
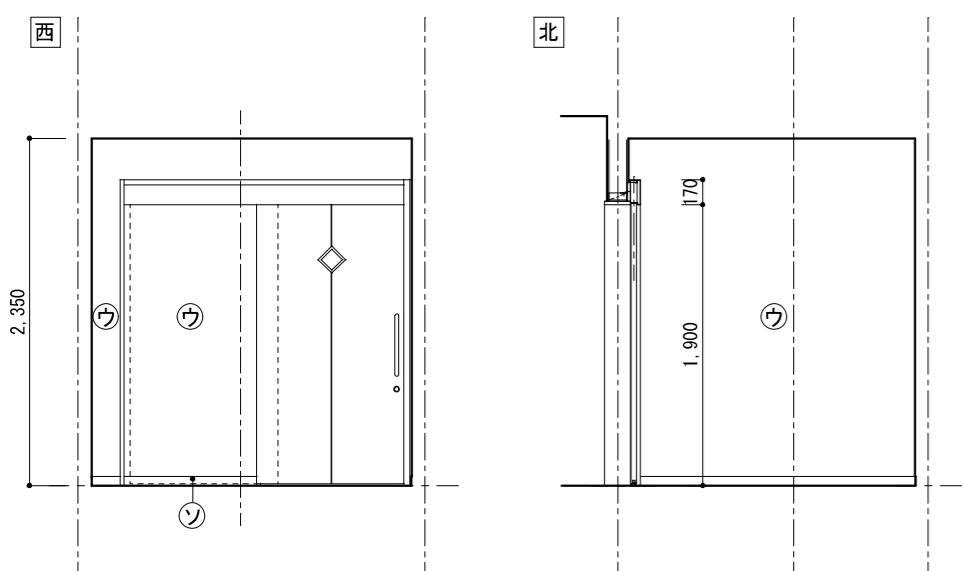
立 室名	入口・手洗い		記号
井 :	化粧P.B.厚9.5張		
:	P.B. 厚12.5下地	不燃ビニルクロス貼	(ア)
	耐水P.B. 厚12.5下地	メラミン化粧合板厚3目透し貼シーリング(MS-2)	(イ)
	耐水P.B. 厚12.5下地	化粧ケイ酸カルシウム板厚6目透し貼シーリング(MS-2)	(カ)
	構造用合板厚12(特類)下地 カバ複合フローリング厚12 UC塗		
木 :	木製巾木UC塗 H=60		(モ)
考 :			

- 特記：
 - ・木枠は全て桧材とする。
 - ・D=180mmを超えるものは集成材とし180mm以下は桧無垢材とする。
 - ・木枠は特記の無い枠は全てUC塗装とする。



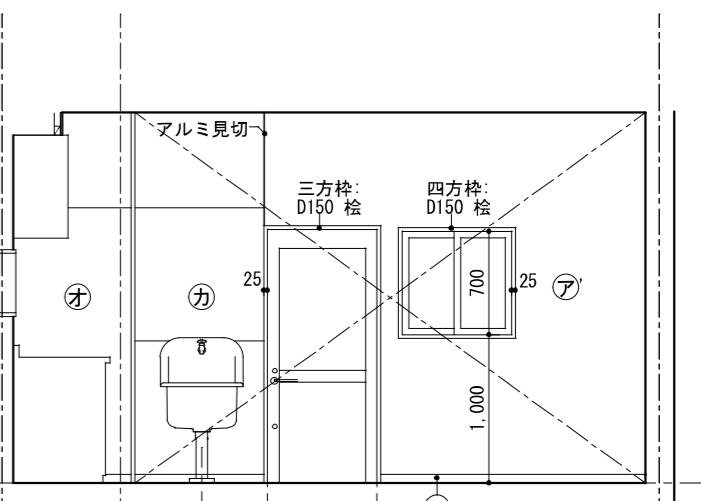
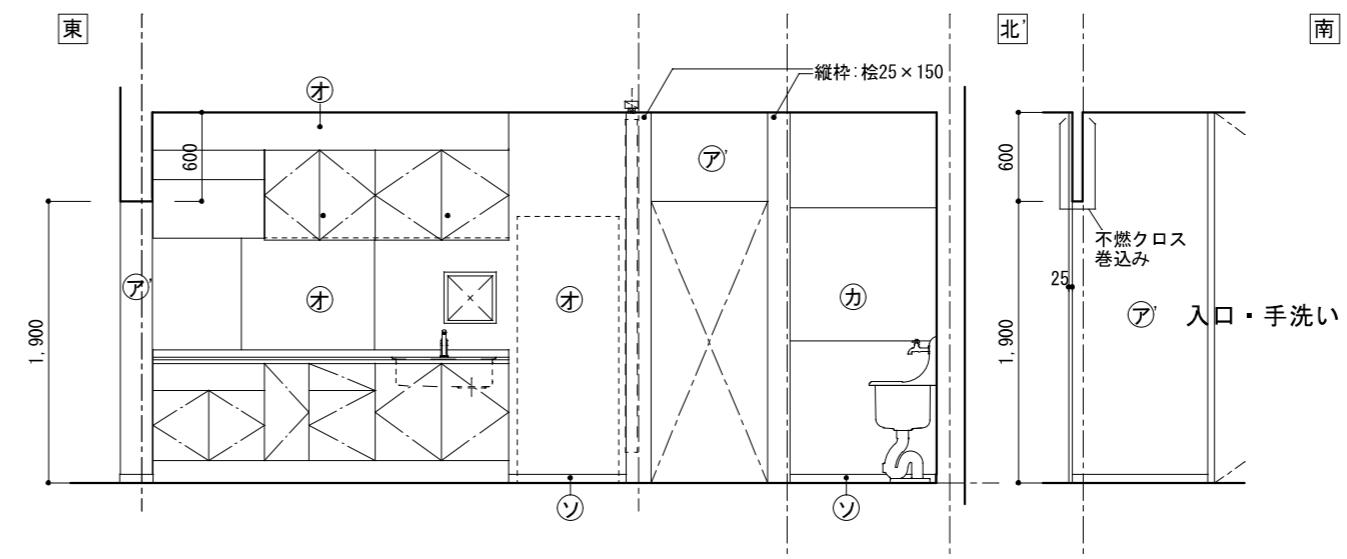
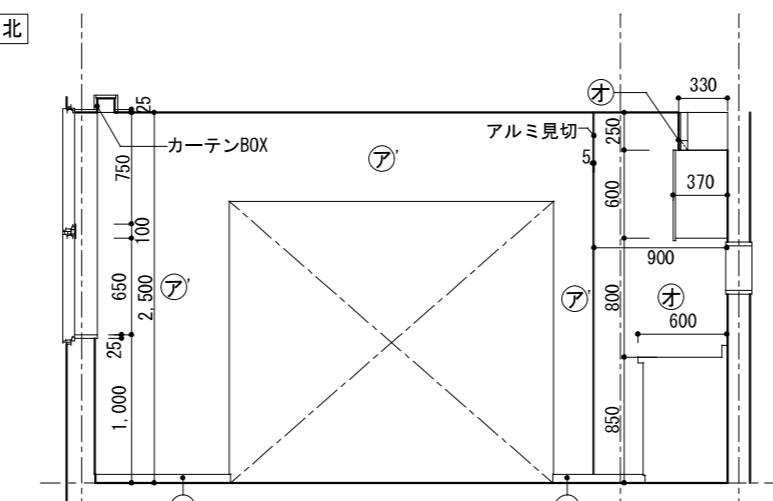
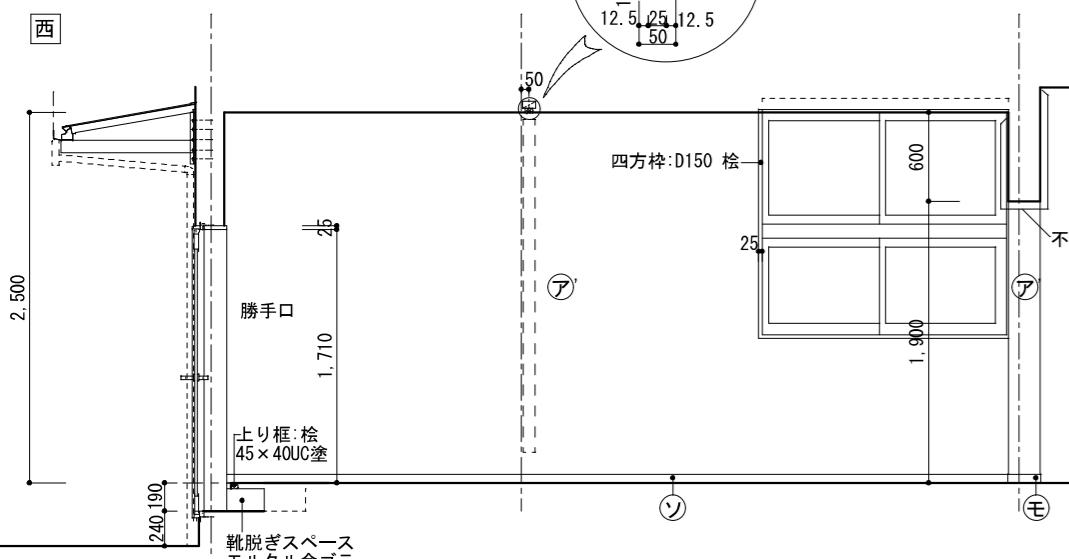
立室名	だれでもトイレ・トイレ1・トイレ2		記号
井:	化粧P.B. 厚9.5張		
:	耐水P.B. 厚12.5下地	ビニルクロス貼	(イ)
	耐水ラワン合板厚12下地	ビニルクロス貼	(工)
:	構造用合板厚12(特類)下地 カバ複合フローリング厚12 UC塗		
木:	ソフト巾木 H=60		(ソ)
考:			

だれでもトイレ



室名	静養スペース		記号
件 :	化粧P.B. 厚9.5張		
：	P.B. 厚12.5下地	不燃ビニルクロス貼	(ア)
	耐水P.B. 厚12.5下地	不燃メラミン化粧合板厚3目透し貼シーリング(MS-2)	(オ)
	耐水P.B. 厚12.5下地	化粧ケイ酸カルシウム板厚6目透し貼シーリング(MS-2)	(カ)

静養スペース



景 設 計

三重県津市河芸町西千里 1510番地 1
Tel:059-269-5074 Mail:ksekkei-shitsu@almond.ocn.ne.jp

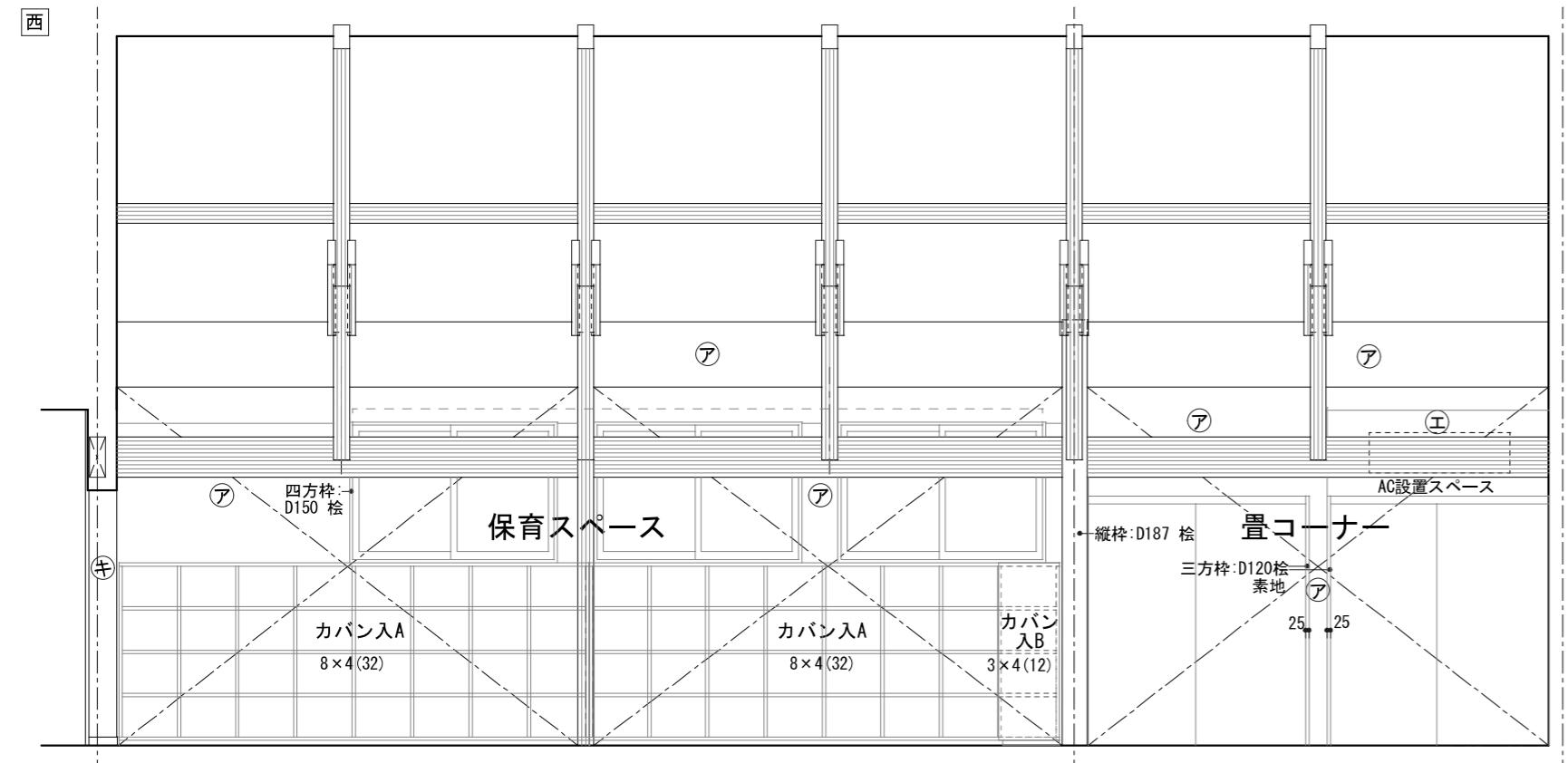
誠之放課後児童クラブ新築工事

一級建築士 第312324号

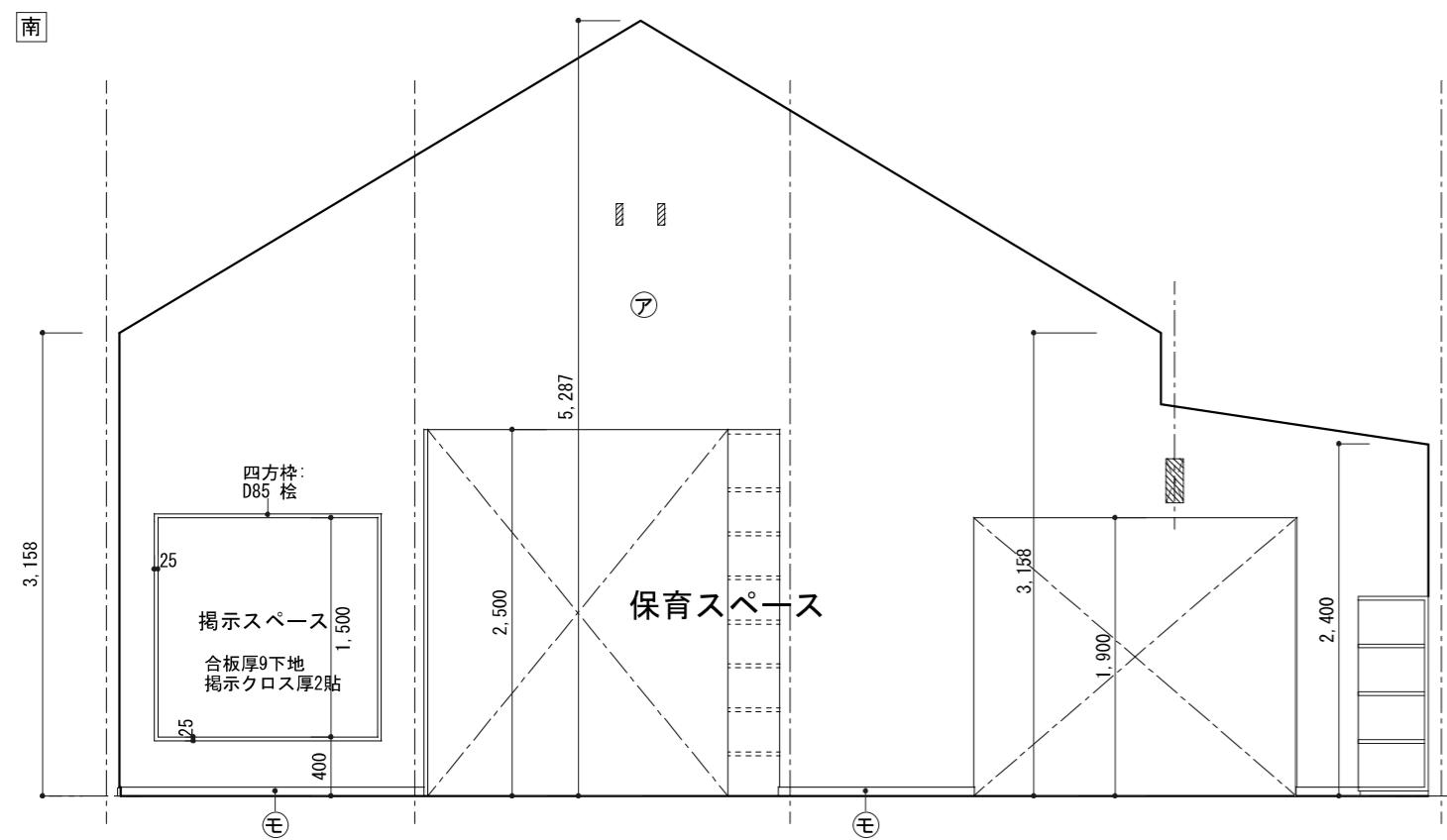
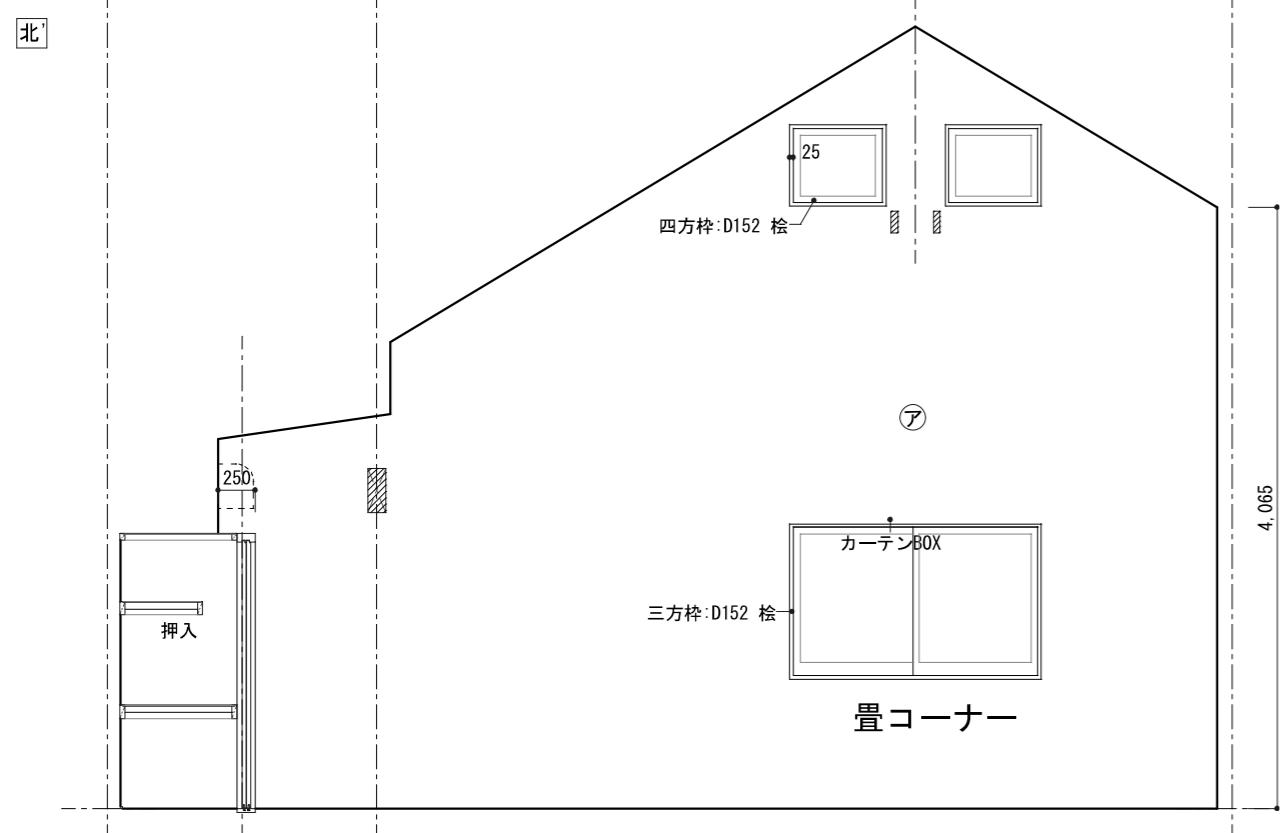
展開図1

ale S = 1:50
S = 1:10

保育スペース・置コーナー



※カバン入は部分詳細図参照



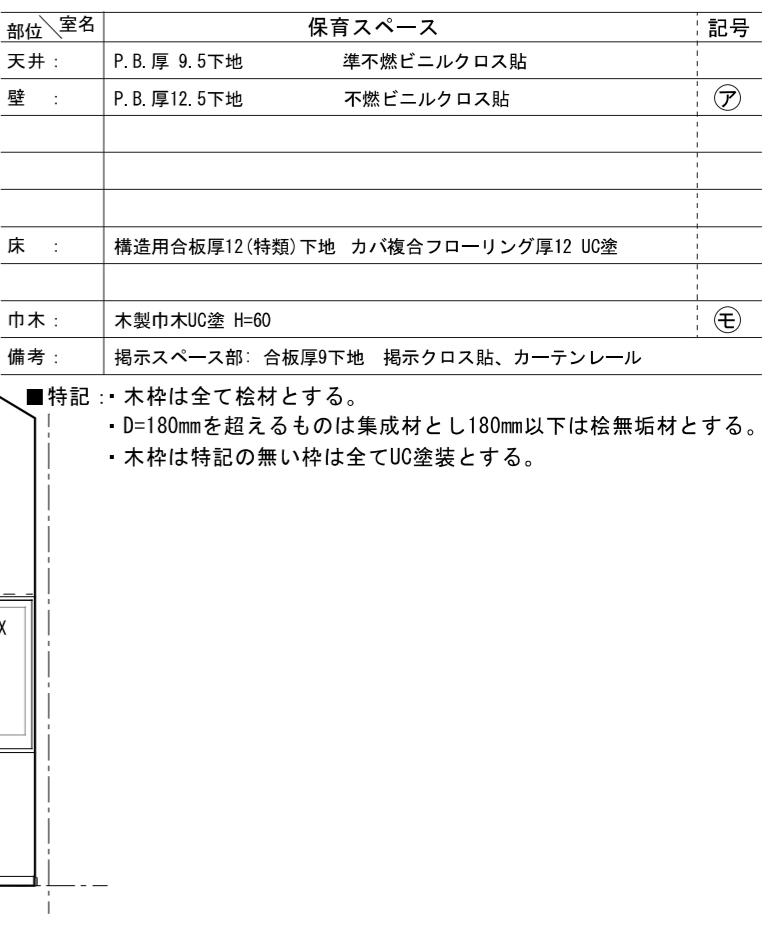
景 設 計 室

三重県津市河芸町西千里 1510番地1
Tel:059-269-5074 Mail:ksekkei-shitsu@almond.ocn.ne.jp

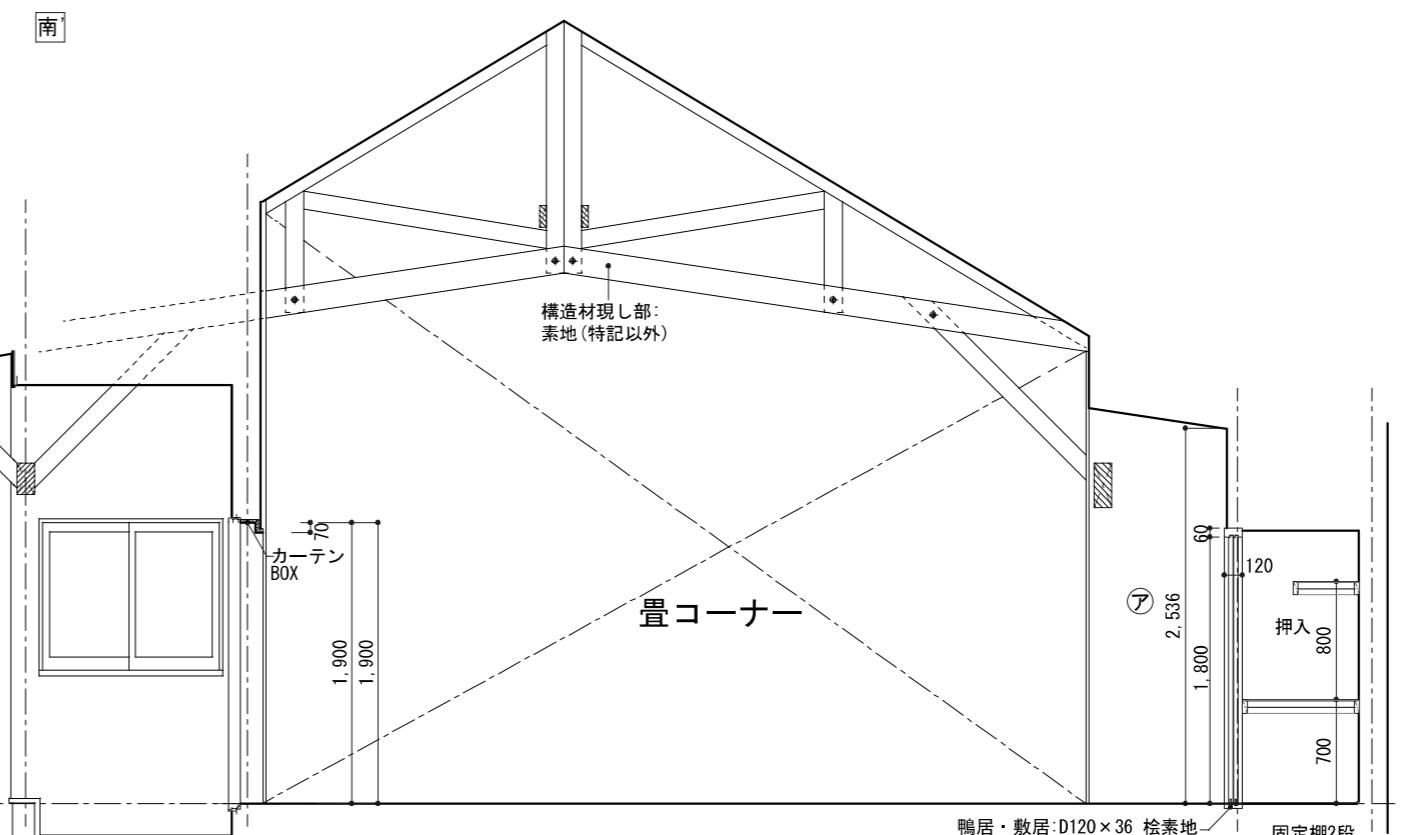
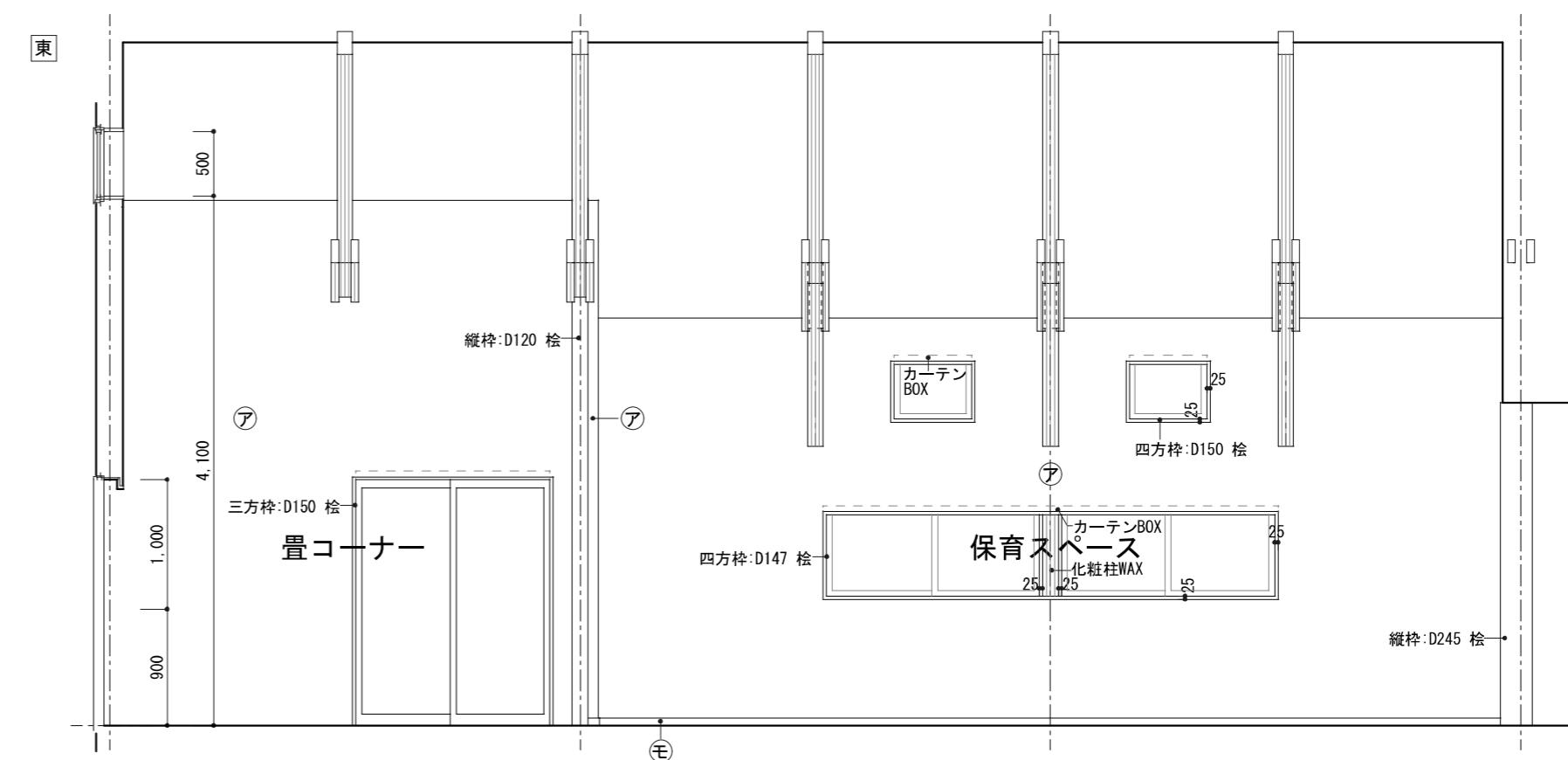
誠之放課後児童クラブ新築工事

一級建築士 第312324号 竹内 裕子

展開図2



部位\室名	保育スペース	記号
天井 :	P.B.厚9.5下地 準不燃ビニルクロス貼	(7)
壁 :	P.B.厚12.5下地 不燃ビニルクロス貼	
床 :	構造用合板厚12(特類)下地 カバ複合フローリング厚12 UC塗	
巾木 :	木製巾木UC塗 H=60	(6)
備考 :	掲示スペース部:合板厚9下地 掲示クロス貼、カーテンレール	
■特記:	・木枠は全て桧材とする。 ・D=180mmを超えるものは集成材とし180mm以下は桧無垢材とする。 ・木枠は特記の無い枠は全てUC塗装とする。	

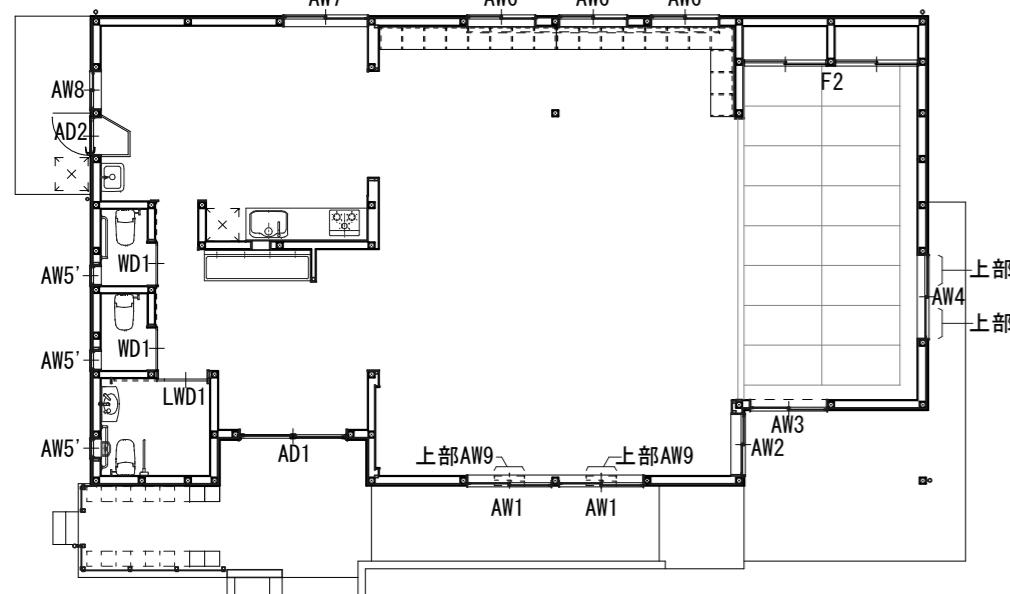


部位\室名	置コーナー	記号
天井 :	P.B.厚9.5下地 準不燃ビニルクロス貼	
壁 :	P.B.厚12.5下地 ビニルクロス貼	(7)
床 :	構造用合板厚12(特類)下地 畳厚55	
床部:	構造用合板厚12(特類)下地 カバ複合フローリング厚12	
巾木 :	畳寄せ	
備考 :	カーテンレール	

部位\室名	押入	記号
天井 :	ラワン合板厚5.5突付素地	
壁 :	構造用合板厚9(特類)下地 ラワン合板厚4 突付素地	
床 :	構造用合板厚12(特類)下地 ラワン合板厚9張り 素地	
巾木 :	雑巾摺り	
備考 :	固定棚2段	

scale S = 1:50 NO. 原図 : A2

A-19



キープラン

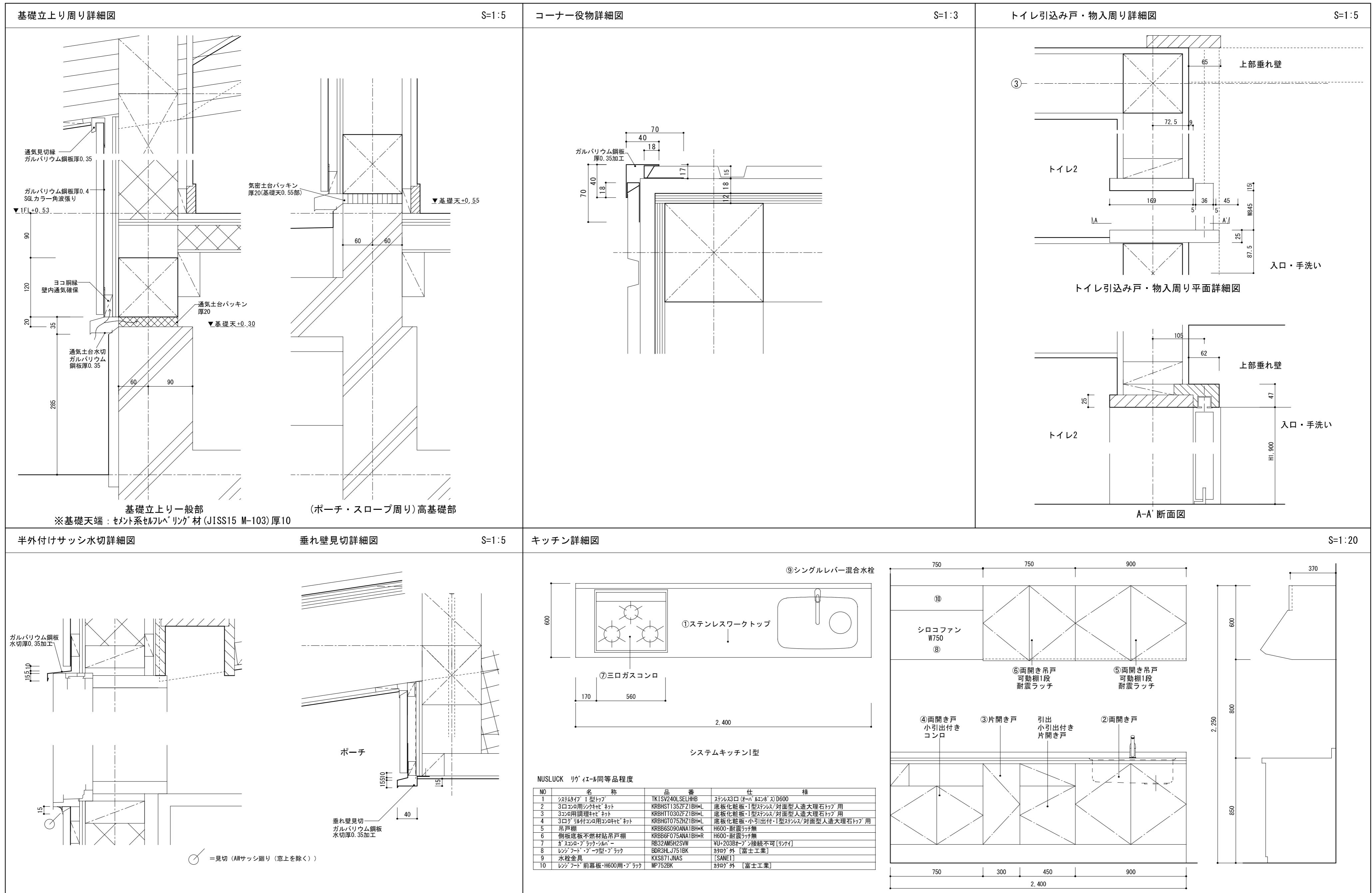
※サッシWH寸法は室内側からの枠内寸法を示す

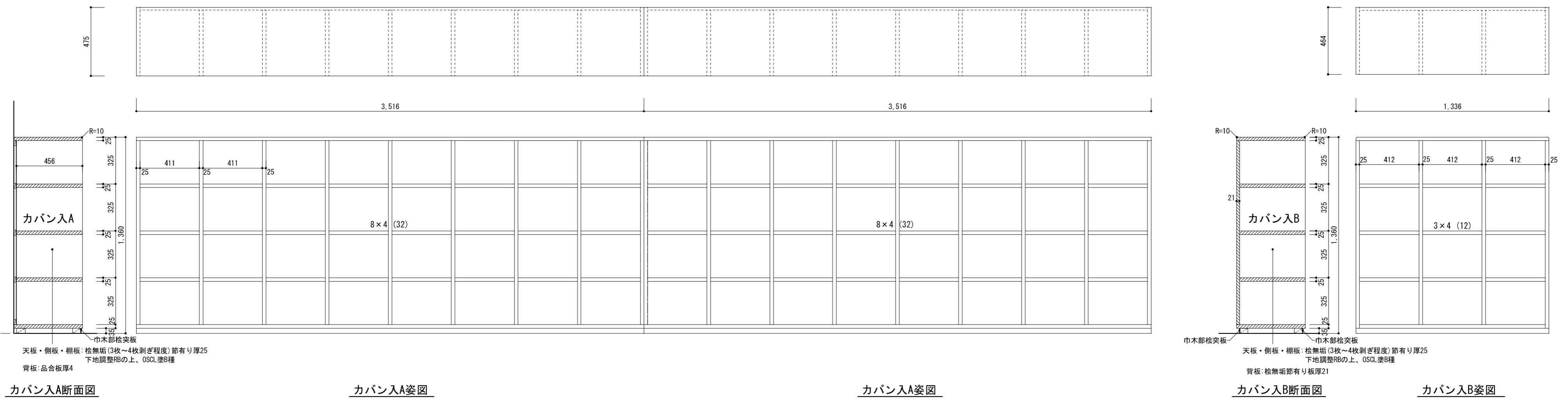
記号/形式/数量	AD1 アルミ引違い戸	1	AD2 アルミ片開き戸	1	AW1 アルミ引違い窓	2	AW2 アルミ引違い窓	1	AW3 アルミ引違い窓	1
形 状	RC枠 三方アルミ額縁 壁アルミパネル厚3 ※注意 内側・外側 大型引き棒 ステンレス下枠 ステンレスドアパネル スリットドアパネル スリットドアバー	H1.900 W2.100 見込70	半外 土間納り 腰アルミパネル厚3 ※注意 内側・外側 大型引き棒 ステンレスカバー	H1.900 W740 見込80	半外	H1.700 W1.650 見込80	半外	H1.700 W1.195 見込80	半外	H1.900 W1.500 見込80
室 名	入口・手洗い	静養スペース	保育スペース	保育スペース	保育スペース	保育スペース	保育スペース	保育スペース	置コーナー	置コーナー
材料/仕上	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
障 子	強化ガラス トメイ厚5 室内側飛散防止フィルム貼	強化ガラス トメイ厚5 室内側飛散防止フィルム貼	強化ガラス トメイ厚4 室内側飛散防止フィルム貼	強化ガラス トメイ厚4 室内側飛散防止フィルム貼	強化ガラス トメイ厚5 室内側飛散防止フィルム貼					
金 物	引戸用シリンドーリング 内側:サムターン 付属金物一式	外側:シリンドーリング 内側:サムターン 内付ドアクローザー 付属金物一式	クレセント、付属金物一式	クレセント、付属金物一式	クレセント、付属金物一式	クレセント、付属金物一式	クレセント、付属金物一式	クレセント、付属金物一式	クレセント、付属金物一式	クレセント、付属金物一式
引手/取手	室内側・室外側:大型ステンレス引き棒 L=300以上27φ	レバーハンドル	—	—	—	—	—	—	—	—
備 考	中棟付、戸先安全ゴム、三方アルミ額縁	中棟付	ステンレス網戸	ステンレス網戸	ステンレス網戸	ステンレス網戸	ステンレス網戸	ステンレス網戸	中棟付、ステンレス網戸	中棟付、ステンレス網戸

記号/形式/数量	AW4 アルミ引違い窓	1	AW5 アルミ滑出し窓	4	AW5' アルミ滑出し窓	3	AW6 アルミ引違い窓	3	AW7 アルミ2段引違い窓	1	AW8 アルミ引違い窓	1	AW9 アルミ滑出し窓	4
形 状	半外 	見込80	半外 	見込80	半外 	見込80	半外 	見込80	半外 	見込80	半外 	見込80	半外 	見込80
室 名	置コーナー	置コーナー	トイレ1、トイレ2、 だれでもトイレ	保育スペース	静養スペース	置コーナー	置コーナー							
材料/仕上	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ	アルミ
障 子	強化ガラス トメイ厚5 室内側飛散防止フィルム貼	強化ガラス トメイ厚4 室内側飛散防止フィルム貼	強化ガラス 型厚4 室内側飛散防止フィルム貼	強化ガラス トメイ厚5 室内側飛散防止フィルム貼	強化ガラス トメイ厚4 室内側飛散防止フィルム貼									
金 物	クレセント、付属金物一式	カムラッチハンドル 付属金物一式	カムラッチハンドル 付属金物一式	クレセント、付属金物一式	電動ユニット、付属金物一式	電動ユニット、付属金物一式								
引手/取手	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備 考	ステンレス網戸	ステンレス開き網戸	ステンレス開き網戸	ステンレス網戸	ステンレス固定網戸	簡易電動リモコン	—							

記号/形式/数量	LWD1 自閉式軽量木製片引き戸	1	WD1 木製片引きフラッシュ戸	2	F1 木製両開きフラッシュ戸天袋付き	1	F2 木製引違いフラッシュ戸	1	—	—
形 状		(スチール枠見込242) 見込36		見込36		見込24		見込30	—	—
室 名	だれでもトイレ	トイレ1、トイレ2	静養スペース	置コーナー	—	—	—	—	—	—
材料/仕上	ペーパーコア MDF下地化粧シート貼 戸先化粧ゴム (指定色)	両面ポリ合板張り	両面ポリ合板張り 小口無垢EP-G塗	両面ポリ合板張り	—	—	—	—	—	—
障 子	強化ガラス 型厚4	強化ガラス 型厚4	—	—	—	—	—	—	—	—
金 物	上吊り自閉式引戸金物一式、引き戸用シリンドーリング 表示錠非常解除付き 内側:大型サムターン	引き戸用レール(上吊り式)2WAYソフトクローズ、ガイド、付属金物一式 掘込み式表示錠非常解除付き 内側:サムターン	ステンレス丁番 マグネットキャッチ	戸車	—	—	—	—	—	—
引手/取手	引き棒L=425ウッドグリップ30φ 抗菌	引き棒L=425ウッドグリップ30φ 抗菌	ステンレスツマミ34φ	ステンレス掘込み引手 フラッターレール	—	—	—	—	—	—
備 考	戸当り	戸当り	—	—	—	—	—	—	—	—

景 設 計 室	誠之放課後児童クラブ新築工事	一級建築士 第312324号 竹内 裕子	建具表	scale S = 1:50 S = 1:150	NO. 原図 : A2
三重県津市河芸町西千里 1510番地 1 Tel:059-269-5074 Mail:ksekkei-shitsu@almond.ocn.ne.jp				date	A-20





力バン入A断面図

カバン入A姿図

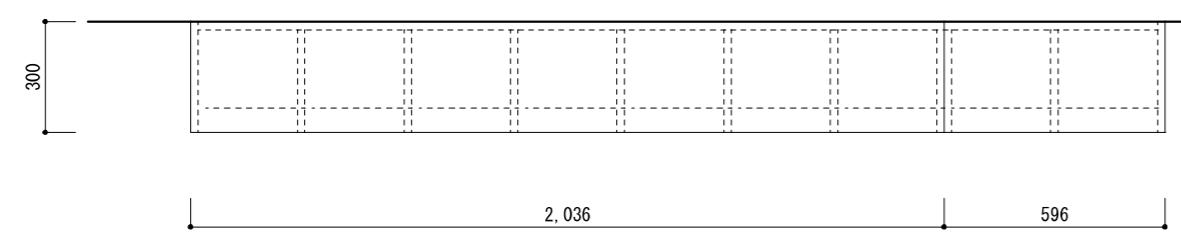
力バン入A姿図

カバン入B断面図

力バン入B姿図

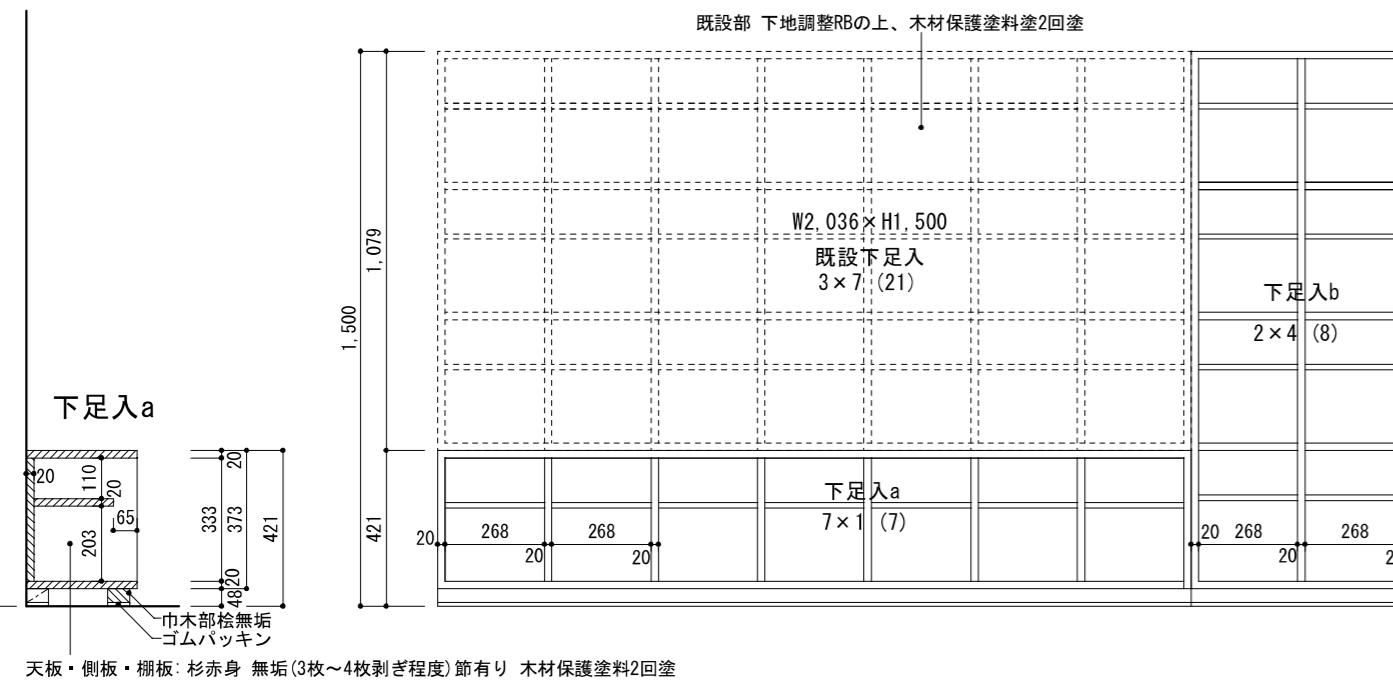
下足入

※既設下足入と新設下足入は連結固定すること。
※家具は上部2力所と床面に固定すること。



西面(建物側)

既設部 下地調整RBの上、木材保護塗料塗2回



下足入a断面図

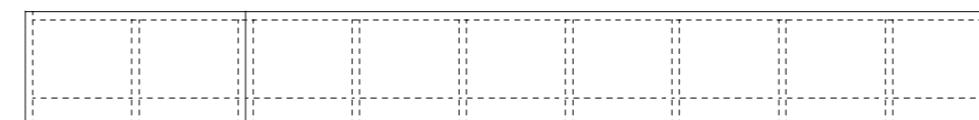
下足入a、b姿図

※寸法・仕様は左記に同じ

下足入a、b姿図

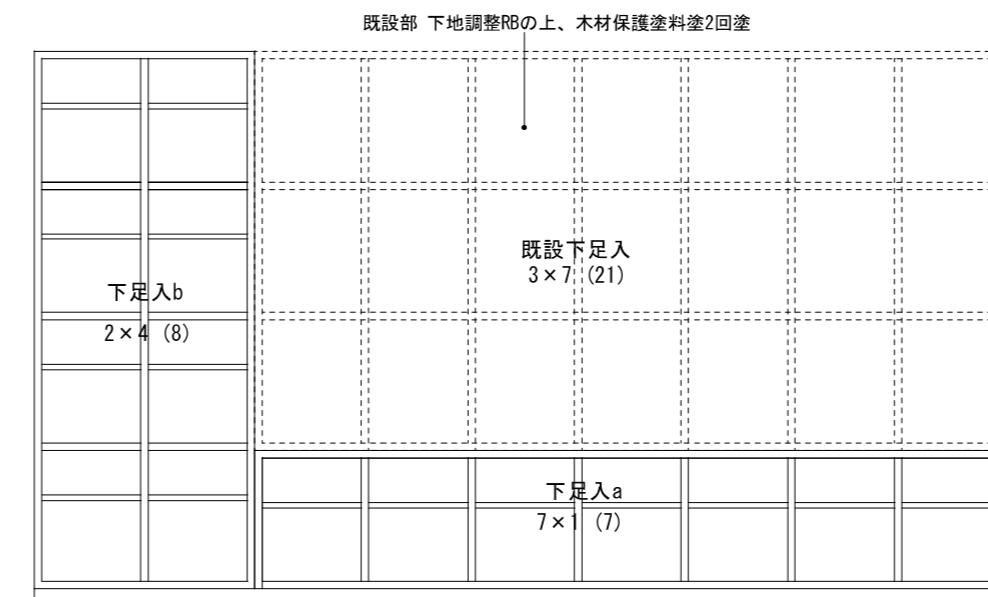
れでもトイレ ピクトサイン

S=1:3



東面(運動場側)

既設部 下地調整RBの上、木材保護塗料塗2回塗



※印刷内容について、施工図により監督員の承認を受け決定すること。
※設置場所においても監督員と協議の上決定すること。

景 設 計 室

三重県津市河芸町西千里 1510番地 1
Tel:059-269-5074 Mail:ksekkei-shitsu@almond.ocn.ne.jp

誠之放課後児童クラブ新築工事

一級建築士 第312324号

部分詳細図2

scale S = 1:30 NO. 原図 : A2

A-22

構造関係共通事項																																																																																																																																																																																																																																							
<p>構-1 総則</p> <p>1. 建物概要等</p> <table border="1"> <tr><td>建物概要</td><td colspan="4">備考</td></tr> <tr><td>工事名称</td><td colspan="4">誠之放課後児童クラブ新築工事</td></tr> <tr><td>工事場所</td><td colspan="4">三重県津市久居西鷹跡町424</td></tr> <tr><td>延べ面積</td><td colspan="4">(151.25) m²</td></tr> <tr><td>建築面積</td><td colspan="4">(171.78) m²</td></tr> <tr><td>階数</td><td>地上 (1) 階</td><td>地下 () 階</td><td>塔屋 () 階</td><td></td></tr> <tr><td>高さ関係</td><td colspan="4">高さ (6.322) m</td></tr> <tr><td>軒高</td><td colspan="4">(3.750) m</td></tr> <tr><td>工事種別</td><td colspan="4"> <input checked="" type="radio"/> 新築 · 増築 · 改築 · 移転 <input type="radio"/> 大規模の修繕 · 大規模の模様替 </td></tr> <tr><td>構造概要</td><td colspan="4">備考</td></tr> <tr> <td>構造種別</td><td>地上 (1) 階 ~ (1) 階 (木) 造</td><td>() 階 ~ () 階 () 造</td><td>地下 () 階 ~ () 階 () 造</td><td></td></tr> <tr> <td>架構形式</td><td>X方向 () 構造</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>耐震構造</td><td colspan="4"> <input checked="" type="radio"/> 耐震構造 · 振動構造 <input type="radio"/> 免振構造 (免振層の位置 · 基礎下免振 · 中間階免振 () 階) </td></tr> <tr> <td>方式</td><td colspan="4"> <input checked="" type="radio"/> 直接基礎 (· 独立 <input checked="" type="radio"/> 連続 · ベタ ·) </td></tr> <tr> <td>基礎方式</td><td colspan="4"> 杭基礎 (· 堤所打ちコンクリート杭 · 既製コンクリート杭) <input type="radio"/> 耐震構造 鋼管杭 · <input type="radio"/> 耐震構造 鋼管杭 · </td></tr> <tr> <td>耐震安全性の分類</td><td colspan="4"> <input checked="" type="radio"/> I類 (1.5) <input checked="" type="radio"/> II類 (1.25) · III類 (1.0) </td></tr> <tr> <td>2. 構造設計条件等</td><td colspan="5"></td></tr> <tr> <td>計算方法</td><td>X方向</td><td>Y方向</td><td>備考</td><td></td></tr> <tr> <td>許容応力度計算 (令第82条各号 + 令第82条の4) 【ルート1】</td><td><input checked="" type="radio"/></td><td><input checked="" type="radio"/></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>許容応力度等計算</td><td colspan="4">【ルート2】</td></tr> <tr> <td>保有水平耐力計算</td><td colspan="4">【ルート3】</td></tr> <tr> <td>限界耐力計算</td><td colspan="4"></td></tr> <tr> <td>その他の計算法 ()</td><td colspan="4"></td></tr> <tr> <td>特別な検証法 (時刻歴応答解析による)</td><td colspan="4"></td></tr> <tr> <td>大震認定 (認定番号)</td><td colspan="4"></td></tr> <tr> <td>指定性能評価機関名 ()</td><td colspan="4"></td></tr> <tr> <td>評価 · 高層評価 · 免振評価 · その他</td><td colspan="4"></td></tr> <tr> <td>(評価番号)</td><td colspan="4"></td></tr> <tr> <td>外力等</td><td colspan="5">備考</td></tr> <tr> <td rowspan="6" style="vertical-align: top;"> 地震力 <table border="1"> <tr><td>設計用一次固有周期</td><td colspan="4">(0.14) 秒</td></tr> <tr><td>地震地盤係数 (Z)</td><td colspan="4">$Z = \textcircled{1.0} \cdot 0.9 \cdot 0.8 \cdot 0.7$</td></tr> <tr><td>地盤の種別</td><td colspan="4">第 (2) 種地盤 $T_{\text{G}} = (0.6)$ 秒</td></tr> <tr><td>標準せん断力係数</td><td>X方向</td><td>Y方向</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>一次設計</td><td>$C_{\text{G}} = (0.25)$</td><td>$C_{\text{G}} = (0.25)$</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>二次設計</td><td>$C_{\text{G}} = ()$</td><td>$C_{\text{G}} = ()$</td><td></td><td></td></tr> </table> </td><td colspan="5" rowspan="6" style="vertical-align: top;"> X方向、Y方向の適用する 計算法に○を記載する </td></tr> <tr> <td>風圧力 (施行令 第81条)</td><td colspan="4">地表面粗度区分 基準風速 (V_o) 速度圧 (q)</td></tr> <tr> <td>風圧力 (施行令 第82条の4)</td><td colspan="4"> 地表面粗度区分 基準風速 (V_o) 平均速度圧 (q) I · II · III · IV (34) m/s 331 </td></tr> <tr> <td rowspan="3" style="vertical-align: top;"> 積載荷重 <table border="1"> <tr><td>区域</td><td colspan="4">・多雪区域 <input checked="" type="radio"/> 多雪区域以外</td></tr> <tr><td>設計垂直積雪量</td><td colspan="4">(30) cm</td></tr> <tr><td>単位荷重</td><td colspan="4">(200) N/m²/cm</td></tr> <tr><td>垂直積雪量の低減</td><td colspan="4">・低減する <input checked="" type="radio"/> 低減しない</td></tr> </table> </td><td colspan="5"></td></tr> <tr> <td></td><td colspan="5"></td></tr> <tr> <td></td><td colspan="5"></td></tr> </table>	建物概要	備考				工事名称	誠之放課後児童クラブ新築工事				工事場所	三重県津市久居西鷹跡町424				延べ面積	(151.25) m ²				建築面積	(171.78) m ²				階数	地上 (1) 階	地下 () 階	塔屋 () 階		高さ関係	高さ (6.322) m				軒高	(3.750) m				工事種別	<input checked="" type="radio"/> 新築 · 増築 · 改築 · 移転 <input type="radio"/> 大規模の修繕 · 大規模の模様替				構造概要	備考				構造種別	地上 (1) 階 ~ (1) 階 (木) 造	() 階 ~ () 階 () 造	地下 () 階 ~ () 階 () 造		架構形式	X方向 () 構造				耐震構造	<input checked="" type="radio"/> 耐震構造 · 振動構造 <input type="radio"/> 免振構造 (免振層の位置 · 基礎下免振 · 中間階免振 () 階)				方式	<input checked="" type="radio"/> 直接基礎 (· 独立 <input checked="" type="radio"/> 連続 · ベタ ·)				基礎方式	杭基礎 (· 堤所打ちコンクリート杭 · 既製コンクリート杭) <input type="radio"/> 耐震構造 鋼管杭 · <input type="radio"/> 耐震構造 鋼管杭 ·				耐震安全性の分類	<input checked="" type="radio"/> I類 (1.5) <input checked="" type="radio"/> II類 (1.25) · III類 (1.0)				2. 構造設計条件等						計算方法	X方向	Y方向	備考		許容応力度計算 (令第82条各号 + 令第82条の4) 【ルート1】	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>			許容応力度等計算	【ルート2】				保有水平耐力計算	【ルート3】				限界耐力計算					その他の計算法 ()					特別な検証法 (時刻歴応答解析による)					大震認定 (認定番号)					指定性能評価機関名 ()					評価 · 高層評価 · 免振評価 · その他					(評価番号)					外力等	備考					地震力 <table border="1"> <tr><td>設計用一次固有周期</td><td colspan="4">(0.14) 秒</td></tr> <tr><td>地震地盤係数 (Z)</td><td colspan="4">$Z = \textcircled{1.0} \cdot 0.9 \cdot 0.8 \cdot 0.7$</td></tr> <tr><td>地盤の種別</td><td colspan="4">第 (2) 種地盤 $T_{\text{G}} = (0.6)$ 秒</td></tr> <tr><td>標準せん断力係数</td><td>X方向</td><td>Y方向</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>一次設計</td><td>$C_{\text{G}} = (0.25)$</td><td>$C_{\text{G}} = (0.25)$</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>二次設計</td><td>$C_{\text{G}} = ()$</td><td>$C_{\text{G}} = ()$</td><td></td><td></td></tr> </table>	設計用一次固有周期	(0.14) 秒				地震地盤係数 (Z)	$Z = \textcircled{1.0} \cdot 0.9 \cdot 0.8 \cdot 0.7$				地盤の種別	第 (2) 種地盤 $T_{\text{G}} = (0.6)$ 秒				標準せん断力係数	X方向	Y方向			一次設計	$C_{\text{G}} = (0.25)$	$C_{\text{G}} = (0.25)$			二次設計	$C_{\text{G}} = ()$	$C_{\text{G}} = ()$			X方向、Y方向の適用する 計算法に○を記載する					風圧力 (施行令 第81条)	地表面粗度区分 基準風速 (V _o) 速度圧 (q)				風圧力 (施行令 第82条の4)	地表面粗度区分 基準風速 (V _o) 平均速度圧 (q) I · II · III · IV (34) m/s 331				積載荷重 <table border="1"> <tr><td>区域</td><td colspan="4">・多雪区域 <input checked="" type="radio"/> 多雪区域以外</td></tr> <tr><td>設計垂直積雪量</td><td colspan="4">(30) cm</td></tr> <tr><td>単位荷重</td><td colspan="4">(200) N/m²/cm</td></tr> <tr><td>垂直積雪量の低減</td><td colspan="4">・低減する <input checked="" type="radio"/> 低減しない</td></tr> </table>	区域	・多雪区域 <input checked="" type="radio"/> 多雪区域以外				設計垂直積雪量	(30) cm				単位荷重	(200) N/m ² /cm				垂直積雪量の低減	・低減する <input checked="" type="radio"/> 低減しない																				
	建物概要	備考																																																																																																																																																																																																																																					
	工事名称	誠之放課後児童クラブ新築工事																																																																																																																																																																																																																																					
	工事場所	三重県津市久居西鷹跡町424																																																																																																																																																																																																																																					
	延べ面積	(151.25) m ²																																																																																																																																																																																																																																					
	建築面積	(171.78) m ²																																																																																																																																																																																																																																					
	階数	地上 (1) 階	地下 () 階	塔屋 () 階																																																																																																																																																																																																																																			
	高さ関係	高さ (6.322) m																																																																																																																																																																																																																																					
	軒高	(3.750) m																																																																																																																																																																																																																																					
	工事種別	<input checked="" type="radio"/> 新築 · 増築 · 改築 · 移転 <input type="radio"/> 大規模の修繕 · 大規模の模様替																																																																																																																																																																																																																																					
構造概要	備考																																																																																																																																																																																																																																						
構造種別	地上 (1) 階 ~ (1) 階 (木) 造	() 階 ~ () 階 () 造	地下 () 階 ~ () 階 () 造																																																																																																																																																																																																																																				
架構形式	X方向 () 構造																																																																																																																																																																																																																																						
耐震構造	<input checked="" type="radio"/> 耐震構造 · 振動構造 <input type="radio"/> 免振構造 (免振層の位置 · 基礎下免振 · 中間階免振 () 階)																																																																																																																																																																																																																																						
方式	<input checked="" type="radio"/> 直接基礎 (· 独立 <input checked="" type="radio"/> 連続 · ベタ ·)																																																																																																																																																																																																																																						
基礎方式	杭基礎 (· 堤所打ちコンクリート杭 · 既製コンクリート杭) <input type="radio"/> 耐震構造 鋼管杭 · <input type="radio"/> 耐震構造 鋼管杭 ·																																																																																																																																																																																																																																						
耐震安全性の分類	<input checked="" type="radio"/> I類 (1.5) <input checked="" type="radio"/> II類 (1.25) · III類 (1.0)																																																																																																																																																																																																																																						
2. 構造設計条件等																																																																																																																																																																																																																																							
計算方法	X方向	Y方向	備考																																																																																																																																																																																																																																				
許容応力度計算 (令第82条各号 + 令第82条の4) 【ルート1】	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																																																																																																																																																																																																																																					
許容応力度等計算	【ルート2】																																																																																																																																																																																																																																						
保有水平耐力計算	【ルート3】																																																																																																																																																																																																																																						
限界耐力計算																																																																																																																																																																																																																																							
その他の計算法 ()																																																																																																																																																																																																																																							
特別な検証法 (時刻歴応答解析による)																																																																																																																																																																																																																																							
大震認定 (認定番号)																																																																																																																																																																																																																																							
指定性能評価機関名 ()																																																																																																																																																																																																																																							
評価 · 高層評価 · 免振評価 · その他																																																																																																																																																																																																																																							
(評価番号)																																																																																																																																																																																																																																							
外力等	備考																																																																																																																																																																																																																																						
地震力 <table border="1"> <tr><td>設計用一次固有周期</td><td colspan="4">(0.14) 秒</td></tr> <tr><td>地震地盤係数 (Z)</td><td colspan="4">$Z = \textcircled{1.0} \cdot 0.9 \cdot 0.8 \cdot 0.7$</td></tr> <tr><td>地盤の種別</td><td colspan="4">第 (2) 種地盤 $T_{\text{G}} = (0.6)$ 秒</td></tr> <tr><td>標準せん断力係数</td><td>X方向</td><td>Y方向</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>一次設計</td><td>$C_{\text{G}} = (0.25)$</td><td>$C_{\text{G}} = (0.25)$</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>二次設計</td><td>$C_{\text{G}} = ()$</td><td>$C_{\text{G}} = ()$</td><td></td><td></td></tr> </table>	設計用一次固有周期	(0.14) 秒				地震地盤係数 (Z)	$Z = \textcircled{1.0} \cdot 0.9 \cdot 0.8 \cdot 0.7$				地盤の種別	第 (2) 種地盤 $T_{\text{G}} = (0.6)$ 秒				標準せん断力係数	X方向	Y方向			一次設計	$C_{\text{G}} = (0.25)$	$C_{\text{G}} = (0.25)$			二次設計	$C_{\text{G}} = ()$	$C_{\text{G}} = ()$			X方向、Y方向の適用する 計算法に○を記載する																																																																																																																																																																																																								
	設計用一次固有周期	(0.14) 秒																																																																																																																																																																																																																																					
	地震地盤係数 (Z)	$Z = \textcircled{1.0} \cdot 0.9 \cdot 0.8 \cdot 0.7$																																																																																																																																																																																																																																					
	地盤の種別	第 (2) 種地盤 $T_{\text{G}} = (0.6)$ 秒																																																																																																																																																																																																																																					
	標準せん断力係数	X方向	Y方向																																																																																																																																																																																																																																				
	一次設計	$C_{\text{G}} = (0.25)$	$C_{\text{G}} = (0.25)$																																																																																																																																																																																																																																				
二次設計	$C_{\text{G}} = ()$	$C_{\text{G}} = ()$																																																																																																																																																																																																																																					
風圧力 (施行令 第81条)	地表面粗度区分 基準風速 (V _o) 速度圧 (q)																																																																																																																																																																																																																																						
風圧力 (施行令 第82条の4)	地表面粗度区分 基準風速 (V _o) 平均速度圧 (q) I · II · III · IV (34) m/s 331																																																																																																																																																																																																																																						
積載荷重 <table border="1"> <tr><td>区域</td><td colspan="4">・多雪区域 <input checked="" type="radio"/> 多雪区域以外</td></tr> <tr><td>設計垂直積雪量</td><td colspan="4">(30) cm</td></tr> <tr><td>単位荷重</td><td colspan="4">(200) N/m²/cm</td></tr> <tr><td>垂直積雪量の低減</td><td colspan="4">・低減する <input checked="" type="radio"/> 低減しない</td></tr> </table>	区域	・多雪区域 <input checked="" type="radio"/> 多雪区域以外				設計垂直積雪量	(30) cm				単位荷重	(200) N/m ² /cm				垂直積雪量の低減	・低減する <input checked="" type="radio"/> 低減しない																																																																																																																																																																																																																						
	区域	・多雪区域 <input checked="" type="radio"/> 多雪区域以外																																																																																																																																																																																																																																					
	設計垂直積雪量	(30) cm																																																																																																																																																																																																																																					
単位荷重	(200) N/m ² /cm																																																																																																																																																																																																																																						
垂直積雪量の低減	・低減する <input checked="" type="radio"/> 低減しない																																																																																																																																																																																																																																						

項目		特記事項		項目		特記事項																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
<p>構-1 総則</p> <p>3. 地盤調査資料</p> <p>調査報告書 ・当該敷地の既往調査報告書のみによる <input checked="" type="radio"/> 当該敷地の既往調査報告書及び今回工事に含まれる地盤調査報告書による (※工事着手前に当該敷地内で平板載荷試験を行い、地耐力30kN/m²程度を確認すること) 調査内容 (既往調査内容含む)</p> <p>・サウンディング ○ボーリング調査 ※標準貫入試験 ・スウェーデン式サウンディング試験 ・オランダ式二重管コーン貫入試験 ·</p> <p>・土質試験 ・物理的性能試験 (・土粒子密度試験 · 含水比試験 · 粒度試験 · 液性限界、塑性限界試験 · 細粒分含有率試験 · 湿潤密度試験 ·)</p> <p>・力学的性能試験 (・一輪圧縮試験 · 壓密試験 · 直接せん断試験 · 三輪圧縮試験 · 振動三輪試験 · 中空ねじりせん断試験 ·)</p> <p>・現場浸水試験 ·孔内水平載可試験 ·弾性波速度検査 ·常時微動測定 ·平板載荷試験</p>	<p>4. 使用構造材料</p> <p>(1) コンクリート レディミクストコンクリート JIS A 5308 セメント JIS R 5210 普通ポルトランドセメント 水 JIS A 5308 骨材 JIS A 5005 混和剤 JIS A 6204</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">適用箇所</th> <th colspan="2">種類</th> <th colspan="2">設計基準強度 N/mm²</th> <th rowspan="2">スランプ cm</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>普通</th> <th>軽量</th> <th>18</th> <th>21</th> <th>24</th> <th>27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎・基礎梁</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td></td> <td></td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td></td> <td>18 耐久設計基準強度 F_a=24N/mm</td> </tr> <tr> <td>土間コンクリート</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td></td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td></td> <td></td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>捨てコンクリート</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td></td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td></td> <td></td> <td>15</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>寒中・暑中コンクリートの実施適用は気象条件及び立地条件、その他を考慮する事。 高性能A-E減水剤の使用 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="radio"/> 無</p> <p>(2) 鉄筋</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">径</th> <th colspan="3">材質</th> <th colspan="2">継手</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>SD295A</th> <th>SD345</th> <th>SD390</th> <th>圧接</th> <th>重ね</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D 10 ~ D 16</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td></td> </tr> <tr> <td>D 19 ~ D 22</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>係員の承認により重ね継手可</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		適用箇所	種類		設計基準強度 N/mm ²		スランプ cm	備考	普通	軽量	18	21	24	27	基礎・基礎梁	<input checked="" type="radio"/>			<input checked="" type="radio"/>		18 耐久設計基準強度 F _a =24N/mm	土間コンクリート	<input checked="" type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>			15	捨てコンクリート	<input checked="" type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>			15																																				径	材質			継手		備考	SD295A	SD345	SD390	圧接	重ね	D 10 ~ D 16	<input checked="" type="radio"/>				<input checked="" type="radio"/>		D 19 ~ D 22						係員の承認により重ね継手可																													<p>5. 地盤工事</p> <p>(1) 基礎</p> <p>直接基礎</p> <p>註: 実施にあたり地耐力、くい耐力が設計地耐力、くい耐力と相違する場合は基礎構造の設計変更をする場合がある。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">適用箇所</th> <th colspan="2">基礎形式</th> <th rowspan="2">基礎深さ (G, L - m)</th> <th rowspan="2">設計地耐力 (長期, KN/m²)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>独立</th> <th>布</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎</td> <td><input checked="" type="radio"/></td> <td></td> <td>0.5</td> <td>30</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注) 支持層レベルに傾斜があるため地盤改良の施工に先立ち試掘を行うこと。 ※1) 改良長が1.0m程度未満となる場合は監理者の承認の上、ラップルコンクリート地業とする。 ※2) 基礎底からの支持層レベルが1.0m程度以上となる場合は監理者の承認の上、柱状地盤改良とすることも可とする。</p> <p>ぐい地業 <input type="checkbox"/> 杭の施工計画書の提出 <input type="checkbox"/> 杭の施工結果報告書の提出 場所打コンクリートぐい</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">径 (mm)</th> <th rowspan="2">先端深さ (G, L - m)</th> <th colspan="2">設計くい耐力 (長期, t / 本)</th> <th rowspan="2">本数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>砂</th> <th>砂利</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アースドリル</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NKTB</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>NKTB + ACE</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>砂、砂利、割ぐり、捨コンクリート地業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">適用箇所</th> <th colspan="3">厚さ (mm)</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>砂</th> <th>砂利</th> <th>割ぐり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>基礎梁</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>30</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>6. 主な試験、検査 (下記の結果は、後日工事監理者に報告する事。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">採用</th> <th colspan="2">項目</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>地</th> <th>業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地盤載荷試験</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>くいの載荷試験 (鉛直)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>試掘</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート</td> <td>ためし練り試験</td> <td></td> <td>レミコンの標準品は行ない</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="radio"/> 圧縮強度試験</td> <td></td> <td></td> <td>供試体による</td> </tr> <tr> <td><input checked="" type="radio"/> 打込み直前における品質検査 (スランプ、空気量、温度、単位容積重量、強度推定のための圧縮強度)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋</td> <td>材料試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ガス圧接工技量確認試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ガス圧接部引張試験</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ガス圧接部超音波探傷検査</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		適用箇所	基礎形式		基礎深さ (G, L - m)	設計地耐力 (長期, KN/m ²)	備考	独立	布	基礎	<input checked="" type="radio"/>		0.5	30																																												工法	径 (mm)	先端深さ (G, L - m)	設計くい耐力 (長期, t / 本)		本数	備考	砂	砂利	アースドリル							NKTB							NKTB + ACE																																			適用箇所	厚さ (mm)			備考	砂	砂利	割ぐり	基礎				30	基礎梁				30																					採用	項目		備考	地	業	地盤載荷試験				くいの載荷試験 (鉛直)				試掘				コンクリート	ためし練り試験		レミコンの標準品は行ない	<input checked="" type="radio"/> 圧縮強度試験			供試体による	<input checked="" type="radio"/> 打込み直前における品質検査 (スランプ、空気量、温度、単位容積重量、強度推定のための圧縮強度)				鉄筋	材料試験				ガス圧接工技量確認試験				ガス圧接部引張試験				ガス圧接部超音波探傷検査		
				適用箇所	種類		設計基準強度 N/mm ²			スランプ cm	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
			普通		軽量	18	21	24	27																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
			基礎・基礎梁	<input checked="" type="radio"/>			<input checked="" type="radio"/>		18 耐久設計基準強度 F _a =24N/mm																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
			土間コンクリート	<input checked="" type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>			15																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
			捨てコンクリート	<input checked="" type="radio"/>		<input checked="" type="radio"/>			15																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
径	材質			継手		備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	SD295A	SD345	SD390	圧接	重ね																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
D 10 ~ D 16	<input checked="" type="radio"/>				<input checked="" type="radio"/>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
D 19 ~ D 22						係員の承認により重ね継手可																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
適用箇所	基礎形式		基礎深さ (G, L - m)	設計地耐力 (長期, KN/m ²)	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	独立	布																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
基礎	<input checked="" type="radio"/>		0.5	30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
工法	径 (mm)	先端深さ (G, L - m)	設計くい耐力 (長期, t / 本)		本数	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
			砂	砂利																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
アースドリル																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
NKTB																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
NKTB + ACE																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
適用箇所	厚さ (mm)			備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
	砂	砂利	割ぐり																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
基礎				30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
基礎梁				30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
採用	項目		備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
	地	業																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
地盤載荷試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
くいの載荷試験 (鉛直)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
試掘																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
コンクリート	ためし練り試験		レミコンの標準品は行ない																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
<input checked="" type="radio"/> 圧縮強度試験			供試体による																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
<input checked="" type="radio"/> 打込み直前における品質検査 (スランプ、空気量、温度、単位容積重量、強度推定のための圧縮強度)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
鉄筋	材料試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	ガス圧接工技量確認試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	ガス圧接部引張試験																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	ガス圧接部超音波探傷検査																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				

構造関係共通事項 (配筋標準図)

1. 鉄筋の加工

鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

		表1.1 鉄筋の折曲げ内法直径		
折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		
		SD295A SD295B, SD345	SD390	D16以下 D19~D38 D19~D38
180°		3d以上	4d以上	5d以上
135°				
90°				
135°及び90°(幅止め筋)				

(注) 1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フックまたは135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は特記による。

2. 異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

(1) 柱及び梁（基礎梁を除く）の出隅部

柱 壁 梁 出隅部 床版

ただし、最上階の柱頭の四隅はフックを付ける。

（2）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

（3）杭基礎のベース筋

（4）帶筋、あばら筋及び幅止め筋

3. 1 継手及び定着

(a) 鉄筋の重ね継手

(1) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
(2) 鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ	
		L_1 (フックなし)	L_{1h} (フックあり)	L_{2h}	L_{2h}
SD295A SD295B	18	45d	35d	35d	30d
	21	40d	35d	30d	25d
	24, 27	35d	30d	25d	20d
	30, 33, 36	35d	25d	25d	20d
SD345	18	50d	35d	35d	30d
	21	45d	30d	30d	25d
	24, 27	40d	30d	30d	25d
	30, 33, 36	35d	25d	30d	20d
SD390	21	50d	35d	35d	30d
	24, 27	45d	35d	35d	30d
	30, 33, 36	40d	30d	30d	25d

（注）1. L_1 , L_{1h} : フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合の L_{1h} は、図3.1に示すようにフック部分 t を含まない。
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

（2）梁主筋の柱内折曲げ定着又は小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は、図3.3により、次の(i), (ii) 及び (iii) をすべて満足するものとする。
(i) 全長は表3.3に示す直線定着の長さ以上
(ii) 余長は8d以上
(iii) 仕口面から鉄筋外までの投影定着長さは表3.4に示す長さとする。ただし、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上とする。

图3.2 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

（3）鉄筋の重ね継手の長さとは、フックありなしにかかわらず40d以上（軽量骨材を使用する場合は50d以上）と表3.1の重ね継手の長さのうち大きい値とする。

（4）隣り合う継手の位置は、表3.2による。
ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。

		表3.2 隣り合う継手の位置			
重ね継手	フックありの場合	L_{1h}		L_{2h}	
		$a = 0.5 L_{1h}$	$a = 0.5 L_{1h}$	L_{1h}	L_{2h}
溶接継手	フックなしの場合	$a = 0.5 L_1$	$a = 0.5 L_1$	L_1	L_1
	機械式継手	圧接継手・溶接継手	$a \geq 400mm$	$a \geq 400mm$	$a \geq 400mm$

（注）1. L_1 : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定長さ。（基礎梁、片持ち梁及び片持スラブを含む。）
2. L_2 : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。（片持ち小梁及び片持スラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

（5）溶接金網の継手及び定着は、図3.4による。
なお、 L_1 は表3.1に、 L_2 及び L_3 は表3.3による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 F_c (N/mm ²)	直線定着の長さ		フックあり定着の長さ	
		L_1	L_2	L_{1h}	L_{2h}
SD295A SD295B	18	45d	40d	35d	30d
	21	40d	35d	30d	25d
	24, 27	35d	30d	25d	20d
	30, 33, 36	35d	30d	25d	20d
SD345	18	50d	40d	35d	30d
	21	45d	35d	30d	25d
	24, 27	40d	35d	30d	25d
	30, 33, 36	35d	30d	35d	30d
SD390	21	50d	40d	35d	30d
	24, 27	45d	40d	35d	30d
	30, 33, 36	40d	35d	30d	25d

（注）1. L_1 , L_{1h} : 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
2. L_2 , L_{2h} : 割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
3. L_3 : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。（基礎耐压スラブ及びこれを受ける小梁は除く）
なお、片持小梁及び片持スラブの場合、20d及び10dを25d以上とする。
4. L_{3h} : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
5. フックあり定着の場合は、図3.2に示すようにフック部分 t を含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
6. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

（6）スパイラル筋の継手及び定着は、図3.5による。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種別	最小かぶり厚さ
スラブ、耐力壁以外の壁	20
柱、梁、耐力壁	30
	土に接する部分
屋外	30
擁壁、耐圧スラブ	40
土に接する部分	40
基礎、擁壁、耐圧スラブ	60
煙突等高熱を受ける部分	60

（注）1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
2. 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上げ塗材、塗装等）のものを除く。
3. スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
4. 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
5. 塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

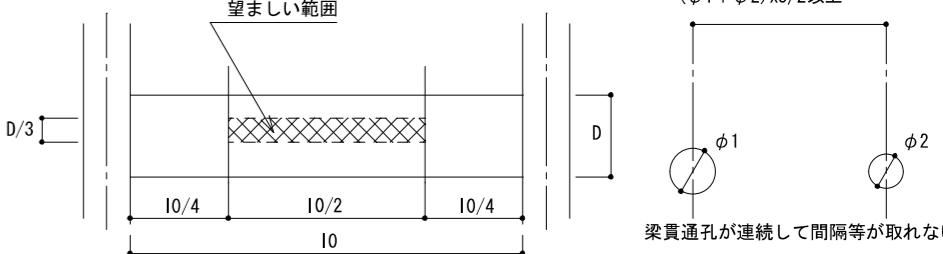
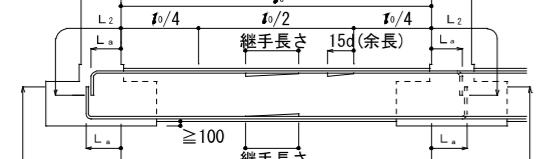
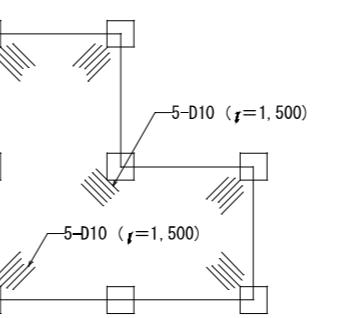
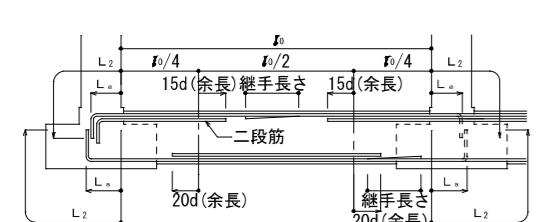
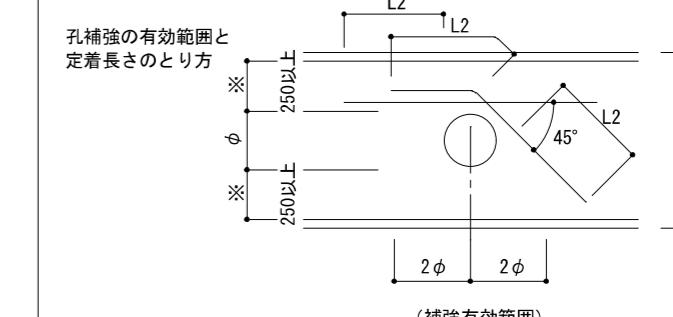
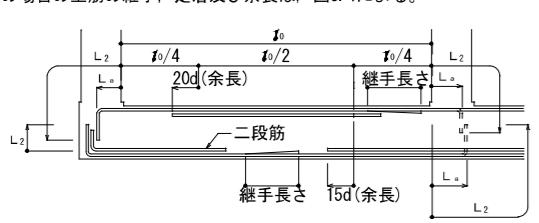
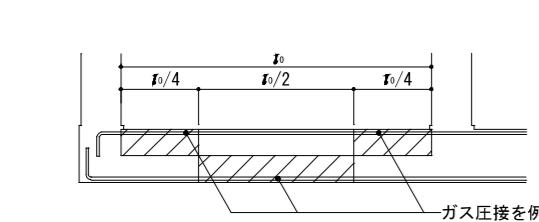
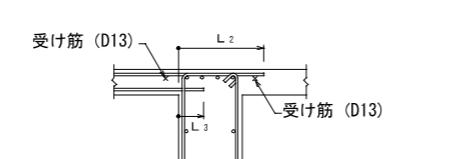
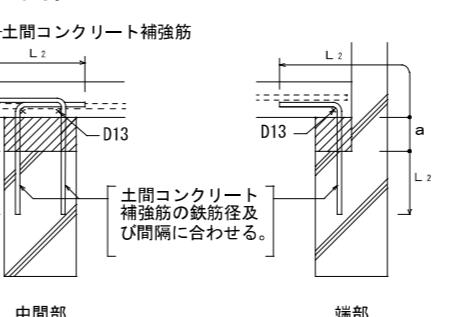
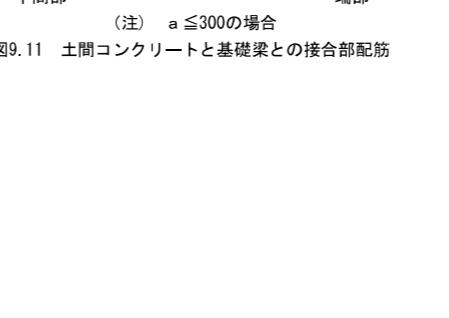
（7）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。

（8）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。

（9）鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。
(1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
(2) 2.5mm
(3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）1.5倍

（10）鉄骨筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは(d)による。

（11）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは(c)による。

5.1 基礎梁	5.2 基礎梁のあら筋	6.2 スラブ等の補強	6.3 梁貫通孔補強			
(a) 一般事項 (1) 梁筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。 (2) 鉄筋を柱内に定着する場合は、7.1(b) (4)による。	(a) 一般事項 (1) あら筋は、連続端で柱に接する梁筋が同数の時は柱をまたいで引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合は図5.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部等では折り曲げて定着する。 (2) あら筋組立の形及びフックの位置は、7.2(b)による。 ただし、梁の上下端にスラブが付く場合で、かつ、梁せいが1.5m以上の場合、図5.5によることができる。	(a) スラブ開口部の補強 スラブ開口部の補強は、特記による。 (i) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合は、図9.8により、開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ($\phi=2L_1$) シングルを下筋の内側に配筋する。	(1) 設置可能範囲 梁端部(スパン1/10以内かつD以内)は避ける  (2) 鉄筋標準配筋 但し、 $\phi \leq D/3$ とする <table border="1"><tr><td>$80 \leq \phi \leq 100$ 折筋 2-(2-D13)</td><td>$100 < \phi \leq 150$ 縦筋 ST2-D13@100 横筋 2-(2-D13)</td><td>$150 < \phi \leq 250$ 斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST2-D13@100 横筋 2-(2-D13) 上・下筋 ST2-D13</td></tr></table>	$80 \leq \phi \leq 100$ 折筋 2-(2-D13)	$100 < \phi \leq 150$ 縦筋 ST2-D13@100 横筋 2-(2-D13)	$150 < \phi \leq 250$ 斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST2-D13@100 横筋 2-(2-D13) 上・下筋 ST2-D13
$80 \leq \phi \leq 100$ 折筋 2-(2-D13)	$100 < \phi \leq 150$ 縦筋 ST2-D13@100 横筋 2-(2-D13)	$150 < \phi \leq 250$ 斜筋 4-(2-D13) 縦筋 ST2-D13@100 横筋 2-(2-D13) 上・下筋 ST2-D13				
(b) 独立基礎で基礎梁にスラブが付かない場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.2による。  (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(b) 継手及び幅止め筋は、7.2による。 ただし、梁せいが1.5m以上の場合は特記による。 (c) あら筋の割付けは、7.2(c)による。	(b) 斜筋及び幅止め筋は、7.2による。 ただし、梁せいが1.5m以上の場合は特記による。 (c) あら筋の割付けは、7.2(c)による。	(2) 土間スラブの出隅及び入隅部分には、図9.9により、補強筋を上筋筋の下側に配筋する。  (3) 土間スラブの打継ぎ補強 基礎梁とスラブを一体打ちしないで、打継ぎを設ける場合の補強は、図9.10による。 ただし、土間スラブとは、土に接するスラブでS形の配筋によるものを使う。			
(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。  (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(注) a ≤ 300の場合 			
(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。  (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図5.4による。  (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(d) 定着長さ及び受け筋は、図9.2による。 ただし、引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。  (注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(3) 既製品 (使用する場合は、設計者又は工事管理者と打合せのこと) (既製品の適用範囲を準拠し、承認を得ること)			
(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(d) 土間コンクリート補強 土間コンクリートの補強筋は、特記による。 なお、基礎梁との接合部は図9.11による。  (注) a ≤ 300の場合 	(注) リング型 <input type="checkbox"/> パイプ型 <input type="checkbox"/> 金網型 <input type="checkbox"/> プレート型			
(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(注) 1. 図示のない事項は、7.1による。 2. 印は、継手及び余長位置を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4倍以上)	(注) 原図 : A2 A-25			

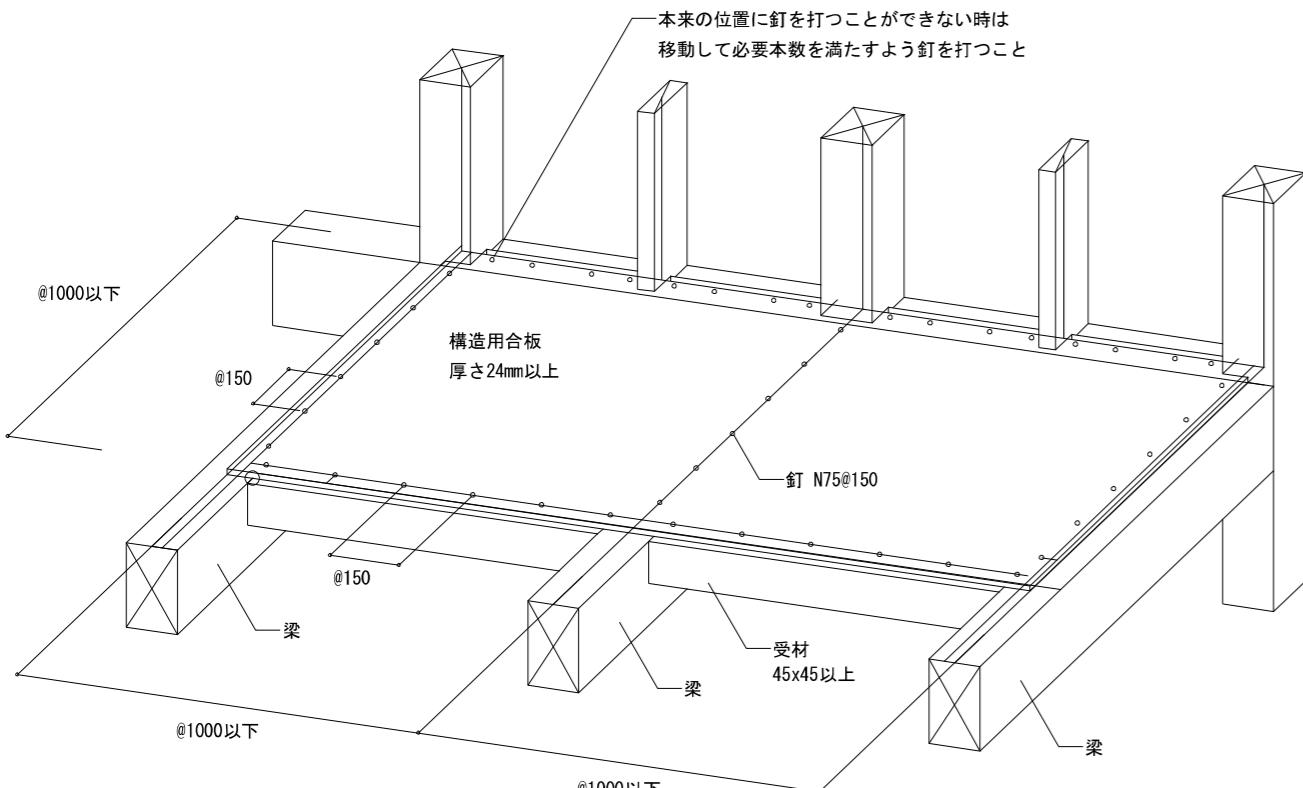
木質工事特記仕様書

1 共通事項		2.4 接合具 a. 接合金物		3.5 集成材部材の寸法精度 製品の寸法精度は下記による。		4 製品検査 一般事項																											
1.1 通用範囲		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>規格</th><th>種類</th><th>摘要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="radio"/> JIS G 3101</td><td>一般構造用圧延鋼材</td><td>SS400</td><td>鋼板、鋼帯、平鋼、棒鋼など</td></tr> <tr> <td>JIS G 3444</td><td>一般構造用炭素鋼管</td><td>STK400</td><td>钢管など</td></tr> <tr> <td>JIS G 3466</td><td>一般構造用角形鋼管</td><td>STKR400</td><td>角形钢管など</td></tr> <tr> <td><input type="radio"/> JIS A 5531</td><td>木構造用金物</td><td></td><td>羽子板枠、ナット、座金、短ざく金物など</td></tr> </tbody> </table>			規格	種類	摘要	<input type="radio"/> JIS G 3101	一般構造用圧延鋼材	SS400	鋼板、鋼帯、平鋼、棒鋼など	JIS G 3444	一般構造用炭素鋼管	STK400	钢管など	JIS G 3466	一般構造用角形鋼管	STKR400	角形钢管など	<input type="radio"/> JIS A 5531	木構造用金物		羽子板枠、ナット、座金、短ざく金物など	<table border="1"> <thead> <tr> <th>a. 短辺</th><th>大断面</th><th>製作寸法のP1.5mm以内</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>中断面及び小断面</td><td>製作寸法の+1.5mm、-0.5mm以内</td></tr> </tbody> </table>		a. 短辺	大断面	製作寸法のP1.5mm以内		中断面及び小断面	製作寸法の+1.5mm、-0.5mm以内	a. 製品は、工場製作完了後部材の社内検査を行い、検査結果報告書を監理者に提出すること。 b. 製品寸法を測定し、所定の寸法精度であることを確認する。 c. 検査は、所定の項目について全数検査とする。 d. 検査の結果発見された不良箇所は速やかに補正を行う。ただし、重大な不良箇所の処置については協議する。	
	規格	種類	摘要																														
<input type="radio"/> JIS G 3101	一般構造用圧延鋼材	SS400	鋼板、鋼帯、平鋼、棒鋼など																														
JIS G 3444	一般構造用炭素鋼管	STK400	钢管など																														
JIS G 3466	一般構造用角形鋼管	STKR400	角形钢管など																														
<input type="radio"/> JIS A 5531	木構造用金物		羽子板枠、ナット、座金、短ざく金物など																														
a. 短辺	大断面	製作寸法のP1.5mm以内																															
	中断面及び小断面	製作寸法の+1.5mm、-0.5mm以内																															
1.2 一般事項		<table border="1"> <thead> <tr> <th>b. ポルトおよびナットの規格は以下のもとのする。</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ JIS B 1180 (六角ボルト)</td><td></td></tr> <tr> <td>・ JIS B 1181 (六角ナット)</td><td></td></tr> </tbody> </table>		b. ポルトおよびナットの規格は以下のもとのする。		・ JIS B 1180 (六角ボルト)		・ JIS B 1181 (六角ナット)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>b. 長辺</th><th>大断面</th><th>製作寸法のP1.5%以内</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>1,200mm以下のもの</td><td>(ただし、±2mmを超えないこと)</td></tr> <tr> <td></td><td>1,200mmを超えるもの及び湾曲材</td><td>製作寸法のP1.5%以内 (ただし、±5mmを超えないこと)</td></tr> </tbody> </table>		b. 長辺	大断面	製作寸法のP1.5%以内		1,200mm以下のもの	(ただし、±2mmを超えないこと)		1,200mmを超えるもの及び湾曲材	製作寸法のP1.5%以内 (ただし、±5mmを超えないこと)	4.1 検査項目 a. 部材寸法 部材長さ、断面寸法 b. ボルト穴寸法 穴径、穴間隔等 c. その他の加工 切開、埋木等の有無と寸法 d. 外傷 部材の表面の傷を確認する。												
b. ポルトおよびナットの規格は以下のもとのする。																																	
・ JIS B 1180 (六角ボルト)																																	
・ JIS B 1181 (六角ナット)																																	
b. 長辺	大断面	製作寸法のP1.5%以内																															
	1,200mm以下のもの	(ただし、±2mmを超えないこと)																															
	1,200mmを超えるもの及び湾曲材	製作寸法のP1.5%以内 (ただし、±5mmを超えないこと)																															
1.3 準拠基準		<table border="1"> <thead> <tr> <th>c. 高力ボルト</th><th>規格</th><th>摘要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JSS II 09</td><td>構造用トルシア形高力ボルト 六角ナット、平座金のセット</td><td>ボルトS10T、ナットF10、座金F35</td></tr> <tr> <td>JIS B 1186</td><td>摩擦接合用高力六角ボルト 六角ナット、平座金のセット</td><td>セット2種A,B、ボルトF10T、ナットF10、座金F35</td></tr> </tbody> </table>		c. 高力ボルト	規格	摘要	JSS II 09	構造用トルシア形高力ボルト 六角ナット、平座金のセット	ボルトS10T、ナットF10、座金F35	JIS B 1186	摩擦接合用高力六角ボルト 六角ナット、平座金のセット	セット2種A,B、ボルトF10T、ナットF10、座金F35	<table border="1"> <thead> <tr> <th>c. 材長</th><th>施工寸法のP3.0mm以内</th></tr> </thead> </table>		c. 材長	施工寸法のP3.0mm以内	4.2 搬入および運搬時養生 5.1 輸送計画 製品の輸送にあたっては、建方計画に支障の生じないように道路状況、現場の作業手順などを考慮し、十分な検討を行なう。																
c. 高力ボルト	規格	摘要																															
JSS II 09	構造用トルシア形高力ボルト 六角ナット、平座金のセット	ボルトS10T、ナットF10、座金F35																															
JIS B 1186	摩擦接合用高力六角ボルト 六角ナット、平座金のセット	セット2種A,B、ボルトF10T、ナットF10、座金F35																															
c. 材長	施工寸法のP3.0mm以内																																
1.4 製造管理		<table border="1"> <thead> <tr> <th>d. ラグスクリュー</th><th>規格</th><th>摘要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>JSS II 09</td><td>構造用トルシア形高力ボルト 六角ナット、平座金のセット</td></tr> <tr> <td></td><td>JIS B 1186</td><td>摩擦接合用高力六角ボルト 六角ナット、平座金のセット</td></tr> </tbody> </table>		d. ラグスクリュー	規格	摘要		JSS II 09	構造用トルシア形高力ボルト 六角ナット、平座金のセット		JIS B 1186	摩擦接合用高力六角ボルト 六角ナット、平座金のセット	<table border="1"> <thead> <tr> <th>a. 穴径</th><th>公称軸径dに対する集成材部材の穴径は下表による。</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボルト</td><td>軸径16mm未満 d+1mm 軸径16mm以上 d+2mm</td></tr> <tr> <td>ドリフトピン</td><td>d±0mm</td></tr> <tr> <td>ラグスクリュー</td><td>樹種がスギの場合 先穴はdの50~70%とする。 その他の樹種の場合 2段穴を原則とし、胸部の先穴は同径とし、ねじ部は樹種に応じて50~70%とする。</td></tr> </tbody> </table>		a. 穴径	公称軸径dに対する集成材部材の穴径は下表による。	ボルト	軸径16mm未満 d+1mm 軸径16mm以上 d+2mm	ドリフトピン	d±0mm	ラグスクリュー	樹種がスギの場合 先穴はdの50~70%とする。 その他の樹種の場合 2段穴を原則とし、胸部の先穴は同径とし、ねじ部は樹種に応じて50~70%とする。	5.2 組立符号 部材はすべて、合番図（部材番号、取合い符号などを記入）により符号をつける。										
d. ラグスクリュー	規格	摘要																															
	JSS II 09	構造用トルシア形高力ボルト 六角ナット、平座金のセット																															
	JIS B 1186	摩擦接合用高力六角ボルト 六角ナット、平座金のセット																															
a. 穴径	公称軸径dに対する集成材部材の穴径は下表による。																																
ボルト	軸径16mm未満 d+1mm 軸径16mm以上 d+2mm																																
ドリフトピン	d±0mm																																
ラグスクリュー	樹種がスギの場合 先穴はdの50~70%とする。 その他の樹種の場合 2段穴を原則とし、胸部の先穴は同径とし、ねじ部は樹種に応じて50~70%とする。																																
2 材料		<table border="1"> <thead> <tr> <th>f. 座金</th><th>規格</th><th>摘要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ボルト径</td><td>12 16 20</td><td>(単位：mm)</td></tr> <tr> <td>座金の厚さ</td><td>3.2 4.5 6</td><td></td></tr> <tr> <td>丸座金の直径</td><td>40 60 70</td><td></td></tr> </tbody> </table>		f. 座金	規格	摘要	ボルト径	12 16 20	(単位：mm)	座金の厚さ	3.2 4.5 6		丸座金の直径	40 60 70		<table border="1"> <thead> <tr> <th>b. 精度</th><th>・穴の芯ずれ P2.0mm以内 ・穴間隔ずれ P2.0mm以内</th></tr> </thead> </table>		b. 精度	・穴の芯ずれ P2.0mm以内 ・穴間隔ずれ P2.0mm以内	5.3 輸送 積込、荷降ろしまたは輸送中に、製品がひずみ・変形を生じないように荷台を調整し、長尺物、異形物などは適切な養生方法を講ずる。													
f. 座金	規格	摘要																															
ボルト径	12 16 20	(単位：mm)																															
座金の厚さ	3.2 4.5 6																																
丸座金の直径	40 60 70																																
b. 精度	・穴の芯ずれ P2.0mm以内 ・穴間隔ずれ P2.0mm以内																																
2.1 構造用集成材		<table border="1"> <thead> <tr> <th>g. 鉗</th><th>規格</th><th>摘要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td>JIS A 5508 (鉄丸くぎおよび太め鉄丸くぎ)</td><td>構造用ビスはシネジック(株)バネリード同等品とする。</td></tr> </tbody> </table>		g. 鉗	規格	摘要		JIS A 5508 (鉄丸くぎおよび太め鉄丸くぎ)	構造用ビスはシネジック(株)バネリード同等品とする。	3.6 集成材部材のボルト穴		6 建方 6.1 建方計画 a. 工事の着手に先立ち、施工要領書を提出する。 b. 建物の規模・形状・敷地および工程などの条件を踏まえ、搬入方法、建方順序、建方機械、荷さばき方法などの建方計画を決定する。 c. 建方機械は、最大荷重、作業半径及び建物の規模・形状により選定し、建方機械および建方機械を設置する構造体、架台、路盤、構台などが、風荷重、地震荷重、クレーン運転時の衝撃荷重などに対して安全な方法を計画する。																					
g. 鉗	規格	摘要																															
	JIS A 5508 (鉄丸くぎおよび太め鉄丸くぎ)	構造用ビスはシネジック(株)バネリード同等品とする。																															
2.2 針葉樹の構造用製材		<table border="1"> <thead> <tr> <th>2.5 鉄筋プレース関係</th><th>規格</th><th>摘要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. フレース</td><td>JIS A 5540 建築用ターンバックル</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>JIS A 5541 ターンバックル胴</td><td>割わぐ式(ST) パイプ式(PS) パイプ式(角)</td></tr> <tr> <td></td><td>JIS A 5542 ターンバックルボルト</td><td></td></tr> </tbody> </table>		2.5 鉄筋プレース関係	規格	摘要	a. フレース	JIS A 5540 建築用ターンバックル			JIS A 5541 ターンバックル胴	割わぐ式(ST) パイプ式(PS) パイプ式(角)		JIS A 5542 ターンバックルボルト		3.7 集成材部材の工場塗装 見えがかり部分のみについて、下表の通りとする。		6.2 搬入および仕分け a. 製品の受け入れにあたっては、工場からの送り状と照合し、数量を確認する。 b. 計算によって安全を確保できた場合はこの限りではない。															
2.5 鉄筋プレース関係	規格	摘要																															
a. フレース	JIS A 5540 建築用ターンバックル																																
	JIS A 5541 ターンバックル胴	割わぐ式(ST) パイプ式(PS) パイプ式(角)																															
	JIS A 5542 ターンバックルボルト																																
2.3 構造用合板、構造用パネル		<table border="1"> <thead> <tr> <th>2.6 アンカーボルト</th><th>規格</th><th>摘要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 材質は、JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材) によるSS400とし、寸法は下表による。</td><td>JIS A 5540</td><td>建築用ターンバックル</td></tr> <tr> <td>b. 心出しは、型板を用いて基準面に直しく合わせ、適切な機器等で正確で行う。</td><td>JIS A 5541</td><td>ターンバックル胴 割わぐ式(ST) パイプ式(PS) パイプ式(角)</td></tr> <tr> <td>c. アンカーボルトは、二重ナットを使用する。</td><td>JIS A 5542</td><td>ターンバックルボルト</td></tr> </tbody> </table>		2.6 アンカーボルト	規格	摘要	a. 材質は、JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材) によるSS400とし、寸法は下表による。	JIS A 5540	建築用ターンバックル	b. 心出しは、型板を用いて基準面に直しく合わせ、適切な機器等で正確で行う。	JIS A 5541	ターンバックル胴 割わぐ式(ST) パイプ式(PS) パイプ式(角)	c. アンカーボルトは、二重ナットを使用する。	JIS A 5542	ターンバックルボルト	<table border="1"> <thead> <tr> <th>3.8 表面仕上げ</th><th>見えがかり部分（塗装の素地にあたっては塗装部分）の表面仕上げは下表の通りとする。</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種別</td><td>仕上げの程度</td></tr> <tr> <td>○ A種</td><td>サンダーP80掛け仕上げ</td></tr> <tr> <td>○ B種</td><td>自動機械ブレーナー仕上げ</td></tr> <tr> <td>塗装の素地</td><td>サンダーP120~180掛け仕上げ</td></tr> </tbody> </table>		3.8 表面仕上げ	見えがかり部分（塗装の素地にあたっては塗装部分）の表面仕上げは下表の通りとする。	種別	仕上げの程度	○ A種	サンダーP80掛け仕上げ	○ B種	自動機械ブレーナー仕上げ	塗装の素地	サンダーP120~180掛け仕上げ	6.3 地組 a. 接合は可能な限り地組とする。 b. 地組を行う場合、寸法精度を保持するための有効な架台、治具などを用いて行う。					
2.6 アンカーボルト	規格	摘要																															
a. 材質は、JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材) によるSS400とし、寸法は下表による。	JIS A 5540	建築用ターンバックル																															
b. 心出しは、型板を用いて基準面に直しく合わせ、適切な機器等で正確で行う。	JIS A 5541	ターンバックル胴 割わぐ式(ST) パイプ式(PS) パイプ式(角)																															
c. アンカーボルトは、二重ナットを使用する。	JIS A 5542	ターンバックルボルト																															
3.8 表面仕上げ	見えがかり部分（塗装の素地にあたっては塗装部分）の表面仕上げは下表の通りとする。																																
種別	仕上げの程度																																
○ A種	サンダーP80掛け仕上げ																																
○ B種	自動機械ブレーナー仕上げ																																
塗装の素地	サンダーP120~180掛け仕上げ																																
2.4 針葉樹の構造用製材		<table border="1"> <thead> <tr> <th>3.9 接合金物の寸法精度</th><th>製作寸法のP1mm以内</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 幅、長さ</td><td>製作寸法のP1mm以内</td></tr> <tr> <td>b. 穴径</td><td>公称軸径dに対する接合金物の穴径は下表による。</td></tr> </tbody> </table>		3.9 接合金物の寸法精度	製作寸法のP1mm以内	a. 幅、長さ	製作寸法のP1mm以内	b. 穴径	公称軸径dに対する接合金物の穴径は下表による。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>6.4 建方</th><th>建方</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 建方中の集成材に材料、機械等の重量物を積載する場合、又は特殊な大荷重を負担させる場合は、適切な補強方法を定めて監理者の承諾を受ける。</td><td>a. 製品は、建方順序に従い仕分けして集積する。</td></tr> <tr> <td>b. 集成材の吊上げには、集成材を保護するために布帯等を用いると共に、吊上げ位置に保護具を用いる。</td><td>b. 製品は、建方順序に従い仕分けして集積する。</td></tr> <tr> <td>c. 吊上げの際に、変形しやすい部材は適切な補強を行う。</td><td>c. 製品を取扱い際は、部材は適切な受台の上に置き、材の汚れ、変形および損傷を防ぐ。</td></tr> <tr> <td>d. 本接合に先立ち、ひずみを修正し、建入れ検査を行い、検査記録を監理者に提出し、必要に応じて監理者の検査を受ける。</td><td>d. 部材の曲がり・ねじれなどを発見した場合は、建方に先立ちこれを修正する。</td></tr> </tbody> </table>		6.4 建方	建方	a. 建方中の集成材に材料、機械等の重量物を積載する場合、又は特殊な大荷重を負担させる場合は、適切な補強方法を定めて監理者の承諾を受ける。	a. 製品は、建方順序に従い仕分けして集積する。	b. 集成材の吊上げには、集成材を保護するために布帯等を用いると共に、吊上げ位置に保護具を用いる。	b. 製品は、建方順序に従い仕分けして集積する。	c. 吊上げの際に、変形しやすい部材は適切な補強を行う。	c. 製品を取扱い際は、部材は適切な受台の上に置き、材の汚れ、変形および損傷を防ぐ。	d. 本接合に先立ち、ひずみを修正し、建入れ検査を行い、検査記録を監理者に提出し、必要に応じて監理者の検査を受ける。	d. 部材の曲がり・ねじれなどを発見した場合は、建方に先立ちこれを修正する。	6.5 建方精度 a. 建物の倒れ e≤H/2,500+10mm かつ e≤50mm											
3.9 接合金物の寸法精度	製作寸法のP1mm以内																																
a. 幅、長さ	製作寸法のP1mm以内																																
b. 穴径	公称軸径dに対する接合金物の穴径は下表による。																																
6.4 建方	建方																																
a. 建方中の集成材に材料、機械等の重量物を積載する場合、又は特殊な大荷重を負担させる場合は、適切な補強方法を定めて監理者の承諾を受ける。	a. 製品は、建方順序に従い仕分けして集積する。																																
b. 集成材の吊上げには、集成材を保護するために布帯等を用いると共に、吊上げ位置に保護具を用いる。	b. 製品は、建方順序に従い仕分けして集積する。																																
c. 吊上げの際に、変形しやすい部材は適切な補強を行う。	c. 製品を取扱い際は、部材は適切な受台の上に置き、材の汚れ、変形および損傷を防ぐ。																																
d. 本接合に先立ち、ひずみを修正し、建入れ検査を行い、検査記録を監理者に提出し、必要に応じて監理者の検査を受ける。	d. 部材の曲がり・ねじれなどを発見した場合は、建方に先立ちこれを修正する。																																
2.5 針葉樹の構造用製材		<table border="1"> <thead> <tr> <th>3.10 接合金物の溶接</th><th>溶接工は下記の技量を有するものとする。</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 手溶接</td><td>JIS Z 3801 (溶接技術検定における試験方法および判定基準)</td></tr> <tr> <td>b. 半自動溶接</td><td>JIS Z 3841 (半自動溶接技術検定における試験方法および判定基準)</td></tr> </tbody> </table>		3.10 接合金物の溶接	溶接工は下記の技量を有するものとする。	a. 手溶接	JIS Z 3801 (溶接技術検定における試験方法および判定基準)	b. 半自動溶接	JIS Z 3841 (半自動溶接技術検定における試験方法および判定基準)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>6.6 柱据付け面の高さ及びアンカーボルトの位置</th><th>柱据付け面の規格高さからの誤差はP2mm以下 柱際接間中心距離の誤差e1はP1mm以下 通り心からの誤差e2はP2mm以下</th></tr> </thead> </table>		6.6 柱据付け面の高さ及びアンカーボルトの位置	柱据付け面の規格高さからの誤差はP2mm以下 柱際接間中心距離の誤差e1はP1mm以下 通り心からの誤差e2はP2mm以下	6.6 柱据付け面の高さ及びアンカーボルトの位置 a. 柱据付け面の規格高さからの誤差はP2mm以下 b. 柱際接間中心距離の誤差e1はP1mm以下 c. 通り心からの誤差e2はP2mm以下																			
3.10 接合金物の溶接	溶接工は下記の技量を有するものとする。																																
a. 手溶接	JIS Z 3801 (溶接技術検定における試験方法および判定基準)																																
b. 半自動溶接	JIS Z 3841 (半自動溶接技術検定における試験方法および判定基準)																																
6.6 柱据付け面の高さ及びアンカーボルトの位置	柱据付け面の規格高さからの誤差はP2mm以下 柱際接間中心距離の誤差e1はP1mm以下 通り心からの誤差e2はP2mm以下																																
2.6 構造用合板、構造用パネル		<table border="1"> <thead> <tr> <th>3.11 接合金物の防錆処理</th><th>製作寸法のP1mm以内</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a. 金物</td><td>製作寸法のP1mm以内</td></tr> </tbody> </table>		3.11 接合金物の防錆処理	製作寸法のP1mm以内	a. 金物	製作寸法のP1mm以内	<table border="1"> <thead> <tr> <th>6.7 建物の倒れ</th><th>e≤H/2,500 かつ e≤25mm</th></tr> </thead> </table>		6.7 建物の倒れ	e≤H/2,500 かつ e≤25mm	6.7 建物の倒れ a. 柱据付け面の規格高さからの誤差はP2mm以下 b. 柱際接間中心距離の誤差e1はP1mm以下 c. 通り心からの誤差e2はP2mm以下																					
3.11 接合金物の防錆処理	製作寸法のP1mm以内																																
a. 金物	製作寸法のP1mm以内																																
6.7 建物の倒れ	e≤H/2,500 かつ e≤25mm																																
2.7 構造用合板、構造用パネル		<table border="1"> <thead> <tr> <th>3.2 加工図</th><th>各部の施工図に基づき、加工図を作成する。</th></tr> </thead> </table>		3.2 加工図	各部の施工図に基づき、加工図を作成する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>6.8 はりの水平度</th><th>e≤L/1,000+3mm かつ e≤10mm</th></tr> </thead> </table>		6.8 はりの水平度	e≤L/1,000+3mm かつ e≤10mm	6.8 はりの水平度 a. はりの水平度 b. はりの水平度																							
3.2 加工図	各部の施工図に基づき、加工図を作成する。																																
6.8 はりの水平度	e≤L/1,000+3mm かつ e≤10mm																																
2.8 構造用合板、構造用パネル		<table border="1"> <thead> <tr> <th>3.3 鋼製巻尺の確認</th><th>a. 鋼製巻尺は、JIS B 7512 (鋼製巻尺) の1級品を使用する。</th></tr> </thead> </table>		3.3 鋼製巻尺の確認	a. 鋼製巻尺は、JIS B 7512 (鋼製巻尺) の1級品を使用する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>6.9 柱の倒れ</th><th>e≤H/1,000 かつ e≤10mm</th></tr> </thead> </table>		6.9 柱の倒れ	e≤H/1,000 かつ e≤10mm	6.9 柱の倒れ a. 柱の倒れ b. 柱の倒れ																							
3.3 鋼製巻尺の確認	a. 鋼製巻尺は、JIS B 7512 (鋼製巻尺) の1級品を使用する。																																
6.9 柱の倒れ	e≤H/1,000 かつ e≤10mm																																
2.9 構造用合板、構造用パネル		<table border="1"> <thead> <tr> <th>3.4 墨付け</th><th>墨付けは加工図にしたがって、定規・型板および鋼製巻尺を用いておこなう。</th></tr> </thead> </table>		3.4 墨付け	墨付けは加工図にしたがって、定規・型板および鋼製巻尺を用いておこなう。																												
3.4 墨付け	墨付けは加工図にしたがって、定規・型板および鋼製巻尺を用いておこなう。																																
2.10 構造用合板、構造用パネル																																	
2.11 構造用合板、構造用パネル																																	
2.12 構造用合板、構造用パネル																																	
2.13 構造用合板、構造用パネル																																	
2.14 構造用合板、構造用パネル																																	
2.15 構造用合板、構造用パネル																																	
2.16 構造用合板、構造用パネル																																	
2.17 構造用合板、構造用パネル																																	
2.18 構造用合板、構造用パネル																																	
2.19 構造用合板、構造用パネル																																	
2.20 構造用合板、構造用パネル																																	
2.21 構造用合板、構造用パネル																																	
2.22 構造用合板、構造用パネル																																	
2.23 構造用合板、構造用パネル																																	

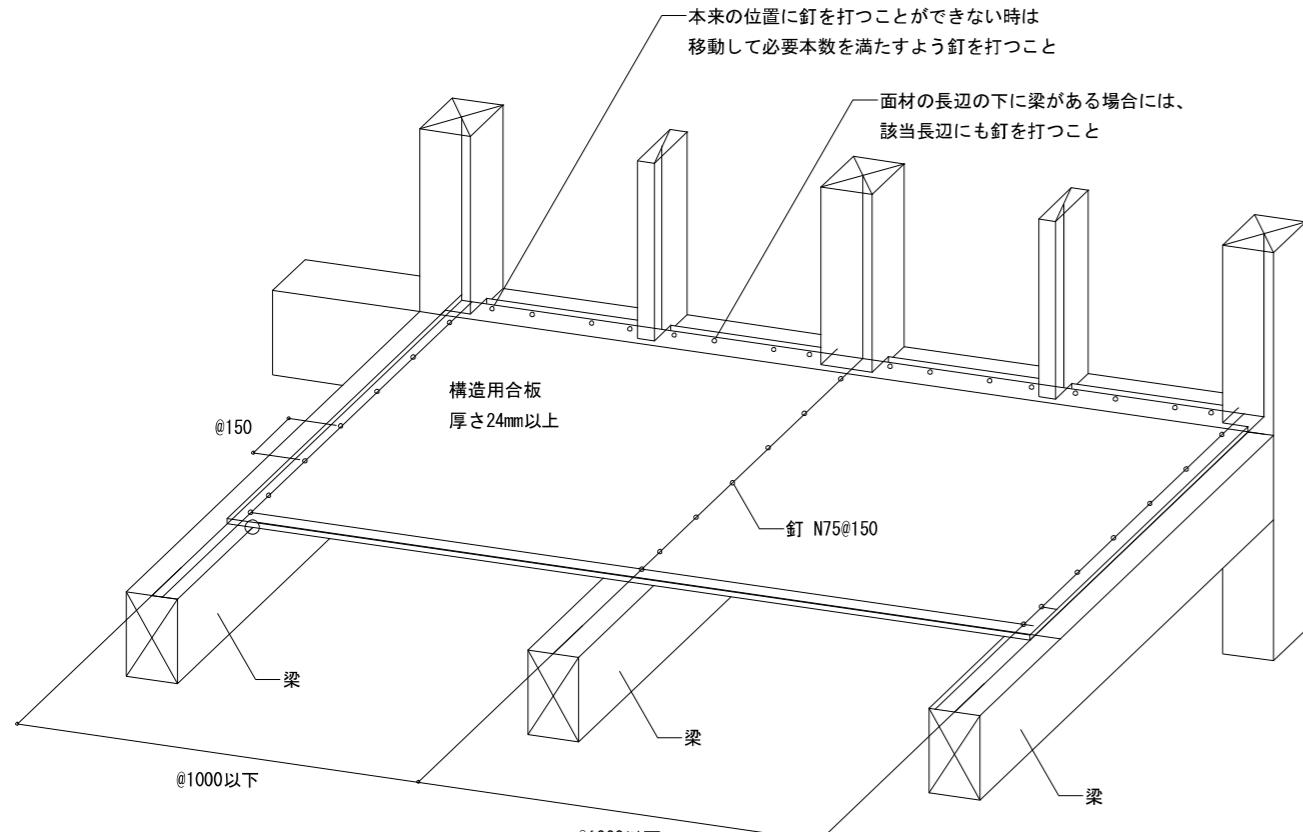
木構造標準図（1）

床組詳細図

- 根太なし・直張り・4周釘打ちの取合い（単位長さあたりの許容せん断耐力 7.84kN）

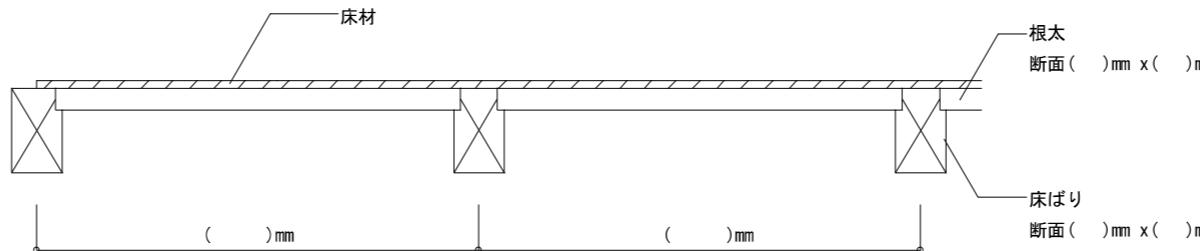


- 根太なし・直張り・川の字釘打ちの取合い（単位長さあたりの許容せん断耐力 3.53kN）

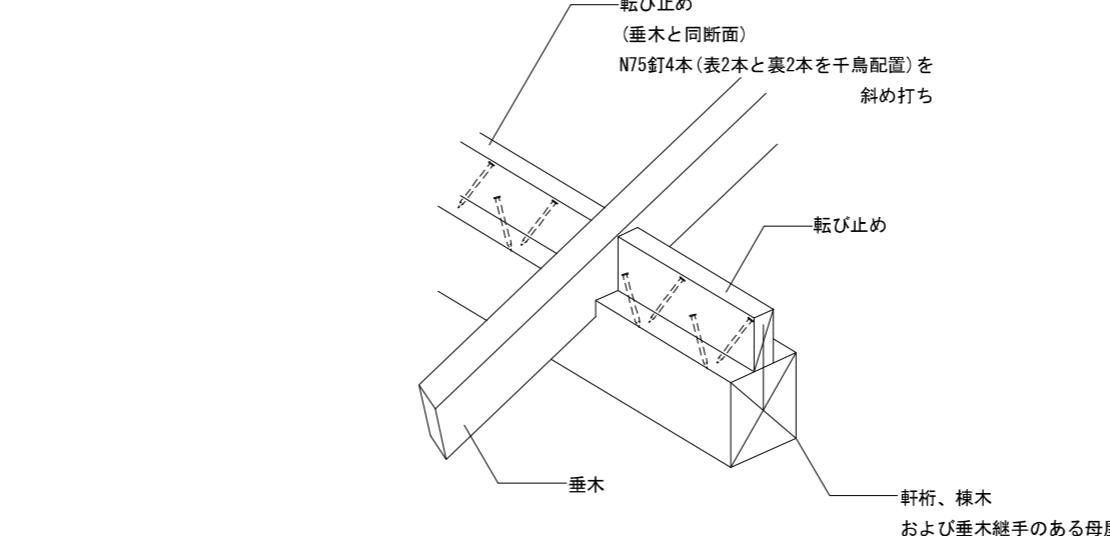
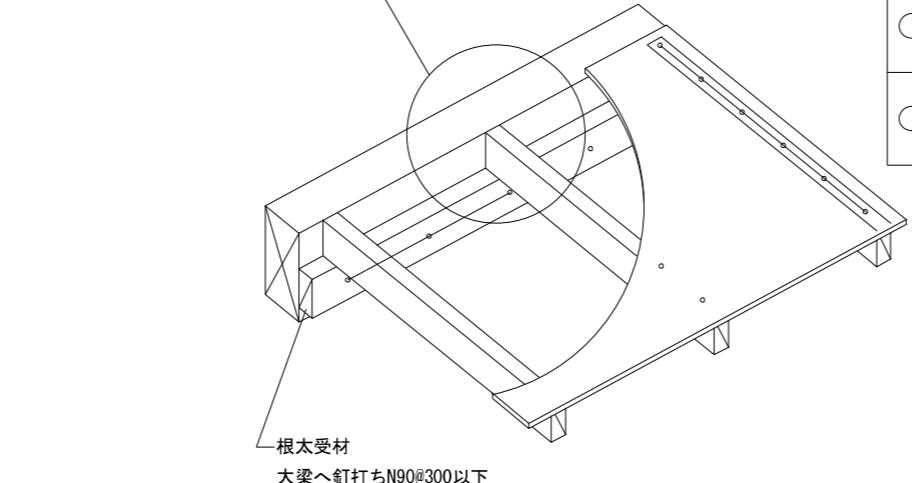
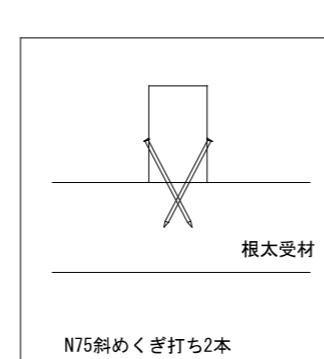
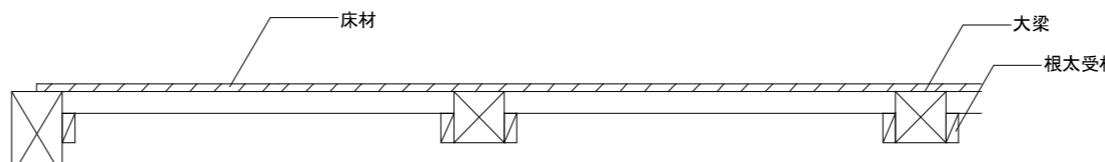


- 根太あり・根太高さ全て落し込みの取合い（2・3階床構面、小屋構面）

- 床ばりに落し込む方法

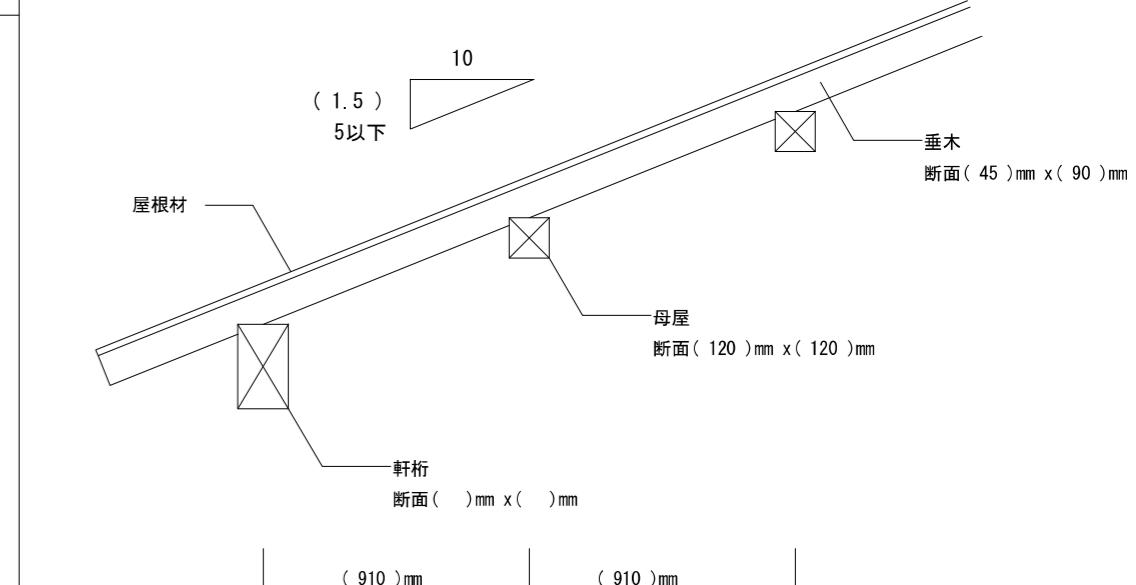


- 根太受材で固定する方法



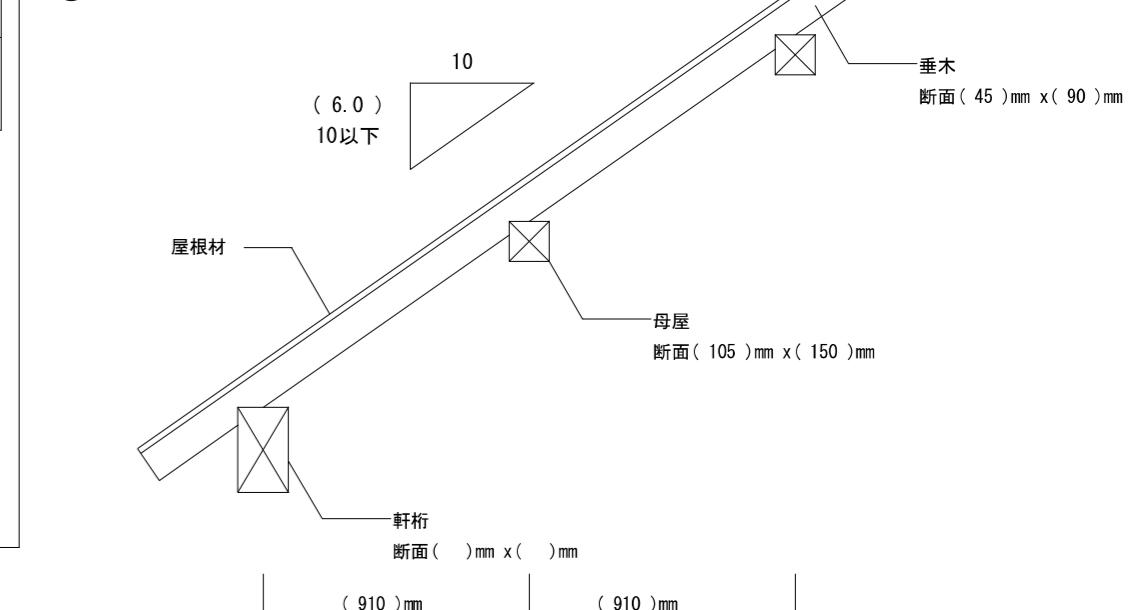
屋根面詳細図

- 勾配30°以下の取合い



水平構面の仕様	単位長さあたりの許容せん断耐力(床倍率)
○構造用合板9~15mm、転び止めあり N50@150mm、垂木@500mm以下	1.96 (1.0)
○構造用合板9~15mm、転び止めなし N50@150mm、垂木@500mm以下	1.37 (0.7)
○幅180mm板材9~15mm、N50@150mm、垂木@500mm以下	0.39 (0.2)
○	

- 勾配45°以下の取合い

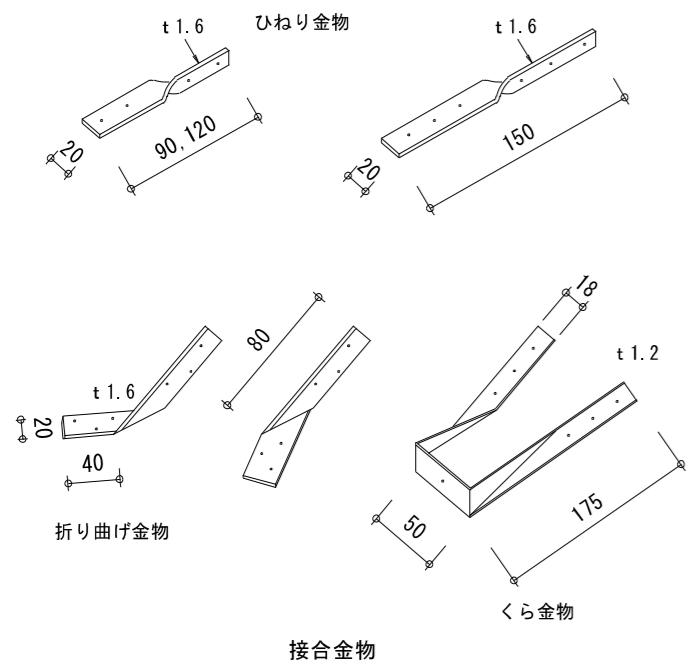


水平構面の仕様	単位長さあたりの許容せん断耐力(床倍率)
○構造用合板9~15mm、転び止めあり N50@150mm、垂木@500mm以下	1.37 (0.7)
○構造用合板9~15mm、転び止めなし N50@150mm、垂木@500mm以下	0.98 (0.5)
○幅180mm板材9~15mm、N50@150mm、垂木@500mm以下	0.20 (0.1)
○	

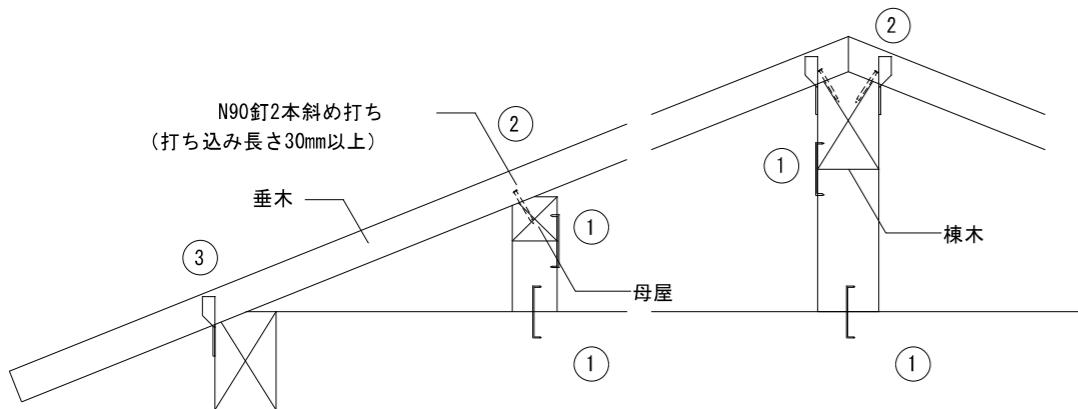
木構造標準図 (2)

屋根・小屋組の耐風対策

接合金物他詳細図



屋根・小屋組の耐風対策（許容応力度計算による）



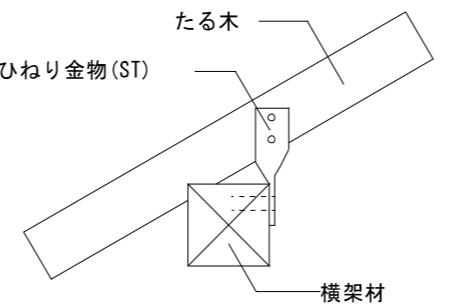
接合金物による繋結

※表示金物同等以上とする

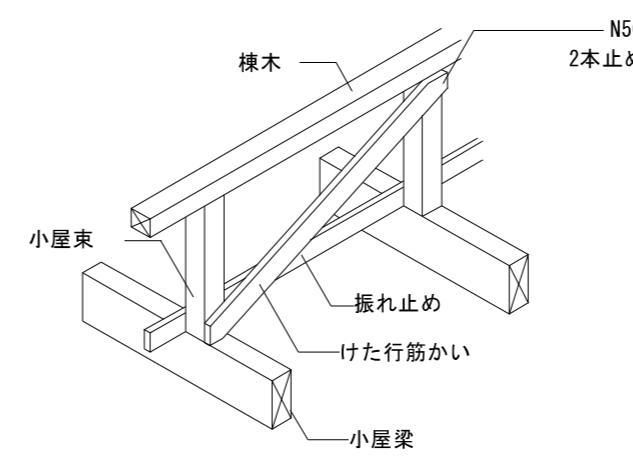
6.0寸屋根部	
① 母屋-束接合部 使用金物 (かすがい片面打ち)	引張耐力(N) (1,080)
② 垂木-母屋接合部 使用金物 (N90釘2本打ち)	(380)
③ 垂木-軒桁接合部 使用金物 (ひねり金物)	(1,400)

1.5寸屋根部	
① 母屋-束接合部 使用金物 (かすがい両面打ち)	引張耐力(N) (2,160)
② 垂木-母屋接合部 使用金物 (ひねり金物)	(1,400)
③ 垂木-軒桁接合部 使用金物 (ひねり金物)	(1,400)

たる木とひねり金物



けた行筋かい・振れ止め

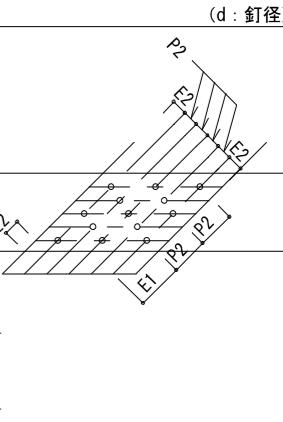


間柱と横架材

・上下横架材に深さ3mm程度大入れ+斜め釘上部ほぞ差し、下部突き付け+斜め釘

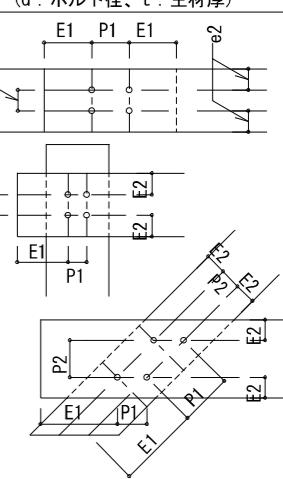
釘の最小間隔及び最小端あき距離

織維方向	加力方向	
	織維直交方向	織維直交方向
E1	15d	10d
P1	12d	10d
E2	5d	8d
P2	5d	8d

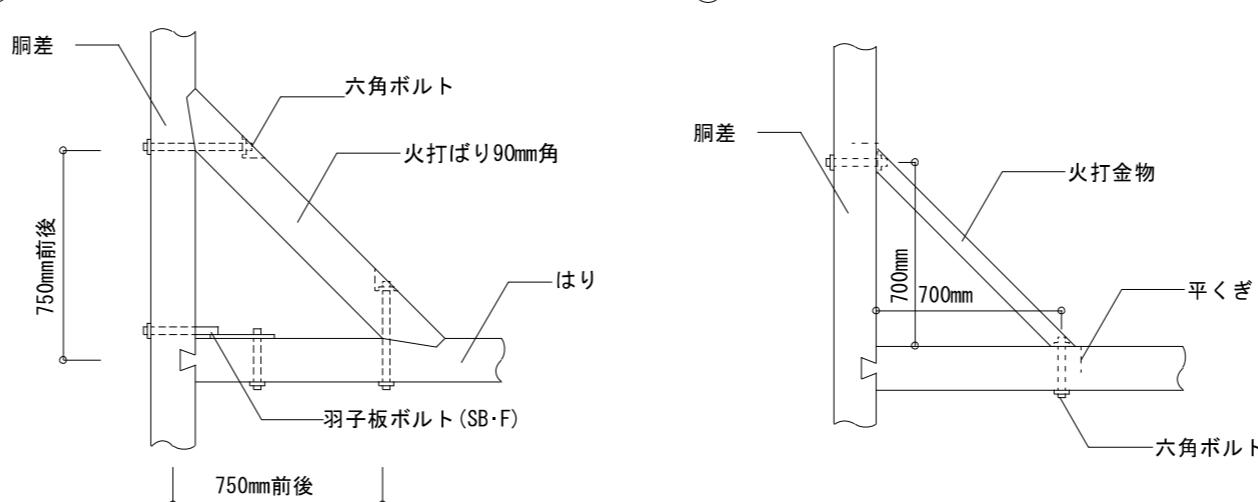


ボルトの最小間隔及び最小端あき距離

織維方向	加力方向	
	織維直交方向	織維直交方向
E1	7d (荷重負担側) 4d (荷重非負担側)	7d
P1	7d	t/d=2 3d 2≤t/d≤6 3d~5d t/d≥6 5d
E2	t/d≤6 1.5d t/d>6 1.5dかつP2/2	特記による。特記のない場合は以下の数値とする。 4d (荷重負担側) 1.5d (荷重非負担側)
P2	3d	4d

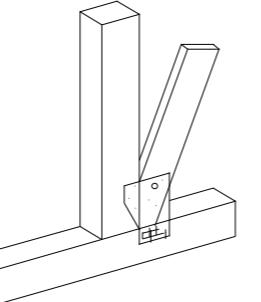


火打梁

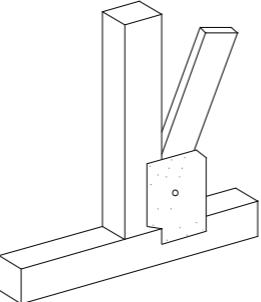


筋かいの仕口

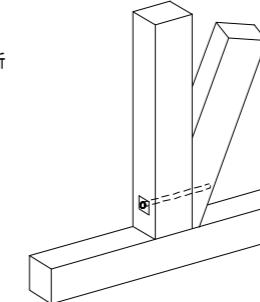
厚さ3cm幅9cm以上の木材



厚さ4.5cm幅9cm以上の木材

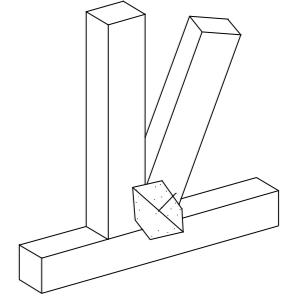


厚さ9cm幅9cm以上の木材



柱又は横架材に径12mmの
ボルトを用いて一面せん断
接合

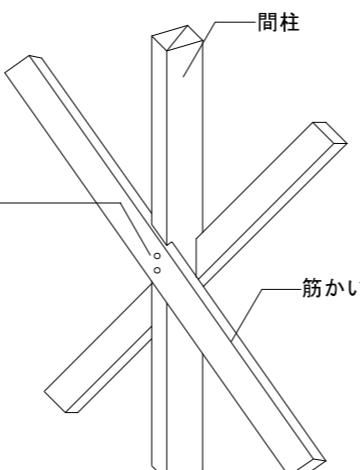
柱と横架材に専用のビス
を用いて留め付ける



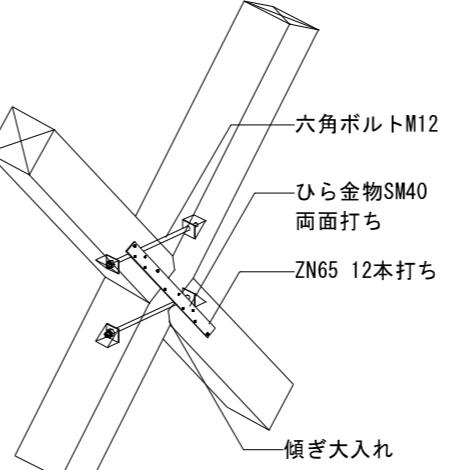
(例: 2倍ヘキサプレートSD)

たすき掛筋かい交差部

筋かい断面30x90mm、45x90mmの納まり



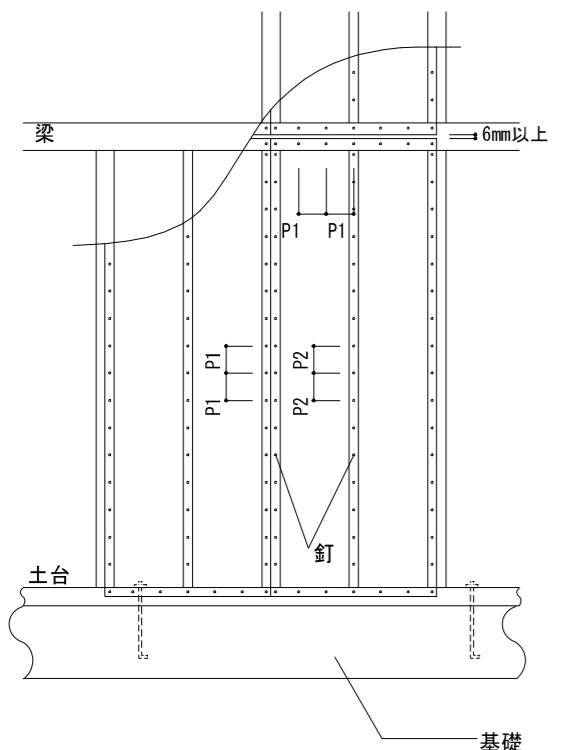
筋かい断面90x90mmの納まり



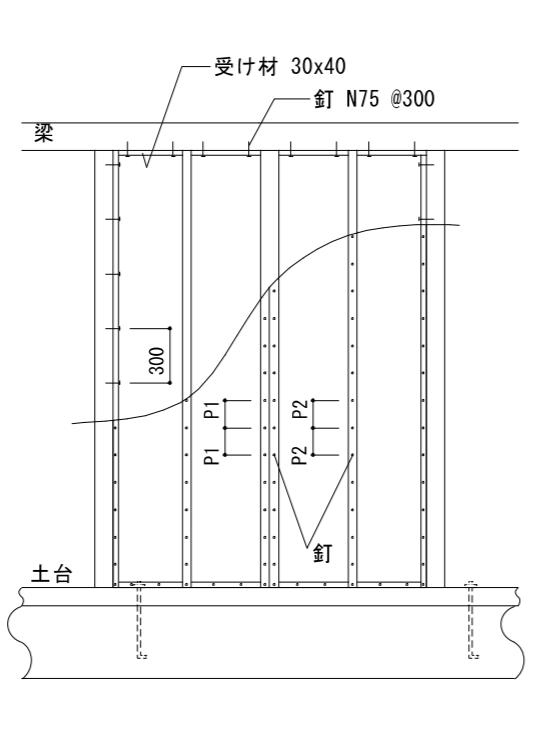
木構造標準図 (3)

構造用合板・各種ボード類の下地張りの釘打ち詳細

1. 大壁造の場合



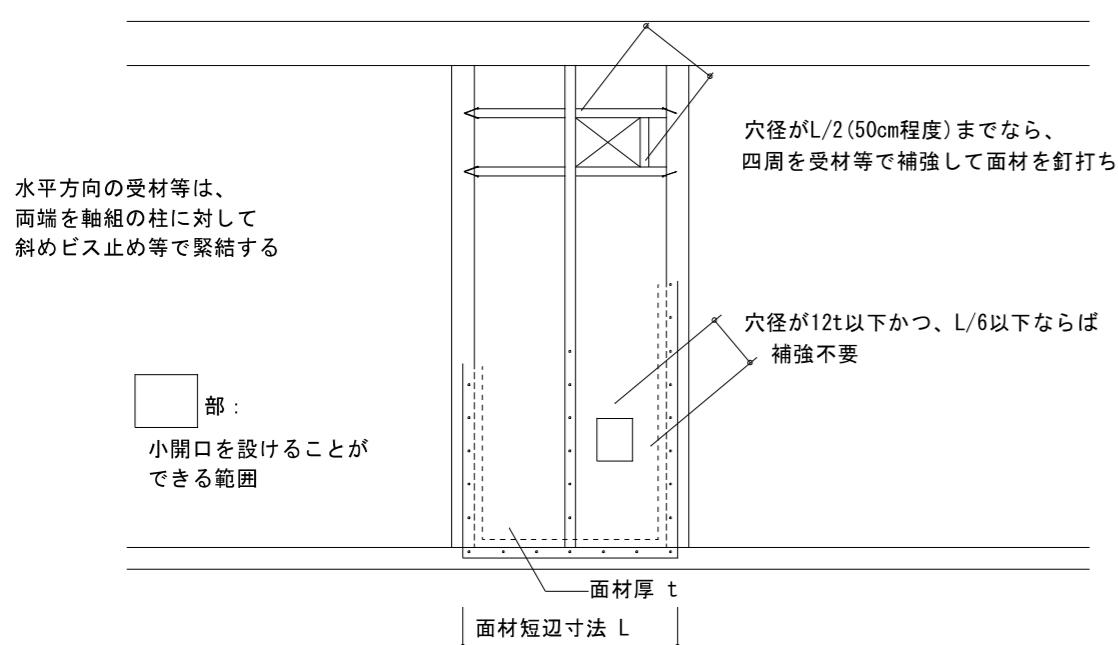
2. 真壁造の場合



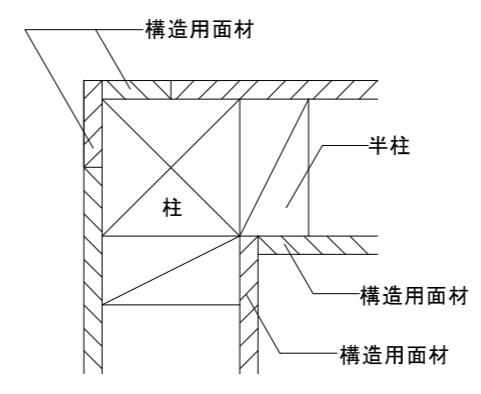
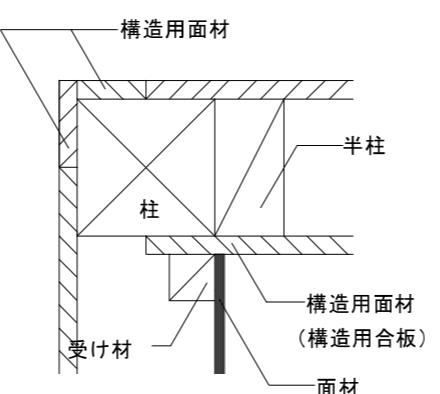
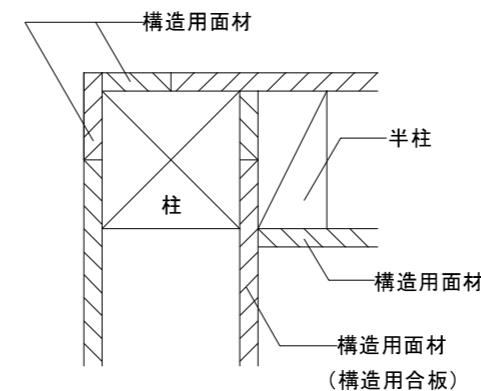
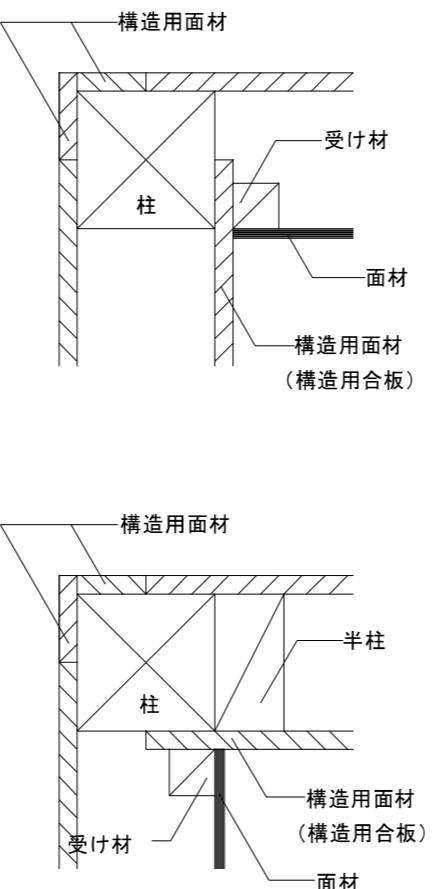
・受け材は柱や横架材にN75@300以下で平打ちする。

面材の種類	厚み	釘の種類	外周釘間隔 (P1)	内部釘間隔 (P2)	壁倍率	備考
構造用合板	9	N50	150	150	2.5	
パーティクルボード		N50	150	150	2.5	
構造用パネル(OSB)		N50	150	150	2.5	
ハードボード		N50	150	150	2.0	
硬質木片セメント板		N50	150	150	2.0	
構造用せっこうボードA種		GNF40またはGNC40	150	150	1.6	床勝ち仕様大壁
構造用せっこうボードB種		GNF40またはGNC40	150	150	1.2	
ラスシート		N38	150	150	1.0	
シージングボード		SN40	100	200	1.0	
せっこうボード		GNF40またはGNC40	150	150	0.9	床勝ち仕様大壁

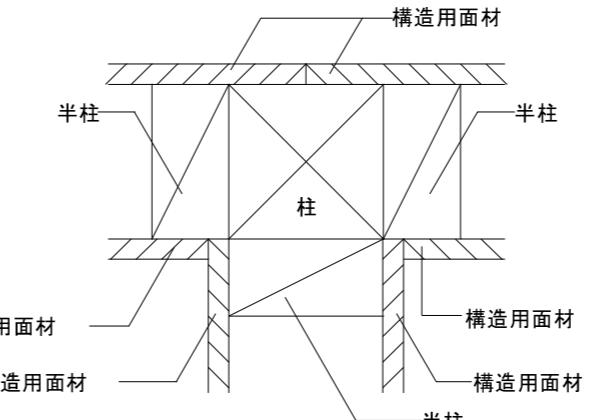
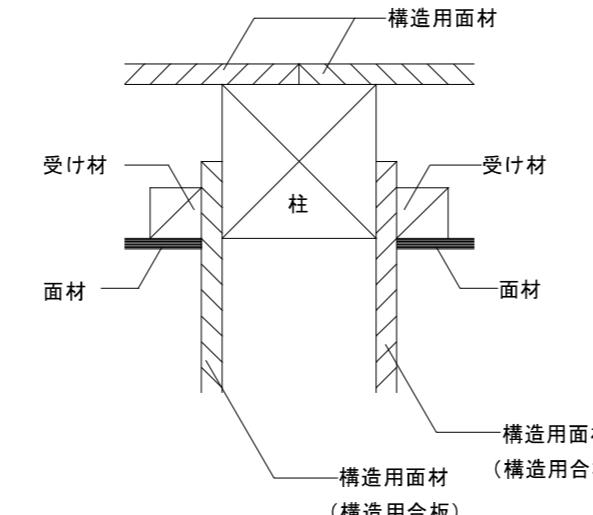
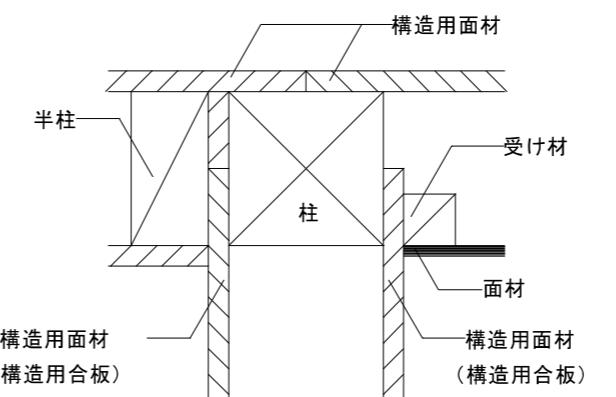
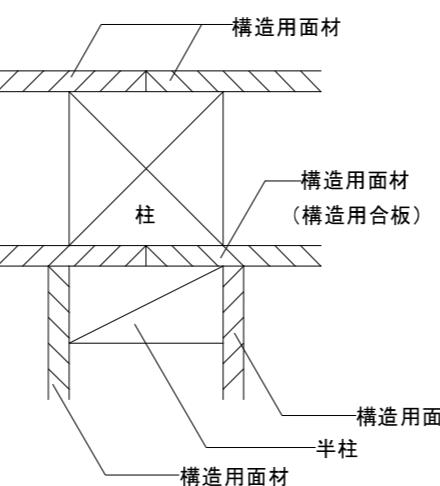
面材耐力壁の小窓口の設け方



面材耐力壁の隅部の納め方

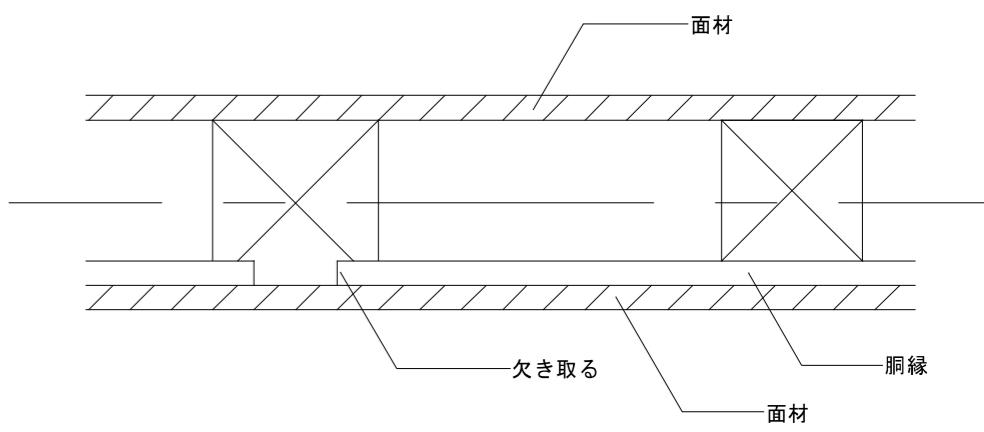


面材耐力壁のT字部の納め方

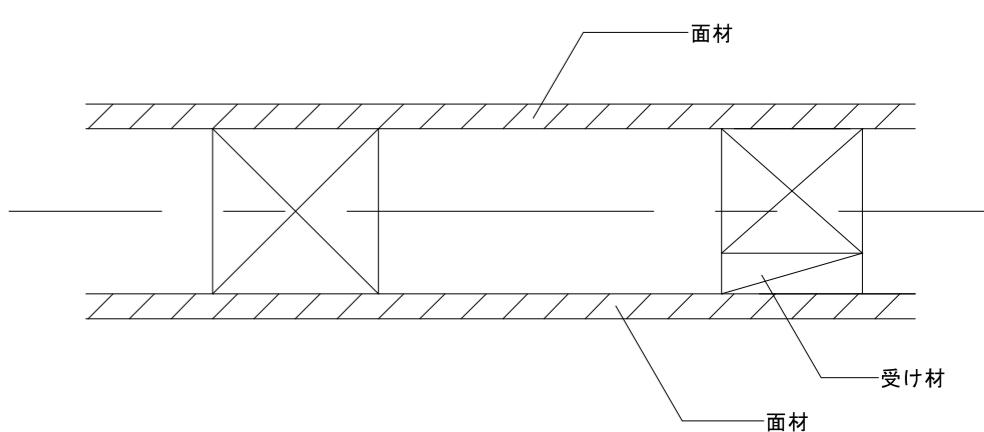


柱の断面が異なる場合の面材の納め方

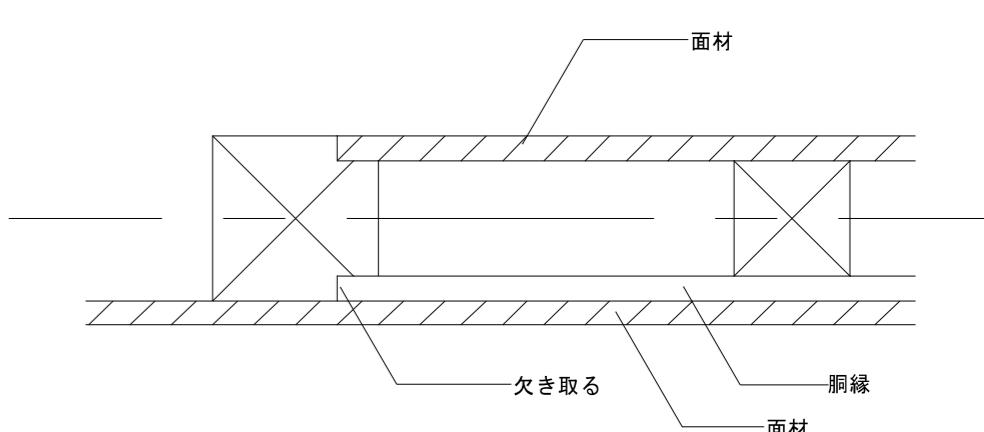
柱の外面合わせ、内壁側は一部の柱を欠き取る



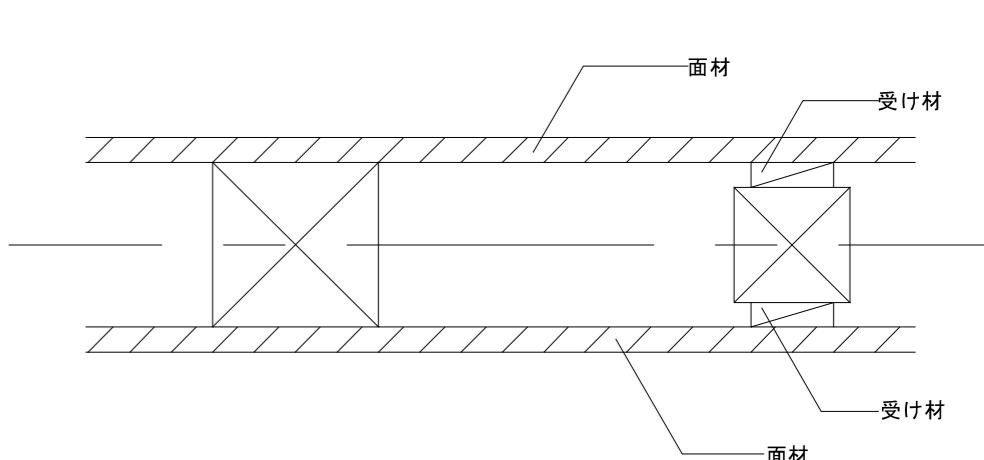
柱の外面合わせ、内壁側は受け材で調整する



柱芯合わせ、柱の外壁側と内壁側の一部の柱を欠き取る



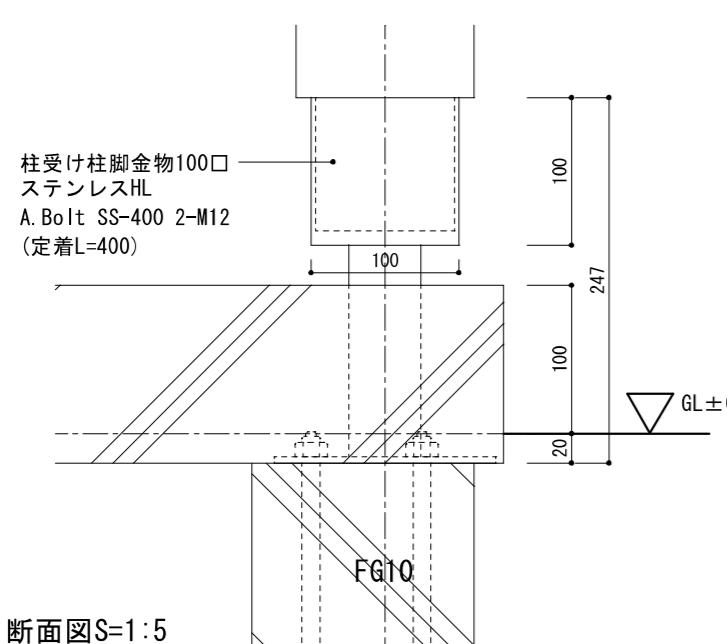
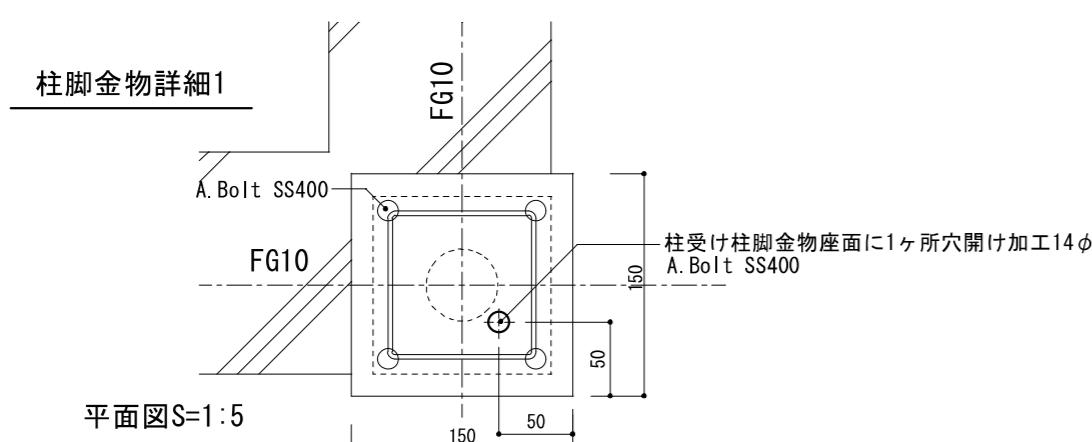
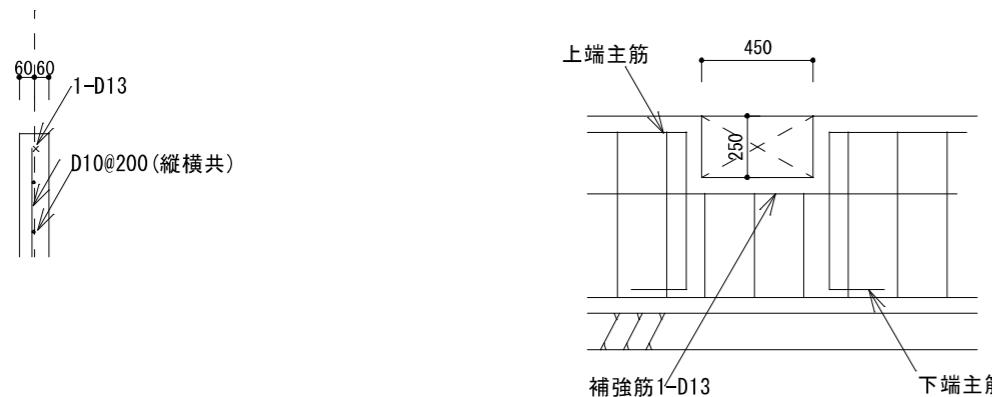
柱芯合わせ、外壁側も内壁側も受け材で調整する

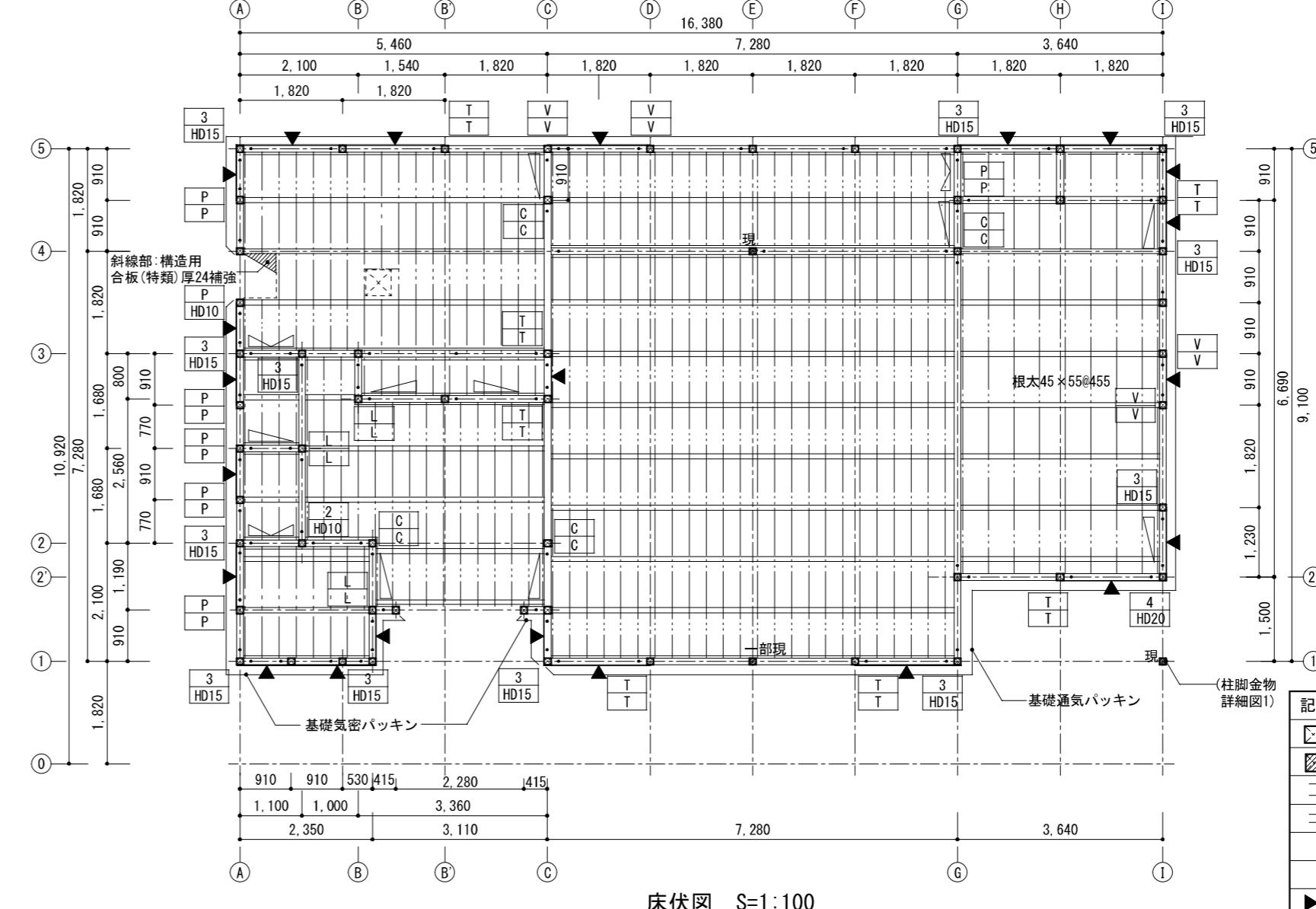
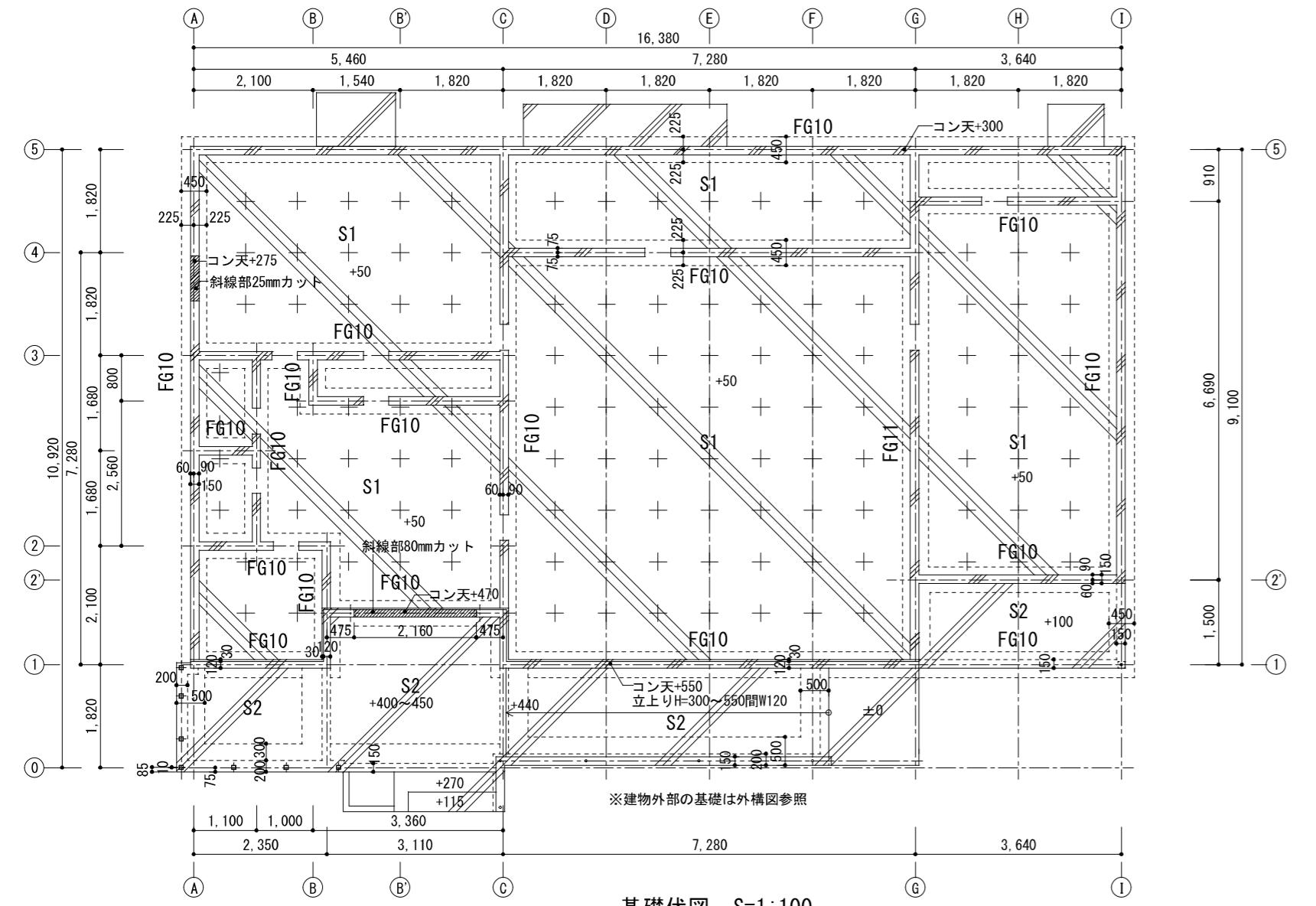


符号	FG10	FG11
区分	全断面	全断面
▽GL		
断面	<p>※土間部分 ((①軸G-I、I軸①-②') は基礎天端高さGL-20とする)</p>	

符号	S1	S2
区分	全断面	全断面
▽GL		
断面	<p>※GL位置は外構図・矩計図参照 防湿ポリエチレンシート厚0.15 再生クラッシャラン厚100敷き込み転圧</p>	

床下人通り補強図

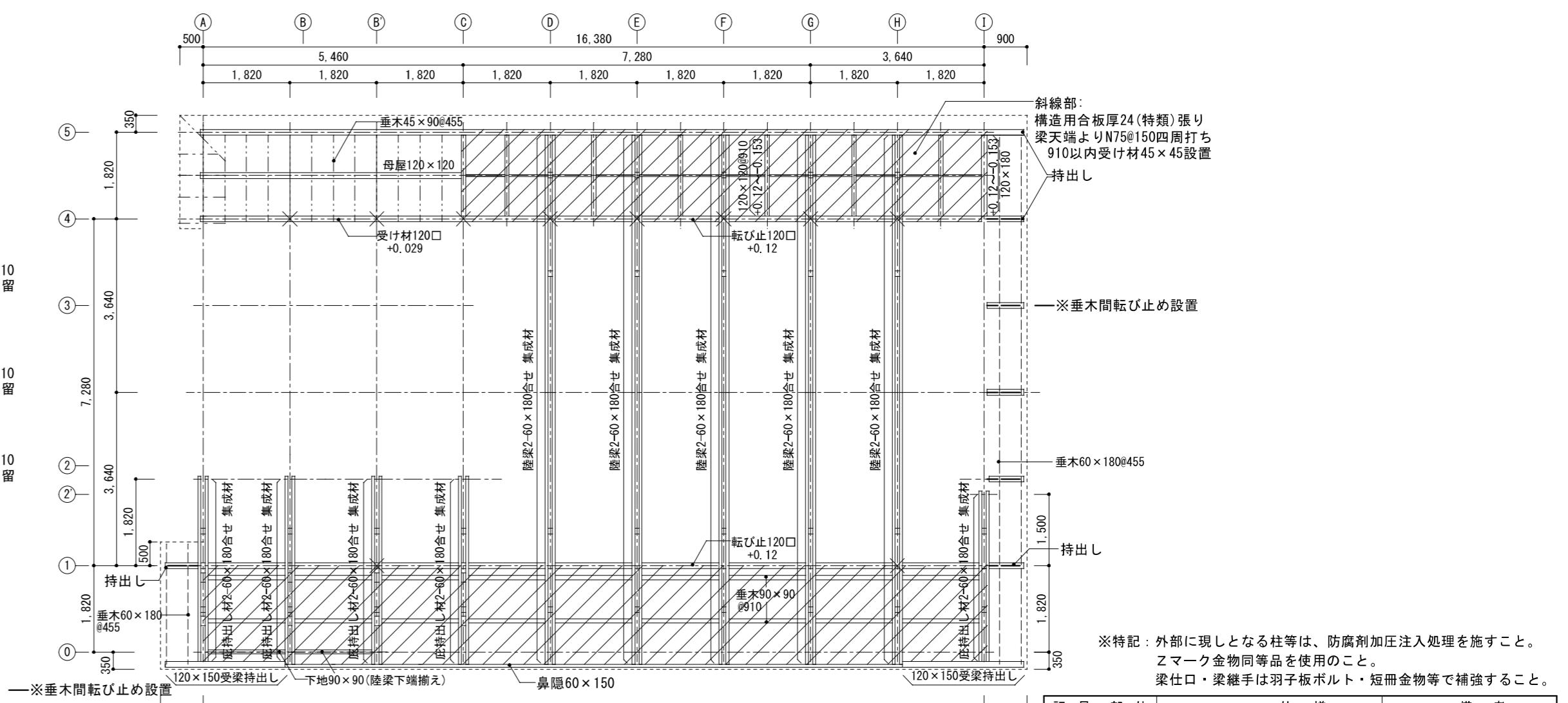
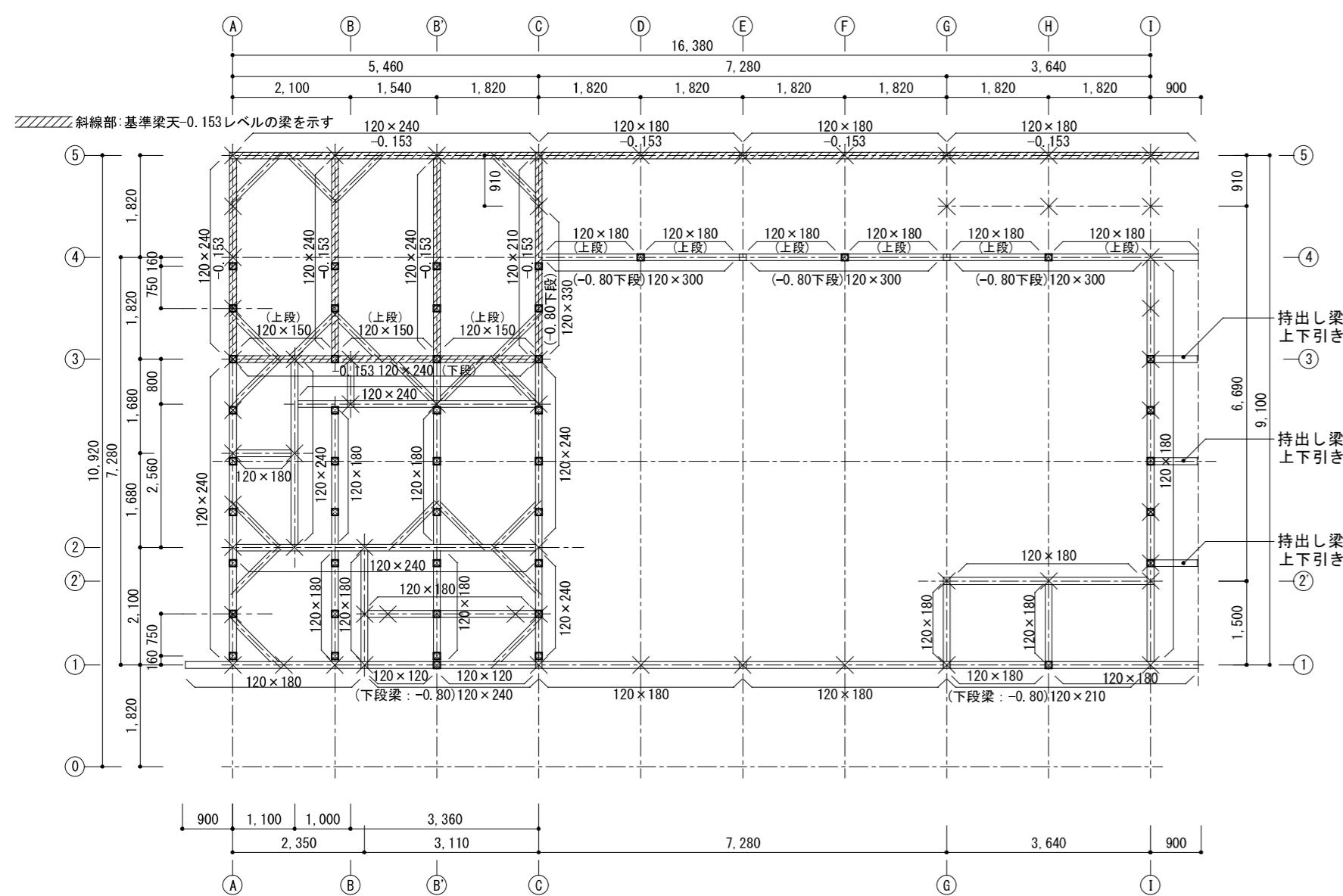


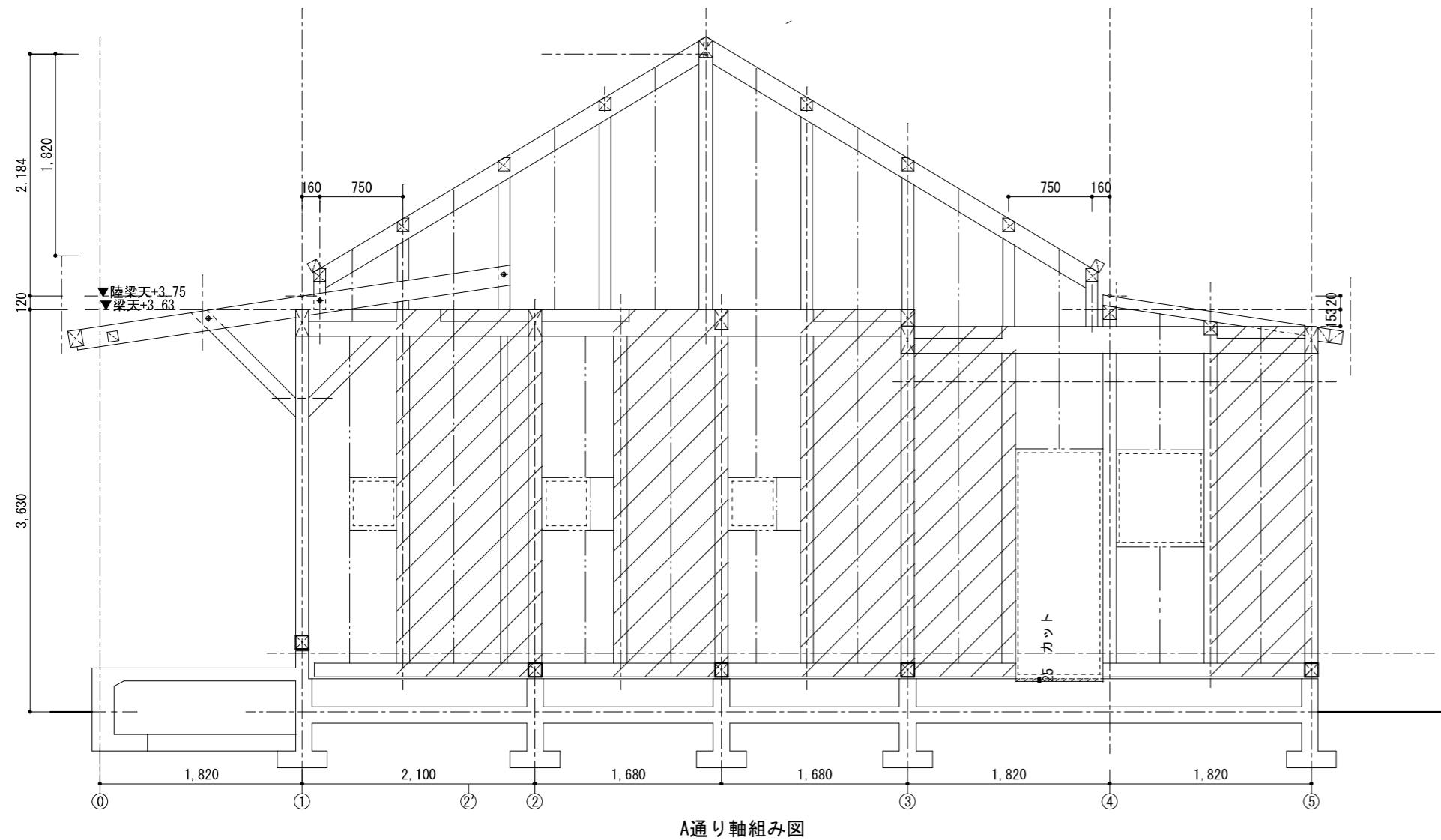


■凡例 <金物>

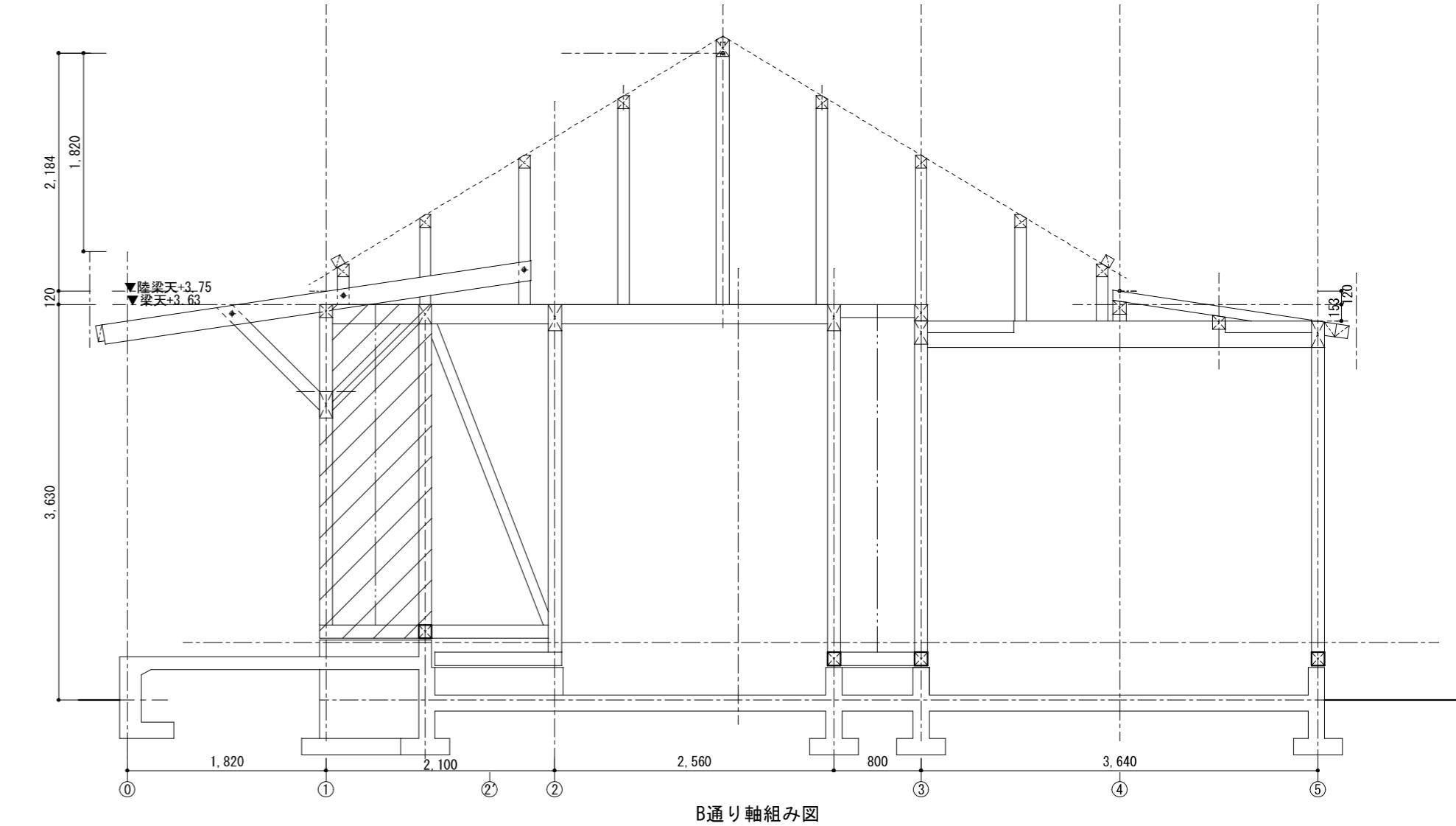
柱頭金物	
柱脚金物	
※記載なき柱：短ほぞ差し又はかすがい打	
C	かすがい打
L	L字型かど金物
T	T字型かど金物
V	山形フレート
P	羽子板ボルト
2	10kN引寄金物
HD10	10kN引寄金物
3	15kN引寄金物
HD15	15kN引寄金物
4	20kN引寄金物
HD20	20kNホルダーカ金物

記号 部位	仕様	備考
柱	120×120 桁 一等	
現し柱	120×120 桁 特一等	サンダー掛
土台	120×120 桁 一等	基礎通気（気密）パッキン厚20
大引	90×90 桁 一等	@910
+ 束	束	@910
・アンカーボルト	M12 L400 定着250上 (記載無き部分L2.7m以内設置角40口厚4.5)	
▶ 耐力壁	構造用合板厚12(特類)倍率2.5	倍率2.5(合板張り)
△ 耐力壁	45×90S 桁 一等	倍率2.0(筋かい)
▽ 耐力壁	45×90W 桁 一等	倍率4.0(筋かい)

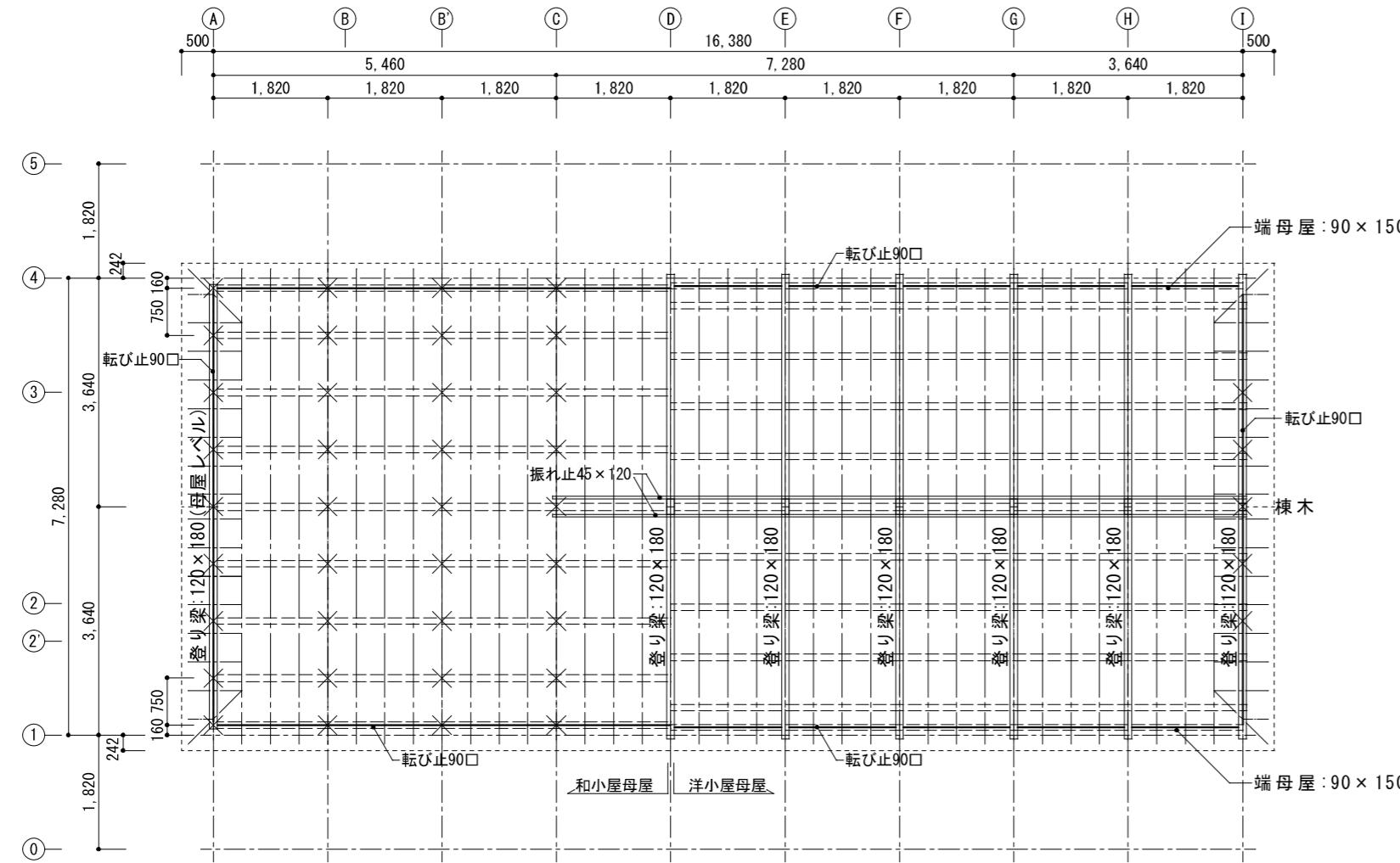




A通り軸組み図

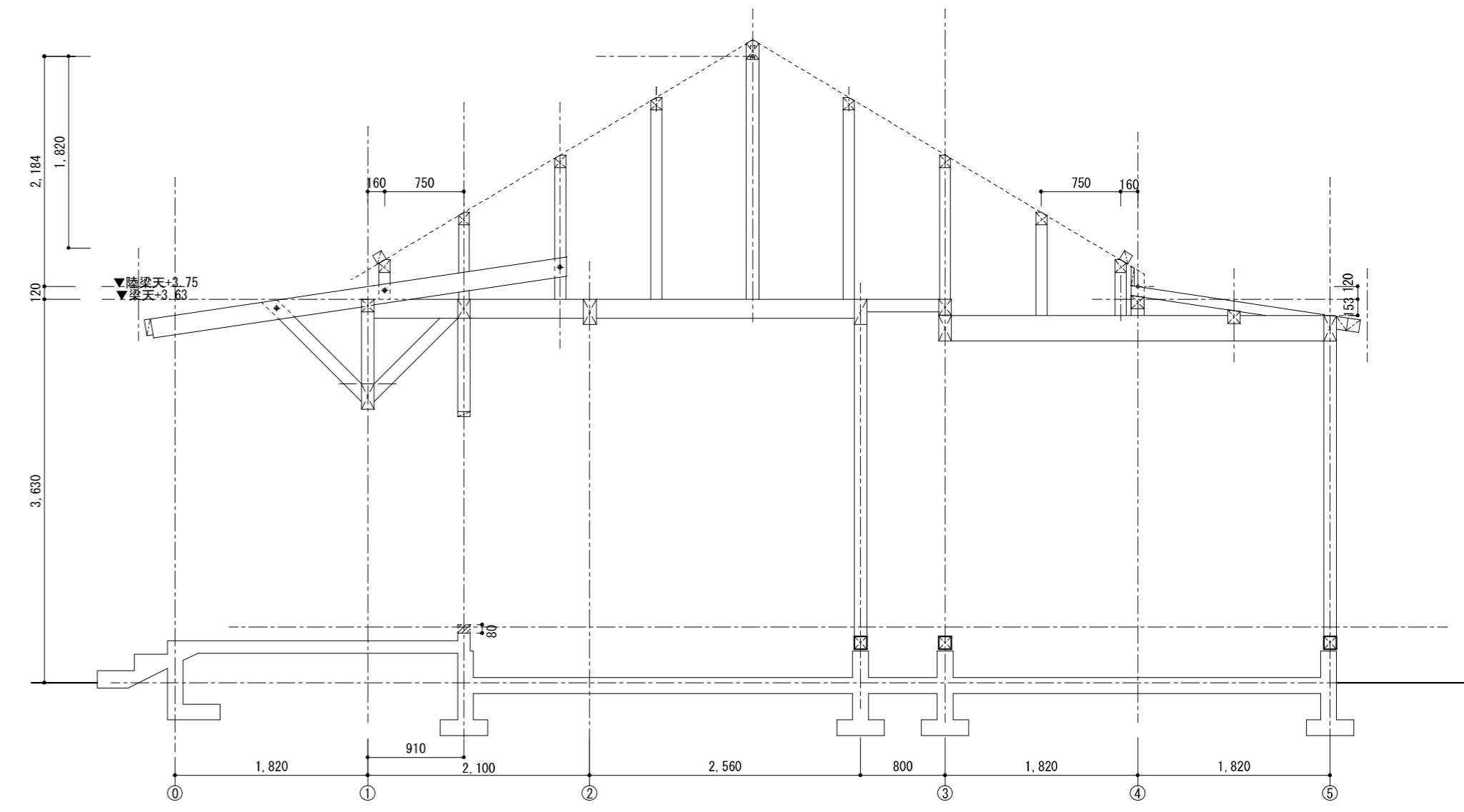


B通り軸組み図



小屋伏図 S=1:100

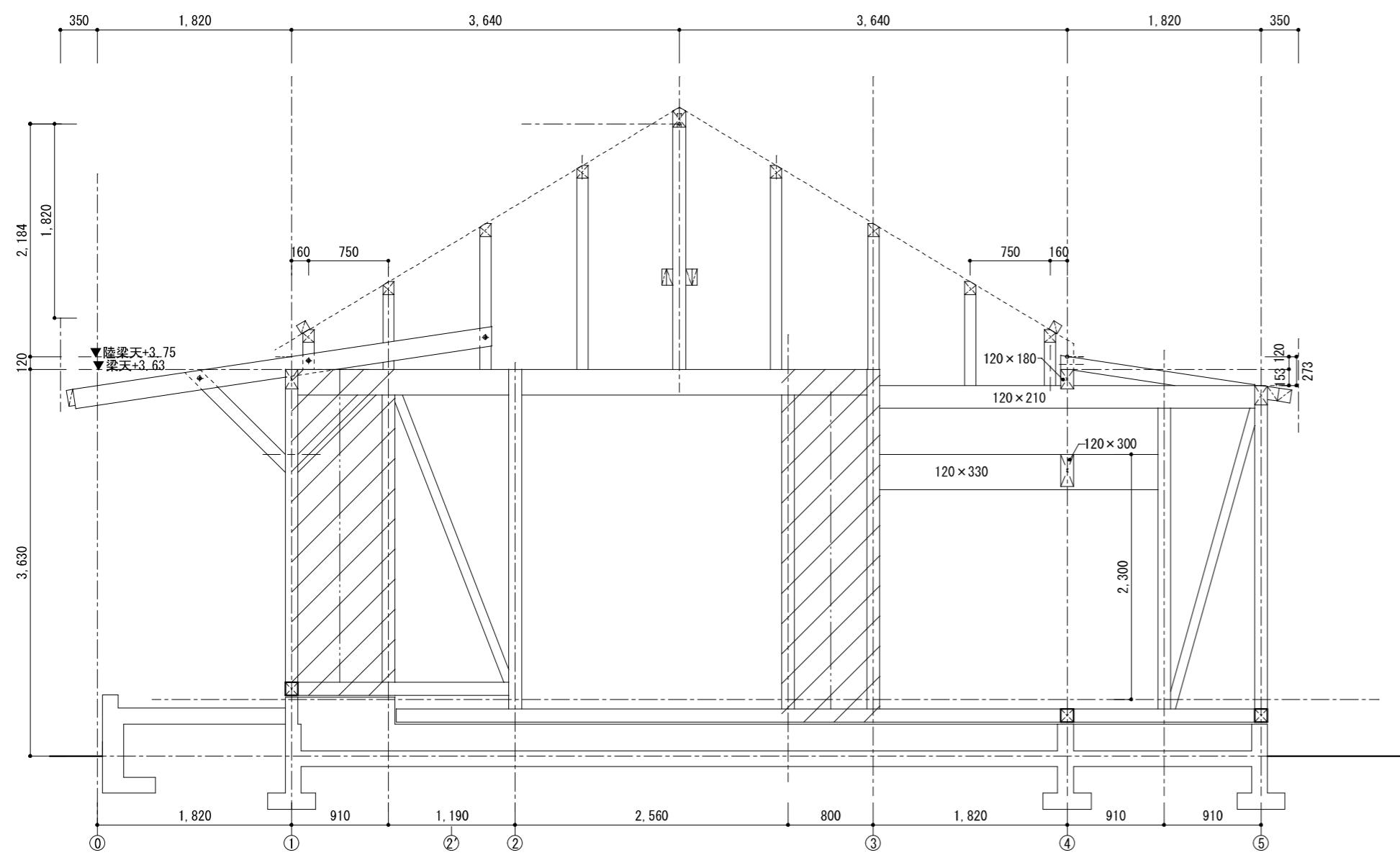
記号	部位	仕様	備考
×	下部束位置	120×120 杉 一等	
—	洋小屋母屋	105×150 杉 一等	@ 910 ※特記以外
—	和小屋母屋	105×120 杉 一等	@ 910
—	棟木	120×150 杉 一等	
—	垂木	45×105 杉 一等	@ 455 転び止90×90



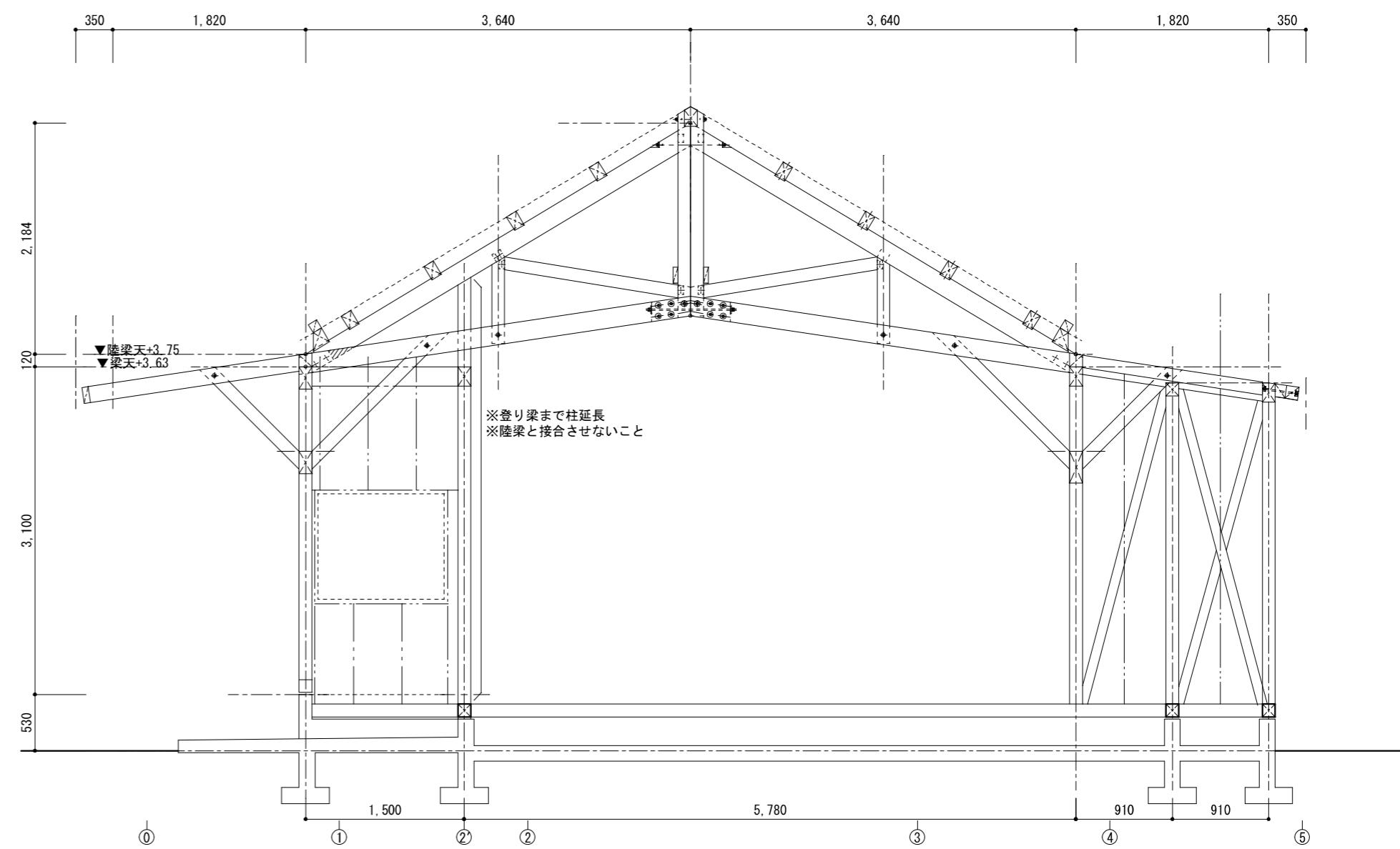
B'通り軸組み図

記号	部位	仕様	備考
—	間柱	45×120	
—	間柱	60×120 (耐力壁継目)	
▨	耐力壁	構造用合板厚12(特類)張り	

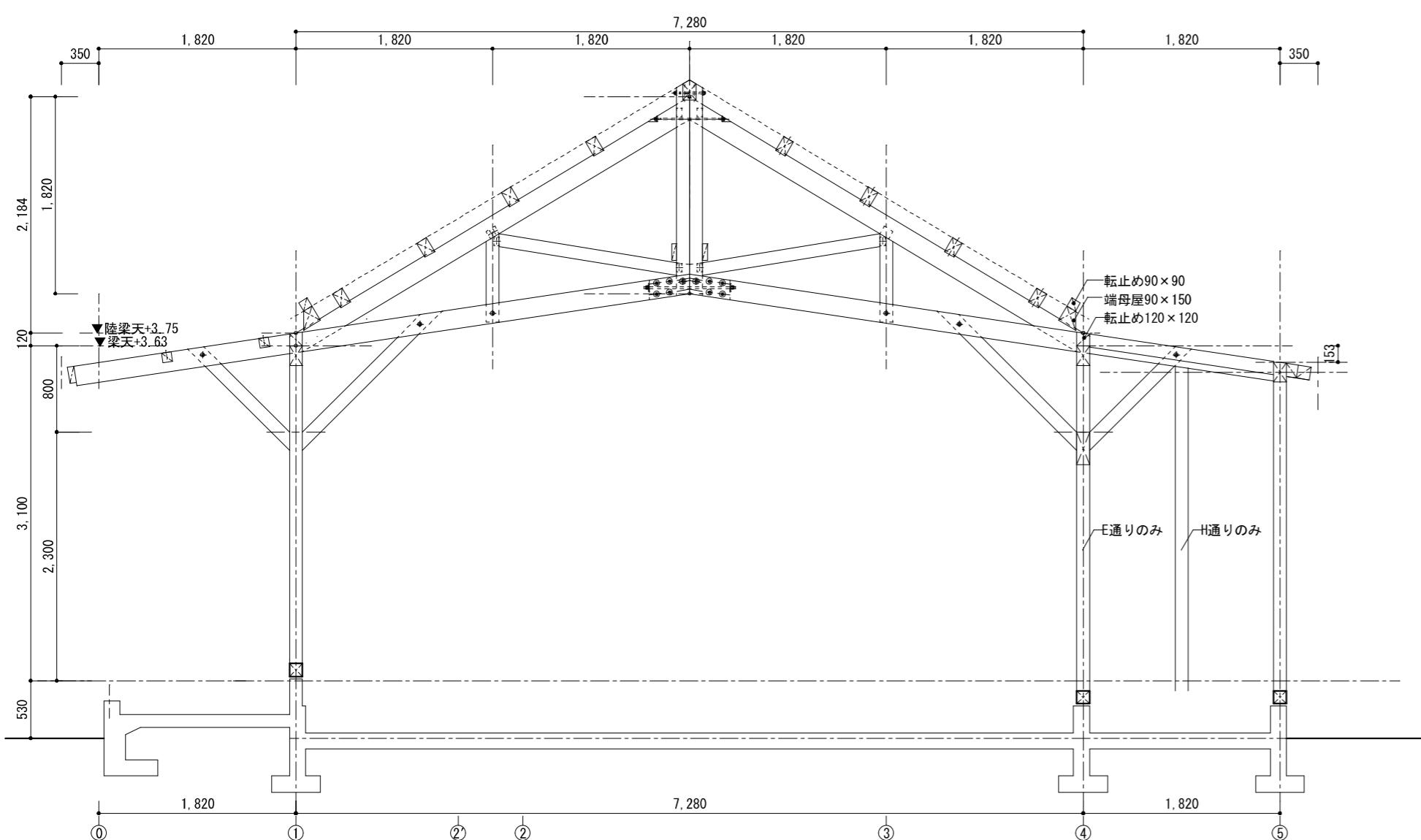
トラス部分はトラス標準詳細図による



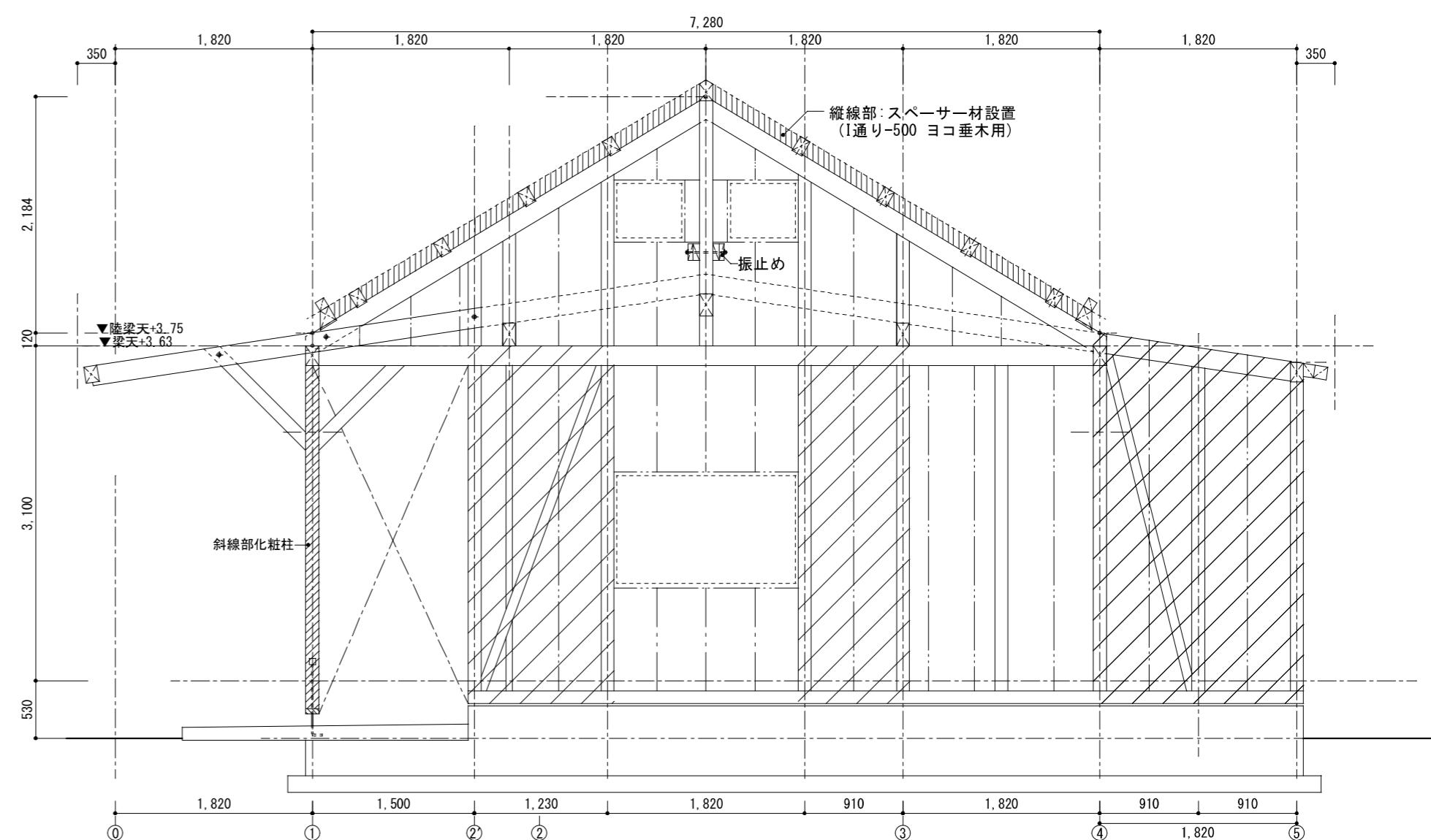
C通り軸組み図



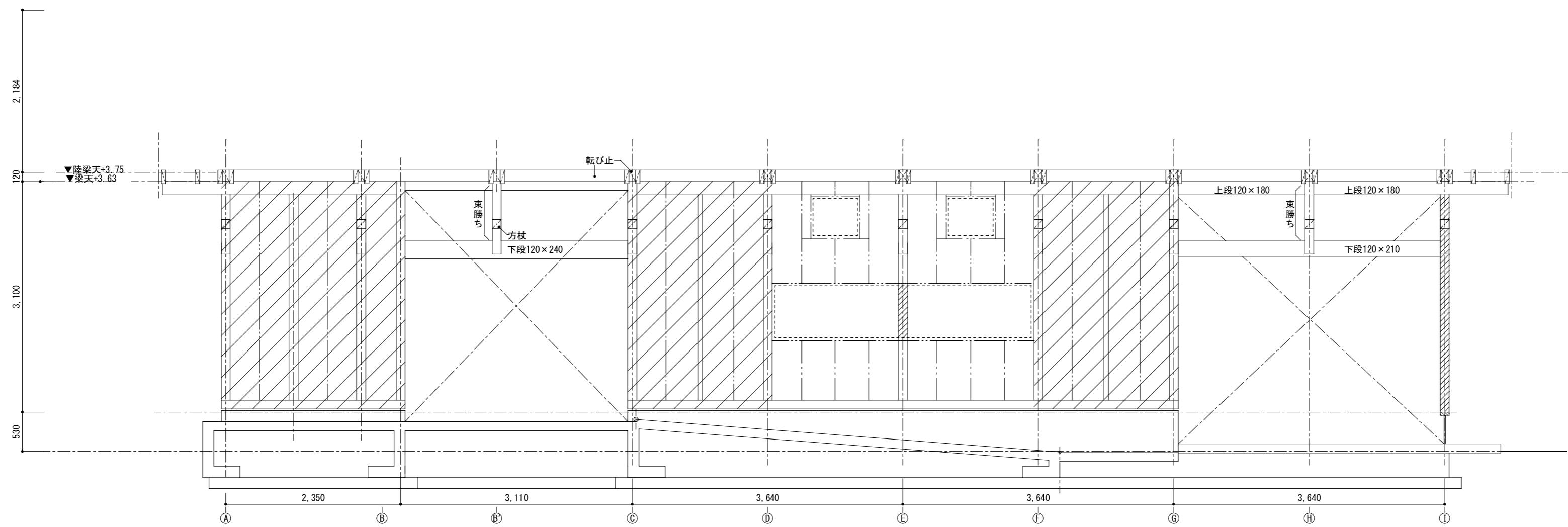
G通り軸組み図



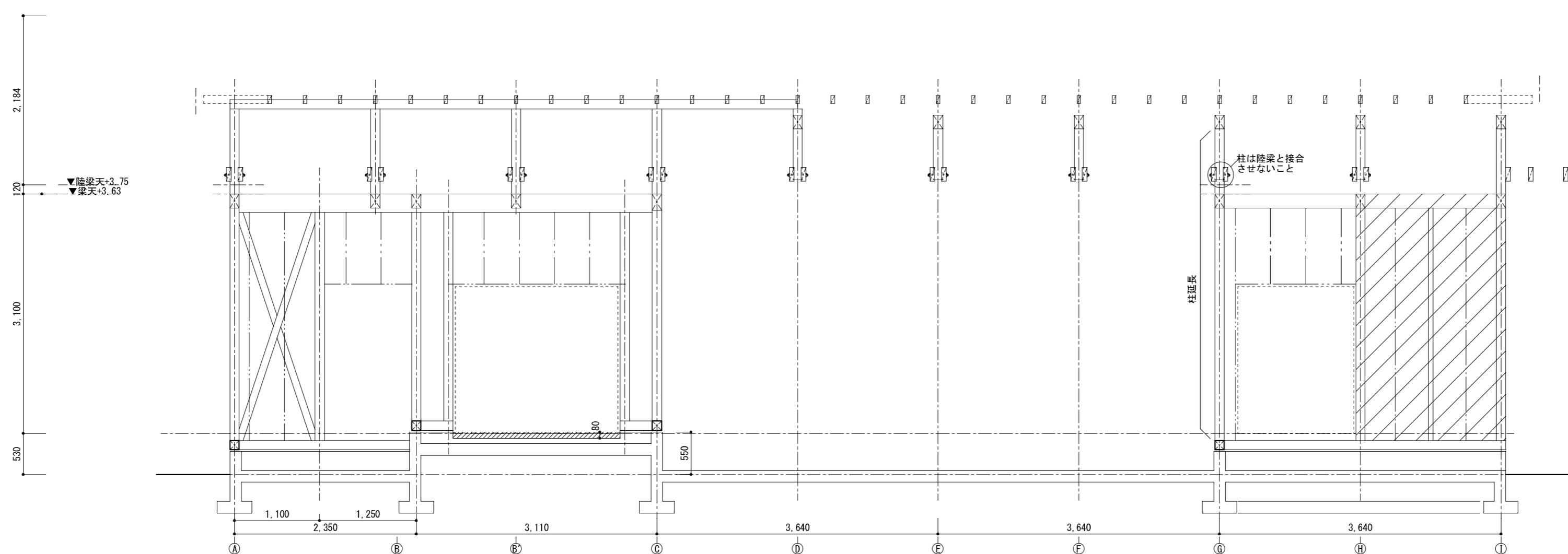
D, E, F, H通り軸組図



1通り軸組み図

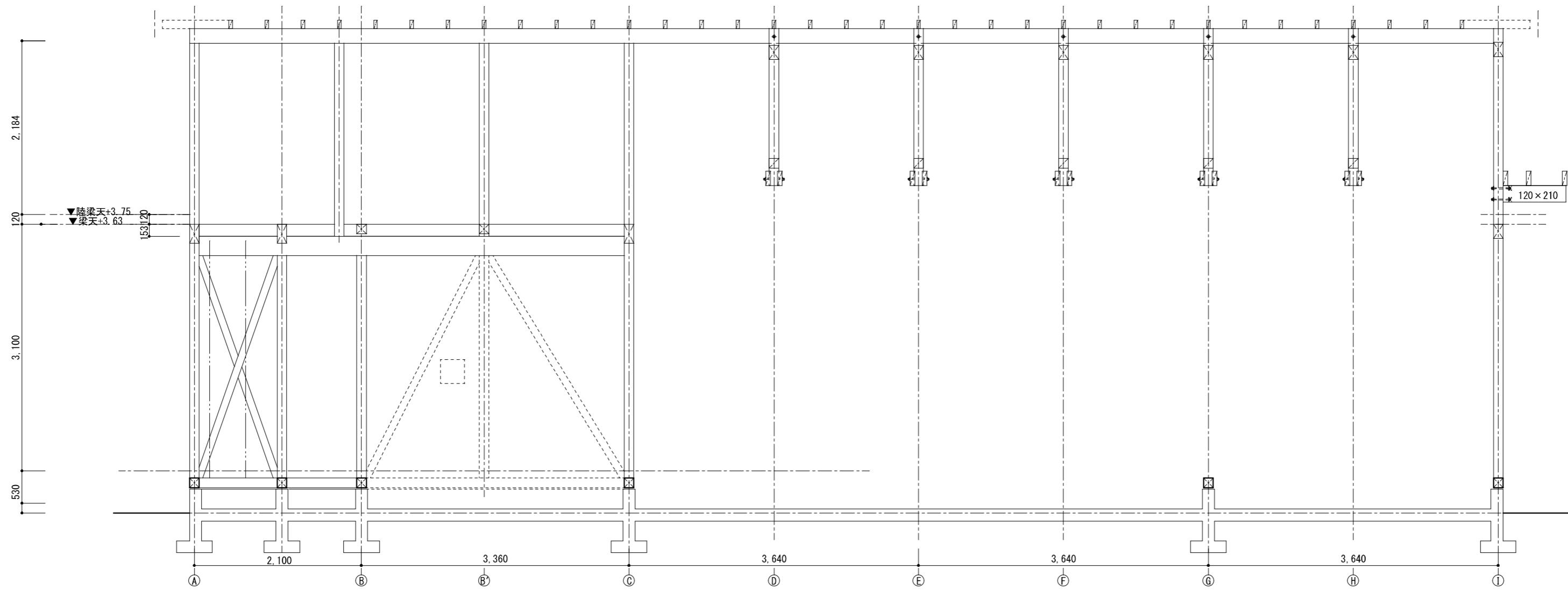


1通り軸組み図

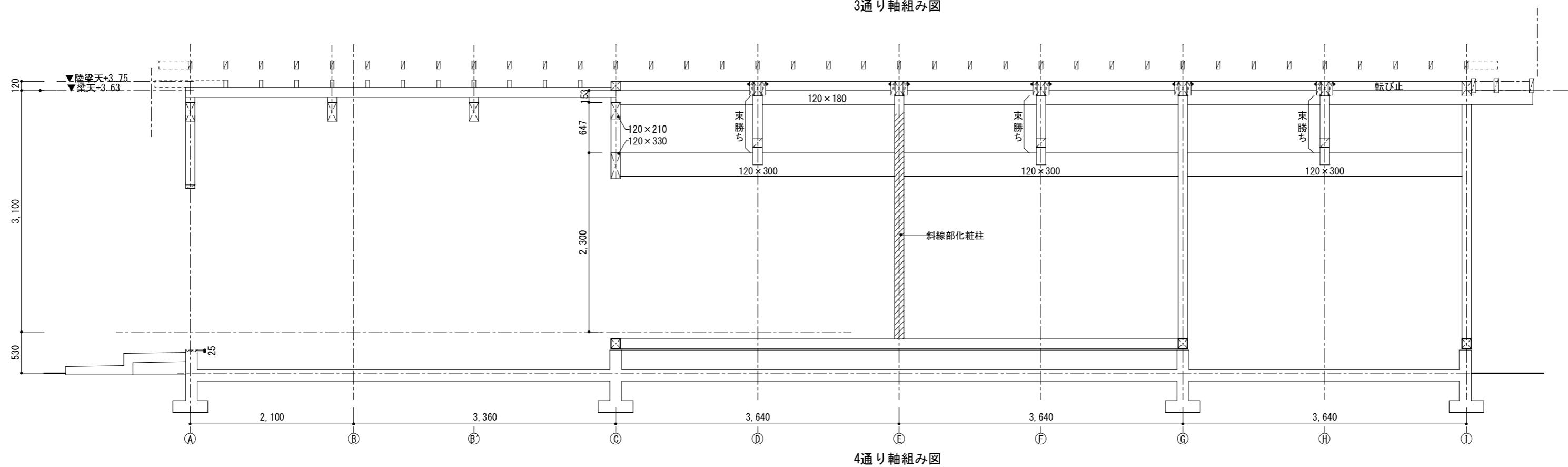


2通り・2'通り軸組み図

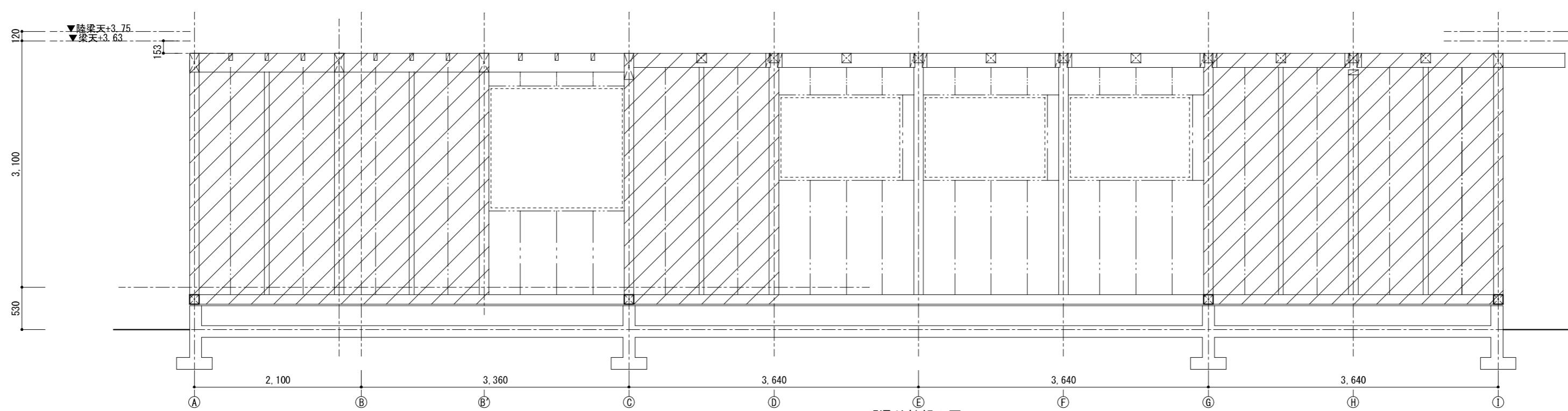
景 設 計 室	誠之放課後児童クラブ新築工事	軸組図3	scale	原図 : A2
三重県津市河芸町西千里 1510番地1 Tel:059-269-5074 Mail:ksekkei-shitsutsu@almond.ocn.ne.jp	一級建築士 第312324号 竹内 裕子		date	A-34



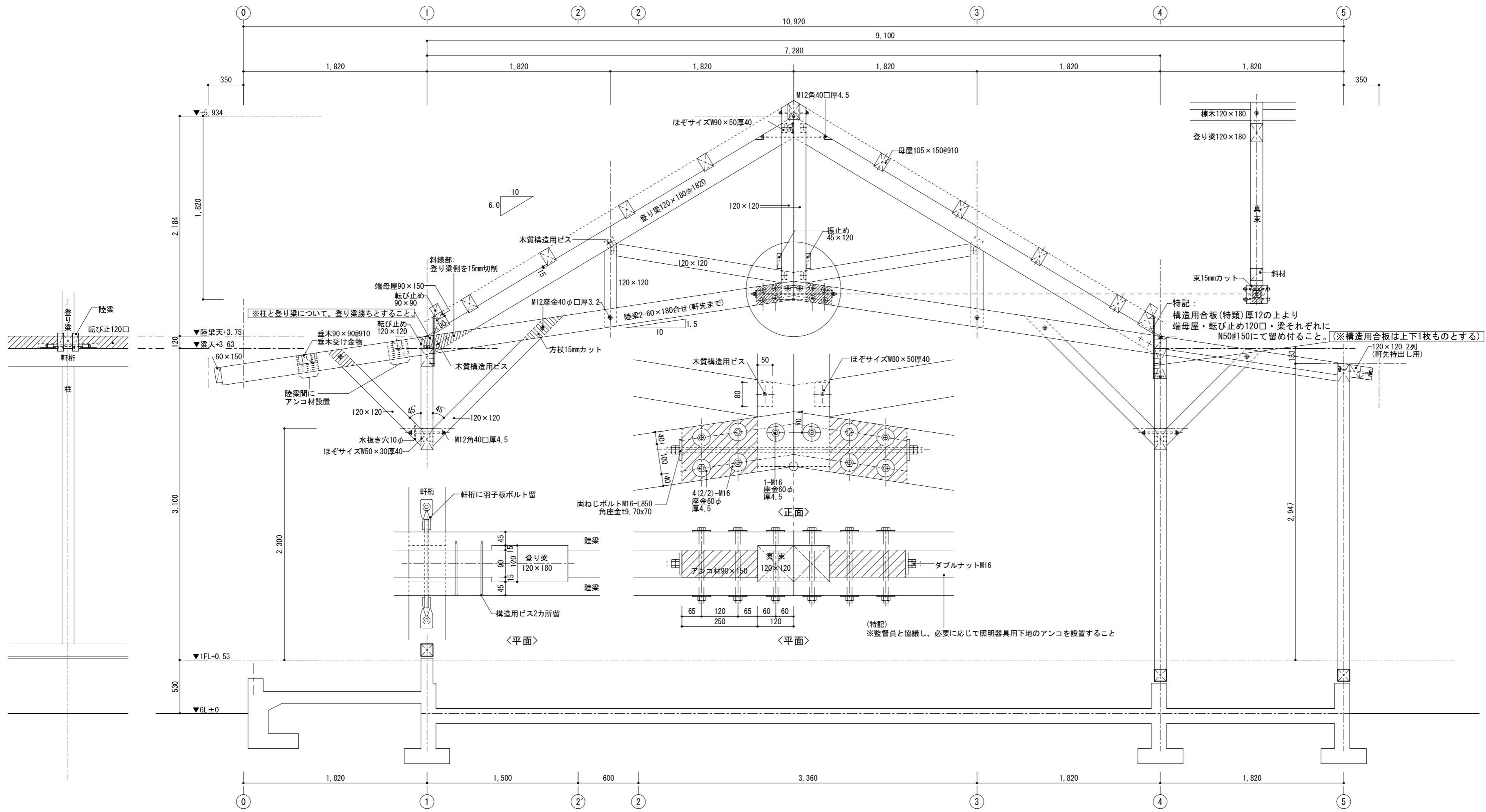
3通り軸組み図



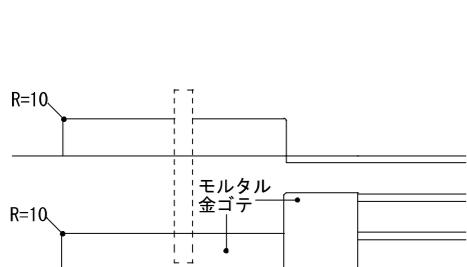
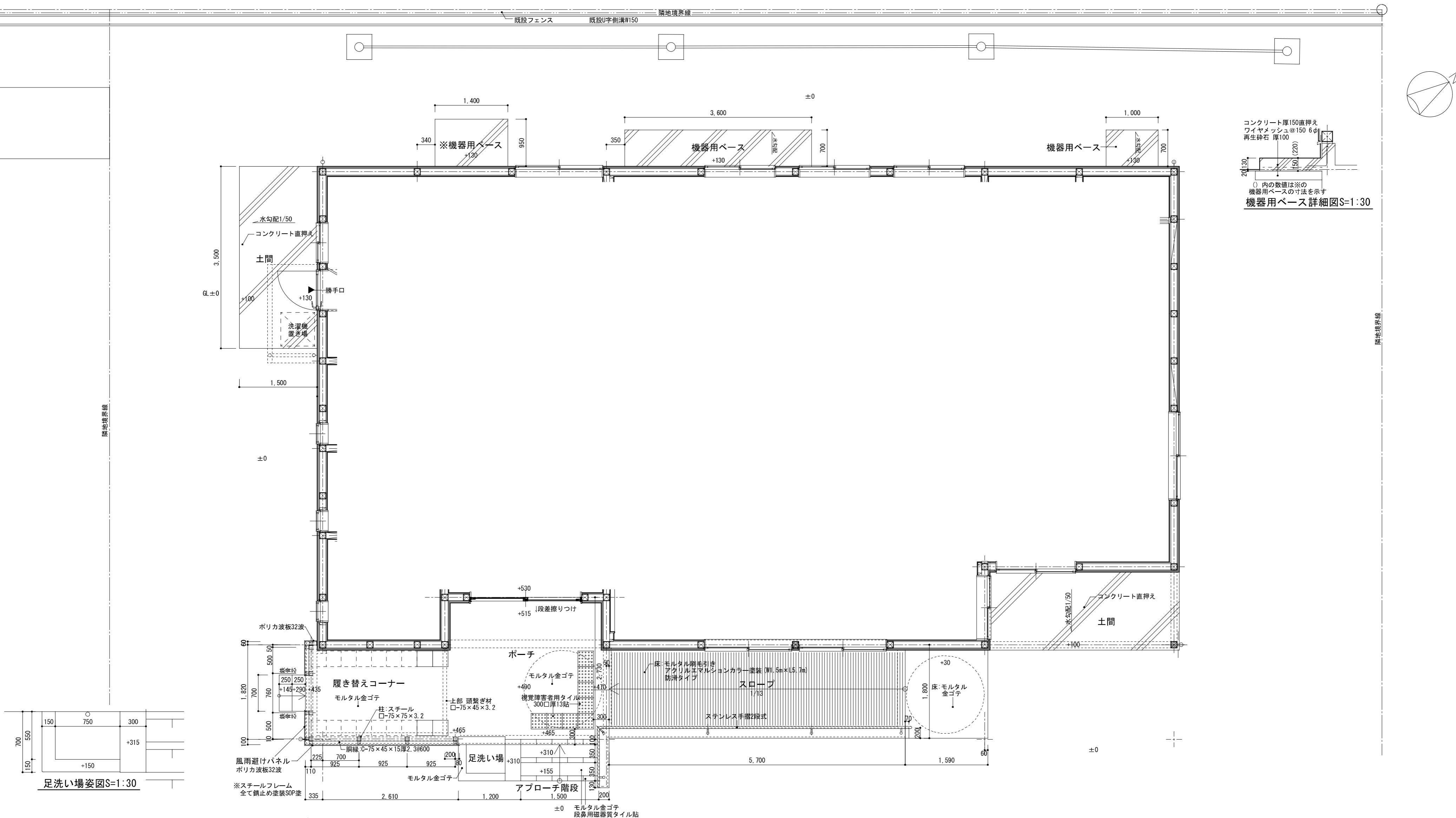
4通り軸組み図



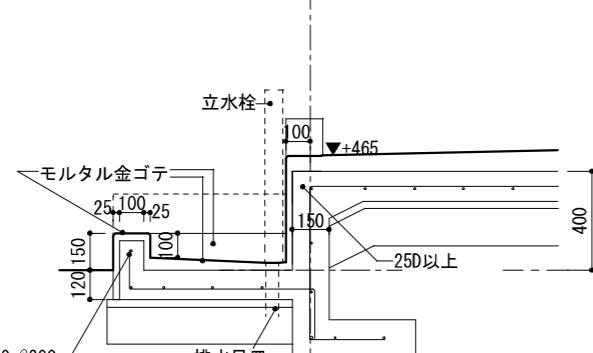
5通り軸組み図



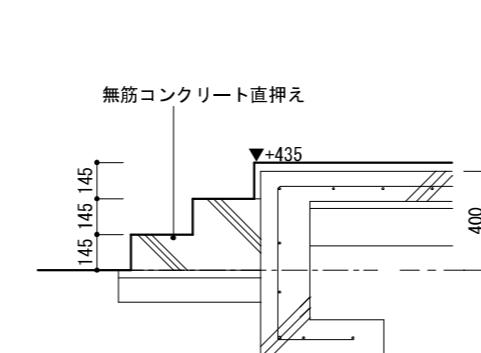
トラス標準詳細図



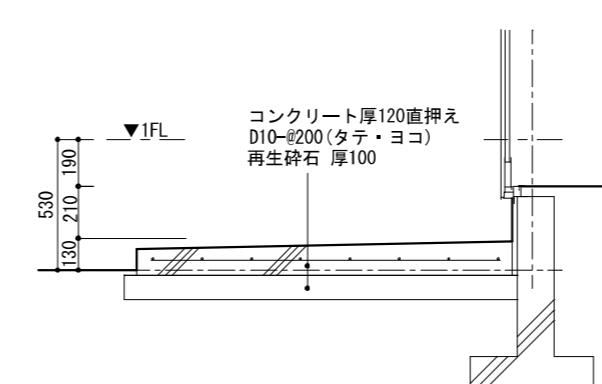
足洗い場姿図S=1:30



足洗い場詳細図S=1:30



履き替えコーナー階段詳細図S=1:3



土間部詳細図S=1:30

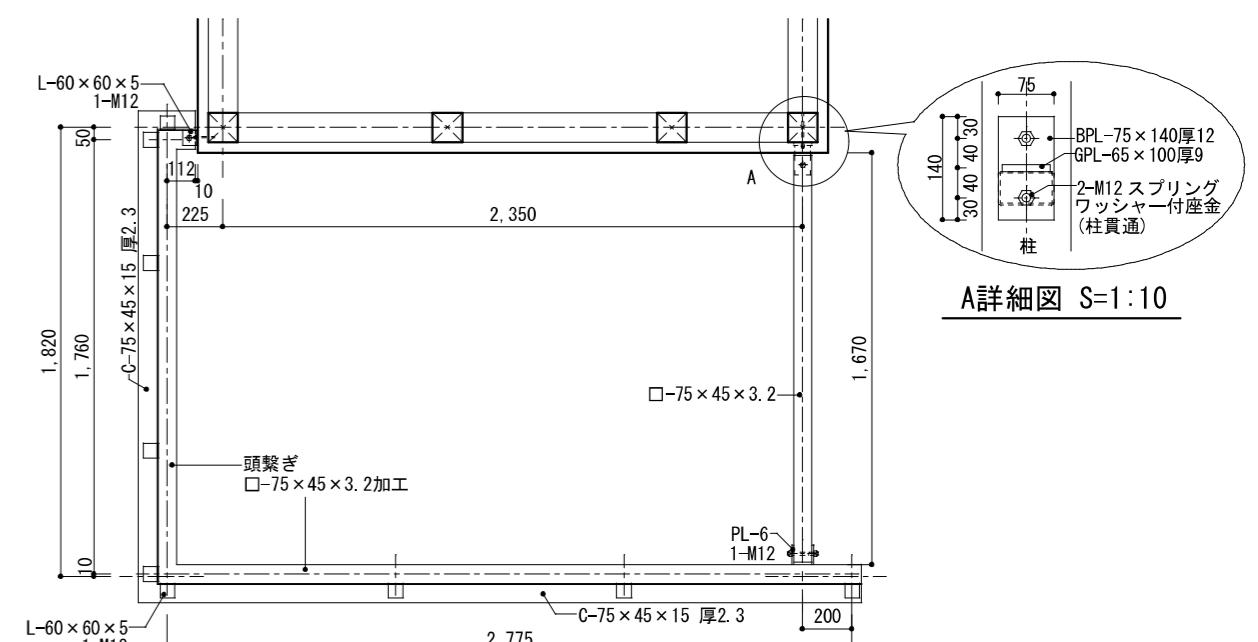
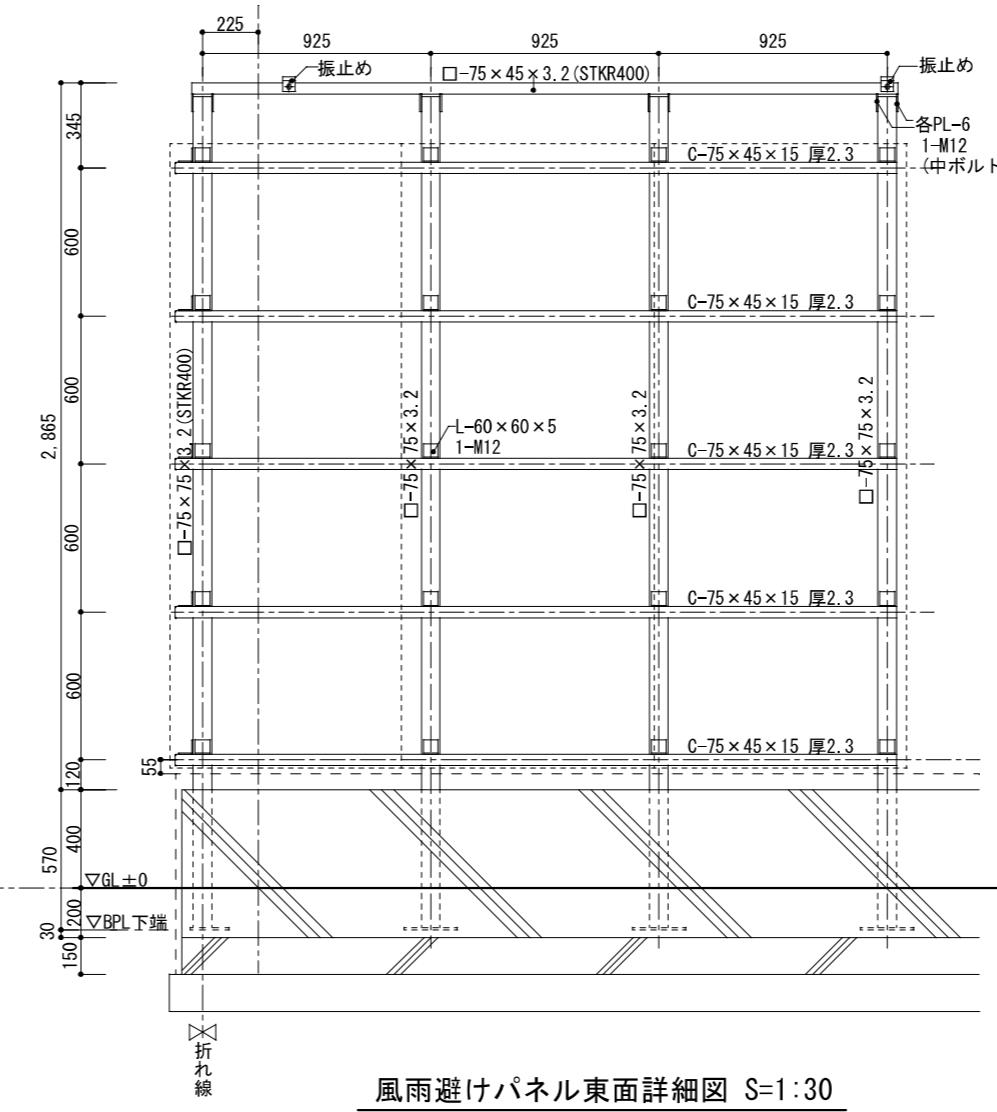
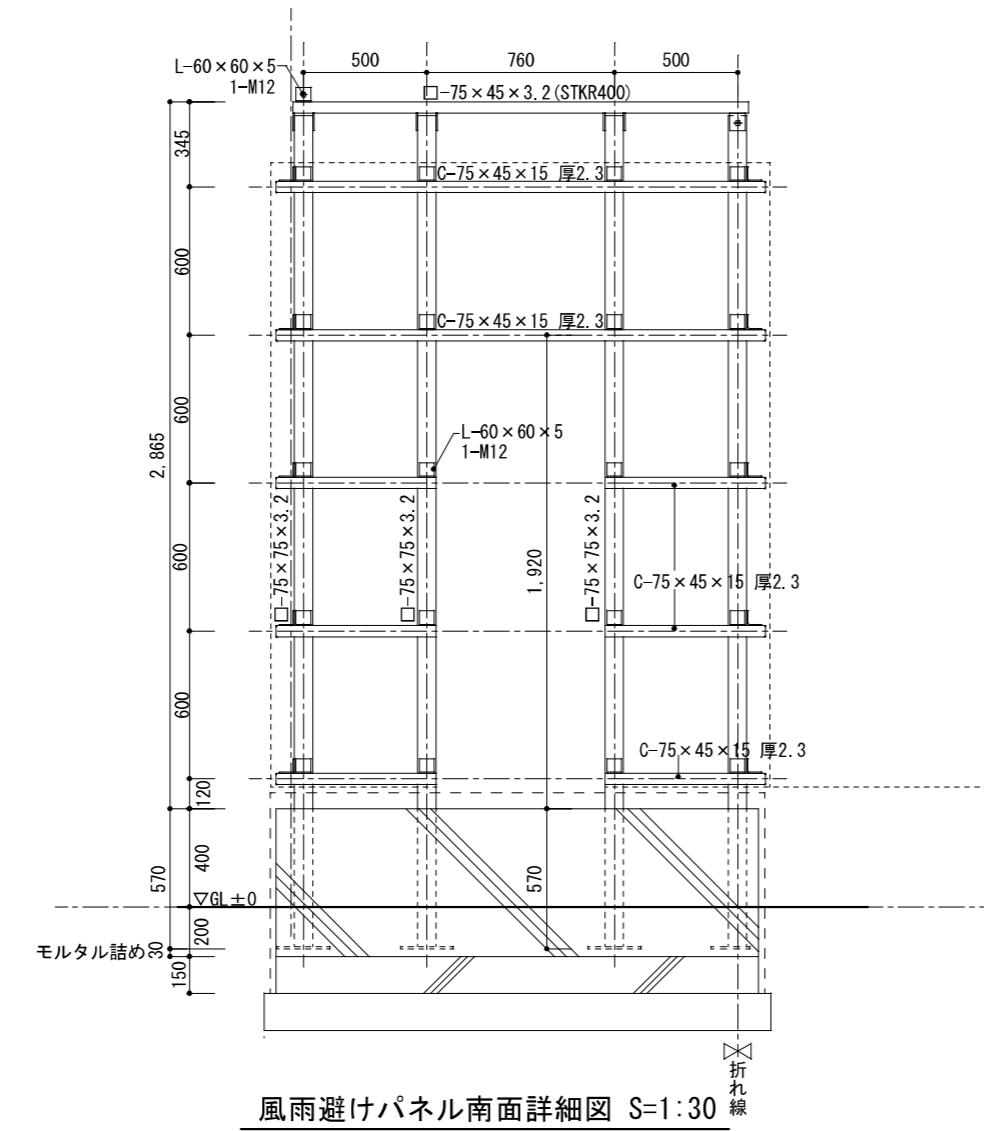
三重県津市河芸町西千里 1510番地 1
Tel:059-269-5074 Mail:ksekkei-shitsu@almond.ocn.ne.jp

誠之放課後児童クラブ新築工事

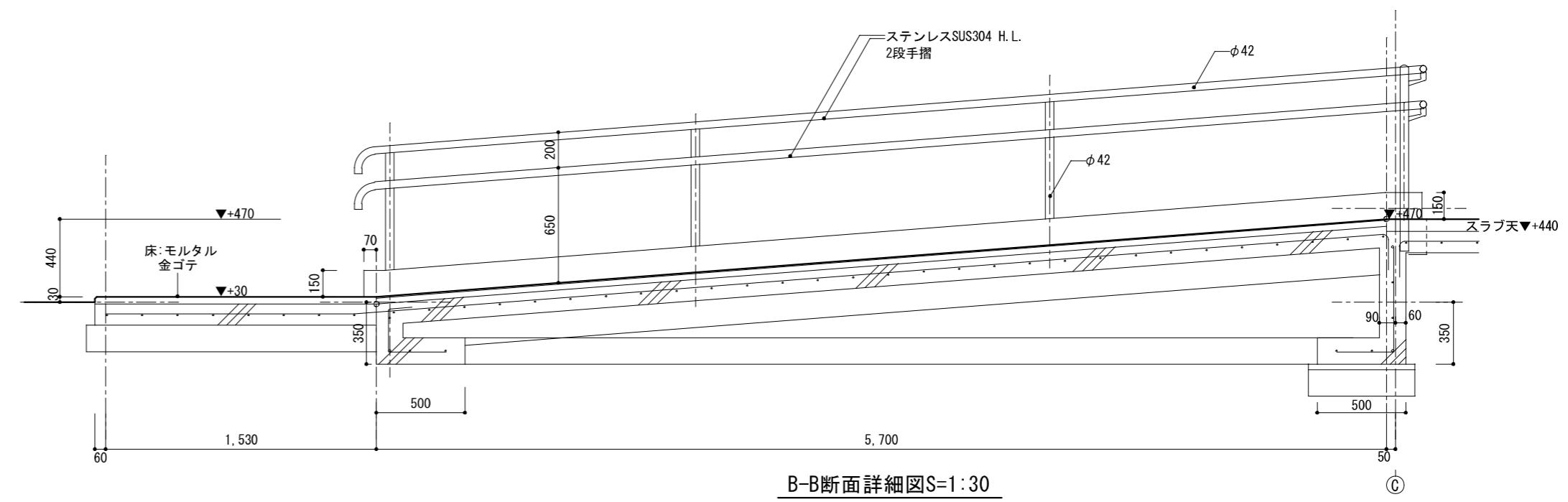
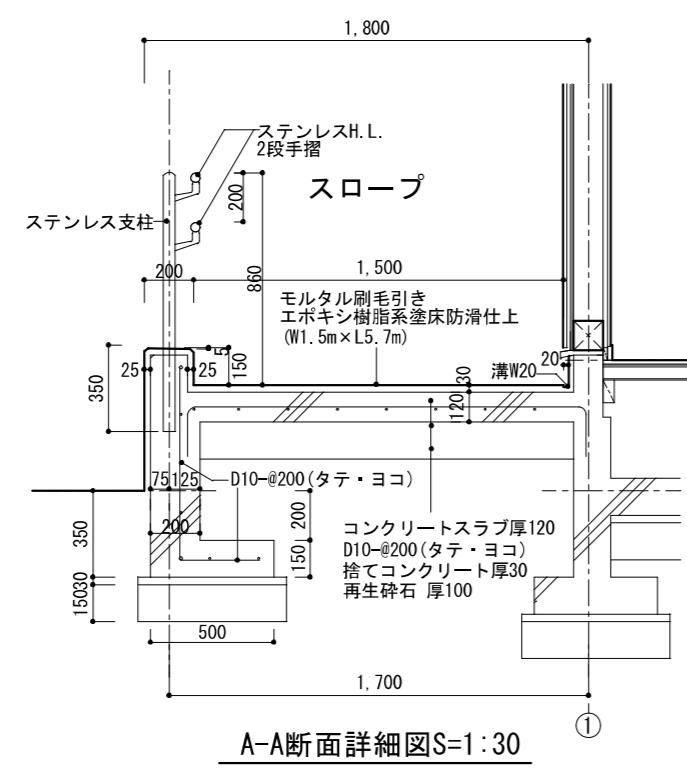
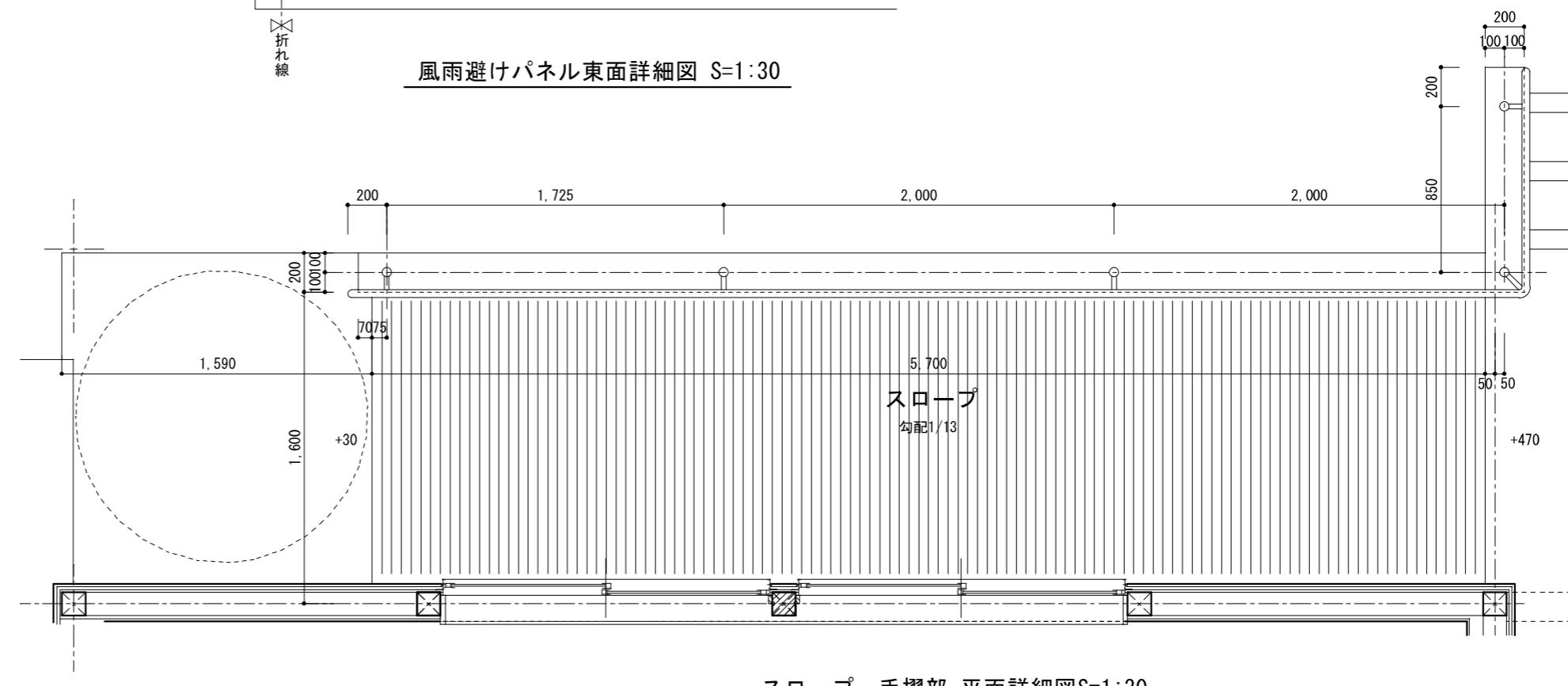
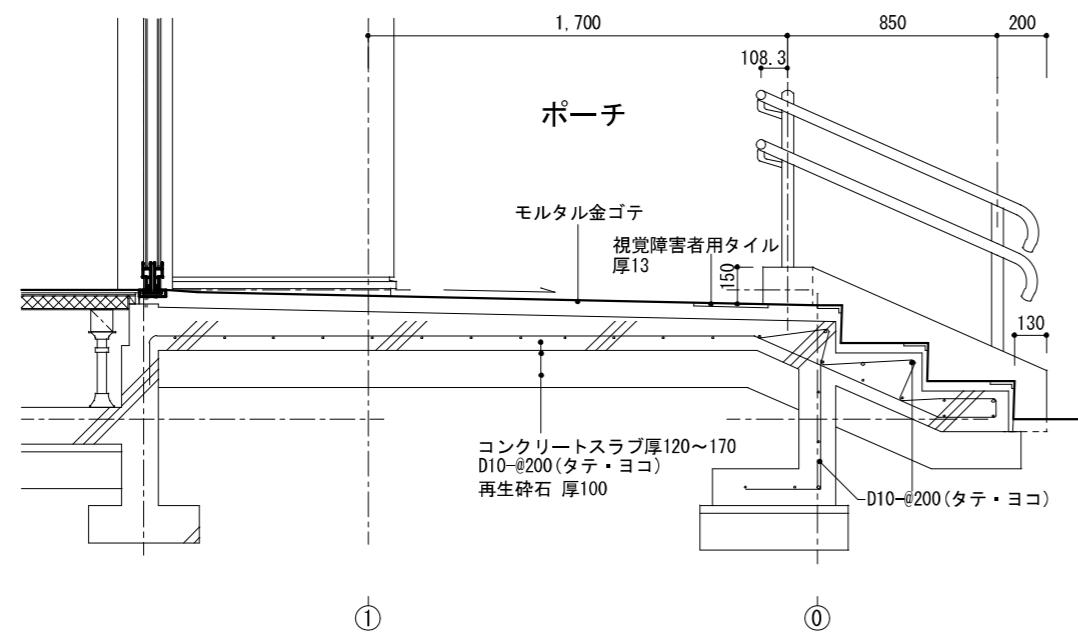
一級建築士 第312324号

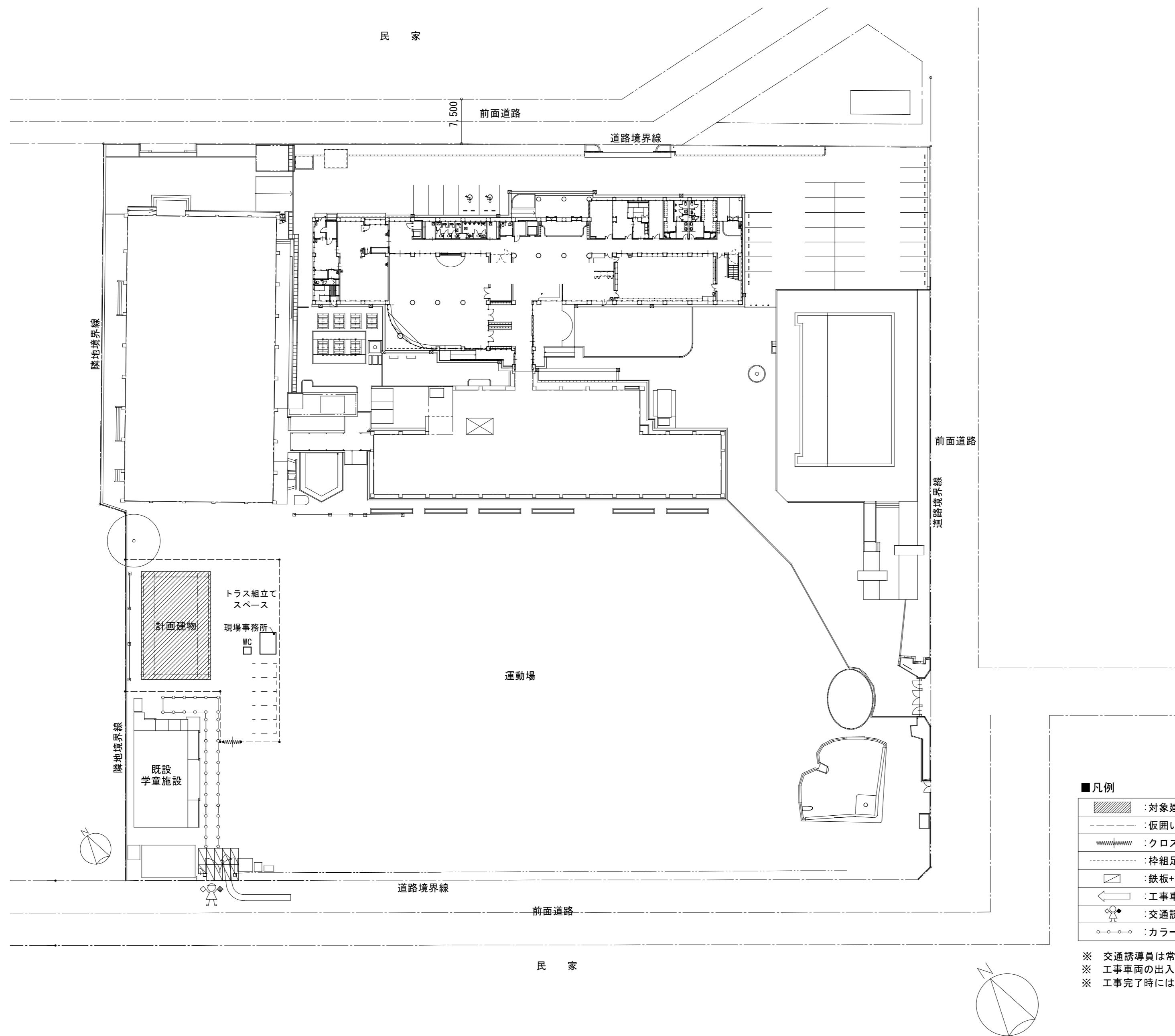
外構図

scale $S = 1:50$ $S = 1:30$ ate	NO. 原図 : A2 A-37
--	----------------------------



Wind and rain protection panel detail drawing S=1:30



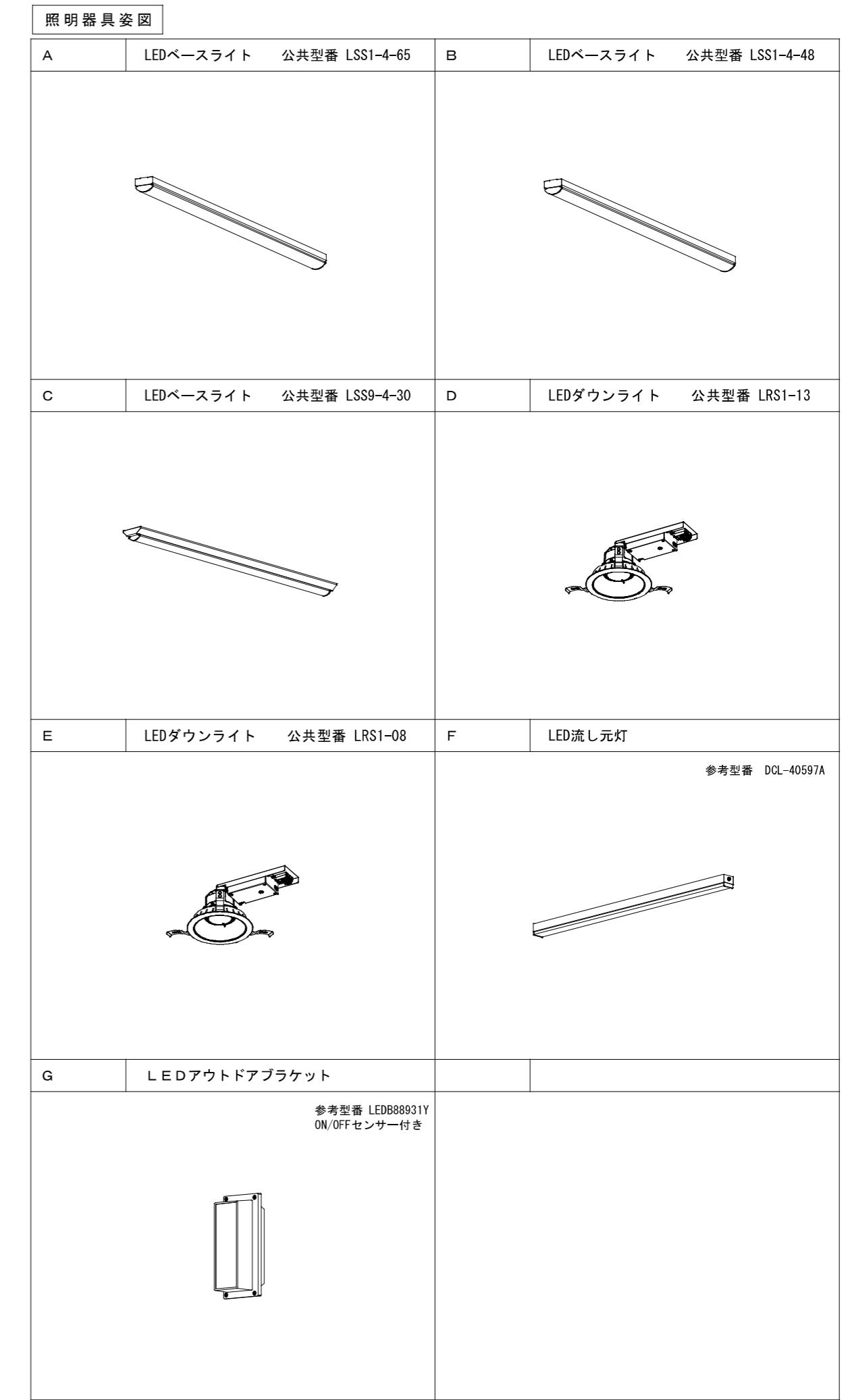
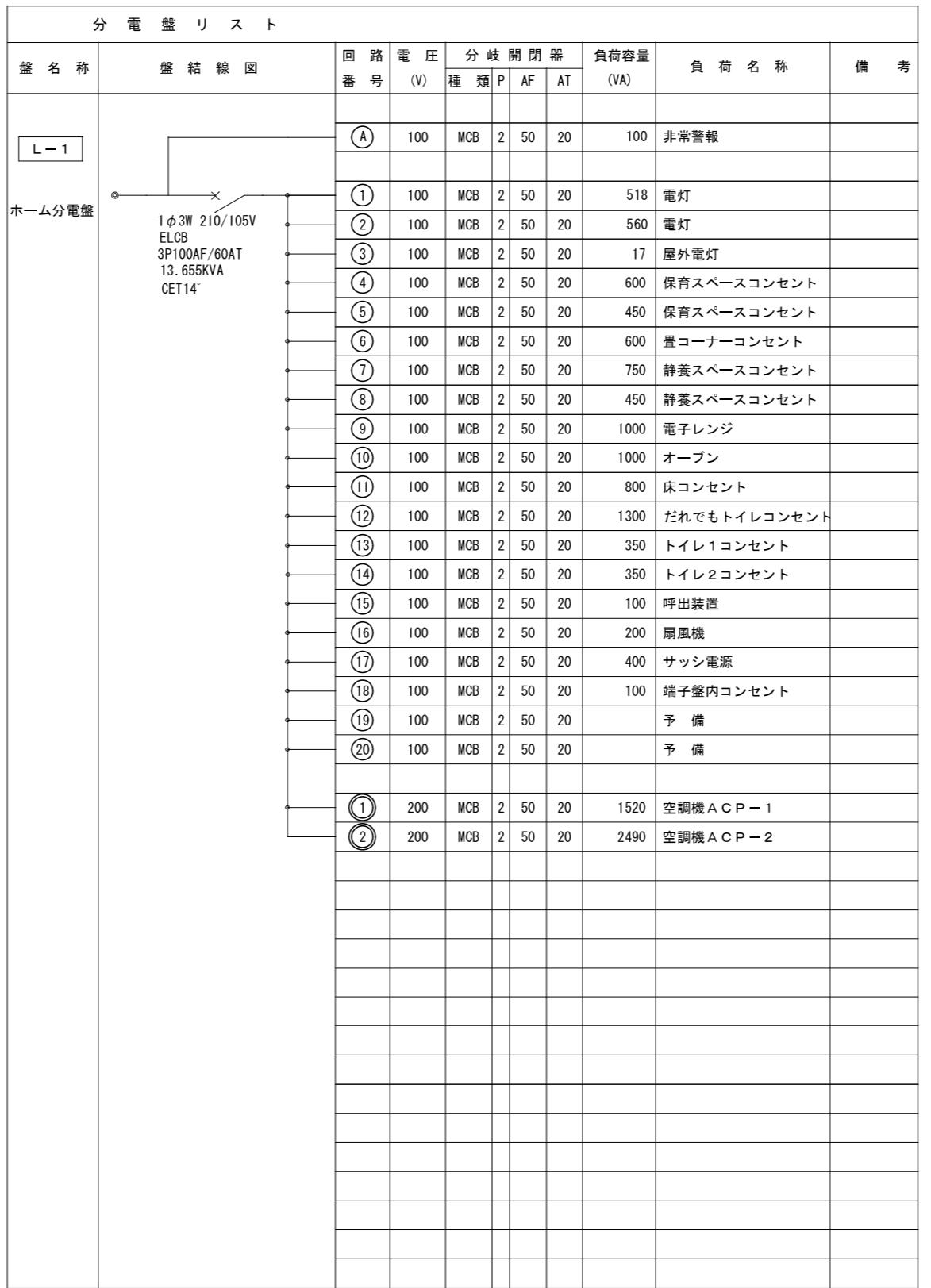
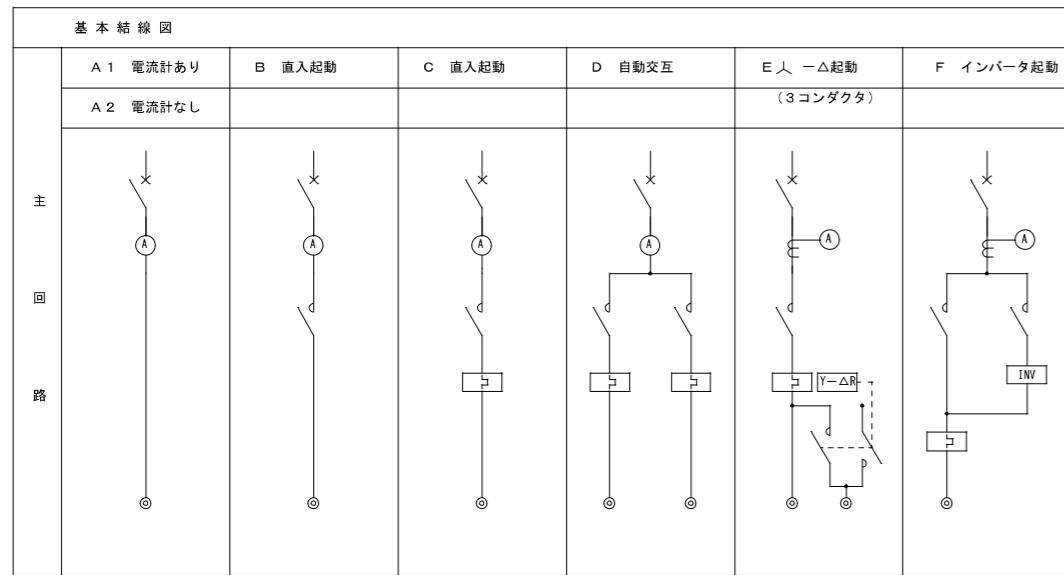


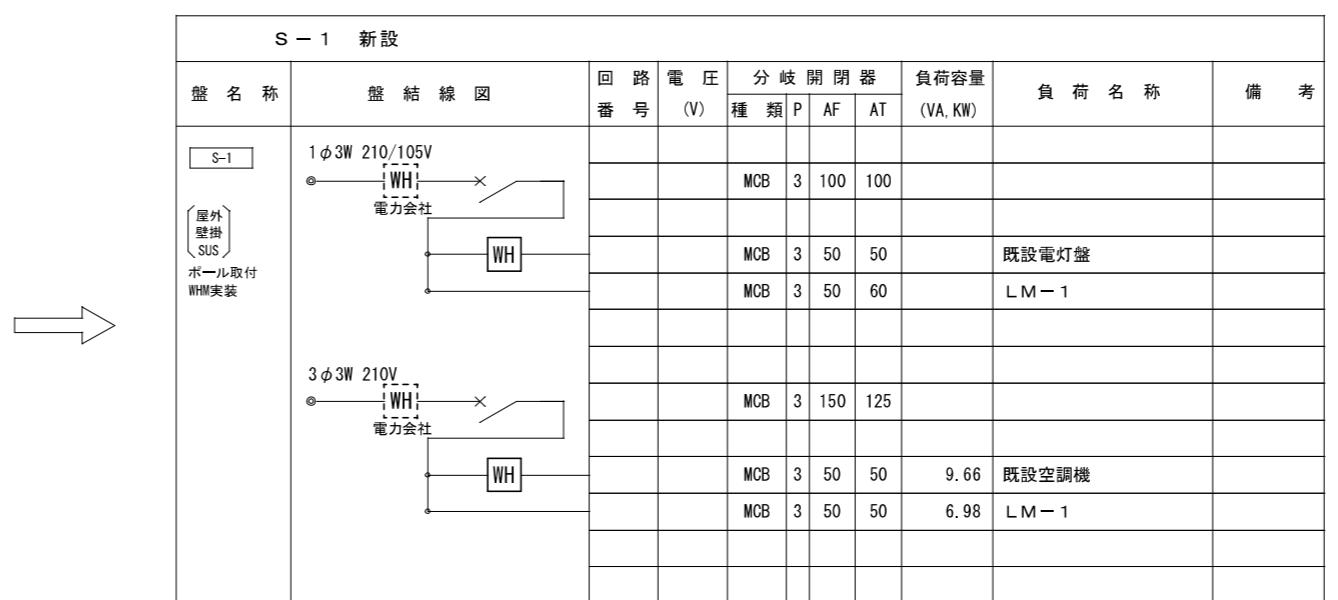
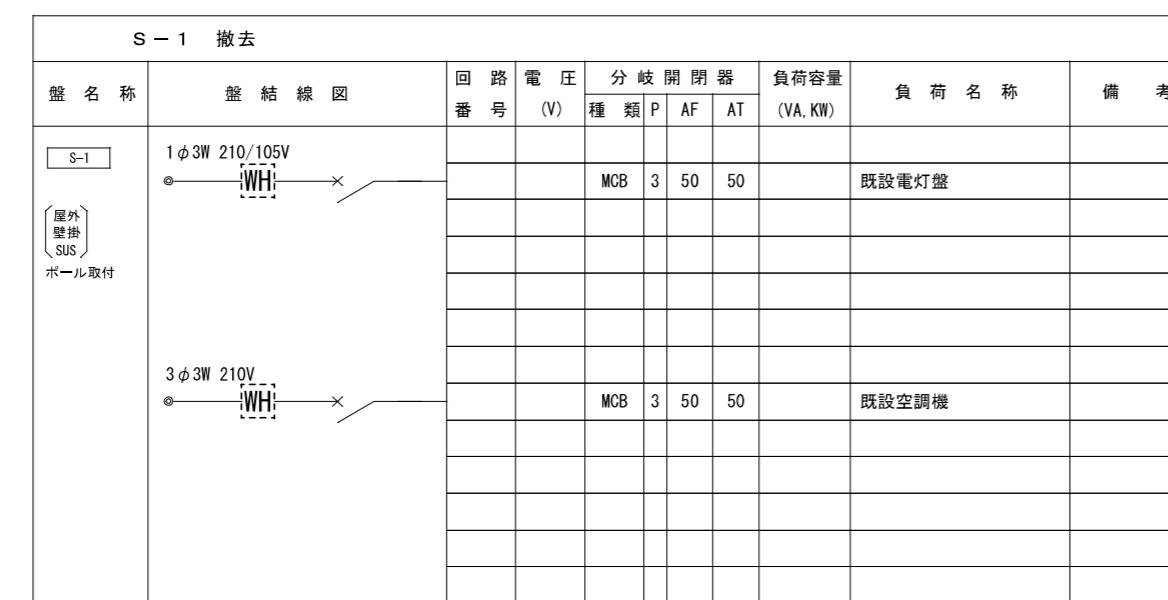
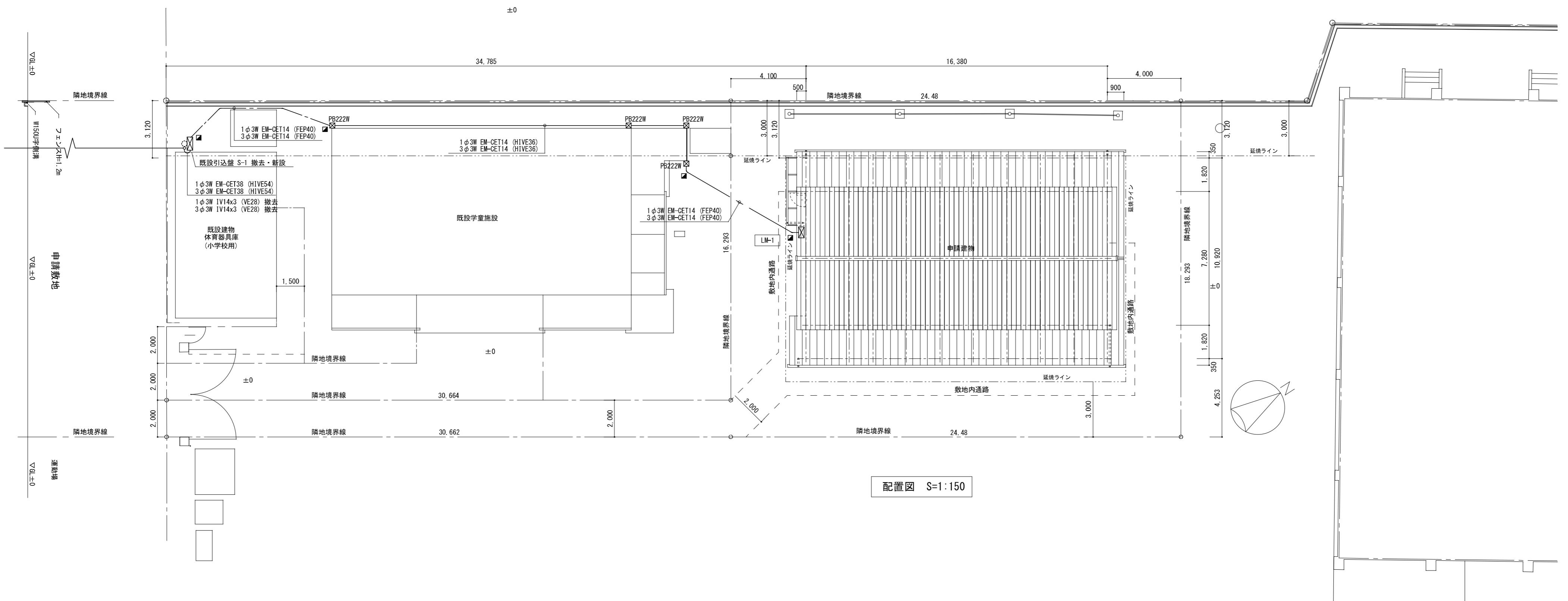
電気設備工事特記仕様書	
I. 工事概要	
1. 工事名称	誠之放課後児童クラブ新築工事
2. 工事場所	津市 久居西鷹跡町 地内
3. 建物概要	学童保育所棟 木造 平屋建 延べ面積151.25m ² 用途区分(7項)
4. 工事種目	用途区分は消防法施行令別表第一による表記 下記において●印を付した工事を対象とする。 ●電力設備 ・受変電設備 ・電力貯蔵設備 ・発電設備 ●通信・情報設備 ・中央監視制御設備 ・医療関係設備 ●構内配電線路 ・構内通信線路 ・その他
II. 共通仕様	
図面及び特記仕様書に記載されていない事項については下記による。	
・国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 「公共建築工事標準仕様書」(建築工事編・電気(機械)設備工事編 各令和4年版) 「公共建築改修工事標準仕様書」(建築工事編・電気(機械)設備工事編 各令和4年版) 「公共建築設備工事標準図」(電気設備工事編・機械設備工事編 各令和4年版) ・電気設備に関する技術基準を定める省令(電気設備技術基準) ・電気工事業の業務の適正化に関する法律 ・電気工事士法 ・労働安全衛生法 ・消防関連法規(条例・所轄署指導要領を含む。) ・電力会社供給約款 ・その他関連法令、関連諸基準	
III. 一般共通事項	
下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。	
1. 一般事項	
(1)工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各施工基準に準拠し監督員指示の下に入念かつ誠実に施工すること。 (2)設計図面に定められた内容、現場の納まり・取り合い等の不明な点や施工上の困難・不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等に起因する問題点及び疑義、設計図書とのおりに施工することで将来不具合が発生しうると予想される場合については、その都度、監督員と協議すること。 なお、設計図書のよりの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は、協議のうえ改善策を講じること。 (3)他工事との取合いについては予め当該工事関係者間において協議し、円滑な工事進捗に努めること。調整不足による意匠的な仕上がり不備や不具合が発生した場合は、監督員の指示により手直し施工を行うこと。	
2. 足場	
設置する足場について、「手すり先行工法等に関するガイドライン(厚生労働省平成21年4月)」により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中柱及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立てに関する基準」の2の(2)手すり据置き型式又は(3)手すり先行工用足場方式により行うこと。 内部足場の種別(参考) ・脚立 ・棚板足場 ・その他() 外部足場の種別(参考) ・手摺先行据置枠組本足場 ・移動足場 ・高所作業車 ・その他() 外部足場設置範囲(参考) ・外部改修部 ・設備改修部 ・昇降用 ・転落防止用防護シート等による養生 ・適用する ・適用しない	
・足場の組立て後、足場に關する十分な知識と経験を有する者により点検を行い記録を保存すること。 つり足場、張出し足場又は高さが10m以上の足場で、組立てから解体までの期間が60日以上のものについては、組立て後監督員立ち合いの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に關する十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。 なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とする。 1)足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受けた者 2)労働安全衛生法第8条に規定する労働安全コンサルタント(区分が土木又は建築である者、や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等第8条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」)に必要な資格を有する者 3)全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労災防護協会が行う「施設管理業者のための足場点検実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のため行う教育、研修又は講習を修了するなど、足場の安全点検について、上記1)又は2)に掲げる者と同等の知識・経験を有する者	
3. 三重県産業廃棄物税 本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者が課税対象となった場合には、完成年度の翌年度の4月1日から8月31日までの間に、別に定める様式に産業廃棄物税納付証明書を添付して、当該工事の発注者に対して支払請求を行うことができる。 なお、この期間を超えて請求することはできない。また、産業廃棄物処理集計表(マニフェストの数量の集計)を超えて請求することはできない。	
4. 電気工作物の種類 ●一般電気工作物 ・自家用電気工作物	
5. 電気工事士 電気工事士法の区分により施工するものとし、契約電力が500kW以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工するものとする。	
6. 電気工事業の業務の適正化に関する法律 電気工事の施工場所ごとに、その見やすい場所に、氏名又は名称、登録番号その他の経済産業省令で定める事項を記載した標識を掲げなければならない。	

7. 電気保安技術者 電気工作物に係る工事は電気保安技術者を配置し、工事期間中の電気工作物の保安業務を行う。 また、電気主任技術者が選任されている施設においては、電気主任技術者に工事内容の説明を行い、工事の調整にあたる指導を受けるものとする。 なお、電気主任技術者の立会費用は、下記のとおりとする。 ・受注者負担 ・不要 ・その他()	
8. 品質管理 工事施工に関して、着手前・施工途中・施工後の自主検査を実施すること。 チェックリスト等を作成し、管理を行うこと。	
9. 出来形管理 以下の項目について、出来形管理の対象として管理を行うこと。 ①各種盤据付 耐震強度(設計標準震度、アンカーの種類・サイズ確認・埋め込み深さ) 基礎寸法 水平垂直 ②配管・配線工事 支持間隔 ③スイッチ類の取付高さ	
10. 測定機器の校正等 試験に使用する計測器類は2年以内の校正証明書(写)又は有効期限内の精度保証書(写)等を提出する。 また、照度計、騒音計、振動レベル計等の特定計量器を用いて計測する場合は、計量法に基づく検定に合格し、かつ検定有効期限内のものを使用する。	
11. 施工計画等 受注者は施工に先立ち、次の書類を提出し監督員と打合せを行う。 なお、書類の作成においては、関連する関係者と十分に調整すること。 ①総合施工計画書 包含工事の場合は、電気設備工事施工計画書とする。 ②工種別施工計画書(施工要領書) 各種工種ごとに作成し、停電及び搬入計画書も作成する。 ③施工図(プロット図、平面図、展開図、各種詳細図) 主要機器、重量機器、3kg超吊器具類等については、固定方法、吊り方法等の詳細図を作成し、十分な耐震性能を確保する施工方法を提案すること。 ④耐震計算書 ⑤照度分布図	
12. 機材等 工事に使用する材料及び機器等については、次の書類を提出する。 ①使用機材届出書 ②機器明細図 使用機材届出書に記載のもの他、監督員の指示による。 ③各種計算書 設計図書による他、監督員の指示による。	
13. 完成図書 作成する(● 完成図 ・ 保全に関する資料 ・ ()) 完成図作成範囲(設計図を訂正) 完成図はCADにより作成することとし、著作権(著作権法第27条及び第28条に規定する権利を含む)にかかる使用権は発注者に移譲する。また、製本2部(原図サイズ)により提出すること。	
14. 工事写真 営繕工事写真撮影要領(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(最新版))に従い、撮影すること。 なお、デジタル工事写真の小黒板情報電子化を行う場合は、「デジタル工事写真の小黒板情報電子化について(令和5年3月1日付け国営建技第14号)」による。	
15. 施工条件 監督員及び関係部局と協議調整し決定すること。 (1)施工可能日 ・指定なし ・一部指定あり(振动・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等) ●指定あり 指定日(・施設休業日 ●打ち合わせ ・その他()) (2)施工可能時間帯 ・指定なし ・一部指定あり(振动・騒音等作業、重機搬入等入退場、停電作業等) ●指定あり 指定時間(・()時~()時 ●打ち合わせ ・その他()) (3)その他()	
16. 事故の発生時 工事施工中に事故が発生した場合には直ちに監督員に通報するとともに、所定の様式により工事事故報告書を監督員が指示する期日までに、監督員に提出しなければならない。 なお、事故発生後の措置について監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取調査、検証等に協力すること。	
17. 建築副産物情報交換システムの利用 受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」(建設資材の搬入がある場合)及び「再生資源利用促進計画書」(建設副産物の搬出がある場合)を作成し、施工計画書に含めて監督員へ申しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。 また、工事完了後には「再生資源利用実施書」(建設資材の搬入があった場合)及び「再生資源利用促進実施書」(建設副産物の搬出があった場合)をすみやかに作成し、監督員へ申しを提出すること。 なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACICが運営する「建設副産物情報交換システム」に登録のうえ、行うこと。	
18. 発生材の処理等 ・本工事は、その施工に特定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事である。 分別解体等及び特定建設資材の再資源等の実施について適正な措置を講ずることとする。 工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。	
IV. 施工仕様 下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する。	
1. 既設設備等の調査 既設設備等の改修を含む場合、他の設備、施設運営に影響をきたさないよう、現地工事着工前に十分な調査を行うこと。 (1)地中埋設管路 1)項目 ●埋設配管 ●構造物 ・その他() 2)調査範囲 ●埋設ルート ・その他() (2)貫通及びはつり 1)項目 ・鉄筋 ・配管 ・その他() 2)調査範囲 ・施工部分 ・その他() (3)既設の取扱い 1)項目 ●接続箇所 ●増設箇所 ・その他() 2)調査範囲 ●施工部分 ・その他()	
2. 施工前の測定等 改修工事にあたっては、工事範囲の既設機器の動作確認及び絶縁測定等を着工前に行い、監督員に報告すること。	
3. 耐震基準 耐震措置の計算及び施工方法は、次の基準を適用する。 (1)「官庁施設の総合耐震・対津波計画基準 平成25年版」(国土交通省大臣官房官庁営繕部) (2)「建築設備耐震設計・施工指針 2014年版」	
4. 耐震施工 (1)想定される地震に施工する設備を対応させる。 (2)耐震計算書を監督員に提出する。	
5. はつり (1)穴開け及び補修 ●なし ・あり (貫通場所及び口径は別図による) (2)溝はつり及び補修 ●なし ・あり (はつり深さは別図による)	
6. あと施工アンカーパー 性能確認試験及び施工確認試験 ・行う ●行わない	
7. 基礎の配線ビット 基礎に配線ビットを設ける場合、ビットの寸法は敷設するケーブルの曲げ半径、条数、将来増設時の作業性、事故時の対応、排水等に配慮する。	
8. 配管・配線の耐震処置 建物引込部の配管の耐震処置 建物のエキスパンションジョイント部の配線の耐震処置 ●行う ・行わない	
9. 最上階の埋込配管 最上階のコンクリート屋根スラブへの埋込配管は、原則として行わない。	
10. 露出配管 (1)雨外など水気のある場所に設置する場合は、U字配管を行わない。 (2)附属品は、ねじ込み形を使用する。 (3)壁面配管で人が容易に触れるおそれのある部分(2m以下)の配管には、突起のない支柱金具又は保護カバーを使用する。 (4)通路部分では床配管を避け、天井配管の場合は原則2.1m以上とする。 (5)監督員の指示がある場合は、上記に係わらずその指示に従う。	
11. 合成樹脂管 (1)合成樹脂管の管端には、ブッシングを取り付ける。 (2)原則として屋外の露出には使用しない。(PF管)	
12. 予備配管等 埋込型分電盤からの立上り予備配管は、予備回路が4回路以下は(PF22)を1本、5回路以上は(PF22)を2本施工する。スラブ天井の場合は、天井又は梁下200mmまで立上げ、位置ボックスを取付ける。	
13. 金属製電線管等の塗装 (1)露出配管、露出ボックス、鋼製ブルボックス等のうち下記の部分には、塗装を施す。 1)屋外、屋内(電気室、機械室、EPS、居室、廊下)、その他建築意匠上必要な箇所。 2)画面に特記なき場合は、溶融亜鉛メッキ鋼材製のボルト及びアームは塗装しなくてもよい。ただし、画面に特記がある場合はその指示による。 3)湿気、水気のある場所及びコンクリート埋込みの金属製位置ボックスの内面には絶縁性防錆塗料を十分に塗布すること。(監督員が指示した場所は除く。) 4)仮設貫通部の金属配管には銷止め塗装をすこと。 (2)塗装はエッティングプライマー1種の下地処理のうえ、監督員の指定する色にて調合ペイント2回塗りとする。ただし、指定場所及びその他建築意匠上、必要な箇所の露出ブルボックスは指定色焼付塗装とする。	
14. 導入線 通路を行わない配管及び配線引抜き後に空となった配管には、導入線(Φ1.2mm以上の樹脂被覆鉄線等)を挿入する。ただし、長さ1m以下の部分は省略することができる。	
15. 予備スリーブ 梁下に配管・配線スペースがない梁には、1スパンに2本程度を予備スリーブとして埋込む。 なお、防火区画貫通スリーブは、防火区画処理を行うこと。	
16. ボックス類 位置ボックス及びジョイントボックス類は、特記なき場合、原則として金属製とする。	
17. 軽量間仕切のボックス 軽量間仕切に位置ボックスを固定する場合は、ボルト等により堅固に固定する。	
18. ブルボックス (1)屋外形、特殊な形状又は一边が800mm以上のものは、製作図を提出すること。 (2)屋外形ブルボックスはボックス内に支持ボルトが突出しない構造とし、取付部にはコーキングを行う。	

<p>19. ボルト・ナット類 屋外に使用する支持金物及びボルト、ナット類で特記のないもの ●ステンレス ・溶融亜鉛メッキ仕上げ</p> <p>20. ケーブル及び配線 (1)表示 下記の箇所で、ケーブル等に行き先等表示札（ケーブル種別及びサイズ、行き先、施工年、用途、施工者名等を表示。）を取り付ける。 ① ケーブルがスラブを貫通する部分 ② ケーブル分歧部 ③ 変電所内のケーブル引出し部分 ④ 盤内及び接地端子箱の外部配線引込み部分 ⑤ 屋内の直線部分は、30mごと ⑥ ブルボックス内 ⑦ 屋外の共同溝等の直線部分は、50mごと ⑧ 屋外の地中管路より建物内への引込み部分 ⑨ マンホール及びハンドホールごと (2)ケーブル余長 1) 地中線式の場合、マンホール、ハンドホール内でケーブル余長を見込む箇所数 ・2箇所 2) 架空線式の場合、電柱上でケーブル余長を見込む箇所数 ・2箇所 ・4箇所</p> <p>21. 配線器具の設置 (1)特殊コンセントはプラグ付とする。 (2)電源の種類により色を区別する。 (3)配線器具を取り付ける場所が金属の場合は、絶縁枠を使用する。 (4)プレートは、図面に特記なき場合、新金属製とする。 (5)カバープレートは、原則として新金属製とする。 なお、器具を実装しない位置ボックスには用途表示をすること。 (6)フロアプレートは、水平高低調整型（空転防止リング付）とする。</p> <p>22. 照明器具の設置 (1)照明器具取付完了後、照度測定を行う。照度計は一般形AA級とする。 (2)天井下地材より支持をする場合は、ワイヤ等により脱落防止の措置を行う。 (3)パイプ吊りの照明器具は振れ止めを施工する。</p> <p>23. 照明改修の際の測定 対象室の改修前後の照度及び回路電流値の測定を次のとおり行うこと。 測定箇所（ ） 测定回数 前後各（ ）回</p> <p>24. 分電盤、制御盤、キューピクル等 図面ホルダー内には、完成図及び回路の行き先がわかる図面を備える。また、既設分電盤・制御盤等を改造した場合は、図面を修正するものとする。</p> <p>25. 受変電設備、発電設備の設置場所 (1)保守点検、防火上有効な空間、維持管理の空間を考慮する。 (2)屋内に設置する場合は、床の強度計算書、換気計算書等を監督員に提出する。 (3)基礎の高さは周囲の状況を考慮する。 (4)電気室には水管、蒸気管、ガス管、ダクト等を通過させない。</p> <p>26. 発電設備の燃料配管 (1)フレキシブルジョイント取付位置は、施工前に所轄の消防署と十分に打合せを行う。 (2)配管の接続は、機器の取外し又は保守点検を考慮し施工する。</p> <p>27. 非常放送設備のスピーカー設置 (1)放送区域の各部からスピーカまでの水平距離は10m以内とする。 (2)階段等にスピーカを設置する場合は、垂直距離15m以内とする。</p> <p>28. 土工事 (1)埋戻しの材料及び工法 ●B種 （材料：根切り土の中の良質土 / 工法：機器による締固め） ・その他（ ） ただし、配管周りの埋戻し材料は山砂とする。 (2)特記なき地中埋設配管の深さは、GL-600mm以上とする。 (3)根切りの種類は、マンホール、ハンドホール、屋外受変電設備及び自家発電装置の基礎等は総掘り、埋設管路等は布掘り、外灯基礎、電柱等はつぼ掘りとする。 (4)機械掘削は根切り底を乱さないようにする。</p> <p>29. ハンドホール、マンホール 高さ900mmを超えるものにあっては、タラップ付とする。 なお、タラップの取付は450mm間隔以内とする。</p> <p>30. 地中配線路の表示杭 下記の箇所に、地中配線路の表示杭を設置する。 ① 建物への引込口及び送出口付近 ② マンホール・ハンドホール付近 ③ 地中線路の曲折箇所 ④ 道路横断箇所 ⑤ 直線部分では30m程度に1個（30mに満たない部分はその間に1個）</p>	<p>V. 機器仕様 下記の該当する項目を適用する。また、選択する事項は、●印のついたものを適用する</p>
--	--

16. 拡声設備 (1)機器 (2)増幅器	<ul style="list-style-type: none"> ・増幅器・付属機器・操作装置・スピーカ・その他() ・非常放送兼用(仕様は非常放送装置を参照) ・専用出力()W ・出力インピーダンス・Lo形・Hi形 ・オーディオミキサー・リモコンマイク・電源制御器 ・録音再生装置(・CD・メモリオーディオ・その他()) ・アナウンスレコーダ(・チャイム・独自メッセージ・プログラムタイマー・その他())
(3)付属機器	<ul style="list-style-type: none"> ・有線マイクロホン ・無線マイクロホン(・電波式(・アナログ・デジタル)・赤外線式) ・ラジオチューナ(・FM・AM・その他()) ・スピーカ切替装置・その他の機器() ・卓型・キャビネットラック型・壁掛型・その他() ・非常放送兼用(仕様は非常放送装置を参照) ・専用結線・1W・3W・()W ・インピーダンス・Lo形・Hi形 ・設置場所・屋内・屋外・その他()
(4)操作装置 (5)スピーカ	<ul style="list-style-type: none"> ・音声誘導装置・インターホン・トイレ等呼出装置 1) 検出方式・磁気式・無線式・画像認識式・その他() 2) 設置場所・屋外(防雨形)・屋内 3) 機能・自動火災報知設備より火災報知信号を受信した場合停止する・タイムスケジュールにより停止及び開始を可能とする・その他() 4) 機器・制御装置・送信機・受信機・その他() 5) 制御装置・壁掛型・卓上形・複合盤組込・その他() 6) 送信機・壁掛形・卓上形・埋込形・その他() 7) 受信機・スピーカ式・イヤホン式・その他() 1) 用途・内部受付用・外部受付用・夜間訪問用・身体障害者用・保守用・その他() 2) 機能・音声通話・映像モニタ 3) 通話網・親子式・相互式・複合式 4) 通話方式・同時通話式・交互通話式・その他() 5) 機器・親機・子機・その他() 6) 親機 <ul style="list-style-type: none"> ①形状・壁掛型・卓上形・複合盤組込・その他() ②送受話器・電話機形・マイク形・その他() 7) 子機 <ul style="list-style-type: none"> ①形状・壁掛形・卓上形・埋込形・その他() ②送受話器・電話機形・マイク形・その他()
(3)インターホン	<ul style="list-style-type: none"> 1) 用途・トイレ呼出・受付呼出・非常通報 2) 機器・親機・●呼出スイッチ・警報装置・その他() 3) 親機・壁掛型・卓上型・複合盤組込・その他() 4) 呼出スイッチ・押ボタン式・引紐式・その他() 5) 警報装置・光・音声・ブザー・ベル・その他()
17. 誘導支援設備 (1)設備 (2)音声誘導装置	<ul style="list-style-type: none"> ・音声誘導装置・インターホン・トイレ等呼出装置 1) 検出方式・磁気式・無線式・画像認識式・その他() 2) 設置場所・屋外(防雨形)・屋内 3) 機能・自動火災報知設備より火災報知信号を受信した場合停止する・タイムスケジュールにより停止及び開始を可能とする・その他() 4) 機器・制御装置・送信機・受信機・その他() 5) 制御装置・壁掛型・卓上形・複合盤組込・その他() 6) 送信機・壁掛形・卓上形・埋込形・その他() 7) 受信機・スピーカ式・イヤホン式・その他() 1) 用途・内部受付用・外部受付用・夜間訪問用・身体障害者用・保守用・その他() 2) 機能・音声通話・映像モニタ 3) 通話網・親子式・相互式・複合式 4) 通話方式・同時通話式・交互通話式・その他() 5) 機器・親機・子機・その他() 6) 親機 <ul style="list-style-type: none"> ①形状・壁掛型・卓上形・複合盤組込・その他() ②送受話器・電話機形・マイク形・その他() 7) 子機 <ul style="list-style-type: none"> ①形状・壁掛形・卓上形・埋込形・その他() ②送受話器・電話機形・マイ克形・その他()
(4)トイレ等呼出装置	<ul style="list-style-type: none"> 1) 用途・トイレ呼出・受付呼出・非常通報 2) 機器・親機・●呼出スイッチ・警報装置・その他() 3) 親機・壁掛型・卓上型・複合盤組込・その他() 4) 呼出スイッチ・押ボタン式・引紐式・その他() 5) 警報装置・光・音声・ブザー・ベル・その他()
18. テレビ共同受信設備 (1)受信放送 (2)機器	<ul style="list-style-type: none"> ・UHF・BS・CS・FM・CATV・その他() ・増幅器・混合器・分波器・分歧器・分配器・機器収容箱 ・アンテナ・その他()
(3)アンテナ	<ul style="list-style-type: none"> 1) 放送・UHF・BS・CS・FM・その他() 2) マスト・地上波用(・壁面取付・自立・既設利用)・衛星用(・壁面取付・自立・既設利用) 3) 自立用基礎・本工事・別途工事・既設利用
19. 監視カメラ設備	・仕様詳細は別図による。
20. 駐車場管制設備	・仕様詳細は別図による。
21. 防犯・入退室管理設備	・仕様詳細は別図による。
22. 自動火災報知設備 (1)機器 (2)受信機	<ul style="list-style-type: none"> ・受信機・副受信機(表示装置)・中継器・発信機・感知器 ・光警報装置・その他()
(3)副受信機(表示装置)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 型式・P型1級・P型2級・R型 2) 回線数()回線 3) 試験機能・自動試験機能・遠隔試験機能 4) 盤形式・複合盤組込・自立型・壁掛型 5) アドレス付 6) 仕様詳細の仕様詳細は別図による。 7) 表示装置
(4)中継器 (5)発信機	<ul style="list-style-type: none"> 1) 型式・アドレス付・P型1級・P型2級 2) 消火栓ポンプ起動 特記なき場合は、発信機連動方式とし、発信機表 3) 設置・単独設置・機器収容箱に組込 4) 設置・消火栓ボックス(別途)に組込・その他() 5) 型式・アドレス付・一般型 6) 熱感知器・空気管式・煙感知器・炎感知器 7) 試験機能・自動試験機能・遠隔試験機能 8) 機器仕様・一般・防水・防爆・防食・その他() 9) 機器・警報装置・制御装置・同期装置 10) 警報装置・天井付・壁付 11) 同期装置・自走同期式・外部同期式
(6)感知器	面に「消火栓起動」等の文字を併記する。
(7)光警報装置	
23. 自動閉鎖設備 (1)機器	<ul style="list-style-type: none"> ・運動制御器・感知器・自動閉鎖装置・自動開錠装置 ・その他()
(2)運動制御器	<ul style="list-style-type: none"> 1) 制御対象・防火戸・防火シャッター・防排煙ダンパー 2) 回線数()回線(遠方復帰機構()回路) 3) 設置・単独(・壁掛け・自立形)・火災受信機等との複合盤 4) 機器仕様・アドレス付・一般型 5) 種類・煙感知器(・2種・3種) 6) 試験機能・自動試験機能・遠隔試験機能 7) 方式・電磁式・ラッチ式・その他() 8) 施工・本工事・建築工事・電気設備工事・別途工事
(3)感知器	<ul style="list-style-type: none"> ・既設利用・その他()
(4)自動閉鎖装置	<ul style="list-style-type: none"> 1) 方式・電気式・電気・施工 2) 施工・既設利用・その他()
(5)自動開錠装置	<ul style="list-style-type: none"> 1) 方式・電気錠・施工 2) 施工・既設利用・その他()
24. 非常警報設備 (1)設備 (2)非常放送装置	<ul style="list-style-type: none"> ・非常放送装置 ●非常ベル 1) 消防法基準適合マーク品とする。 2) 機器・増幅器・スピーカ・非常用リモコンマイク 3) 増幅器 <ul style="list-style-type: none"> ①出力()W ②出力インピーダンス・Lo形・Hi形 ③形式・ロングラック型・スタンダードラック型・壁掛け ④機能・マイク放送・連動放送(・自火報設備・緊急地震速報設備) ⑤用途・拡声設備兼用・非常放送専用 ⑥スピーカ <ul style="list-style-type: none"> ①結線・1W・3W・()W ②インピーダンス・Lo形・Hi形 ③設置場所・屋内・屋外・その他() ④用途・拡声設備兼用・非常放送専用 5) 非常用リモコンマイク 6) 形式・壁掛け形・ラック収納形・卓上形・その他()
(3)非常ベル(自動サインを含む)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 機器・起動装置・非常ベル・表示灯・その他() 2) 設置・単独設置・機器収容箱に組込 3) 消火栓ボックス(別途)に組込・その他()
25. ガス漏れ火災警報設備 (1)機器	<ul style="list-style-type: none"> ・受信機・副受信機・中継器・検知器・警報器 ・その他()
(2)受信機	<ul style="list-style-type: none"> 1) 回線数()回線 2) 種類・都市ガス用・液化石油ガス用 3) 設置・単独(・壁掛け・自立形)・火災受信機等との複合盤 4) 機器仕様・単独(・壁掛け・自立形) 5) 設置・単独(・壁掛け・自立形)・火災受信機等との複合盤
(3)副受信機	<ul style="list-style-type: none"> ・動作・単独(単独動作)・連動(受信機に伝送) 1) 定格電圧・AC100V・DC24V(受信機等から供給) 2) 定格電圧・AC100V・DC24V(受信機等から供給) 3) ガス検知出力信号・電圧出力方式・無電圧接点方式
(4)検知器	・仕様詳細は別紙による。
【中央監視制御設備】	・仕様詳細は別紙による。
【医療関係設備】	・仕様詳細は別紙による。
【構内配電線路】	
26. 構内配電線路 (1)配線方式	<ul style="list-style-type: none"> ●地中線式(・直埋・●管路)・架空線式(・直接・ちょう架線添架) ・建築物等添架式(・露出配管・隠蔽配管・その他()) ・その他()
(2)建柱	<ul style="list-style-type: none"> 1) 施工 ●既設柱利用・その他() 2) 電柱・コンクリート柱・鋼管柱・バンザマスト 3) 支持材・根かせ・根はじき・根巻き・底板 4) 装柱機器(高圧用) <ul style="list-style-type: none"> ●有(電力仕様)・無 5) 鋼板・有・無
(3)装柱機器(高圧用)	<ul style="list-style-type: none"> 1) 機器・開閉器・避雷器・カットアウト・碍子 2) 耐環境性・一般用・耐塩用 3) 開閉器・仕様は5.受変電設備(6)負荷開閉器による。 1) 機器・開閉器・開閉器箱・避雷器・カットアウト・碍子 2) 耐環境性・一般用・耐塩用 3) 開閉器・仕様は5.受変電設備(6)負荷開閉器による。
(4)装柱機器(低圧用)	
(5)ハンドホールマンホール	<ul style="list-style-type: none"> 1) 形式・ブロック式・現場打ち 2) 施工・本工事・建築工事・電気設備工事・別途工事 3) ケーブル支持金物の取付・2箇所・4箇所・()箇所 4) 重車両の通行・有(破壊荷重200kN以上、衝撃係数0.1(走行速度制限箇所))・無
(6)鉄蓋	<ul style="list-style-type: none"> 1) 鉄蓋の刻印は「強電」、「電力」又は「高圧」とする。
(7)地中ケーブル保護材料	<ul style="list-style-type: none"> 1) 種類・FEP・GLT(PEライニング管)・VE・HIVE・SGP 2) 標示杭埋設・コンクリート製・鉄製(アスファルト部分) 3) 埋設標識シート・2倍長・その他() 4) 埋設標識シートの表記は弱電用であることがわかるものとする。
【構内通信線路】	
27. 構内通信線路 (1)用途	<ul style="list-style-type: none"> ・電話・拡声・時刻表示・火災報知・非常警報・インターホン ・テレビ共同受信・防犯・制御・その他() ・地中線式(・直埋・管路)・架空線式(・直接・ちょう架線添架) ・建築物等添架式(・露出配管・隠蔽配管・その他()) ・その他()
(2)配線方式	<ul style="list-style-type: none"> 1) 施工・本工事・既設柱利用・構内配電線柱に添架 2) 電柱・コンクリート柱・鋼管柱・バンザマスト 3) 支持材・根かせ・根はじき・根巻き・底板 4) 装柱材料・有・無 5) 鋼板・有・無
(3)建柱	<ul style="list-style-type: none"> 1) 施工・本工事・既設柱利用・構内配電線柱に添架 2) 電柱・コンクリート柱・鋼管柱・バンザマスト 3) 支持材・根かせ・根はじき・根巻き・底板 4) 装柱材料・有・無 5) 鋼板・有・無
(4)ハンドホールマンホール	<ul style="list-style-type: none"> 1) 形式・ブロック式・現場打ち 2) 施工・本工事・建築工事・電気設備工事・別途工事 3) ケーブル支持金物の取付・2箇所・4箇所・()箇所 4) 重車両の通行・既設柱利用・その他()
(5)鉄蓋	<ul style="list-style-type: none"> 1) 鉄蓋の刻印は「強電」、「電力」又は「高圧」とする。
(6)地中ケーブル保護材料	<ul style="list-style-type: none"> 1) 種類・FEP・GLT(PEライニング管)・VE・HIVE・SGP 2) 標示杭埋設・コンクリート製・鉄製(アスファルト部分) 3) 埋設標識シート・2倍長・その他() 4) 埋設標識シートの表記は弱電用であることがわかるものとする。
【その他】	
28. 消火器	<ul style="list-style-type: none"> 1) 設置・本工事・建築工事・電気設備工事・機械設備工事 2) 消火器種別()、数量()本 3) 消火器収納箱材質()、数量()面
VI. 使用資機材の適用規格	
(1)以下に定めどおりとする。なお、以下に定めのない資機材については、日本産業規格(JIS規格)適合品の使用を原則とする。	
●電気用品安全法に定める特定電気用品又は特定電気用品以外の電気用品	
●電気用品安全法適合品	
●耐熱・耐火電線・耐熱・耐火ケーブル	
・消防庁の登録認定機関として消防庁告示に規定された耐火・耐熱電線及び耐火バグダッドの適合性検査を行合格したもの	
・第三者認証機関として(一社)日本電線工業会規格(JCS規格)への適合性検査を行合格したもの	
●非常用照明器具	
・建築基準法に定める国土交通大臣認定品	
・(一社)日本照明工業会の自主評定を受け、JIL5501適合マークが貼付されたもの	
●誘導灯	
・登録認定機関((一社)日本電気協会(JEA誘導灯認定委員会))の認定を受け、認定証票が貼付されたもの	
●制御盤	
・(一社)日本電配制御システム工業会規格(JSIA規格)適合品	
●消防用加压送水装置、不活性ガス消火設備及びハロゲン化物消火設備の制御盤、火災報警装置、総合操作盤等の認定対象品	
・登録認定機関((一財)日本消防設備安全センター(消防用設備等認定委員会))の認定を受け、認定証票が貼付されたもの	
●不活性ガス消火設備等の操作盤、新ガス系消火設備制御盤、緊急通報装置、非常通報装置等の性能評定対象品	
・(一財)日本消防設備安全センターの性能評定を受け、評定証票が貼付されたもの	
●金属閉鎖形スイッチギア	
・(一社)日本電機工業会規格(JEM規格)適合品	
●高圧機器(遮断器、限流ヒューズ、負荷開閉器、避雷器、断路器、特定機器以外の変圧器、計器用変成器、保護继電器)	
・(一社)電気学会電気規格調査会規格(JEC規格)適合品	
●直流電源装置(防災電源用)	
・登録認定機関((一社)日本電気協会(JEA蓄電池設備認定委員会))の認定をうけ、認定証票が貼付されたもの	
●交流無停電電源装置	
・(一社)電気学会電気規格調査会規格(JEC規格)適合品	
●自家発電装置(防災電源用)	
・登録認定機関((一社)日本内燃力発電設備協会)の認定を受け、認定証票(長時間)が貼付されたもの	
●自家発電装置(防災電源用でないもの)	
・(一社)日本電機工業会規格(JEM規格)適合品	
●太陽電池モジュールの支持物	
・電気設備の技術基準の解説第4.6条第2項又は第3項の規定に適合するもの	
●電話用設備(電話交換機、電話機等)	
・登録認定機関((一財)電気通信端末機器審査協会(JATE)等)の技術基準適合認定を受け、適合表示が貼付されたもの	
●非常用放送設備	
・登録認定機関(日本消防検定協会)の認定を受け、認定証票が貼付されたもの	
●テレビ共同受信機器	
・優良住宅部品(BL部品)の認定を受けたもので、BLマーク証紙が貼付されたもの	
・(一社)電子情報技術産業協会スマート・ビーム登録品の認定を受けたもの	
●自動火災報知設備	
・登録認定機関(日本消防検定協会)の認定を受け、認定証票が貼付されたもの	
●特殊仕様の資機材を使用する場合は、仕様・性能等を	

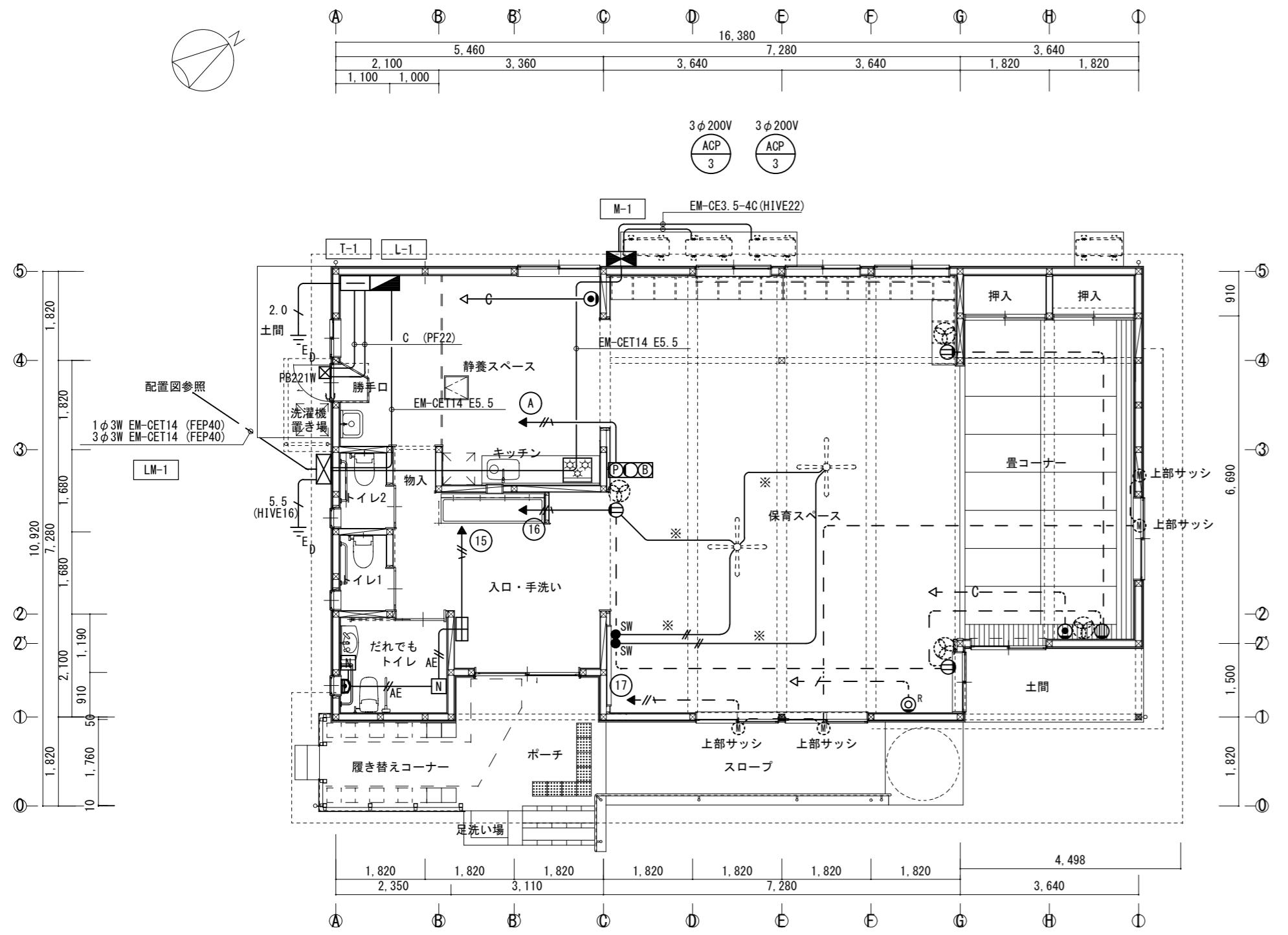




凡例表

記 号	名 称	備 考
□	引込開閉器盤	
☒	プルボックス 200x200x200 SUS WP	
■	埋設表示標 コンクリート製	

※盤への接続は、金属製可とう電線管（ビニル被覆・防水）を使用すること。

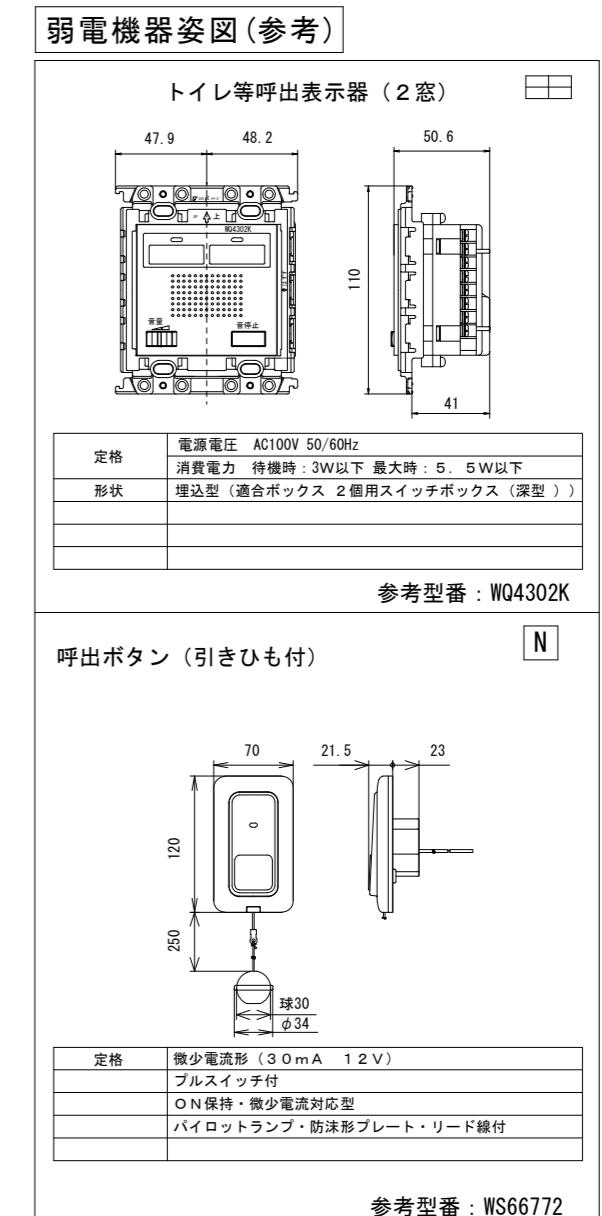


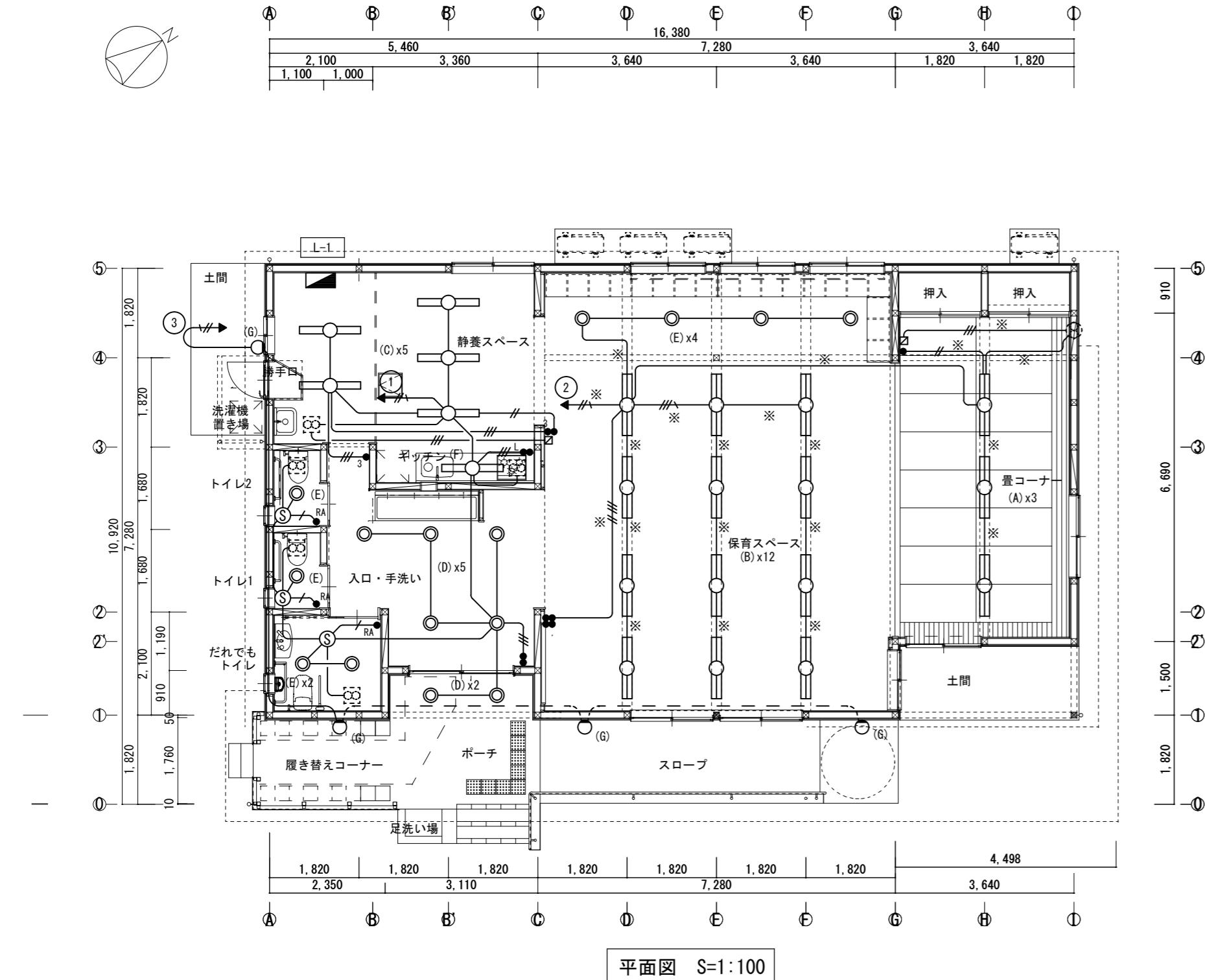
平面図 S=1:100

注記	図中記入なき配線は下記とする。	保護管
— # —	EM-E EF 1. 6-2 C	(P F 16)
— — —	EM-E EF 1. 6-3 C	(P F 16)
— // —	EM-E EF 2. 0-3 C	(P F 22)
— # AE —	EM-A E 1. 2-2 C	(P F 16)
— / —	EM-S-5 C-F B	(P F 16)
— 0 —	C (P F 16)	
— — — —	床下配線を示す。	
※印は、ケーブルステップ止めを示す。		
ニ重天井内はケーブルころがし配線とし、コンクリート部及び 壁内立下り、床下部はP F管にて保護とする。		
盤、機器への接続は金属製可とう電線管（ビニル被覆・防水）を使用すること		

凡例表		
記号	名称	備考
□	端子盤	
田	トイレ等呼出表示器（2窓）	
N	呼出ボタン（引きひも付）	
(P)(O)(B)	非常警報装置 埋込型（複合型）	電池内蔵
○	電話受口	
○R	直列ユニット	端末
◎	壁掛扇風機	機械設備工事
①	壁付コンセント(新金属プレート共)	2P15A×1
II	接地工事（接地極埋設標共）	D種
■	電灯分電盤	
▲	動力盤	
×	引込開閉器盤	電力量計実装
☒PB221W	プルボックス 200x200x100	SUS製 防水
●SW	シーリングファン用スイッチ	機械設備支給品

端子盤リスト	
T-1	光接続装置取付スペース HUB取付スペース 盤内露出コンセント 2 口

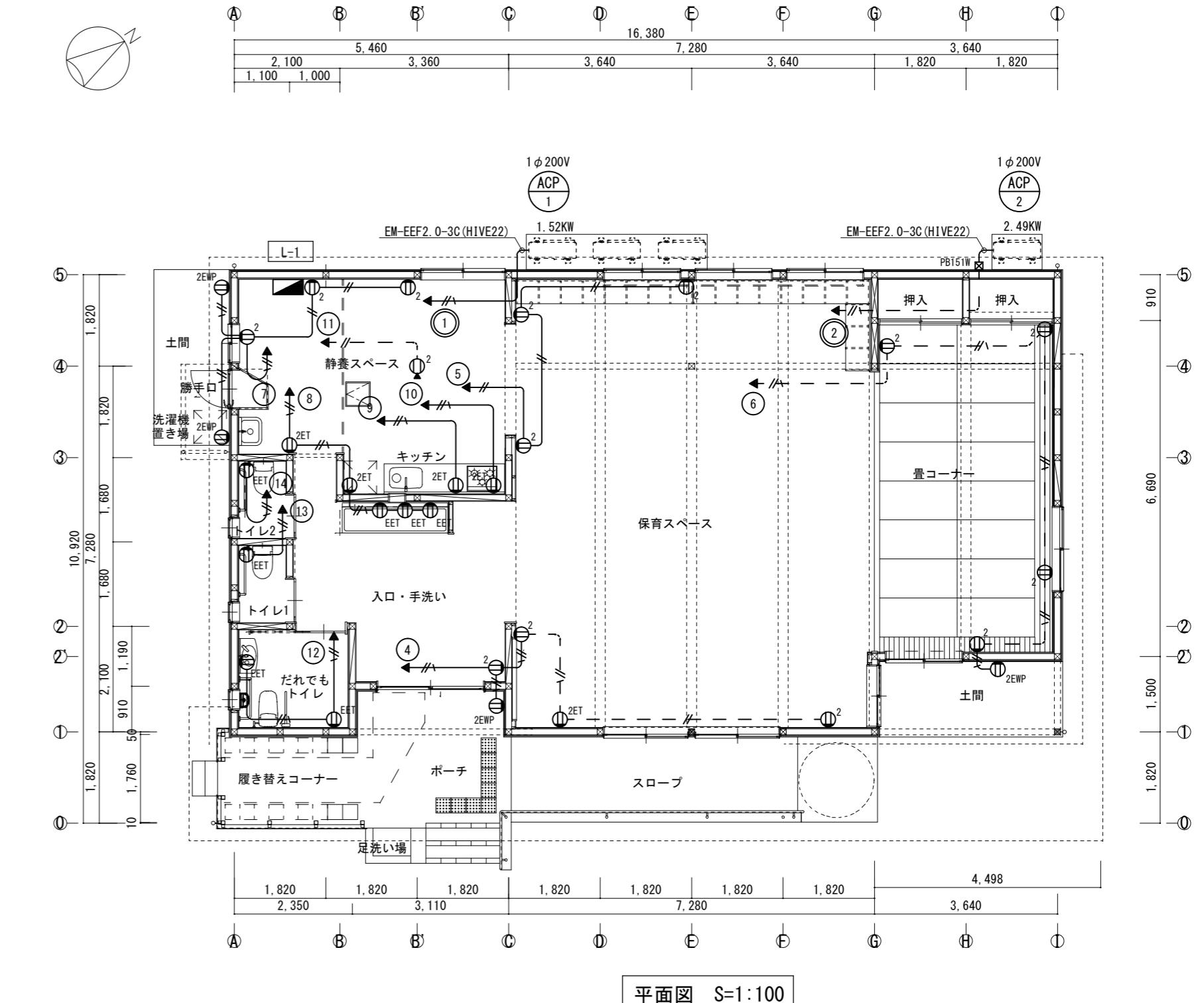




平面図 S=1:100

記号	名称	備考
	照明器具 天井付 LED	
	照明器具 壁付け LED	
	照明器具 埋込用 LED	
●	タンプラスイッチ(新金属プレート共)	1P15A×1
●	タンプラスイッチ(新金属プレート共)	1P15A×2
● ^L	タンプラスイッチ(新金属プレート共)	1P15A×1(ON表示付き)
● ₃	3路スイッチ(新金属プレート共)	3W15A×1
(S)	熱線センサー 換気扇連動型	参考型番:WTK2604
●RA	操作ユニット 2回路 (H=1800)	参考型番:WTC5822W
□	換気扇操作スイッチ	機械設備支給品取付
	電灯分電盤	

注記					
1. 図中記入なき配線は下記とする。					
— // —	EM-E EF 2.	0-3C	(1E) (PF 22)		
— — —	EM-E EF 1.	6-3C	(1E) (PF 22)		
— // \ —	EM-E EF 1.	6-2C x 2	(1E) (PF 22)		
— // \ —	EM-E EF 1.	6-2C + 3C	(1E) (PF 22)		
— // —	EM-E EF 1.	6-2C	(PF 16)		
— // —	EM-E EF 1.	6-3C	(PF 22)		
— // —	EM-E EF 1.	6-2C x 2	(PF 22)		
— // \ —	EM-E EF 1.	6-2C + 3C	(PF 22)		
— / —	EM-E EF 1.	6-3C x 2	(PF 22)		
— — — —	床下配線を示す。				
二重天井内はケーブルころがし配線とし、コンクリート部及び 壁内立下り、床下部はPF管にて保護とする。					
※印は、ケーブルステップル止めを示す。					



平面図 S=1:100

凡例表		
記号	名称	備考
① ₂	壁付コンセント(新金属プレート共)	2P15A×2
①EET	壁付コンセント(新金属プレート共)	2P15A×1E+ET
① ₂ EET	壁付コンセント(新金属プレート共)	2P15A×2+ET
① ² EWP	防水コンセント	2P15A×2E+ET
① ²	フロアーコンセント	2P15A×2
[■]	電灯分電盤	
☒ PB151W	プルボックス 150×150×100	SUS製 防水

注記

1. 図中記入なき配線は下記とする。

— // — EM-E EF 2. 0-3 C (1 E) (P F 22)

— # — EM-E EF 2. 0-2 C (P F 16)

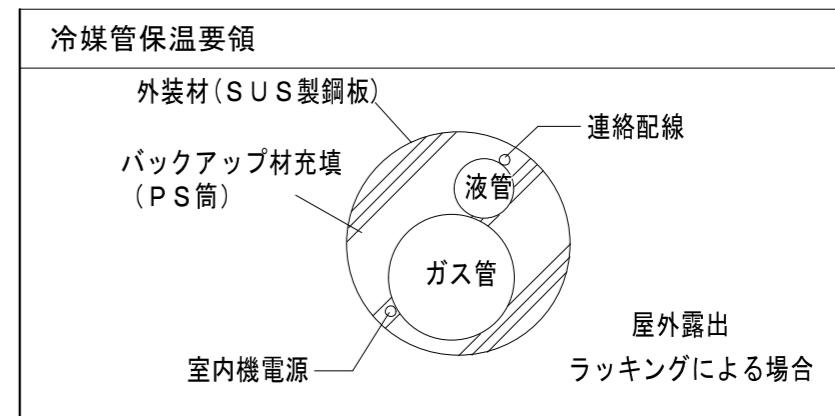
- - - - - 床下配線を示す。

二重天井内はケーブルころがし配線とし、コンクリート部及び
壁内立下り、床下部は P F 管にて保護とする。

機械設備工事特記仕様書 1 工事名称 誠之地区放課後児童クラブ新築工事 2 工事場所 津市 久居西鷹跡町 地内 3 建築概要 木造 平屋建 消施令の適用 15項 4 適用基準 国面及び特記仕様書に記載されていない事項は、以下による 国土交通省大臣官房官庁規制部監修 「公共建築工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工事編）令和4年版」 「公共建築改修工事標準仕様書（建築、電気、機械設備工事編）令和4年版」 「公共建築設備工事標準規格（電気、機械設備工事編）令和4年版」 「建築、電気、機械設備工事監理指針令和4年版」 独立行政法人 建築研究所監修 「建設設備耐震設計・施工指針2014年版」 下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する事項は、 なお、以下において選択する事項は、■印のついたものを適用する。	(11) 発生材の処理 ■建設工事に準じる 本工事は、その施工に規定建設資材を使用する新築工事等であって、その規模が「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（平成12年5月31日法律第104号。以下「建設リサイクル法」という。）施行令で定める建設工事の規模に関する基準以上の工事であるため、建設リサイクル法に基づき分別解体等及び特定建設資材の再資源化等の実施について適正な措置を講じることとする。 工事契約後に明らかになったやむをえない事情により、予定した条件により難い場合は、監督員と協議するものとする。 1) 引渡しを要するもの () 上記以外の引き渡しを要するものについては別途、監督員が指示する。 2) 特別管理産業廃棄物 () 処理方法 () なお施工に際して棗石等特別管理廃棄物及び疑わしき機器等を見発した場合は、監督員に報告し対応を協議するものとする。 3) 建設発生土 () 構内敷きならし □ 犬歯地指定 犬歯地 () () 処分地未定につき相互協議する。暫定運搬距離 () km 4) 現場において再利用を図るもの () 5) 分別解体等の方法	工 程	作業内容	分別解体等の方法		-------	------	-----------------------		□ 新 築	□ 有	□ 手作業 □ 手作業、機械作業併用		□ 改 修	□ 無			□ 解 体			6) 再資源化を図るもの () コンクリート塊 □ アスファルトコンクリート塊 () 建設発生木材 () 7) 引渡しを要しないものは、全て構外に搬出し、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、資源の有効な利用の促進に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、その他関係法令によるほか、「建設副産物適正処理推進要綱」に従い適切処理し、監督員に報告すること。(マコストA、B2、D5を提示すること。) (12) 電気保安技術者 □ 配置する ■ 配置しない (13) 施工条件 監督員及び依頼部局と協議調整し決定すること。 ■ 建設工事に準じる 1) 施工可能日 □ 一部に土、日曜日、祝祭日施工あり □ 指定なし () 2) 施工可能時間帶 □ 指定なし □ 指定あり (時 ~ 時) (14) 仮設工事 構内既存の施設 建設工事に準じる 1) 便所 □ 利用できる □ 利用できない 2) 工事用水 □ 利用できる（有償） □ 利用できる（無償） □ 利用できない 3) 工事用電力 □ 利用できる（有償） □ 利用できる（無償） □ 利用できない ※ 本工事で新規受電または既設電気回路に接続し通電した時から工事に起因する電力料金は本工事に含まれる。 (15) 足場 ■ 建設工事に準じる 内部足場の種別（参考） □ 脚立 □ 梁式足場 □ () 外部足場の種別（参考） □ 手摺先行据置組合式足場 □ その他 () 脚選りシート等による養生 □ 適用する □ 適用しない 設置する足場については、「手すり先行工法等に関するガイドライン」（厚生労働省平成21年4月）により、「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び輪木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の(2)手すり据置き式又は(3)手すり先行工法足場方式により行うこと。 足場の組立て後、足場に間に十分な知識と経験を有する者により点検を行い記録を保存すること。 つり足場、張りし足場又は高さが10m以上の足場で、組立から解体までの期間が0日以上のものについては、組立と後は監督員と打ち合わせの下、当該足場の組立てを担当した者以外の足場に間に十分な知識と経験を有する者により点検を行うこと。なお、「十分な知識と経験を有する者」とは、以下の者とすると。 1) 足場の組立て等作業主任者であって、労働安全衛生法第19条の2に基づく足場の組立て等作業主任者能効向上教育を受けた者 2) 労働安全衛生法第81条に規定する労働安全部門監査官（区分が土木又は建築である者）や厚生労働大臣の登録を受けた者が行う研修を修了した者等法第8条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者 3) 全国建設安全部門監査官会議が行う「仮設安全監理者資格取得講習」、建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場監査実務研修」を受けた者等足場の点検に必要な専門的知識の習得のために行う教育、研修又は講習を行った者など、足場の安全点検について、上記1)又は2)に掲げる者と同等の知識と経験を有する者 (16) 建築材料等 1) 本工事に使用する建築材料等は、設計図面に定める品質及び性能を有する新品とする。 品質が求められる水準以上であれば、市内生産品の優先使用に努めること。 2) 本工事で使用する建設資材の選定には、極力市内の取り扱い業者から購入するよう努めること。 3) 下記製品を本工事で使用する場合は、三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定製品を使用すること。 ただし認定品が入手できない場合は、監督員と別途協議を行うこと。 (認定製品の品名 :) 4) 一般製品を本工事で使用する場合は、三重県リサイクル製品利用推進条例に基づく認定製品を使用するよう努めること。 (認定製品の品名 :) (17) 三重県産業廃棄物税 本工事には産業廃棄物税相当分が計上されていないため、受注者は該段階とされた場合には年度末年の翌年の4月1日から8月31日までの間に別に定める様式に産業廃棄物税納付明細書を添付して当該工事の発注者に対して支払請求を行なうことができる。なお、この期間を超えて請求することはできない。 また、産業廃棄物処理集計表（マニフェストの数量の集計）を超えて請求することはできない。 (18) 事故の発生時 工事の施工中に事故が発生した場合には、直ちに監督員へ通報するとともに、所定の様式により事故発報書を監督員が指示する日まで監督員へ提出すること。 なお、事故発生後の措置について、監督員と協議を行うとともに、当該事故に係る状況聴取、調査、検証等に協力すること。 (19) 既設工の取扱い・養生 本工事施工に伴う、既存設備の軽微な加工・改造は、本工事とする。 また、工事施工に際し、既設部分を汚損、破損等しないよう養生を行うこと。なお汚損・破損した場合は、機能・仕上げ共、既設にならない復旧すること。 (20) 不正経済の使用の禁止 1) 一般事項 工事現場で使用し、又は使用される車両（機械等の搬入車両を含む。）並びに建設機械等の燃料として、不正経済（地方税法第144条の32（製造等の承認を受ける義務等）の規定に違反する燃料をいう。）を使用してはならない。 2) 調査の協力 受注者は、市が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。 3) 是正措置 受注者は、不正経済の使用が判明した場合は、速やかに是正措置を講じなければならない。 また、受注者は下請負者等に不正経済の使用が判明した場合は速やかに是正措置を講じるよう管理及び監督しなければならない。	(21) その他 1) 使用機械 低騒音型、低振動型の建設機械の使用に努めること。 2) 測定機器の校正記録 工事で使用する測定機器に対しては適正に校正した器具を使用しなければならない。 測定に先立ち使用する測定機器の検査済証（写し）又は校正記録（写し）を監督員に提示すること。 3) フロン収集及び充填 当該工事を施工するに当たって施工時にフロン類の充填、回収作業を行う場合は、フロン類の使用の合理化及び管理の最適化に関する法律（令和2年4月1日施行）等の関係法令を遵守し、第1種フロン類充填登録業者が行うこと。 (22) 現場での安全確保（自ら施工の原則） 1) 受注者は工事中の適切な安全確保の措置等の一切の手段について、自らの責任において定め、工事を実施すること。 2) 設計図面に明示された施工条件と工事現場が一致せず、安全確保のために指定仮設の変更や計上が必要な場合は、監督員と協議を行い、指示を受けた後、受注者として適切な安全確保の措置を講じたうえで、工事を実施すること。 (23) 建設副産物情報交換システムの利用 受注者は工事着手前に「再生資源利用計画書」（建設資材の搬入がある場合）及び「再生資源利用促進計画書」（建設副産物の搬出がある場合）を作成し、施工計画書に含めて監督員へ写しを提出するとともに法令等に基づき、再生資源利用計画及び再生資源利用促進計画を工事現場の公衆が見やすい場所に掲げなければならない。 また、工事完了後に「再生資源利用実施書」（建設資材の搬入があった場合）及び「再生資源利用促進実施書」（建設副産物の搬出があった場合）をすみやかに作成し、監督員へ写しを提出すること。 なお、各計画書及び実施書の作成等は、JACIGが運営する「建設副産物情報交換システム」に登録のうえ、行うこと。 (24) 工事種目 給排水衛生設備工事 ■ 屋外給水設備工事 ■ 室内給水設備工事 ■ 屋外排水設備工事 ■ 室内排水設備工事 ■ 衛生器具設備工事 ■ 消火設備工事 ■ 給湯設備工事 ■ 星外ガス設備工事 ■ 屋内ガス設備工事 □ 浄化槽設備工事 □ 廉房機器設備工事 空調設備工事 ■ 機器設備工事 ■ 配管設備工事 ■ 換気設備工事 自動制御設備工事 □ 自動制御設備工事 (25) 通気管 配管用炭素鋼管（白） JIS G 3452 (SGP-白) ※ 繰手はドレネジ繰手又は、M-D繰手を使用 (地盤・コンクリート埋設は防食テープ重巻き) ■ 土間・一般：硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □ 土間：リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管VP) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に織維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 (26) 通水管 配管用炭素鋼管（白） JIS G 3452 (SGP-白) ※ 繰手はドレネジ繰手又は、M-D繰手を使用 (地盤・コンクリート埋設は防食テープ重巻き) ■ 土間・一般：硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □ 土間：リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管VP) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に織維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 (27) 汽水管 配管用炭素鋼管（白） JIS G 3452 (SGP-白) ※ 繰手はドレネジ繰手又は、M-D繰手を使用 (地盤・コンクリート埋設は防食テープ重巻き) ■ 土間・一般：硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □ 土間：リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管VP) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に織維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 (28) 汽水管 配管用炭素鋼管（白） JIS G 3452 (SGP-白) ※ 同上M-D繰手 JPCE MD1 002 ■ 土間・一般：硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □ 土間：リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125A以下はVP、150A以上はVUとする。 □ 排水・通気用耐火二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管VP) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に織維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 (29) 給湯管 ■ 水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング钢管 JWWA K 140 (SGP-HVA) □ 水道用ステンレス鋼管 JWWA G 115 □ 一般配管用ステンレス鋼管 JIS G 3448 (30) ガス管 ■ 配管用炭素鋼管（白） JIS G 3452 (SGP-白) □ 土間：埋設ビニル被覆钢管（黒） ■ ガス用ポリエチレン管 JIS K 6774 (地中：PE) ※ 地中埋設钢管は、取出し位置のGL面又はSL、FL面より+100立ち上げた所までとする。 □ ガス事業者の供給規定に準じる (31) 消火管 配管用炭素鋼管（白） JIS G 3452 (SGP-白) 消火用硬質塩化ビニル外被覆钢管（白） WSP041 (SGP-VS) ※ 地中埋設钢管は、取出し位置のGL面又はSL、FL面より+100立ち上げた所までとする。 (32) 空調設備工事 (1) 機器設備工事 本工事は、空冷ヒートポンプバッケージエアコンにより冷暖房をおこなうものとする。 各機器の据付・試運転調整を含めて機器設備工事とする。 空調設備工事に於ける外気、室内的温湿度条件	外気条件	夏期	34.5	27.3	57.6		------	-----	------	------	------		冬期	1.7	-1.3	49.6			室内条件	夏期	26	-	成行き		冬期	22	-	成行き		(2) 配管設備工事 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (3) 換気装置工事 本工事は、換気扇の設置など、換気扇の設置点について、上記の各所に設置する。 (LPガス設備工事 LPガス合装置により図示の各所に配管供給する。 ホースコックは、過流出防止機構（ヒューズ）付きとする。 (4) 機器設備工事 本工事は、空冷ヒートポンプバッケージエアコンにより冷暖房をおこなうものとする。 各機器の据付・試運転調整を含めて機器設備工事とする。 空調設備工事に於ける外気、室内的温湿度条件	外気条件	夏期	34.5	27.3	57.6		------	-----	------	------	------		冬期	1.7	-1.3	49.6			室内条件	夏期	26	-	成行き		冬期	22	-	成行き		(5) 開放装置 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (6) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (7) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (8) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (9) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (10) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (11) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (12) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (13) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (14) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (15) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (16) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (17) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (18) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (19) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (20) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (21) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (22) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (23) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (24) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (25) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (26) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (27) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (28) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (29) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (30) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (31) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (32) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (33) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (34) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (35) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (36) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (37) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (38) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (39) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (40) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (41) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (42) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (43) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (44) 液体配管 各機器間のドレン、冷媒配管をおこなう ものとし、配管の振動及び共振に十分留意の上施工する。 (45) 液体配管<br

<p>※ 横走り管の吊り間隔</p> <table border="1"> <tr><td>銅管</td><td>100A以下</td><td>—</td><td>2m 以下</td></tr> <tr><td></td><td>125A以上</td><td>—</td><td>3m 以下</td></tr> </table> <p>※ 横走り管形鋼振れ止め支持間隔</p> <table border="1"> <tr><td>支持間隔</td><td>6m以下</td><td>8m以下</td><td>12m以下</td></tr> <tr><td>銅管</td><td>—</td><td>50A~100A</td><td>125A~</td></tr> </table> <p>※ 冷媒用銅管の横走り管の支持間隔</p> <p>基準外径 9.52mm 以下 吊り間隔 1.5m以下 ※ 液管・ガス管共吊りの場合は液管の外径を基準外径 12.70mm 以上 吊り間隔 2.0m以下 基準とする。</p> <p>形鋼振れ止め支持間隔は、銅管に準ずる。</p>	銅管	100A以下	—	2m 以下		125A以上	—	3m 以下	支持間隔	6m以下	8m以下	12m以下	銅管	—	50A~100A	125A~	<p>3) 種別 給排水衛生設備配管の保溫仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>屋内露出</td><td>保溫筒</td><td>鉄線</td><td>合成樹脂製カバー</td><td></td></tr> <tr><td>機械室・書庫・倉庫</td><td>保溫筒</td><td>鉄線</td><td>原紙</td><td>アミガラスコロ仕上</td></tr> <tr><td>天井内・P.S内</td><td>7ミリ化粧保溫筒</td><td>アルミガラスクロス粘着テープ</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>暗渠内(ビット内)</td><td>保溫筒</td><td>鉄線</td><td>ポリエチレンフィルム</td><td>着色アミガラスカロ</td></tr> <tr><td>屋外露出</td><td>保溫筒</td><td>鉄線</td><td>ポリエチレンフィルム</td><td>SUS鋼板仕上</td></tr> </tbody> </table> <p>※ 1) 排水管については、上表暗渠内(ビット内)の仕様を参考テープ巻きに読み替える。 ※ 2) サヤ管工法、架橋ポリエチレン・ポリブテン管使用の場合は、上表保温不要。 ※ 3) 消火管の外部露出のは保温を行う。</p>		1	2	3	4	屋内露出	保溫筒	鉄線	合成樹脂製カバー		機械室・書庫・倉庫	保溫筒	鉄線	原紙	アミガラスコロ仕上	天井内・P.S内	7ミリ化粧保溫筒	アルミガラスクロス粘着テープ			暗渠内(ビット内)	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色アミガラスカロ	屋外露出	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上	<p>共通事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 陸上ポンプ、送排風機(エアハンドル)の電動機は、すべて全閉防鳴形とする。 配管途中、要所にはフランジ接続箇所を設置し、取り外しを容易にすること。 系統が分かれよう、必要箇所(機械室・P.S内等)に文字書き・矢印記入・バルブ取付を行うこと。手書きもしくはカッティングシートとする。 機器・配管・支持金物には、絶縁処理を行うこと。 配管に空気が滞留する恐れのある箇所には、エア抜き弁を設置し、最寄りのドレン管に接続すること。 屋外機器設置基礎のアンカーボルトは、構造体鉄筋より取り出す。もしくはあと施工アンカーアイ法の類とする。使用アンカーについては、機器仕様書、耐震クラス等を確認すること。また、重量機器にあと施工アンカーアイ法を採用する場合、ケミカルアンカーを使用し施工すること。 機器・配管の耐震措置及び機器、ダクトの防振・消音については、標準仕様書・標準図、施工監理指針及び建築設備耐震設計・施工指針に基づき十分考慮すること。 雨がかり部に取り付けるガラリのチャンバーには、水抜きを設けること。 屋外埋設管(給水・消火・ガス)には、埋設シートを敷設し、曲がり・分歧部には、地中埋設標を施工すること。 冷水及び冷温水管の支持材には、合成樹脂製支持受けを使用すること。 水栓は、節水機構付きのものを使用すること。 冷媒管等防火分区画貯通部は、建築基準法・消防法に適合する工法にて防火処理を行うこと。 地中埋設配管については、下記の沈下対策を講ずること。 <ul style="list-style-type: none"> 管は継ぎ手の組み合わせにより可とう性をもたせる。 接続箇所は必要に応じコンクリートで保護する。 ・土間配管は、土間筋に吊り下げるなど埋設配管を保持すること。 ・呼び径100mm以下はM10、125mm~250mmはM12、250mm以上はM16のステンレス棒鋼を使用する。 屋外露出及び多湿箇所(トランシビット等)の配管架台は、SUS又はSS溶融亜鉛メッキ仕上げとすること。 屋外設置のマンホール類には用途名を入れること。 合成樹脂製カバーの仕上げについては、保温見切り箇所には菊座の取り付けを行うこと。 送風機用ベルトカバーには裏カバー及び点検口を設けること。 																																																																																																																																																																																																				
銅管	100A以下	—	2m 以下																																																																																																																																																																																																																																																	
	125A以上	—	3m 以下																																																																																																																																																																																																																																																	
支持間隔	6m以下	8m以下	12m以下																																																																																																																																																																																																																																																	
銅管	—	50A~100A	125A~																																																																																																																																																																																																																																																	
	1	2	3	4																																																																																																																																																																																																																																																
屋内露出	保溫筒	鉄線	合成樹脂製カバー																																																																																																																																																																																																																																																	
機械室・書庫・倉庫	保溫筒	鉄線	原紙	アミガラスコロ仕上																																																																																																																																																																																																																																																
天井内・P.S内	7ミリ化粧保溫筒	アルミガラスクロス粘着テープ																																																																																																																																																																																																																																																		
暗渠内(ビット内)	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色アミガラスカロ																																																																																																																																																																																																																																																
屋外露出	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上																																																																																																																																																																																																																																																
<p>(2) ダクト工事</p> <p>矩形ダクト <input checked="" type="checkbox"/> 亜鉛鉄板 JIS G 3302 (SGCC、SGCCA) 鎌金付着Z18以上</p> <p>工法 <input type="checkbox"/> ステンレス鋼板 JIS G 4305</p> <p><input type="checkbox"/> アングルフランジ工法</p> <p><input type="checkbox"/> 共形フランジ工法</p> <p><input type="checkbox"/> スライドオンフランジ工法</p> <p>形鋼補強 <input type="checkbox"/> 山形鋼 JIS G 3101 <input type="checkbox"/> SUS鋼材 JIS G 4317</p> <p>丸ダクト <input type="checkbox"/> スパイラルダクト</p> <p><input type="checkbox"/> 下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管 (多湿箇所) AS-62 (RS-VU)</p>	<p>空調設備配管の保溫仕様 (R.G保温材の仕様)</p> <table border="1"> <thead> <tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>屋内露出</td><td>保溫筒</td><td>鉄線</td><td>ポリエチレンフィルム</td><td>合成樹脂製カバー</td><td></td></tr> <tr><td>機械室・書庫・倉庫</td><td>保溫筒</td><td>鉄線</td><td>原紙</td><td>アミガラスコロ仕上</td><td></td></tr> <tr><td>天井内・P.S内</td><td>7ミリ化粧保溫筒</td><td>アルミガラスクロス粘着テープ</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>(温水・蒸気管以外)</td><td>保溫筒</td><td>鉄線</td><td>ポリエチレンフィルム</td><td>着色アルミガラスクロス仕上</td><td></td></tr> <tr><td>暗渠内(ビット内)</td><td>保溫筒</td><td>鉄線</td><td>ポリエチレンフィルム</td><td>SUS鋼板仕上</td><td></td></tr> <tr><td>屋外露出</td><td>保溫筒</td><td>鉄線</td><td>ポリエチレンフィルム</td><td>SUS鋼板仕上</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※ 1) 冷媒管に断熱材被覆鋼管を使用した場合の保温種別</p> <p>□ 保溫化粧ケース仕上 ■ ポリスチレン成形の上、SUS鋼板仕上(屋外露出部分)</p> <p>機器保溫仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>冷水・冷温水タンク</td><td>鋼板製タンク</td><td>保溫板</td><td>ポリエチレンフィルム</td><td>鉄線</td><td>SUS鋼板仕上</td></tr> <tr><td>冷水・冷温水ヘッダ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>カラーアミガラス板(屋内)</td></tr> <tr><td>温水・膨張・遮水</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>貯湯タンク</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>温水・蒸気ヘッダ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>熱交換器</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※ 1) 密閉式膨張タンク及び、ブレート形熱交換器は、保温施工不要</p>		1	2	3	4	5	屋内露出	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	合成樹脂製カバー		機械室・書庫・倉庫	保溫筒	鉄線	原紙	アミガラスコロ仕上		天井内・P.S内	7ミリ化粧保溫筒	アルミガラスクロス粘着テープ				(温水・蒸気管以外)	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色アルミガラスクロス仕上		暗渠内(ビット内)	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上		屋外露出	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上			1	2	3	4	5	冷水・冷温水タンク	鋼板製タンク	保溫板	ポリエチレンフィルム	鉄線	SUS鋼板仕上	冷水・冷温水ヘッダ					カラーアミガラス板(屋内)	温水・膨張・遮水						貯湯タンク						温水・蒸気ヘッダ						熱交換器						<p>機器保溫仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>冷水・冷温水タンク</td><td>鋼板製タンク</td><td>保溫板</td><td>ポリエチレンフィルム</td><td>鉄線</td><td>SUS鋼板仕上</td></tr> <tr><td>冷水・冷温水ヘッダ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>カラーアミガラス板(屋内)</td></tr> <tr><td>温水・膨張・遮水</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>貯湯タンク</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>温水・蒸気ヘッダ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>熱交換器</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>※ 1) 密閉式膨張タンク及び、ブレート形熱交換器は、保温施工不要</p> <p>ダクト・チャンバー・煙道 保溫仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr><th></th><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>長方</td><td>屋内露出</td><td>一般・廊下</td><td>紙</td><td>保溫板</td><td>カラーアミガラス板</td></tr> <tr><td>形ダクト</td><td>機械室</td><td>紙</td><td>保溫板</td><td>アルミガラスクロス化粧保溫板</td><td>アルミガラスクロス粘着テープ</td></tr> <tr><td>スパイラルダクト</td><td>屋内露出</td><td>一般・廊下</td><td>紙</td><td>保溫板</td><td>ポリエチレンフィルム 鉄線 SUS鋼板</td></tr> <tr><td>屋外露出・多湿箇所</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>屋内露出</td><td>一般・廊下</td><td>紙</td><td>保溫板</td><td>カラーアミガラス板</td><td></td></tr> <tr><td>屋外露出・多湿箇所</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>屋内露出・多湿箇所</td><td>機械室</td><td>紙</td><td>保溫板</td><td>アルミガラスクロス化粧保溫板</td><td>アルミガラスクロス粘着テープ</td></tr> <tr><td>屋外露出・多湿箇所</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>屋内露出・多湿箇所</td><td>屋内隠蔽</td><td>紙</td><td>保溫板</td><td>ポリエチレンフィルム 鉄線 SUS鋼板</td><td></td></tr> <tr><td>サブライチャンバー</td><td>屋内隠蔽</td><td>紙</td><td>保溫板</td><td>ガラスコロス 鋼亜金網</td><td></td></tr> <tr><td>消音チャンバー、エルボ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>接煙ダクト長方形</td><td>屋内隠蔽</td><td>紙</td><td>保溫板</td><td>ガラスコロス</td><td></td></tr> <tr><td>接煙ダクト円形</td><td>屋内隠蔽</td><td>紙</td><td>保溫板</td><td>アルミガラスクロス化粧保溫板</td><td>アルミガラスクロス粘着テープ</td></tr> <tr><td>煙道</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>ブランケット 鉄線 カラーアミガラス板</td></tr> </tbody> </table> <p>※ 1) 接煙ダクトは、ロックウール保温板、保温帶、1号を使用。</p> <p>※ 2) 煙道フランケットは、JIS G 3554(亜鉛金網)による亜鉛鍍金を施した網目呼称16線径0.55の金網又はRWAS 02による防音処理を施した平ラス号で外側補強したものを使用。</p> <p>※ 3) 鋼亜金網は、JIS S 3260 網目呼称10、線径0.5を使用。</p> <p>配管用炭素鋼管の塗装仕様</p> <table border="1"> <thead> <tr><th>機材</th><th>状態</th><th>塗料の種別</th><th>塗り回数</th><th>備考</th></tr> <tr><th></th><th></th><th></th><th>下塗り 中塗り 上塗り</th><th></th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>白管</td><td>露出</td><td>合成樹脂調合ペイント</td><td>1 1 1</td><td>下塗りはさび止めペイント</td></tr> <tr><td>黒管</td><td>露出</td><td>合成樹脂調合ペイント</td><td>2 1 1</td><td>下塗りはさび止めペイント</td></tr> </tbody> </table> <p>※ 1) ねじ切りした部分の鉄面は、さび止めペイント2回塗りを行う。</p>		1	2	3	4	5	冷水・冷温水タンク	鋼板製タンク	保溫板	ポリエチレンフィルム	鉄線	SUS鋼板仕上	冷水・冷温水ヘッダ					カラーアミガラス板(屋内)	温水・膨張・遮水						貯湯タンク						温水・蒸気ヘッダ						熱交換器							1	2	3	4	5	長方	屋内露出	一般・廊下	紙	保溫板	カラーアミガラス板	形ダクト	機械室	紙	保溫板	アルミガラスクロス化粧保溫板	アルミガラスクロス粘着テープ	スパイラルダクト	屋内露出	一般・廊下	紙	保溫板	ポリエチレンフィルム 鉄線 SUS鋼板	屋外露出・多湿箇所						屋内露出	一般・廊下	紙	保溫板	カラーアミガラス板		屋外露出・多湿箇所						屋内露出・多湿箇所	機械室	紙	保溫板	アルミガラスクロス化粧保溫板	アルミガラスクロス粘着テープ	屋外露出・多湿箇所						屋内露出・多湿箇所	屋内隠蔽	紙	保溫板	ポリエチレンフィルム 鉄線 SUS鋼板		サブライチャンバー	屋内隠蔽	紙	保溫板	ガラスコロス 鋼亜金網		消音チャンバー、エルボ						接煙ダクト長方形	屋内隠蔽	紙	保溫板	ガラスコロス		接煙ダクト円形	屋内隠蔽	紙	保溫板	アルミガラスクロス化粧保溫板	アルミガラスクロス粘着テープ	煙道											ブランケット 鉄線 カラーアミガラス板	機材	状態	塗料の種別	塗り回数	備考				下塗り 中塗り 上塗り		白管	露出	合成樹脂調合ペイント	1 1 1	下塗りはさび止めペイント	黒管	露出	合成樹脂調合ペイント	2 1 1	下塗りはさび止めペイント
	1	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																															
屋内露出	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	合成樹脂製カバー																																																																																																																																																																																																																																																
機械室・書庫・倉庫	保溫筒	鉄線	原紙	アミガラスコロ仕上																																																																																																																																																																																																																																																
天井内・P.S内	7ミリ化粧保溫筒	アルミガラスクロス粘着テープ																																																																																																																																																																																																																																																		
(温水・蒸気管以外)	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	着色アルミガラスクロス仕上																																																																																																																																																																																																																																																
暗渠内(ビット内)	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上																																																																																																																																																																																																																																																
屋外露出	保溫筒	鉄線	ポリエチレンフィルム	SUS鋼板仕上																																																																																																																																																																																																																																																
	1	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																															
冷水・冷温水タンク	鋼板製タンク	保溫板	ポリエチレンフィルム	鉄線	SUS鋼板仕上																																																																																																																																																																																																																																															
冷水・冷温水ヘッダ					カラーアミガラス板(屋内)																																																																																																																																																																																																																																															
温水・膨張・遮水																																																																																																																																																																																																																																																				
貯湯タンク																																																																																																																																																																																																																																																				
温水・蒸気ヘッダ																																																																																																																																																																																																																																																				
熱交換器																																																																																																																																																																																																																																																				
	1	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																															
冷水・冷温水タンク	鋼板製タンク	保溫板	ポリエチレンフィルム	鉄線	SUS鋼板仕上																																																																																																																																																																																																																																															
冷水・冷温水ヘッダ					カラーアミガラス板(屋内)																																																																																																																																																																																																																																															
温水・膨張・遮水																																																																																																																																																																																																																																																				
貯湯タンク																																																																																																																																																																																																																																																				
温水・蒸気ヘッダ																																																																																																																																																																																																																																																				
熱交換器																																																																																																																																																																																																																																																				
	1	2	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																															
長方	屋内露出	一般・廊下	紙	保溫板	カラーアミガラス板																																																																																																																																																																																																																																															
形ダクト	機械室	紙	保溫板	アルミガラスクロス化粧保溫板	アルミガラスクロス粘着テープ																																																																																																																																																																																																																																															
スパイラルダクト	屋内露出	一般・廊下	紙	保溫板	ポリエチレンフィルム 鉄線 SUS鋼板																																																																																																																																																																																																																																															
屋外露出・多湿箇所																																																																																																																																																																																																																																																				
屋内露出	一般・廊下	紙	保溫板	カラーアミガラス板																																																																																																																																																																																																																																																
屋外露出・多湿箇所																																																																																																																																																																																																																																																				
屋内露出・多湿箇所	機械室	紙	保溫板	アルミガラスクロス化粧保溫板	アルミガラスクロス粘着テープ																																																																																																																																																																																																																																															
屋外露出・多湿箇所																																																																																																																																																																																																																																																				
屋内露出・多湿箇所	屋内隠蔽	紙	保溫板	ポリエチレンフィルム 鉄線 SUS鋼板																																																																																																																																																																																																																																																
サブライチャンバー	屋内隠蔽	紙	保溫板	ガラスコロス 鋼亜金網																																																																																																																																																																																																																																																
消音チャンバー、エルボ																																																																																																																																																																																																																																																				
接煙ダクト長方形	屋内隠蔽	紙	保溫板	ガラスコロス																																																																																																																																																																																																																																																
接煙ダクト円形	屋内隠蔽	紙	保溫板	アルミガラスクロス化粧保溫板	アルミガラスクロス粘着テープ																																																																																																																																																																																																																																															
煙道																																																																																																																																																																																																																																																				
					ブランケット 鉄線 カラーアミガラス板																																																																																																																																																																																																																																															
機材	状態	塗料の種別	塗り回数	備考																																																																																																																																																																																																																																																
			下塗り 中塗り 上塗り																																																																																																																																																																																																																																																	
白管	露出	合成樹脂調合ペイント	1 1 1	下塗りはさび止めペイント																																																																																																																																																																																																																																																
黒管	露出	合成樹脂調合ペイント	2 1 1	下塗りはさび止めペイント																																																																																																																																																																																																																																																
<p>4) 施工</p> <p>ダクト保温施工範囲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SA <input type="checkbox"/> 保温あり <input type="checkbox"/> 保温なし <input type="checkbox"/> 口面による <input type="checkbox"/> 口その他 () 2. EA <input type="checkbox"/> 保温あり <input checked="" type="checkbox"/> 保温なし <input type="checkbox"/> 口面による <input type="checkbox"/> 口その他 () 3. RA <input type="checkbox"/> 保温あり <input type="checkbox"/> 保温なし <input type="checkbox"/> 口面による <input type="checkbox"/> 口その他 () 4. OA <input type="checkbox"/> 保温あり <input type="checkbox"/> 保温なし <input type="checkbox"/> 口面による <input type="checkbox"/> 口その他 () <p>チャンバー・内貼施工 <input type="checkbox"/> 内貼あり (mm) <input type="checkbox"/> 口内貼なし <input type="checkbox"/> 口面による <input type="checkbox"/> 口その他 ()</p>	<p>4) 施工</p> <p>ダクト保温施工範囲</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. SA <input type="checkbox"/> 保温あり <input type="checkbox"/> 保温なし <input type="checkbox"/> 口面による <input type="checkbox"/> 口その他 () 2. EA <input type="checkbox"/> 保温あり <input checked="" type="checkbox"/> 保温なし <input type="checkbox"/> 口面による <input type="checkbox"/> 口その他 () 3. RA <input type="checkbox"/> 保温あり <input type="checkbox"/> 保温なし <input type="checkbox"/> 口面による <input type="checkbox"/> 口その他 () 4. OA <input type="checkbox"/> 保温あり <input type="checkbox"/> 保温なし <input type="checkbox"/> 口面による <input type="checkbox"/> 口その他 () <p>チャンバー・内貼施工 <input type="checkbox"/> 内貼あり (mm) <input type="checkbox"/> 口内貼なし <input type="checkbox"/> 口面による <input type="checkbox"/> 口その他 ()</p>	<p>(4) スリーブ工事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 管スリーブの径は、原則として、管の外径(保温されるものは、保温厚さを含む)より40mm程度大(-2サイズUP)なるものとする。 箱抜きスリーブは、木枠又は鋼板(実管ダクト)とする。 2. 地中部分のスリーブは、塩ビ二重管(VU)とし、水密を要する部分のスリーブは、つば付き鋼管とする。 3. その他のスリーブは、特記なき限り、紙ボイドとする。紙ボイド使用の際は、配管前に必ず撤去のこと。 																																																																																																																																																																																																																																																		
<p>2) 保温厚</p> <p>・ ガラスウール、ロックウール</p> <table border="1"> <tr><td>保温厚 (mm)</td><td>20</td><td>25</td><td>30</td><td>40</td><td>50</td></tr> <tr><td>給水・排水・ドレン・給湯</td><td>~80A</td><td>100~150A</td><td>—</td><td>200A~</td><td>—</td></tr> <tr><td>膨張・温水・消防管</td><td>—</td><td>—</td><td>~25A</td><td>32~50A</td><td>65A~</td></tr> <tr><td>蒸気管</td><td>~25A</td><td>—</td><td>—</td><td>~25A</td><td>32~200A</td></tr> <tr><td>冷水・冷温水・冷媒管</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>~25A</td><td>250A~</td></tr> </table> <p>・ ポリスチレンフォーム</p> <table border="1"> <tr><td>保温厚 (mm)</td><td>20</td><td>25</td><td>30</td><td>40</td><td>50</td></tr> <tr><td>給水・排水・排水管</td><td>~80A</td><td>100A~</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>冷水・冷温水管</td><td>—</td><td>—</td><td>~25A</td><td>32~200A</td><td>250A~</td></tr> <tr><td>冷水管 (冷水温度2~4°C)</td><td>—</td><td>—</td><td>~20A</td><td>25A~100A</td><td>125A~</td></tr> <tr><td>ブライン管</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>~25A</td><td>32~80A</td></tr> </table> <p>・ 機器ダクト保温厚</p> <table border="1"> <tr><td>保温厚</td><td>25mm</td><td>50mm</td><td>75mm</td></tr> <tr><td>ダクト(</td></tr></table>	保温厚 (mm)	20	25	30	40	50	給水・排水・ドレン・給湯	~80A	100~150A	—	200A~	—	膨張・温水・消防管	—	—	~25A	32~50A	65A~	蒸気管	~25A	—	—	~25A	32~200A	冷水・冷温水・冷媒管	—	—	—	~25A	250A~	保温厚 (mm)	20	25	30	40	50	給水・排水・排水管	~80A	100A~	—	—	—	冷水・冷温水管	—	—	~25A	32~200A	250A~	冷水管 (冷水温度2~4°C)	—	—	~20A	25A~100A	125A~	ブライン管	—	—	—	~25A	32~80A	保温厚	25mm	50mm	75mm	ダクト(
保温厚 (mm)	20	25	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																															
給水・排水・ドレン・給湯	~80A	100~150A	—	200A~	—																																																																																																																																																																																																																																															
膨張・温水・消防管	—	—	~25A	32~50A	65A~																																																																																																																																																																																																																																															
蒸気管	~25A	—	—	~25A	32~200A																																																																																																																																																																																																																																															
冷水・冷温水・冷媒管	—	—	—	~25A	250A~																																																																																																																																																																																																																																															
保温厚 (mm)	20	25	30	40	50																																																																																																																																																																																																																																															
給水・排水・排水管	~80A	100A~	—	—	—																																																																																																																																																																																																																																															
冷水・冷温水管	—	—	~25A	32~200A	250A~																																																																																																																																																																																																																																															
冷水管 (冷水温度2~4°C)	—	—	~20A	25A~100A	125A~																																																																																																																																																																																																																																															
ブライン管	—	—	—	~25A	32~80A																																																																																																																																																																																																																																															
保温厚	25mm	50mm	75mm																																																																																																																																																																																																																																																	
ダクト(

凡 例			
図示記号	名 称	配管材料	防露塗装仕様
—— R ——	冷媒管	空調用保温付被覆銅管	屋外露出：ポリスチレン成形+SUS鋼板ラッキング
—— D ——	ドレン管	硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ※屋外はガ-VPとする	天井内：グラスウール+アルミガラスクロス化粧保温筒



空調機器表						
記号	形式・名称	仕様			台数	備考・参考型番
ACP-1	パッケージエアコン	冷房能力 : 5.0 (2.3~5.6) kW 暖房能力 : 5.6 (2.6~7.1) kW			1	ワイヤードリモコン 防護ネット
	壁掛形	単相200V 冷房定格消費電力 : 1.42kW 暖房定格消費電力 : 1.46kW 暖房低温最大消費電力 : 2.34kW				防振ゴム 現場打ち基礎 (建築工事)
						Kh=0.4
ACP-2	パッケージエアコン	冷房能力 : 7.1 (3.2~8.0) kW 暖房能力 : 8.0 (3.6~9.5) kW			1	ワイヤードリモコン 防護ネット
	壁掛形	単相200V 冷房定格消費電力 : 2.30kW 暖房定格消費電力 : 2.22kW 暖房低温最大消費電力 : 2.95kW				防振ゴム 現場打ち基礎 (建築工事)
						Kh=0.4
ACP-3	パッケージエアコン	冷房能力 : 10.0 (4.8~11.2) kW 暖房能力 : 11.2 (5.1~14.0) kW			2	ワイヤードリモコン 防護ネット
	壁掛形	三相200V 冷房定格消費電力 : 3.15kW 暖房定格消費電力 : 3.39kW 暖房低温最大消費電力 : 6.15kW				防振ゴム 現場打ち基礎 (建築工事)
						Kh=0.4

特記事項：運転特性、能力はJIS条件による。電源容量値、インバーター能力は参考とする。空調機トップランナー基準改定仕様とする。冷媒ガスはオゾン破壊係数ゼロとする。

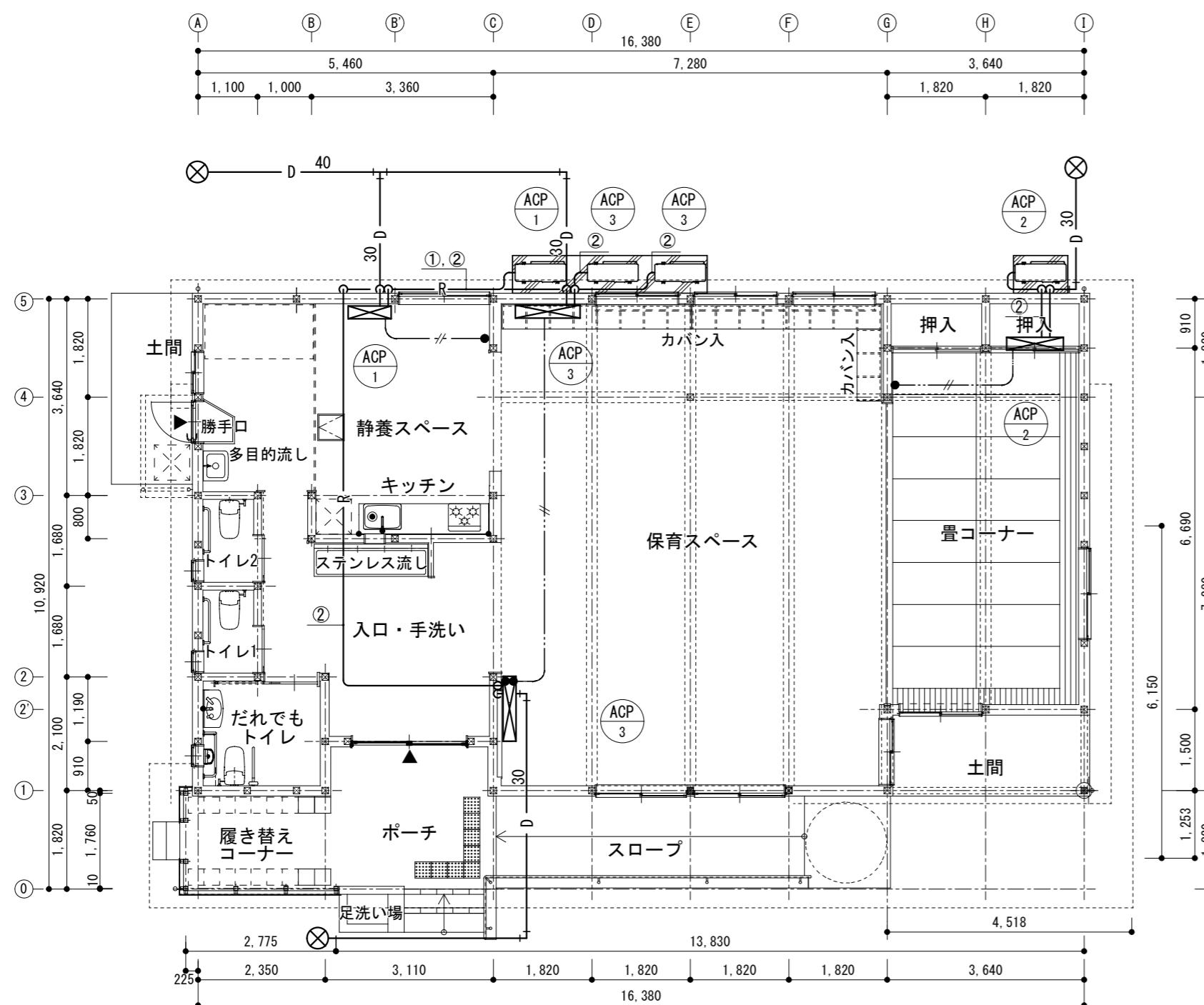
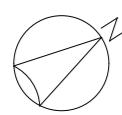
室外機-室内機間の2次側配線は冷媒管と抱き合わせの上本工事とする。リモコン配線共本工事とする。

機器は同等品以上とする。機器の製作仕様は国土交通省仕様とする。但し該当しない機器については製造者標準仕様による。

換気機器表								
記号	形式	風量 CMH	機外静圧 Pa	電源	消費電力 kW	備考	参考型番	数量
VF-1	天井扇 (低騒音) φ100	80	40	単相100V	0.0115	天吊金具 SUS製深型フード (ガリ付)	FY-24S7(Panasonic)	2
VF-2	天井扇 (低騒音) φ100	130	40	単相100V	0.0115	天吊金具 SUS製深型フード (ガリ付)	FY-24FP7(Panasonic)	1
VF-3	天井扇 (低騒音) φ200 24H運転対応	500 150(24H)	120 50(24H)	単相100V	0.085	天吊金具 コントロールスイッチ(電気工事に支給) 急速/強/弱運転対応 SUS製深型フード (ガリ付)	FY-38SG7(Panasonic)	1
VF-4	有圧扇 格子タイフ φ300 強/弱運転対応	800	50	単相100V	0.0535	ウェザーカバー(防鳥網付) コントロールスイッチ(電気工事に支給)	FY-30LSG(Panasonic)	1
SF-1	サイクル扇 φ300			単相100V	0.038	引きひもタイフ	F-GU301-A(Panasonic)	4
SF-2	シリングファン φ1400			単相100V		コントロールスイッチ(電気工事に支給)	F-MG140-W(Panasonic)	2
	ハーフフード φ150					SUS製深型フード (ガリ付)		1
	ハーフフード φ200					SUS製深型フード (防虫網付)		4

特記事項 1、消費電力は参考値とする。 2、フードは指定色塗装とする。

建築基準法に基づく24時間換気									
放課後児童クラブ									
階	部屋名	室面積 m ²	天井高 (又は平均高さ) m	気積 m ³	エリア計 m ³	換気回数 回/h	必要換気量 m ³ /h	設計換気量 m ³ /h	機器記号 (機器表参照)
1	保育スペース	66.248	別紙求積図による	257.506	454.502	0.3	137	150	VF-3
2	静養スペース	22.562	別紙求積図による	56.405					
3	置コーナー	24.352	別紙求積図による	101.433					
4	入口・手洗い	15.663	別紙求積図による	39.158					

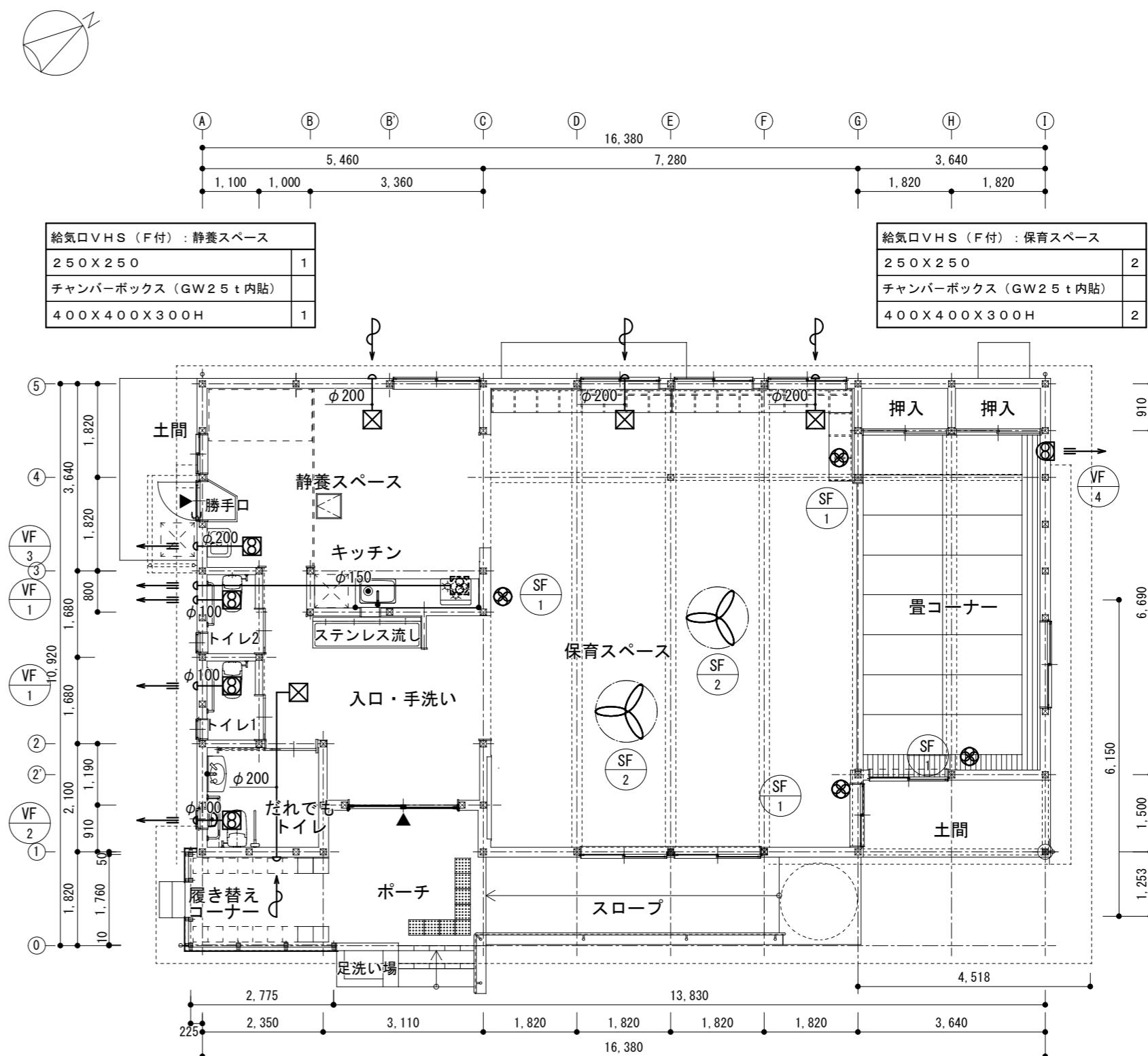


記号	冷媒配管サイズ	
	液管	ガス管
①	φ 6.4	φ 12.7
②	φ 9.5	φ 15.9
記号	室内外連絡線	
⑤	EM-EEF 2.0-3C	

※連絡線Sは冷媒管共巻とする。

1. 図中記入なき配線は下記とする。
——／＼—— EM-CEES 1.25'-2C (壁内立下りはPF22で保護)
● 個別リモコン

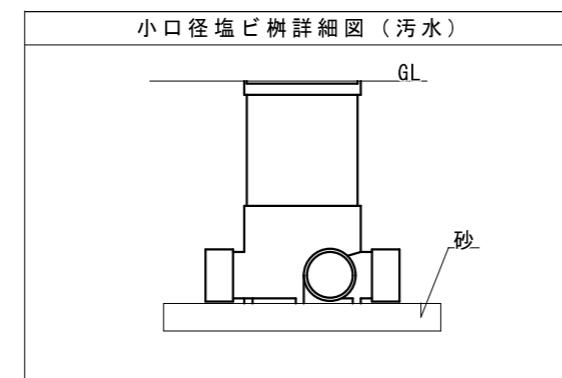
※ ドレン管は立管部分にドレントラップを設けること。



給気口VHS (F付) : 入口・手洗い	
250 X 250	1
チャンバーボックス (GW25t 内貼)	
400X400X300H	1

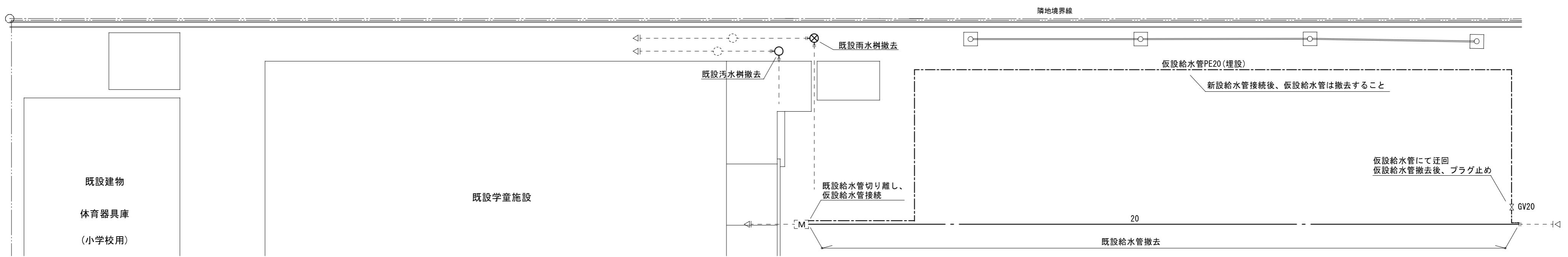
給気口VHS (F付) : 静養スペース	
250 X 250	2
チャンバーボックス (GW25t 内貼)	
400X400X300H	2

凡例			
図示記号	名称	図示記号	名称
— — —	給水管	◎	排水金物
— — —	給湯管	◎	床上掃除口
— — —	排水管	▷ × □	弁類
— - - - -	通気管	— EA —	排気ダクト
— 6 — —	ガス管	→ = →	屋外フード(排気)
☒	水栓金具	☒	天井換気扇
		☒	壁付扇

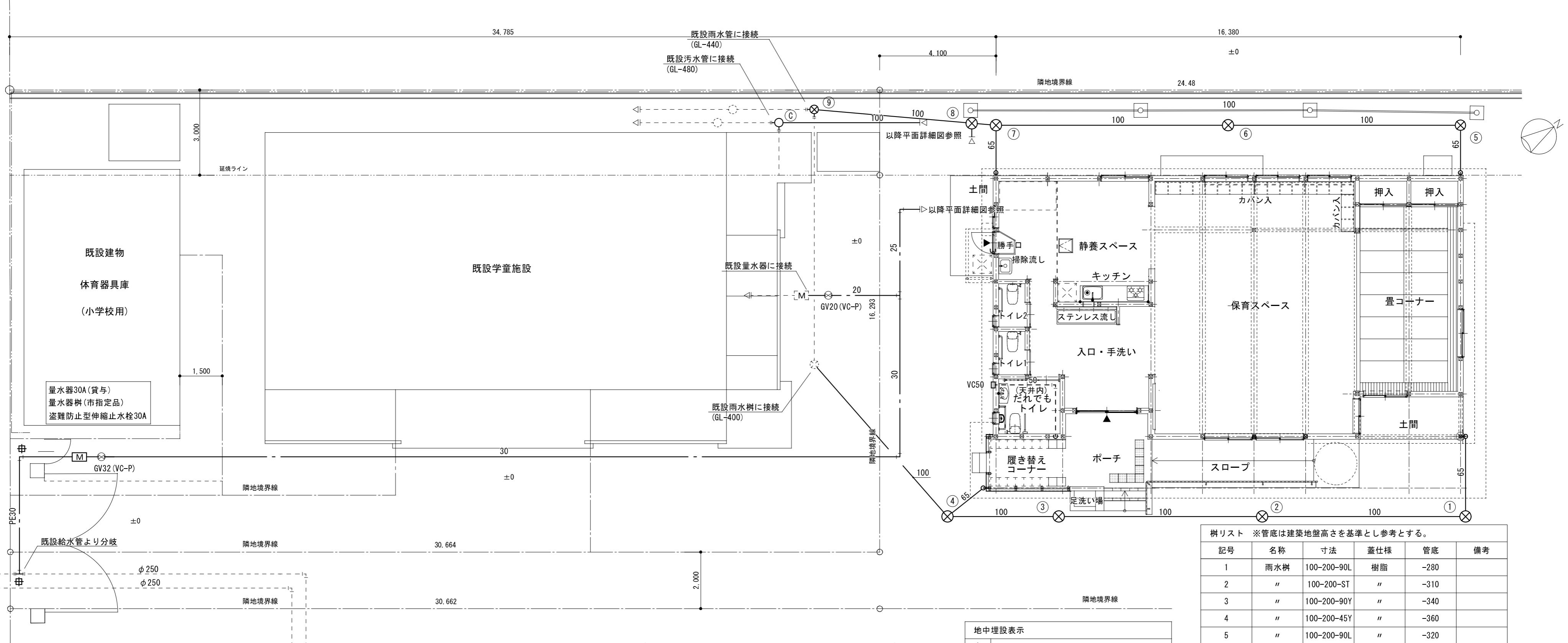


名称	仕様・参考型番	屋内	屋外	外部	合計				
		だれでもトイレ	トイレ1	トイレ2	入口・手洗い	静養スペース	足洗い	洗濯機置場	
	LIXIL	TOTO							
洋風便器	BC-P110SM, DQ-PA150CH, CW-PA21LQE-NEC-R1, 他一式 CF-63HST(紙巻器) AC100V	CFS498BC, TCF5524AUP, 他一式 YH702(紙巻器) AC100V	1						1
洋風便器	BC-P110SM, DQ-PA150CH, CW-PA21LQE-NE-R1, 他一式 CF-63HST(紙巻器) AC100V	CFS498BC, TCF5524AU, 他一式 YH702(紙巻器) AC100V		1	1				2
背もたれ	KFC-275T1U, 他一式	EWC383CR, 他一式		1					1
L型手すり	KF-926AE80D25J, 他一式	T112CL12, 他一式		1					1
L型手すり	KF-920AE70D12J, 他一式	T112CL10, 他一式		1	1				2
跳ね上げ手すり	KF-481EHP70J, 他一式	T112HP7, 他一式		1					1
壁付洗面器(混合水栓)	L-275FCR, LF-WF340SY(混合水栓 台付シングル), 床給排水金物, 他一式	L270C, TLS04302JA(混合水栓 台付シングル), 床給排水金物, 他一式	1						1
壁付手洗器	AWL-71U2AM(S), 他一式 AC100V	LSA90ABS, 他一式 AC100V	1						1
台付単水栓(自動)	AM-320V1 AC100V	TLE26SS1A AC100V			3				3
台付自在水栓(レバーハンドル)	LF-14FZF-13-U	T136SUNR13C			1				1
壁付自在水栓(レバーハンドル)	LF-12FZF-13-U	T130AEQF13C				1			1
掃除流し	S-202A, LF-7KEZ-19-U(レバーハンドル), 他一式	SK22A, T23AEQ20C(レバーハンドル), 他一式			1				1
洗濯機用横水栓	LF-WJ50KQA	TW11R				1			1
横水栓	LF-7R-13	T200SNR13C					2		2
水栓柱	SUS製 1200H						2		2

機器仕様			
記号	名称	仕様・参考型番	数量
GW-1	ガス給湯器	屋外壁掛型24号 LPG仕様 リモコン、リモコンコード 配管カバー 潜熱回収型	1
G-1	プロパンガス集合装置	50Kボンベ×2本立 自動切替装置 転倒防止チェーン ボンベ庫(基礎は建築工事) 参考型番: BN-100	1



(現況撤去)
給排水衛生設備 配置・平面図 1:100



給排水衛生設備 配置・平面図 1:100

記号	名称	寸法	蓋仕様	管底	備考
1	雨水樹	100-200-90L	樹脂	-280	
2	"	100-200-ST	"	-310	
3	"	100-200-90Y	"	-340	
4	"	100-200-45Y	"	-360	
5	"	100-200-90L	"	-320	
6	"	100-200-ST	"	-360	
7	"	100-200-90Y	"	-400	
8	"	100-200-90Y	"	-410	
9	"	100-200-90Y	"	-440	
C	污水樹	100-200-45Y	樹脂	-480	

地中埋設表示	
◆	鉄ピン
■	コンクリート杭
※埋設給水管には埋設表示テープを布設すること。	

